

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第289集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡XXIV

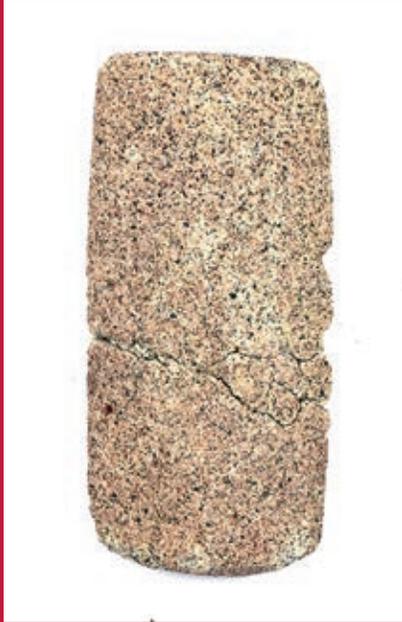
長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第24次発掘調査報告書

2022.3

佐久市教育委員会



H9-14 鮫歯状石製品の未製品？



H23-15 磨製石鏃製作に
用いられたと思われる砥石



H8-22 摺切り痕が認められる石材



H23-55 磨製石鏃未製品



H23-54 磨製石鏃未製品



H23-24 磨製石鏃未製品



H8-15 磨製石鏃未製品
穿孔途中で欠損したもの



H23-22 磨製石鏃未製品
穿孔途中で欠損したもの



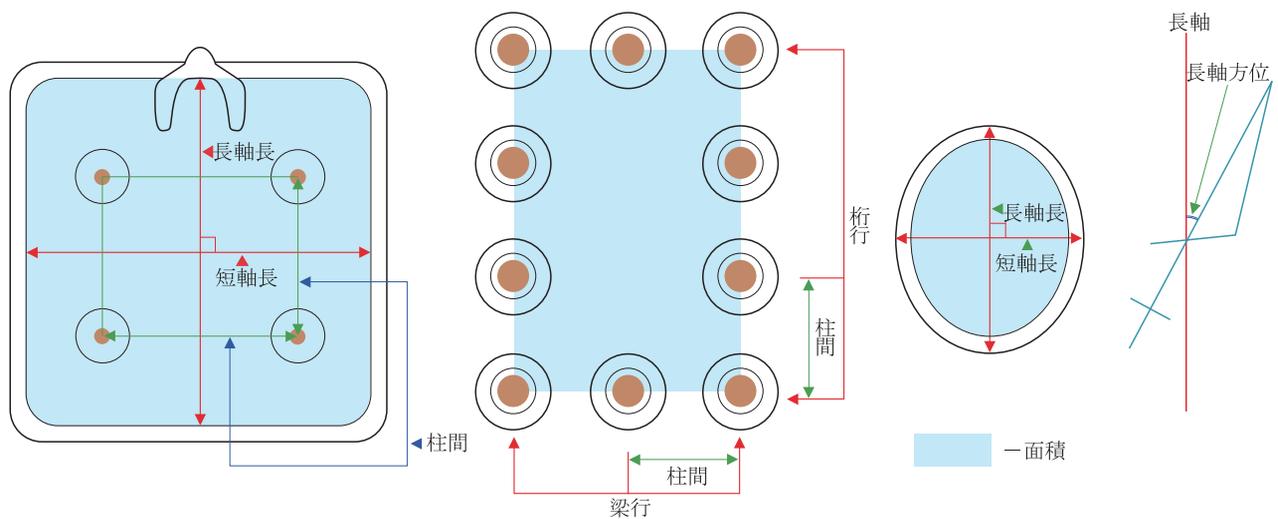
H23-20 磨製石鏃未製品

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する岩村田遺跡群西一本柳遺跡XXIVの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者有限会社平和住宅が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西一本柳遺跡XXIV（INPXXIV） 佐久市岩村田字中一本柳2274-1他
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：令和元年12月2日～令和2年6月5日
整理作業：令和2年6月8日～令和4年3月18日
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1：5,000）である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行った。編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略記号は古代以前の竪穴建物－H、中世以降の竪穴建物－Ta、掘立柱建物－F、土坑－D、溝址－M、ピット－Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4を基本とする。これ以外のは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 海拔標高は、水系標高をスケールに「標高」と記してある。土層の色調は、1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 7 遺構の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形、楕円とした。
- 8 挿図中の網掛けは以下の表現である。

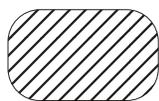


竪穴建物

掘立柱建物

土坑

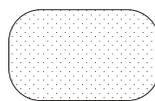
長軸方位



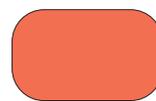
地 山



柱 痕



黒色処理



焼 土
赤色顔料



灰 釉



青 磁
ガラス質



石器使用面
粘土



陶 器

目 次

例 言	i
凡 例	i
目 次	ii
第 I 章 発掘調査の経過	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査体制	1
第 3 節 調査日誌	1
第 II 章 遺跡の立地と環境	2
第 1 節 自然的環境	2
第 2 節 歴史的環境	2
第 III 章 調査の方法	4
第 1 節 調査の方法	4
第 2 節 基本層序	5
第 3 節 検出遺構・遺物の概要	5
第 IV 章 遺構と遺物	6
第 1 節 竪穴建物	6
H 1 号竪穴建物	6
H 2 号竪穴建物	6
H 3 号竪穴建物	6
H 4 号竪穴建物	7
H 5 号竪穴建物	7
H 6 号竪穴建物	8
H 7 号竪穴建物	8
H 8 号竪穴建物	9
H 9 号竪穴建物	11
H 10 号竪穴建物	11
H 11 号竪穴建物	12
H 12 号竪穴建物	17
H 13 号竪穴建物	19
H 14 号竪穴建物	25
H 15 号竪穴建物	25
H 16 号竪穴建物	25
H 17 号竪穴建物	30
H 18 号竪穴建物	30
H 19 号竪穴建物	32
H 20 号竪穴建物	32
H 21 号竪穴建物	35
H 22 号竪穴建物	35
H 23 号竪穴建物	37
H 24 号竪穴建物	38
H 25 号竪穴建物	44
H 26 号竪穴建物	44
H 27 号竪穴建物	44
H 28 号竪穴建物	47
H 29 号竪穴建物	49
Ta 1 号竪穴建物	50

Ta 2 竪穴建物	50
Ta 3 竪穴建物	53
Ta 4 竪穴建物	54
Ta 5 竪穴建物	55
Ta 6 竪穴建物	55
Ta 7 竪穴建物	55
Ta 8 竪穴建物	55
Ta 9 竪穴建物	57
Ta10 竪穴建物	57
Ta11 竪穴建物	57
Ta12 竪穴建物	58
Ta13 竪穴建物	58
第 2 節 掘立柱建物	58
F 1 号掘立柱建物	58
F 2 号掘立柱建物	58
F 3 号掘立柱建物	64
F 4 号掘立柱建物	64
第 3 節 土坑	65
第 4 節 ピット	65
第 5 節 遺構外出土遺物	65
第 V 章 まとめ	66
第 1 節 弥生時代	66
第 2 節 古墳時代	69
第 3 節 中世	71
引用・参考文献	74
表	75
写真図版	PL-01
抄録・奥付	

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 調査に至る経緯

令和元年8月30日、有限会社平和住宅は岩村田遺跡群内で宅地造成を計画し、文化財保護法93条を市教育委員会に届出た。これを受け佐久市教育委員会では、令和元年11月7、8、13、14に試掘・確認調査を実施した。その結果遺跡の保護措置がとれない部分について記録保存目的の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹 吉岡道明（令和3年5月～）
事 務 局	社会教育部	部 長	青木 源（令和元年度） 三浦一浩（令和2年度） 土屋 孝（令和3年度）
	文化振興課	課 長	東城 洋（令和元、2年度） 平林照義（令和3年度）
	文化財調査係	企 画 幹	吉田 晃（令和元年度） 岡部政也（令和2年度） 谷津和彦（令和3年度）
		係 長	山本秀典
		係	富沢一明 上原 学 羽毛田卓也 久保浩一郎 小林真寿
		調 査 員	甘利隆雄 岩松茂年 大矢志慕 小林喜久子 小林節子 小林敏雄 清水律子 副島充子 田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 山村容子 柳沢孝子 柳澤千賀子 山田叔正 油井満芳

第 3 節 調査日誌

令和元年

8月30日	有限会社平和住宅から文化財保護法93条第1項等の届出。
9月 2日	長野県教育委員会に副申。
9月 6日	長野県教育委員会より通知。
11月 7・8・13～15日	試掘・確認調査。
11月18日	発掘調査終了報告。
12月 2～6日	現場調査。（北側進入路部分）
12月 9日～	室内整理作業着手。

令和2年

2月20日	令和元年度調査終了。
-------	------------

4月 2日	令和2年度埋蔵文化財調査業務受託契約。
6月 5日	現場調査終了。
6月 8日	室内整理作業着手。
6月 9日	佐久警察署長に埋蔵文化財の発見の届出。
6月10日	長野県教育委員会に発掘調査終了の報告。
6月18日	長野県教育委員会から文化財認定及び県帰属について。(通知)
令和3年	
3月19日	令和2年度調査終了。
4月 1日	令和3年度埋蔵文化財調査業務受託契約。
令和4年	
3月18日	報告書を刊行し全ての作業を終了する。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 自然的環境

千曲川上流域の東西幅約6km、長さ約15kmの南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は660～740mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高680m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高700m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西一本柳遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西一本柳遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小100ヶを越す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山弾火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流(P₁)第二軽石流(P₂)の二期に大別され小諸懐古園や鼻顔稲荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に包含されている自然木炭のC¹⁴の測定によって10,650±250YBP洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西一本柳遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状湿田が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。(1990佐久埋蔵文化財センター調査報告書第22集 故白倉盛男先生の文書を一部割愛引用)

第2節 歴史的環境

西一本柳遺跡は岩村田遺跡群を構成する代表的な遺跡のひとつであるとともに、佐久市を代表する大規模弥生集落遺跡でもある。今回の調査地点は遺跡の北東端部にあたり、湯川の河岸段丘縁に立地する。

周辺部では過去において数多くの調査が実施されてきた。その端緒は昭和43年宅地造成に伴い実施された東一本柳遺跡の調査であり、古墳時代後期の竪穴建物5軒などが検出された。昭和46年には東一本柳古墳の調査が行われ、金銅製の豪華な馬具が発見されている。昭和47年には北一本柳遺跡が調査され、弥生時代の竪穴建物7軒、平安時代の竪穴建物10軒などが検出されている。平成3・4年度に行われた西一本柳遺跡の第1次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭部が発見されている。この資料は佐久市を代表する遺物のひとつとなっている。平成7・8年に行われた西一本柳遺跡の第3・4次の調査では東信濃で初めて弥生時代中期後半の石戈が発見された。平成18～21年にかけて行われた北一本柳遺跡の第3次調査では弥生時代後期の竪穴建物から



第1図 西一本柳遺跡XXIV位置図(1:50,000)

鉄剣や板状鉄斧2点が、西一本柳遺跡の14次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭頂部が出土している。今回の調査地点の東北隣りでは、平成21～23年に東一本柳遺跡の第2次調査が実施され、弥生時代の円形周溝墓や環濠、古墳時代・中世の集落が検出され、弥生時代後期の人面付土器の腕、胴体、陽形土製品などが出土した。また、今回の調査地点の北隣で行われた第22次調査では、弥生時代後期の複数の環濠、人型土器の頭部片、ベンガラが詰められた甕や、古墳時代後期の石製模造品の製作址などが検出されている。以上のことから東・北・西一本柳遺跡は、佐久地方の古代史上最も重要な遺跡のひとつと認識されている。

第三章 調査の方法

第1節 調査の方法

遺跡名・調査区

佐久市詳細分布図の遺跡に照らし合わせ、西一本柳遺跡XXIVとした。ローマ数字は調査回数である。

開発に際し、測量会社が設定した複数の測量基準点を利用し、TSにより測量を行ったため、調査範囲にグリッドは設定していない。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付けられている。

- アルファベット3文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。 I = 岩村田
- アルファベット3文字の2番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。 N = にし
- アルファベット3文字の3番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。 P = ぽん
- 末尾のローマ数字は発掘調査回数を表す。

遺構略記号は以下のとおりであり、佐久市共通である。

- H = 古代以前の竪穴建物
- F = 掘立柱建物
- D = 土坑（陥穴、貯蔵穴等）
- P = ピット（柱状のものを建てたと思われる、多くは小径の掘り込み）
- M = 溝状遺構（環濠、水路、道路、堀等）
- T a = 中世以降の竪穴建物

遺構調査

竪穴建物は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。遺物は4分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。

土坑は長軸方向に沿って2分割し、土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は分割した区毎に東西南北の英語頭文字を付し取り上げた。

ピットも土坑と同様であるが、遺物は遺構Noで一括した。

溝址・周溝墓は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。

遺構測量

平面図・断面図ともにTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。測量基準座標は開発業者が設定した、複数の基準点をもとに調査区内に設定した座標を用いた。

写真

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、データの状態で報告書に使用した。

遺構・遺物の整理等

遺構の図面修正は株式会社CUBICの「遺構君」により行った。

遺物洗浄は竹ブラシを用い手で行い、室内で自然乾燥させた。

注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。

遺物の接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充填材はエポキシ樹脂XNR6504・XNH6504を用いた。

金属器については、バキュームシーラによるパックで現状保存した。

遺物実測は手取りと、デジタル一眼レフカメラで撮影した画像をAdobe社製「Photoshop」で補正した写真実測を併用して行った。

遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。

報告書

文章はInDesignに直接打ち込んだ、表についてはMS社製「エクセル」で作成した。遺物実測図はAdobe社製「Illustrator」によりデジタルトレースを行い、写真・拓本はAdobe社製「Photoshop」により補正加工を行った。これらのデータをAdobe社製「InDesign」に取り込み、印刷原稿を作成し、入稿した。

第2節 基本層序

基本層序は第2図のとおりである。南側の湯川河岸段丘縁は畑地化に際し、IV層まで達する削平が行われている。遺構検出は4層上面で行った。

- I－灰黄褐色土層（10YR4/2）耕作土。
- II－黄褐色土層（10YR5/6）部分的に堆積。
- III－灰黄褐色土層（10YR5/2）遺構によってはこの堆積土中から掘り込まれていることが確認できた。
- IV－にぶい黄橙色土層（10YR7/4）浅間火山第一軽石流（P₁）の堆積。
- V－湯川由来の砂利層。

第3節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

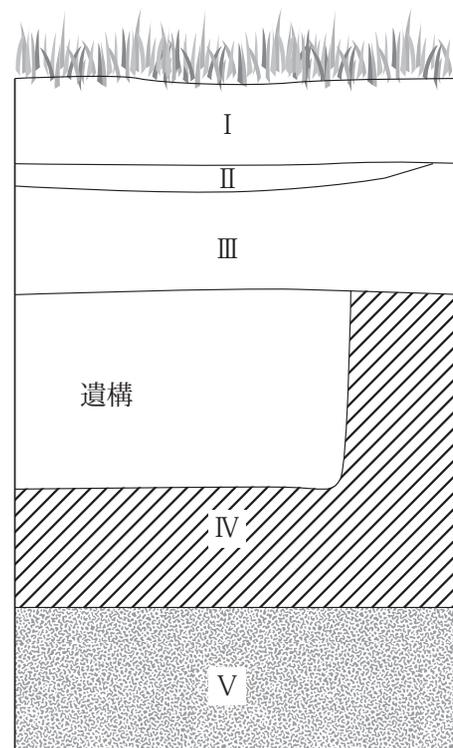
検出遺構

竪穴建物(古代以前)－29軒、竪穴建物(中世以降)－13軒

掘立柱建物－4棟、土坑－49基、ピット－192基

出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器・石製品、金属器



第2図 基本層序模式図

第IV章 遺構と遺物

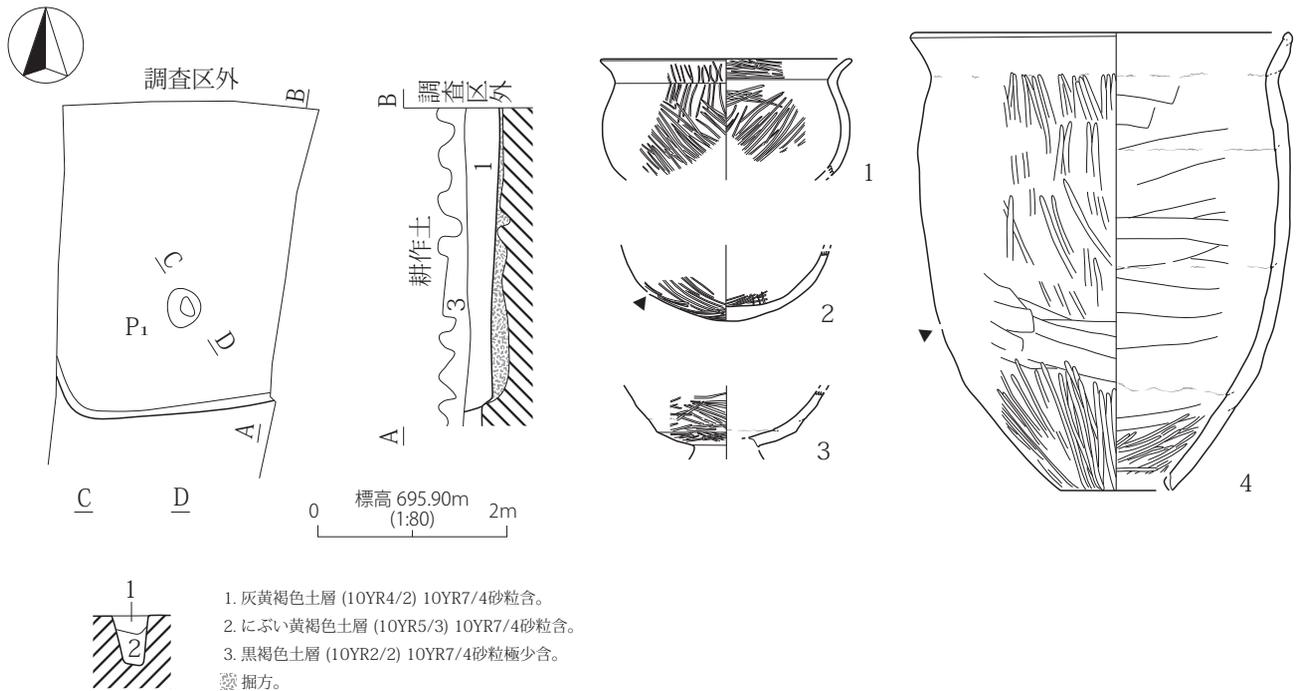
第1節 竪穴建物

H1号竪穴建物 (第3図)

調査区北端で検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.17mの規模である。調査範囲内にカマドは存在しなかった。主柱穴が床面上で1基検出されている。周溝は有さない。

遺物は土師器が出土している。坏、高坏、甑の器種が認められる。坏は鉢としたほうが良いかもしれない。内外面に暗文状のヘラミガキが施される。高坏は坏部に稜が認められる。甑は大型で、底部が開口する。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。



第3図 H1号竪穴建物

H2号竪穴建物 (第4図)

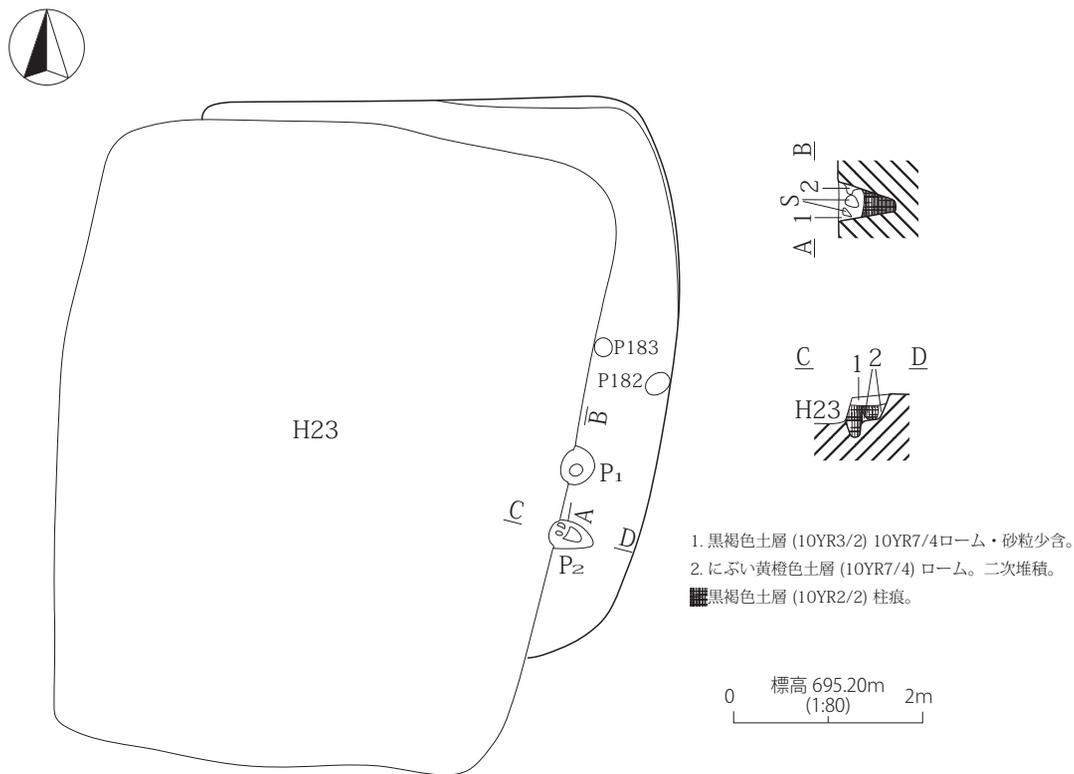
調査区中央西寄で検出された。H23に切られる。壁残高0.05mの規模である。壁は北辺に僅かに残るだけであり、床面だけの状態であった。そのため、P1・2の2基のピットについても本址に確実に伴うか否か定かではない。

図示しないが、弥生中期後半栗林式の土器片が出土しており、本址の年代も弥生中期後半栗林式期と思われる。

H3号竪穴建物 (第5図)

調査区東端中央やや北寄り検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.30mの規模である。検出された3基のピットの内、P1・P2の2基のピットは主柱穴である。調査範囲内にカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡る。

遺物は弥生土器、土師器、石器が出土している。弥生土器3・4は壺であるが、混入品である。土師器は坏、壺の器種が認められる。坏1は小型で、外面底部にヘラケズリ調整が施される。土師器壺2は球胴で、口縁部にヘラミガキが施される。内面体部はナデ、外面はヘラケズリ調整である。石器は編物石、磨石、使用痕のある剥



第4図 H2号竪穴建物

片が出土している。剥片の石材は黒曜石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀前半の所産と思われる。

H4号竪穴建物 (第6図)

調査区東端中央やや南寄りで検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.31mの規模である。床面上、掘方から検出された3基のピットの内、P2は主柱穴と思われる。土坑D1は本址に伴うか否か定かではない。

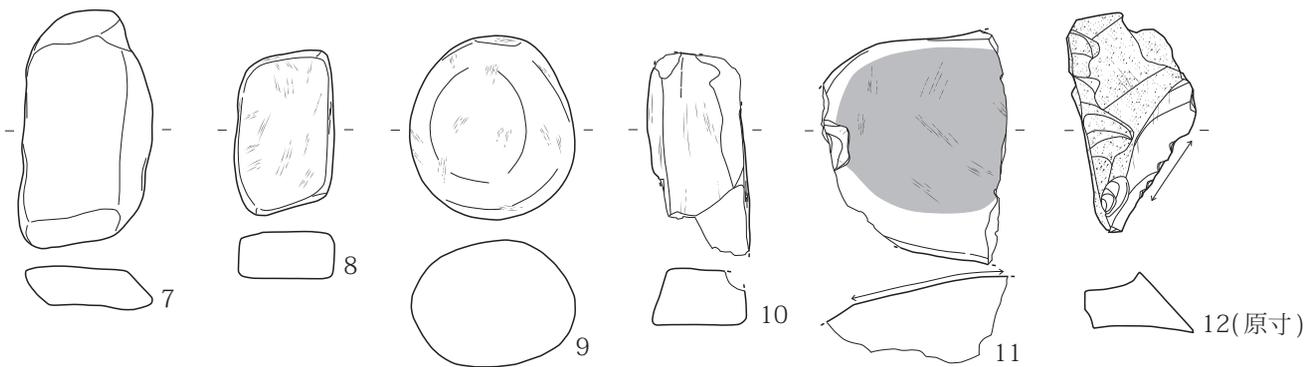
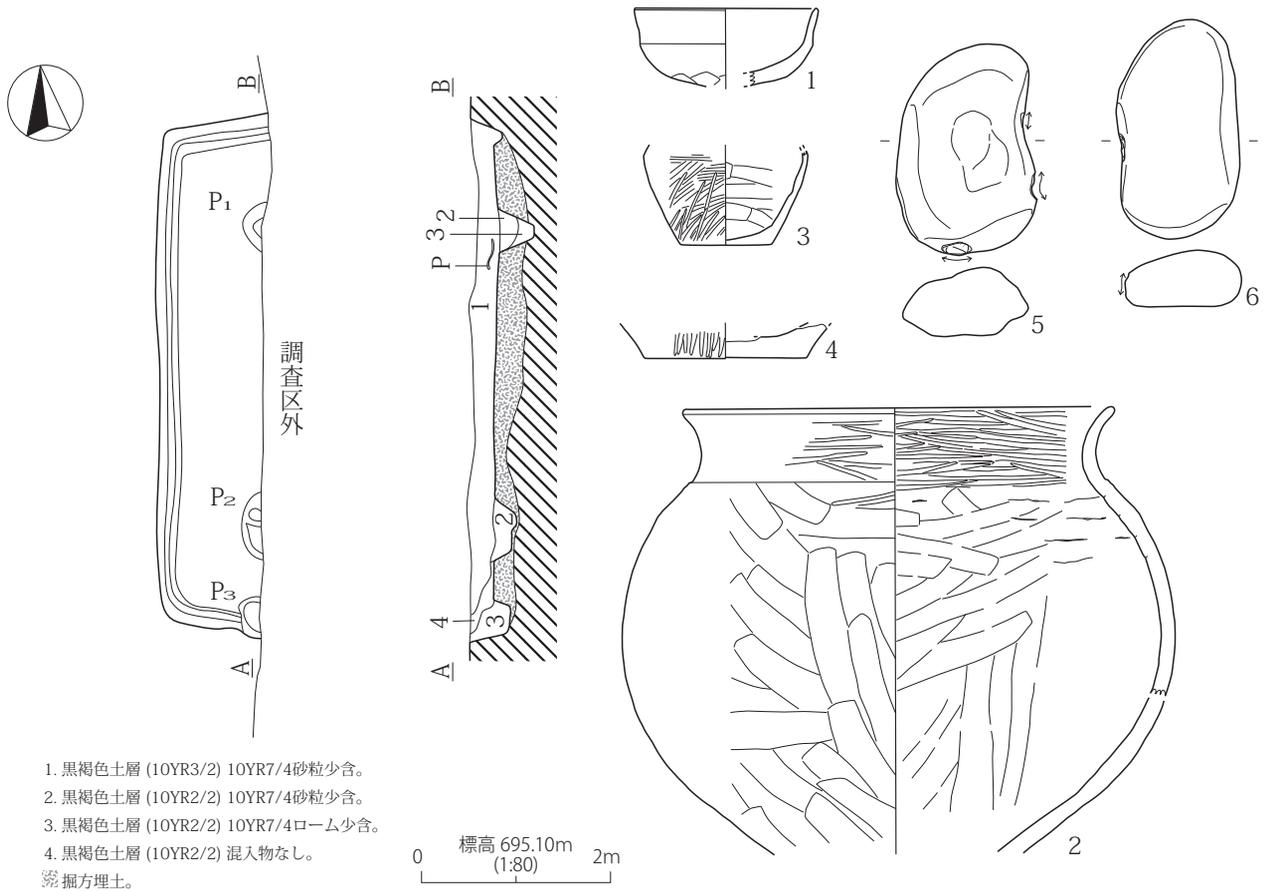
遺物は土師器甕と須恵器甕が1点ずつ出土している。甕は体部に最大径を有し、内面ナデ、外面ヘラケズリ調整後ヘラミガキが施される。須恵器甕は大型で、頸部から口縁部を欠損する。体部下半に叩き痕を残し、最大径部分に櫛描波状文が施され、穿孔が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代中期5世紀後半の所産と思われる。

H5号竪穴建物 (第7図)

調査区東南端付近で検出された。Ta1、D42に切られる。N-7°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.30m、短軸長4.25m、壁残高0.39mの規模である。カマドは北辺の中央やや東寄りに石芯を粘土で被覆して構築される。対面する南辺には張出部があり、貯蔵穴が構築されている。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。ピットは11基検出されたが、均等に配置されるP1~P4の4基が主柱穴である。φ11cm台の柱痕が確認された。遺物は土師器、陶器、石器、鉄製品が出土した。土師器には坏、甕の器種が認められる。坏は半球状の1・2と半球状の体部から口縁部が外反する3が存在する。1がケズリ調整で仕上げられるのに対し、2・3はケズリ調整後ミガキ調整が施される。甕は2点ともに体部に最大径を有する。陶器はこね鉢と碗が1点ずつ出土しているが、重複するTa1やD43に帰属するものと思われる。石器は磨石が、鉄製品は断面円形の軸状のものが各1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。



第5図 H3号竪穴建物

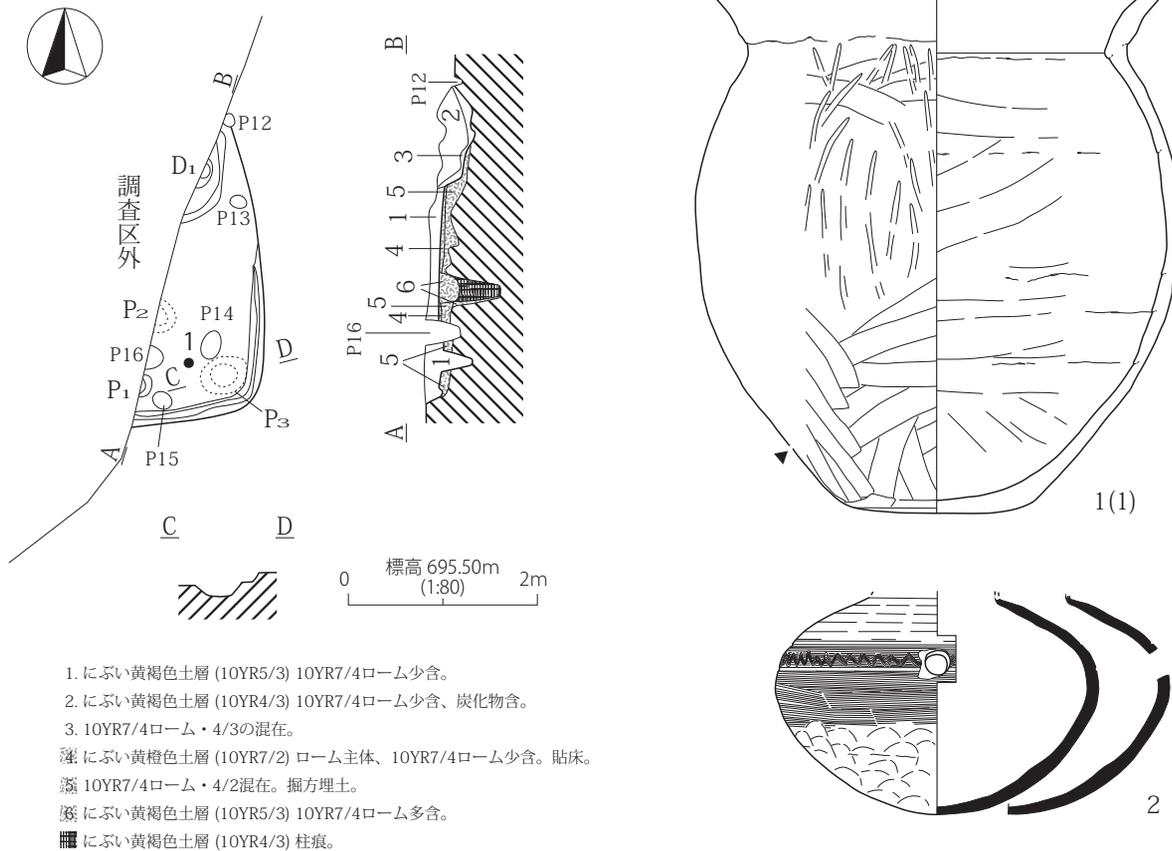
H6号竪穴建物 (第8図)

調査区西端中央南寄りで検出された。H29、D37・38・40・45・46に切られ、西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.21mの規模である。南壁下には周溝が巡り、ピットは1基検出されたが主柱穴か否かは不明である。

出土遺物は皆無であるが、H29に切られるためH29の所産期が本址の所産期の下限となるが、H29からは所産期を決定出来る遺物が出土していないため、本址の所産期は不明である。

H7号竪穴建物 (第9図)

調査区東側で検出された。P49に切られ、カクランによる破壊を受ける。N-128°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.49m、短軸長2.69m、壁残高0.23m、面積10.38㎡の規模である。カマドは東壁の東南隅よりに構築さ



第6図 H4号竪穴建物

れるが、火床が残存するだけであった。P1・2の2基のピットが支柱穴であり、φ11cm大の柱痕が確認された。北西隅から西南隅の壁下には周溝が巡る。

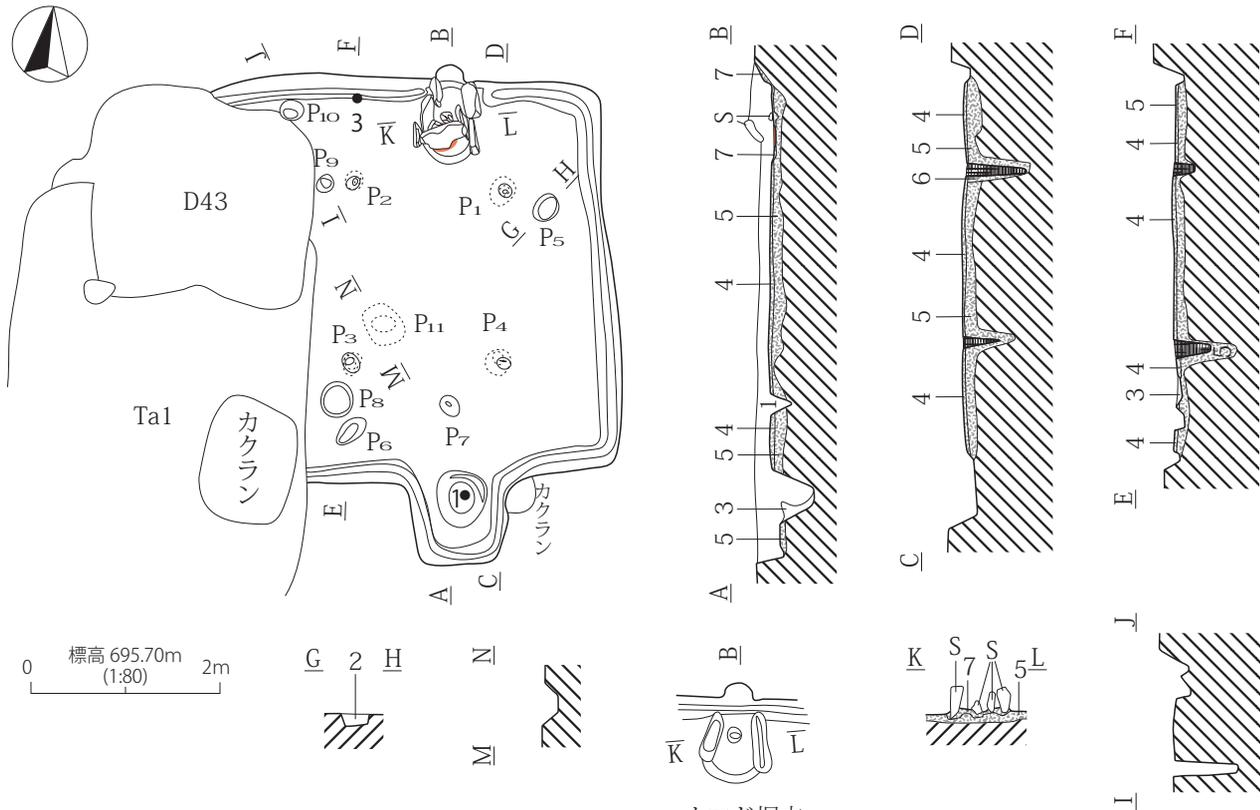
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏と高坏の器種が認められる。坏は半球状の体部から短い口縁部が外反するものが3点、やや内径気味に直立するものが1点出土している。いずれも暗文状のヘラミガキが内外面に施され、2は内面黒色処理が施される。高坏は坏部に稜を持つもので、口縁端部が摘み上げられる。内外面に暗文状のヘラミガキが施される。石器は台石が1点出土している。表裏に磨面や条痕が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

H8号竪穴建物 (第10・11図)

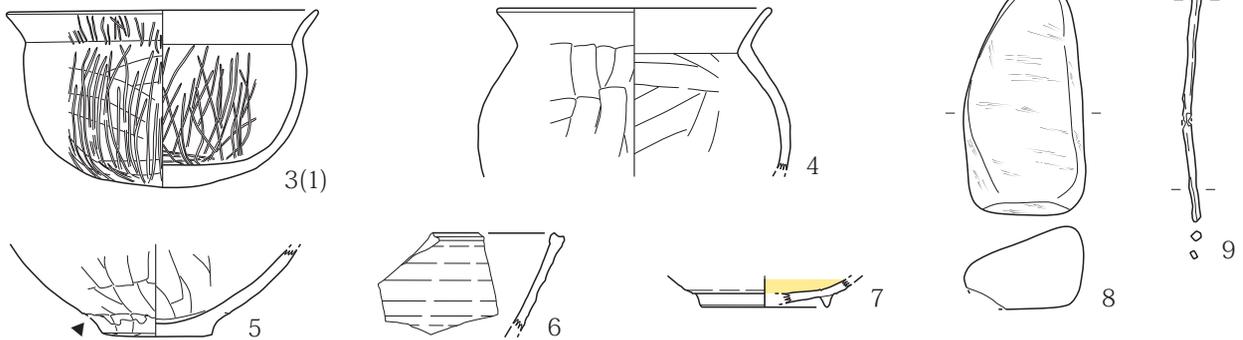
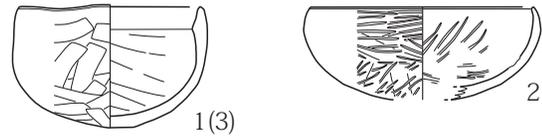
調査区中央東側で検出された。H13・15・17、D5、P48・58・59に切られる。N-5°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.56m、短軸長5.39m、壁残高0.15m、面積36.61㎡の規模で、長方形の平面形態である。H13が遺構中央部分を破壊するため、炉は判然としない。支柱穴も同様であるが、P2・3・8・9などは比較的深度があり、φ16cmの柱痕が確認できるものもある。南壁を除く壁下には周溝が認められる。また、間仕切状の溝址が遺構中央に認められる。

遺物は弥生土器、石器、鉄製品が出土している。弥生土器には甕、台付甕、壺の器種が認められる。2の様な中期的な形態と、1の様な後期的な形態が混在する。3は台付甕の可能性が高いが、比較的大型でヘラ描きによる特異な文様が体部に施文される。台付甕5は、「コ」字重ね文ではなく、重三角文である。壺は6の様な小型の内外赤彩のものもあるが、その他は大型のものである。9・10は受口の口縁部形態である。頸部が所謂「太首」なのは10だけである。また、赤彩は9のみに認められるが、内面が被熱により劣化しており、内面赤彩の有無は不明である。文様は受口のもの以外は頸部文様帯に集約されており、多段のヘラ描平行沈線間に縄文施文



- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭・焼土多含、10YR7/6ローム含。人為埋土。
- 2. 褐灰色土層 (10YR4/1) 10YR7/4砂粒極少含。
- 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
- 淺 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。貼床。
- 淺 にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2極少含。掘方埋土。
- 淺 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含。
- 淺 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム少含。カマド掘方埋土。
- 焼土。
- 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

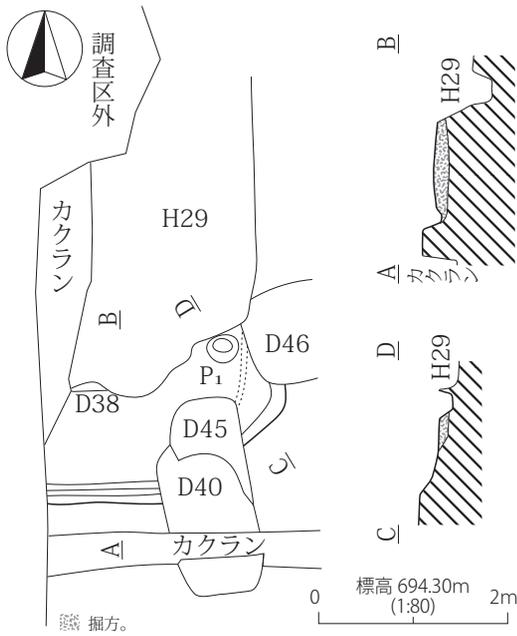
カマド掘方



第7図 H5号竪穴建物

が基本であるが、9は櫛描簾状文、波状文、横線文が施される。受口口縁のものは口縁部文様帯にへら描の波状文が施されている。口唇部の加飾は9を除く全てに縄文か刻目が認められる。最大径は体部中位に上がる傾向が認められ、9は稜を成す。石器は砥石、磨製石斧、磨・敲石、磨製石鏃、磨製石鏃の素材が出土している。17は刃部を欠損した磨製石斧を2次利用した磨・敲石である。磨製石鏃は全て欠損品であり、製作過程で壊れたものである。その素材の出土からも明らかのように本址は磨製石鏃の製作址でもある。石材は片岩である。出土した砥石や磨・敲石は磨製石鏃の製作工具の可能性が高い。23の鉄製品は先端が尖る、断面四角形のものである。

以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式期の終末期の



第8図 H6号竪穴建物

様相を呈しているものと思われる。

H9号竪穴建物（第12～14図）

調査区中央北側で検出された。H19、Ta8等に切られる。N-21°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.56m、短軸長4.89m、壁残高0.20m、面積34.75㎡の規模で、長方形の平面形態である。炉は遺構中央部分に構築され、地焼炉である。P1～P3の3基が支柱穴である。本来は存在するもう1基はH9により消滅している。φ11cmの柱痕が確認されている。P4・6は棟持柱、P8・9は出入口施設と思われる。東壁の一部の壁下には周溝が巡っている。本址は焼失遺構であり、床面及び覆土内には多量の炭化物が内包されていた。

遺物は弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。弥生土器には高坏、甕、壺の器種が認められる。高坏は脚部分が1点出土している。短脚で外面には赤彩が施される。甕は短い口縁部形態で口唇部に縄文が加飾される。2は受口で、櫛描波状文が施される。台付甕の可能性が高い。頸部には簾状文が施

される。体部は、3は櫛描斜走文が縦羽状に、4・5は櫛描波状文、2は縦位に櫛描波状文が施される。壺は13の破片資料を除き受口口縁のものは認められない。口唇部には縄文か刻目の加飾が施される。文様は頸部文様体を集約される。基本はヘラ描による多段の平行沈線文であり、地文として縄文が施されるものもあるが、無文のものもある。12のように文様帯そのものを持たないものも存在する。8・10・12は体部が稜を成して強く張る。石製品14は磨製石鏃の未製品ではなく、所謂「鮫歯状石製品」の未製品の可能性が高い。石器は15～18の打製石鏃ないしその未製品。19の磨製石鏃の未製品。20は石包丁の未製品の可能性がある。21・22は磨石、23は使用痕のある剥片、24は2次加工痕のある剥片である。25の鉄製品(角釘)は重複するTa8の混入品であろう。26は器種不明の鉄製品である。

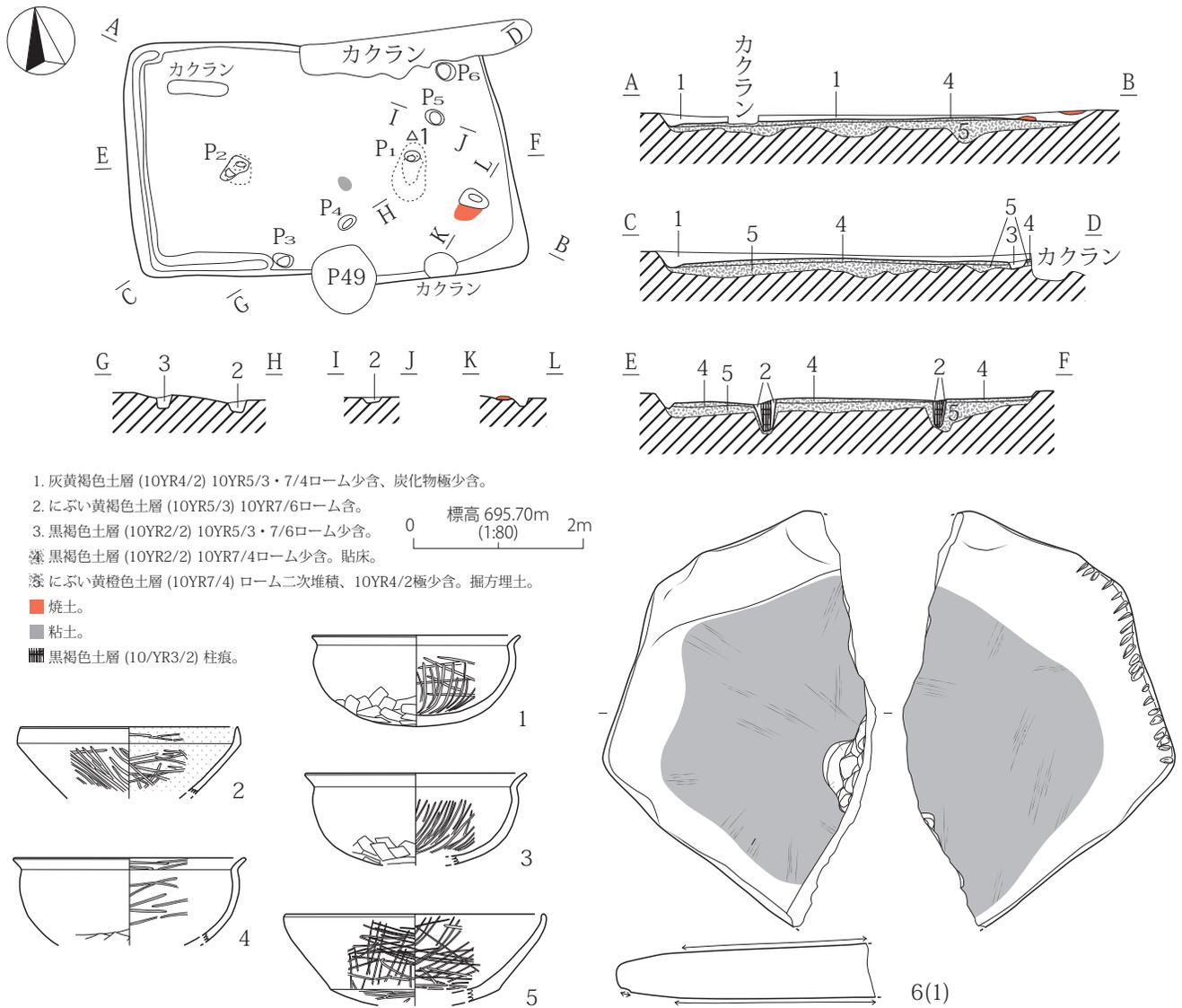
以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式の終末期の様相を呈しているものと思われる。

H10号竪穴建物（第15・16図）

調査区西側で検出された。D21・24・25・33に切られる。壁残高0.12mの規模である。床面だけが残存している状態であり、平面形態等は不明である。炉は縁石を伴う地焼炉である。P4・5・7からはφ16cmの柱痕が確認された。P4・7は支柱穴の可能性が高い。P5は棟持柱であろう。本址は床面上に炭化物が堆積しており、焼失遺構と思われる。

遺物は弥生土器、陶器、石器が出土している。陶器は混入品である。弥生土器には高坏、台付甕、甕、壺の器種が認められる。高坏は坏部の破片であり、脚は欠損する。口縁部が鏢状になり、内外面に赤彩が施される。台付甕は受口気味に口縁部が立ち上がる。頸部に櫛描簾状文、口縁部・体部に櫛描波状文が施される。甕3は口縁部を欠損する。体部には縦羽状の櫛描斜走文が施される。4は壺の可能性もある。受口口縁の破片で、口唇部縄文、口縁部には波状文が施される。壺5は口縁部の破片で、端部が短く立ち上がる。口唇部に縄文、口縁部には波状文が施される。6は小型の壺で、口唇部縄文、頸部に3本の平行沈線が巡り、地文に縄文が施される。最大径は体部中位にある。石器は砥石、磨製石鏃、磨製石鏃製作過程で生じた片岩の剥片や素材が出土しており、本址が磨製石鏃の製作址であることを示している。

以上の出土遺物は弥生時代中期後半栗林式であるが、後期的な要素も認められることから栗林式の終末期の様



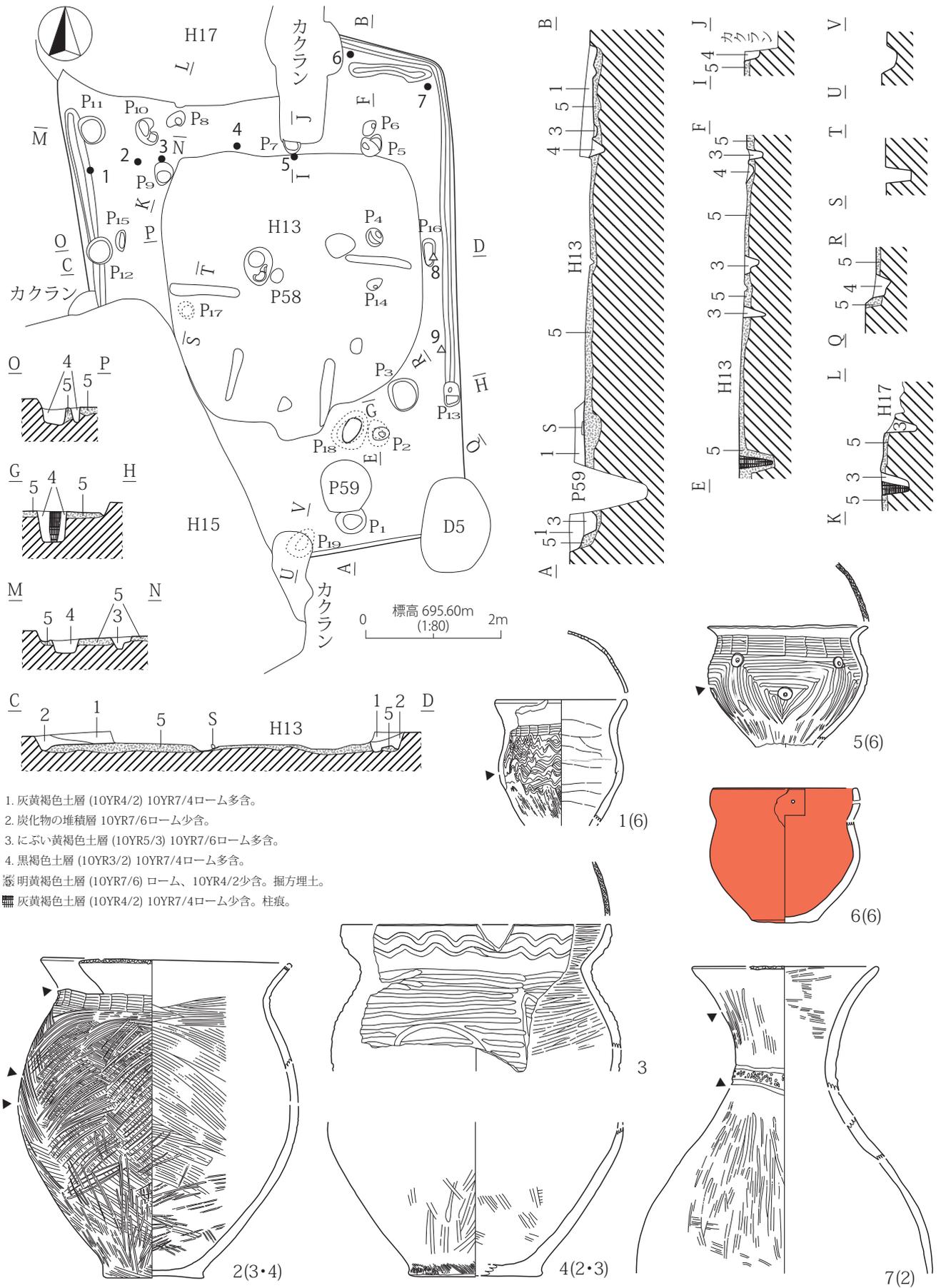
第9図 H7号竪穴建物

相を呈しているものと思われる。

H11号竪穴建物 (第17~20図)

調査区中央で検出された。H20・21を切り、P60に切られる。隅丸方形の平面形状で、N-5°-Wに長軸方位をとり、長軸長7.87m、短軸長7.74m、壁残高0.53m、面積50.64㎡の規模である。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されていた。均等に配置されたP1~P4の4基のピットが支柱穴である。掘方から近接して、異なる一組の支柱穴と、一回り小型の竪穴建物の痕跡が確認されたことから、本址は拡張されていることが判明した。周溝は一部断絶しながらもカマド部分を除く壁下を巡っている。南壁中央壁下に穿たれたP10は出入口施設と思われる。

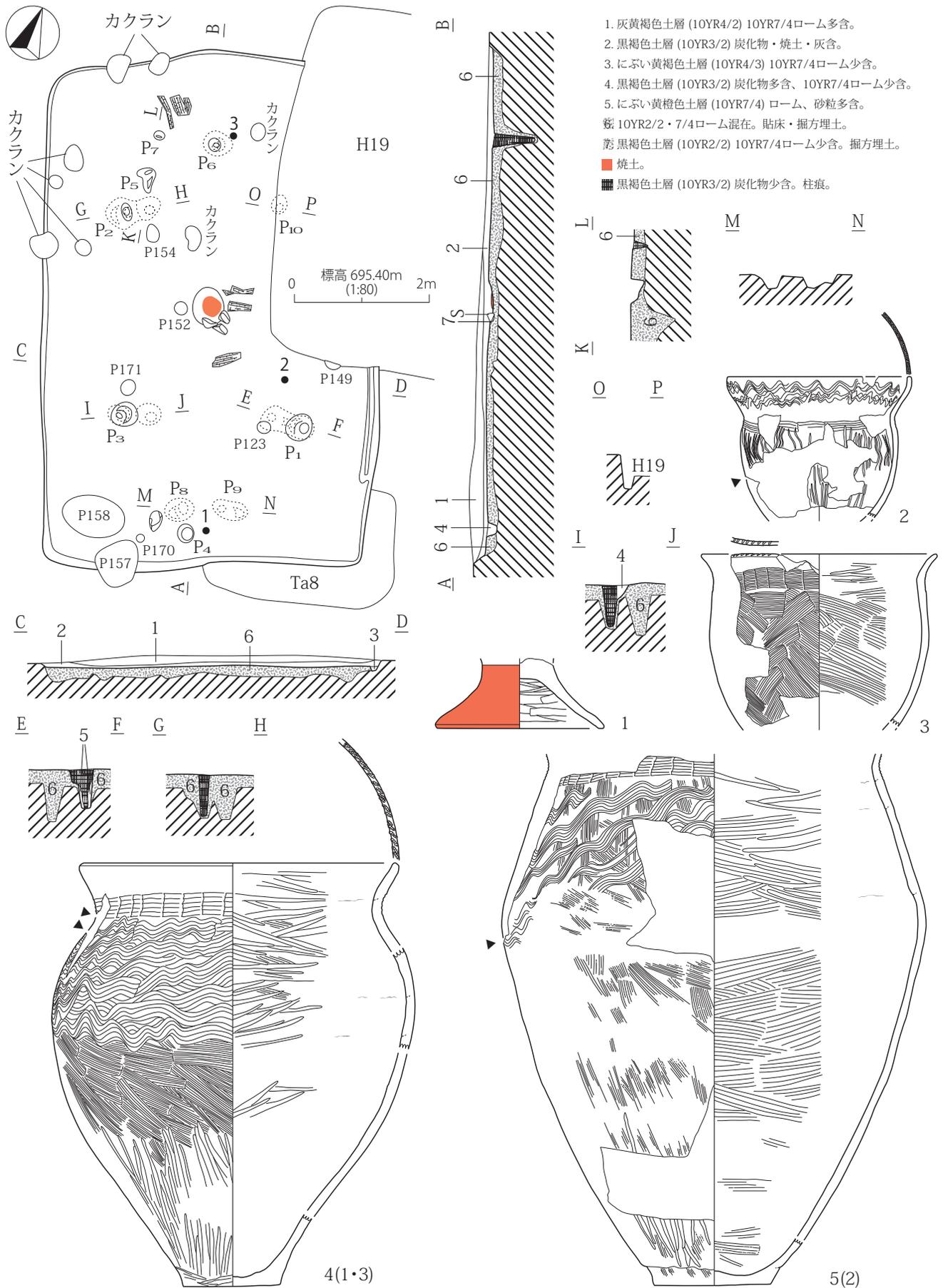
遺物は、土師器、弥生土器、土製品、石器、鉄製品、鉄滓が出土している。土師器には坏、鉢、甕、壺の器種が認められる。坏には2の北武蔵型や、4・5のような有段口縁坏も認められるが、須恵器坏蓋模倣形態の3・7・12や、半球状の底部から口縁部が大きく外反する8・13、平坦な底部から口縁部が大きく外反する9~11のような形態、両者の折衷形態の様な6が存在する。鉢は平坦な底部を持ち、内湾しながら立ち上がった体部から口縁部が短く外反する形態で、内外面にミガキ調整後、内面に黒色処理が施されている。甕の底部は残存する



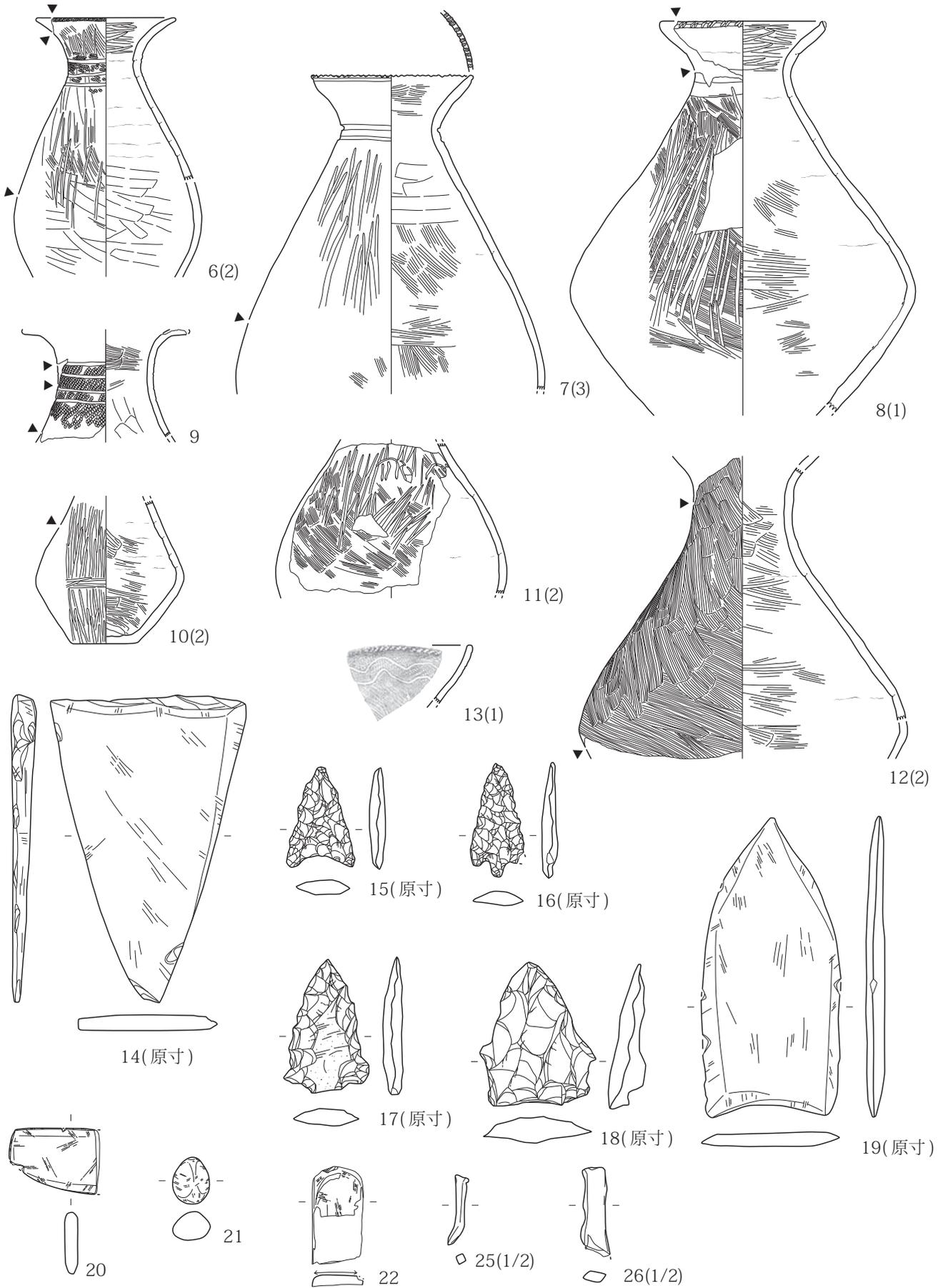
第10図 H8号竪穴建物(1)



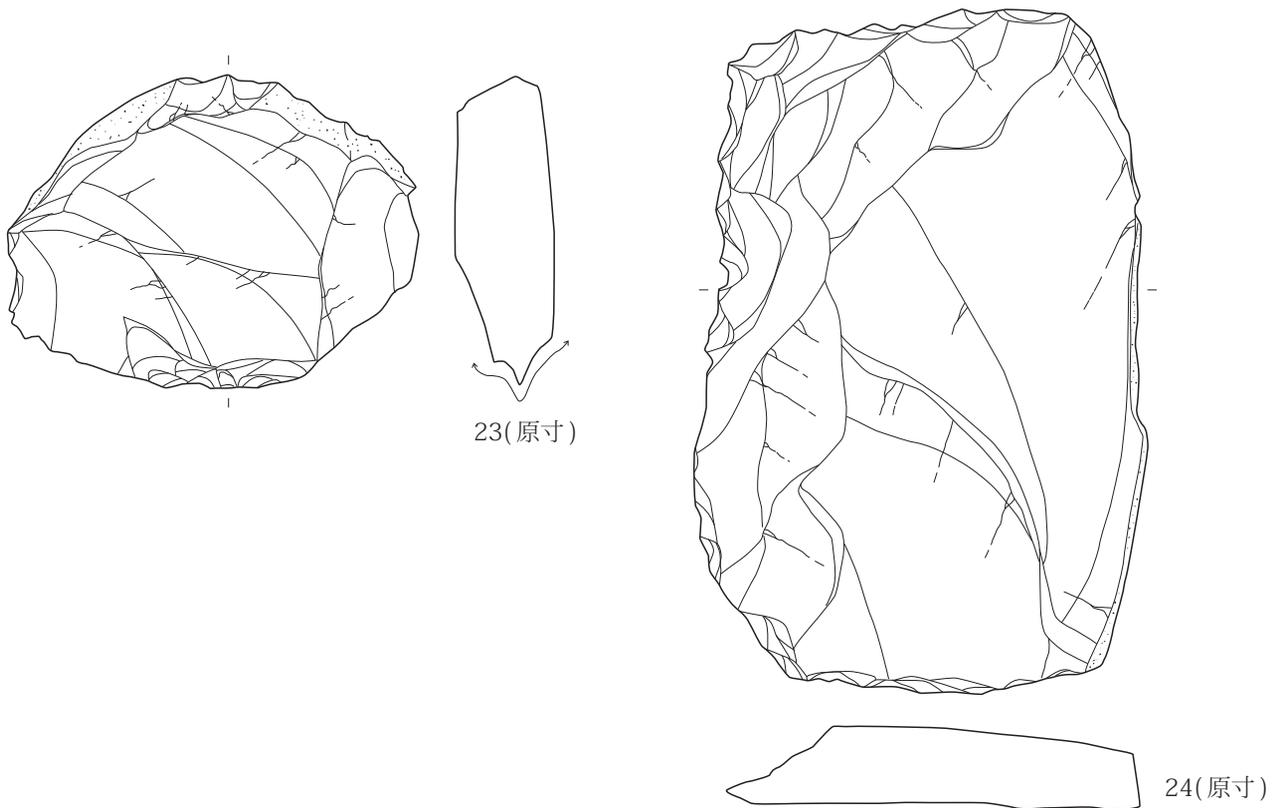
第11图 H8号竖穴建物(2)



第12図 H9号竪穴建物(1)



第13图 H9号竖穴建物(2)



第14図 H9号竪穴建物(3)

ものは突出した形態である。最大径を体部に有するものと、口縁部に有するものが存在する。調整はナデ、ケズリがほとんどであるが、ハケメが施される20・28も存在する。20は東海地方からの搬入品と思われる。壺は特異な形態の32が1点出土している。弥生土器は中期後半栗林式の壺が2点出土している。土製品は35・36の丸玉、37の弥生時代の人型土器の腕と思われる破片が出土している。石器は砥石、台石、打製石鏃、編物石、磨石、敲石、磨製石鏃製作過程で生じたものであろう片岩の剥片が出土している。鉄製品は角釘、角軸が認められる。

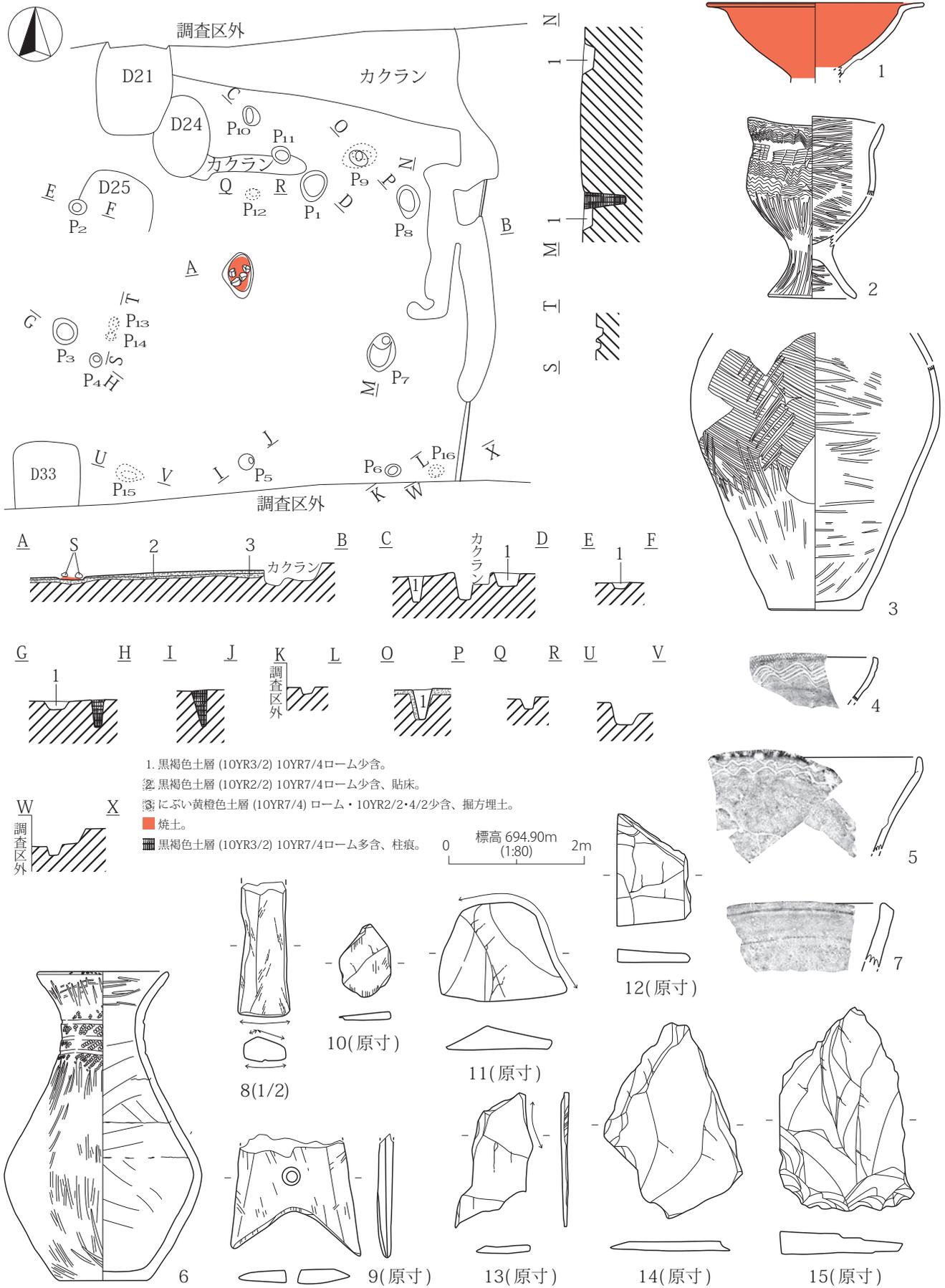
以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と考えられる。

H12号竪穴建物（第21～22図）

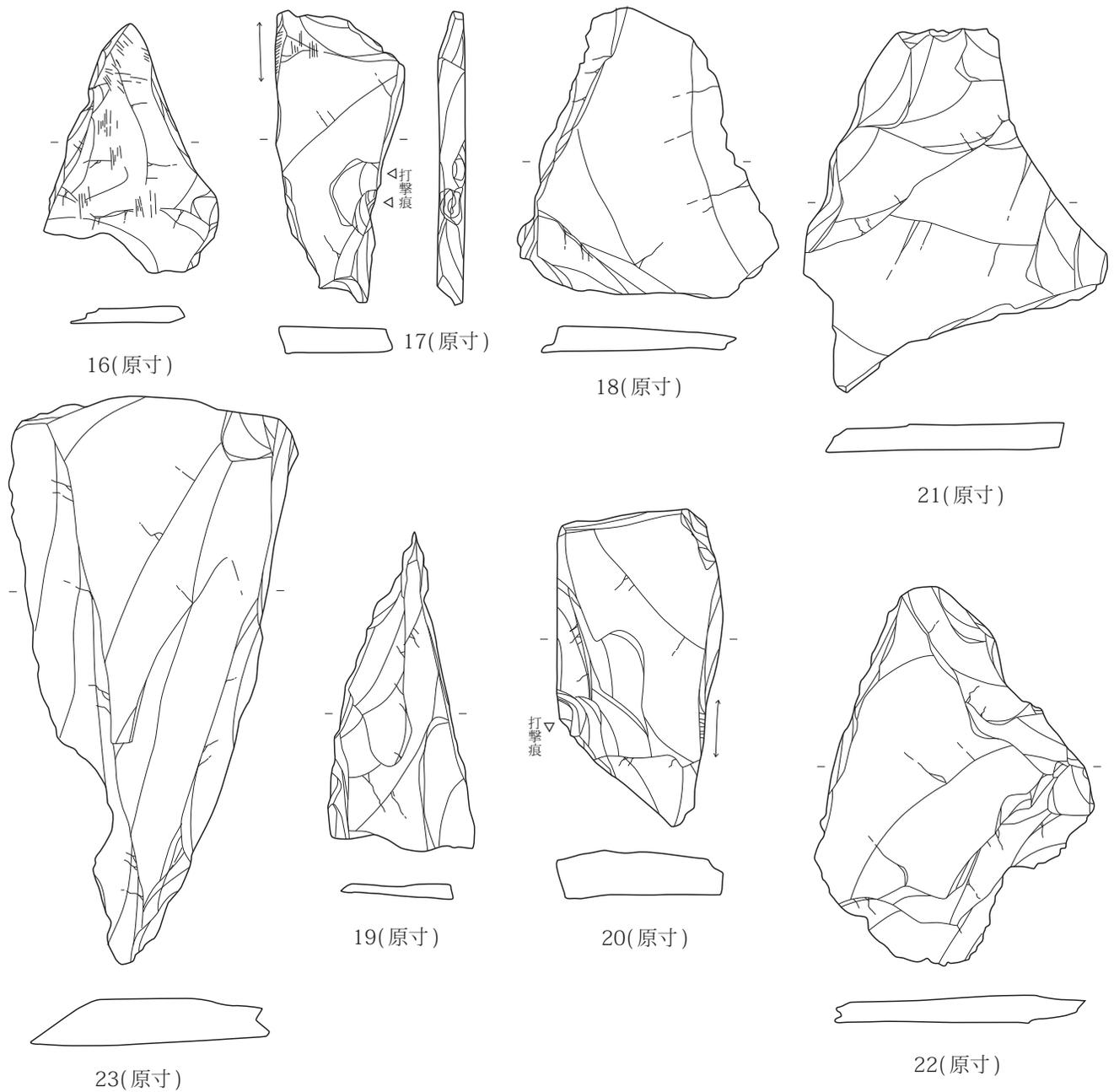
調査区中央やや東寄りで検出された。H18を切り、P54～57に切られる。隅丸長方形の平面形態で、 $N-1^{\circ}-E$ に長軸方位をとり、長軸長4.55m、短軸長3.87m、壁残高0.50m、面積13.35㎡の規模である。カマドは北壁中央東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド東の東北隅には貯蔵穴が構築されている。南壁中央下に構築されるP5は出入口施設と考えられるが、P2～P3については支柱穴として捉えて良いか否か判断できない。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は土師器、石器、鉄製品が出土している。土師器には坏、甕、壺の器種が認められる。坏は須恵器坏蓋模倣形態の2や半球状を呈する1、平坦な底部から口縁部が開く3の形態が混在する。甕は体部に最大径を有する4と口縁部に最大径を有する5が存在する。いずれも、調整はナデ、ケズリである。壺は小型広口の6が1点出土した。石器は磨石、磨敲石、磨製石鏃製作時の片岩の剥片、石核が出土している。鉄製品は角釘が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と考えられる。



第15図 H 10号竪穴建物 (1)

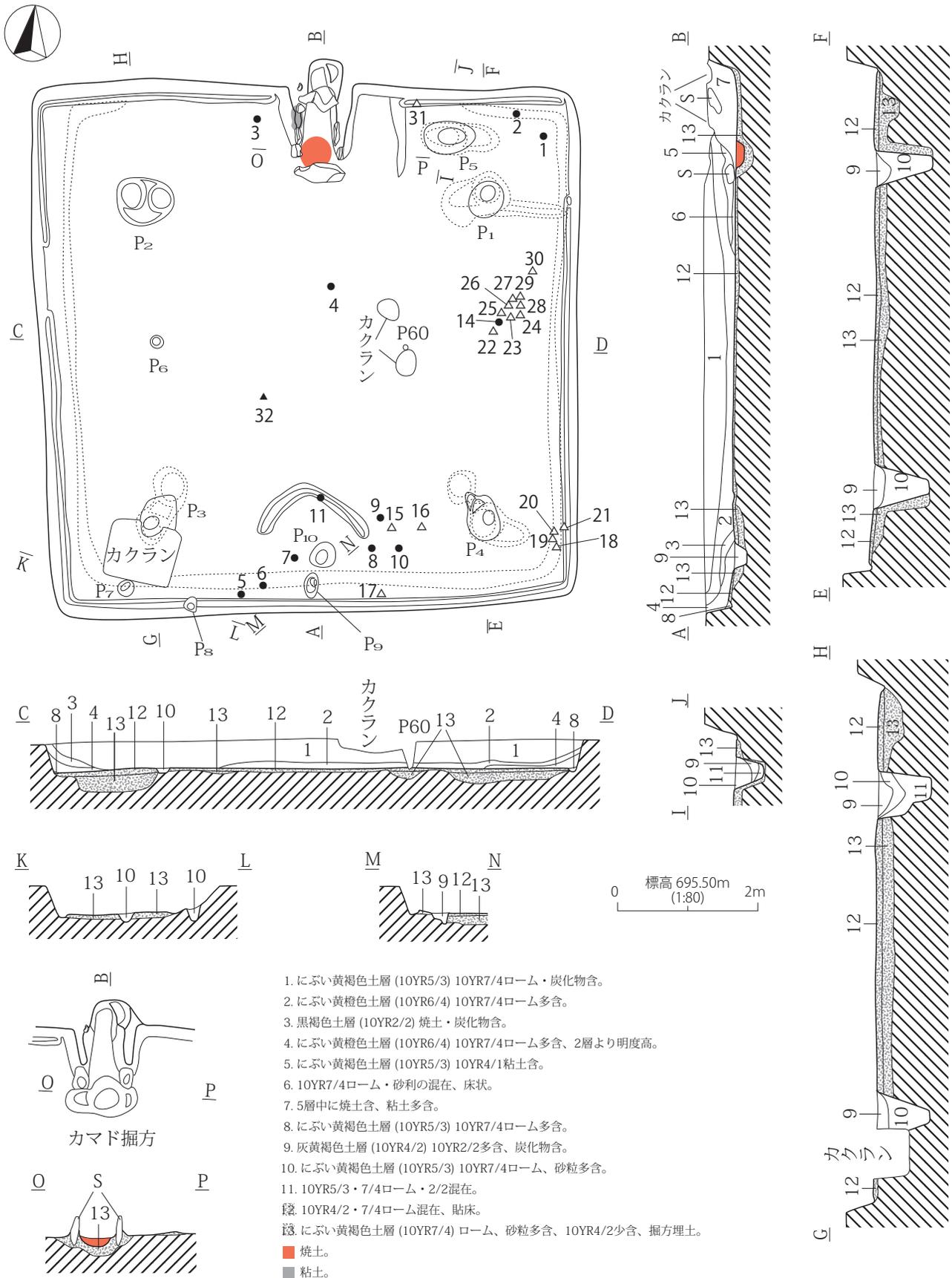


第16図 H10号竪穴建物(2)

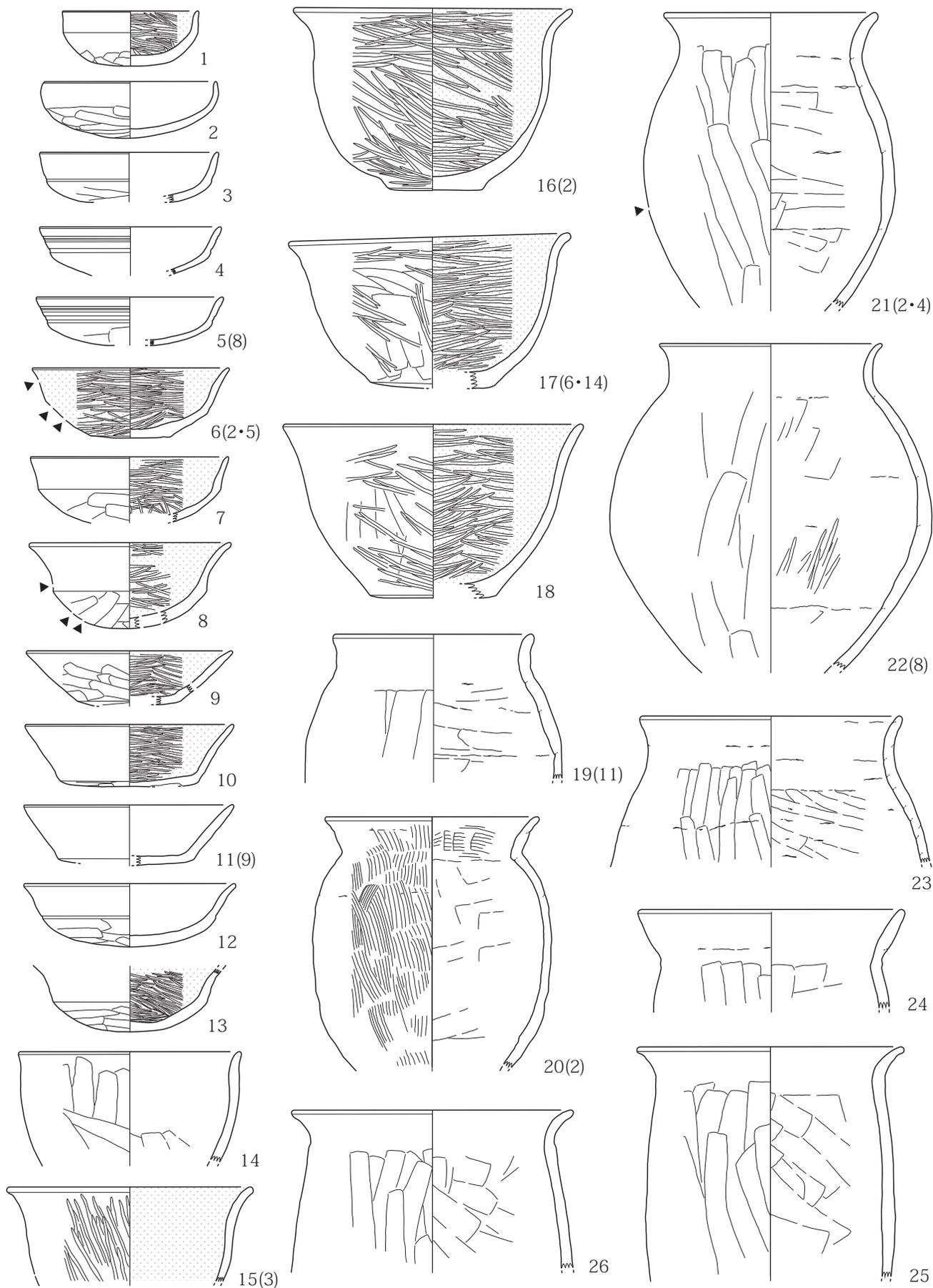
H13号竪穴建物(第10・11図)

調査区中央東側で検出された。P48・58に切られ、H8を切る。N-1°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.32m、短軸長3.94m、壁残高0.25m、面積13.50㎡の規模であり、南壁中央に方形の張出部分を有する長方形の平面形態である。カマドは北壁中央やや東寄りに火床だけが残存していた。3基検出されたピットは支柱穴か否か判断できないが、P1からはφ6cmの柱痕が確認された。間仕切状の溝4本についても、本址のものか重複するH13に帰属するものか判断できない。重複するH8に帰属するものであれば、山梨県や諏訪地方の影響と考えられる。

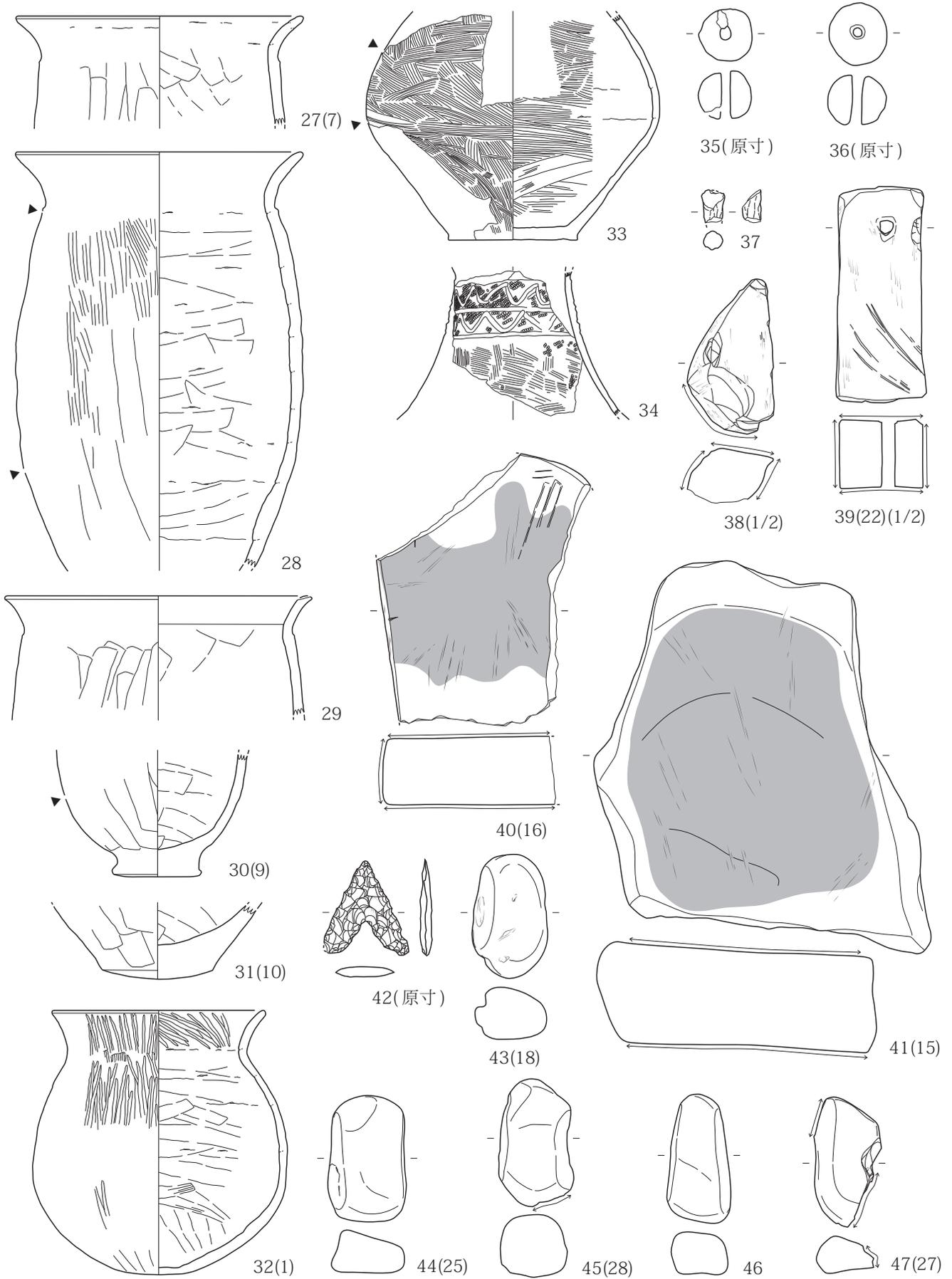
遺物は土師器、弥生土器、土製品、石器が出土している。土師器には坏、鉢、甕、壺、甑の器種が認められる。坏は半球状と半球状の底部から短い口縁部が外反する形態が存在する。鉢は丸底から内湾しながら立ち上がった体部から短い口縁部が外反する形態である。甕は5・4のような小型甕と、体部に最大径を有する7のような大



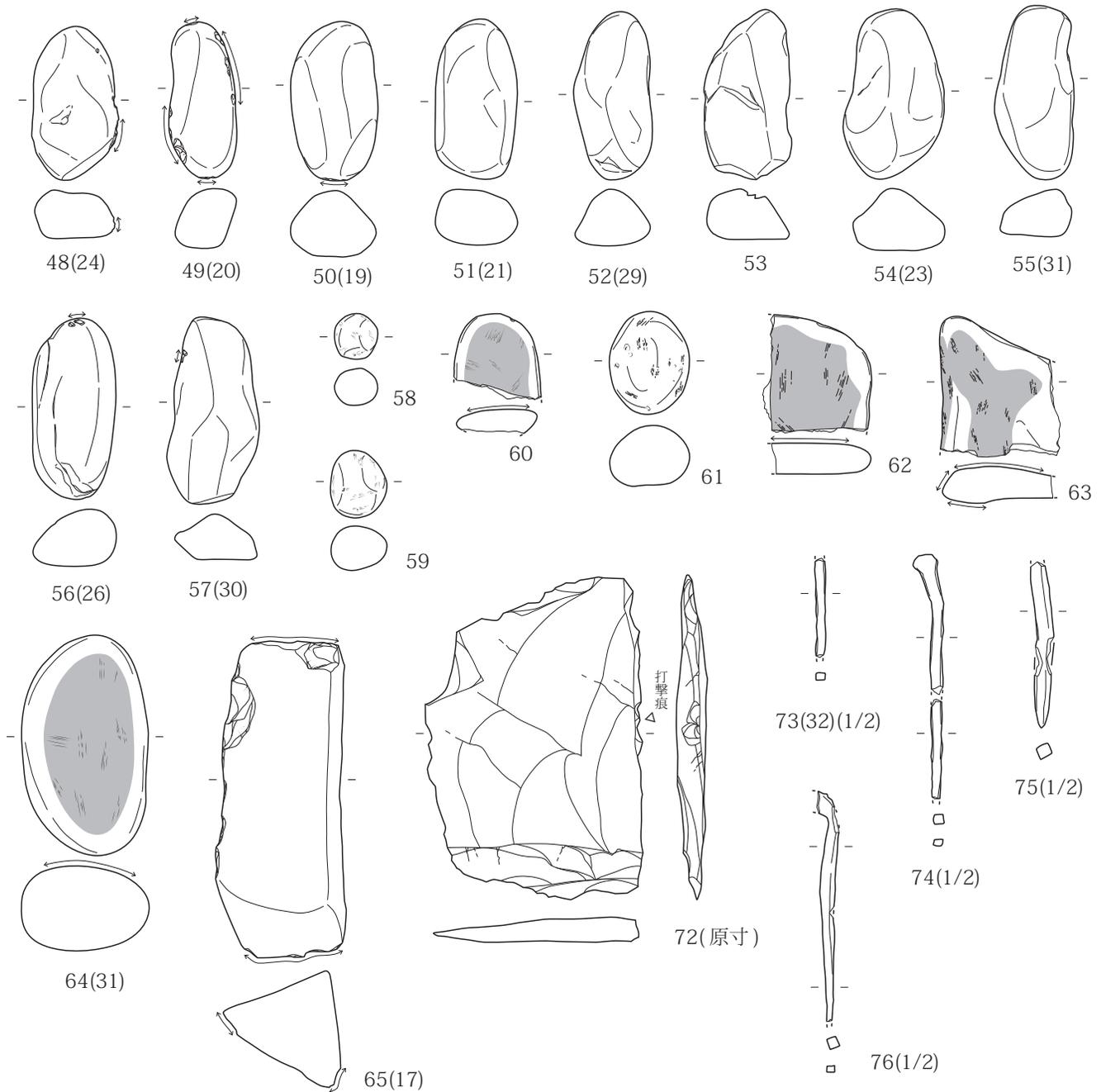
第17図 H 11号竪穴建物(1)



第18图 H11号竖穴建物(2)



第19图 H 11号竖穴建物(3)



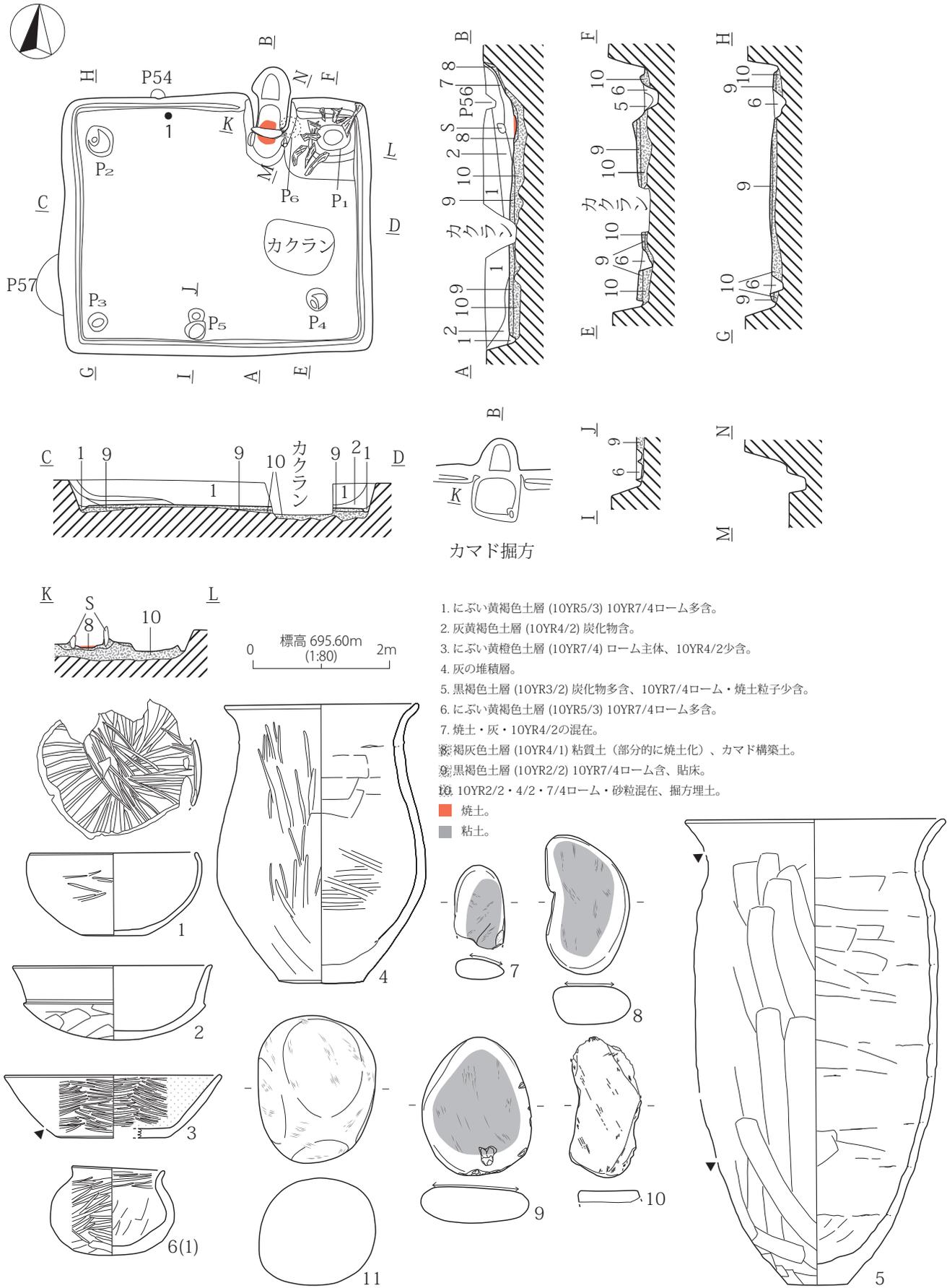
第20図 H11号竪穴建物(4)

型のものが出土している。壺は壺形態のものが、甑は単孔の植木鉢形態のものがそれぞれ1点出土している。弥生土器はコの字重ね文の台付甕が1点出土した。土製品はカマドの支脚が2点出土した。石器には編物石、磨石、磨敲石、2次加工のある剥片、磨製石鏃製作時の片岩の剥片が出土している。弥生土器及び剥片は重複するH13に帰属するものである。

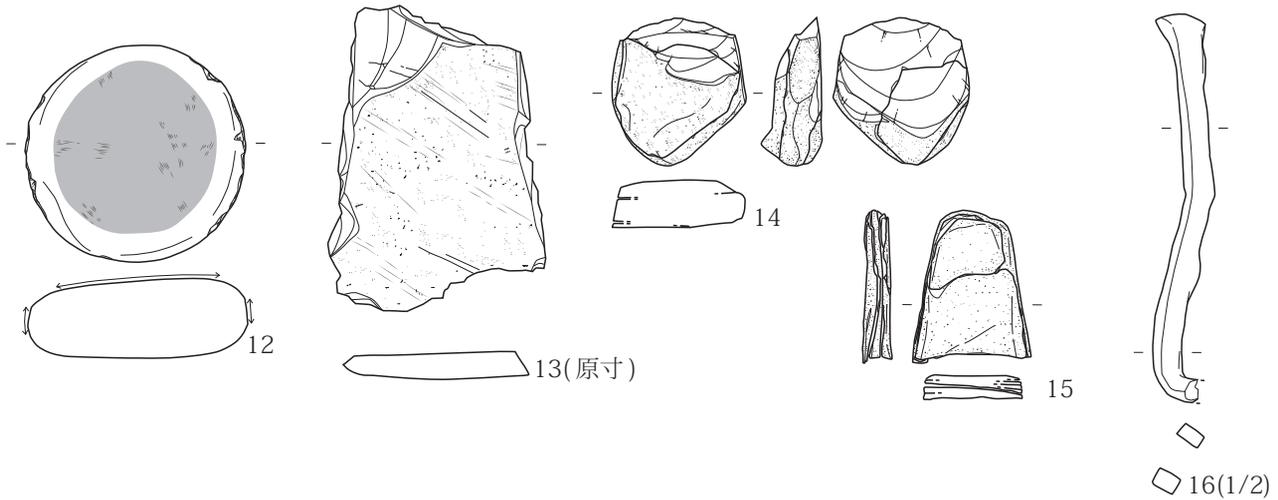
以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

H14号竪穴建物(第25図)

調査区東側で検出された。P50を切る。壁残高0.57mの規模である。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲内にカマド、支柱穴は存在しないが、壁下には周溝が巡り、南北方向に展開する間仕切が1本検出された。また、掘方からピットが1基検出されている。



第21図 H12号竪穴建物(1)



第22図 H12号竪穴建物(2)

遺物は土師器、須恵器、石器が各1点出土している。土師器は甕の体部片、須恵器は壺の底部片、石器は磨敲石である。

以上の出土遺物から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

H15号竪穴建物（第26～28図）

調査区中央で検出された。H18・16を切り、H13に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-25°-Wに長軸方位をとり、長軸長6.58m、短軸長6.33m、壁残高0.65m、面積34.25㎡の規模である。カマドは北壁中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。均等に配置されたP1～P4の4基のピットが支柱穴である。φ10cm～20cmの柱痕が確認された。南壁下中央東寄りに構築されたP5・6は出入口施設である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。カマド東脇の掘方から検出されたP8は貯蔵穴と思われる。本址は焼失遺構であり、床面上には炭化材が散乱していた。

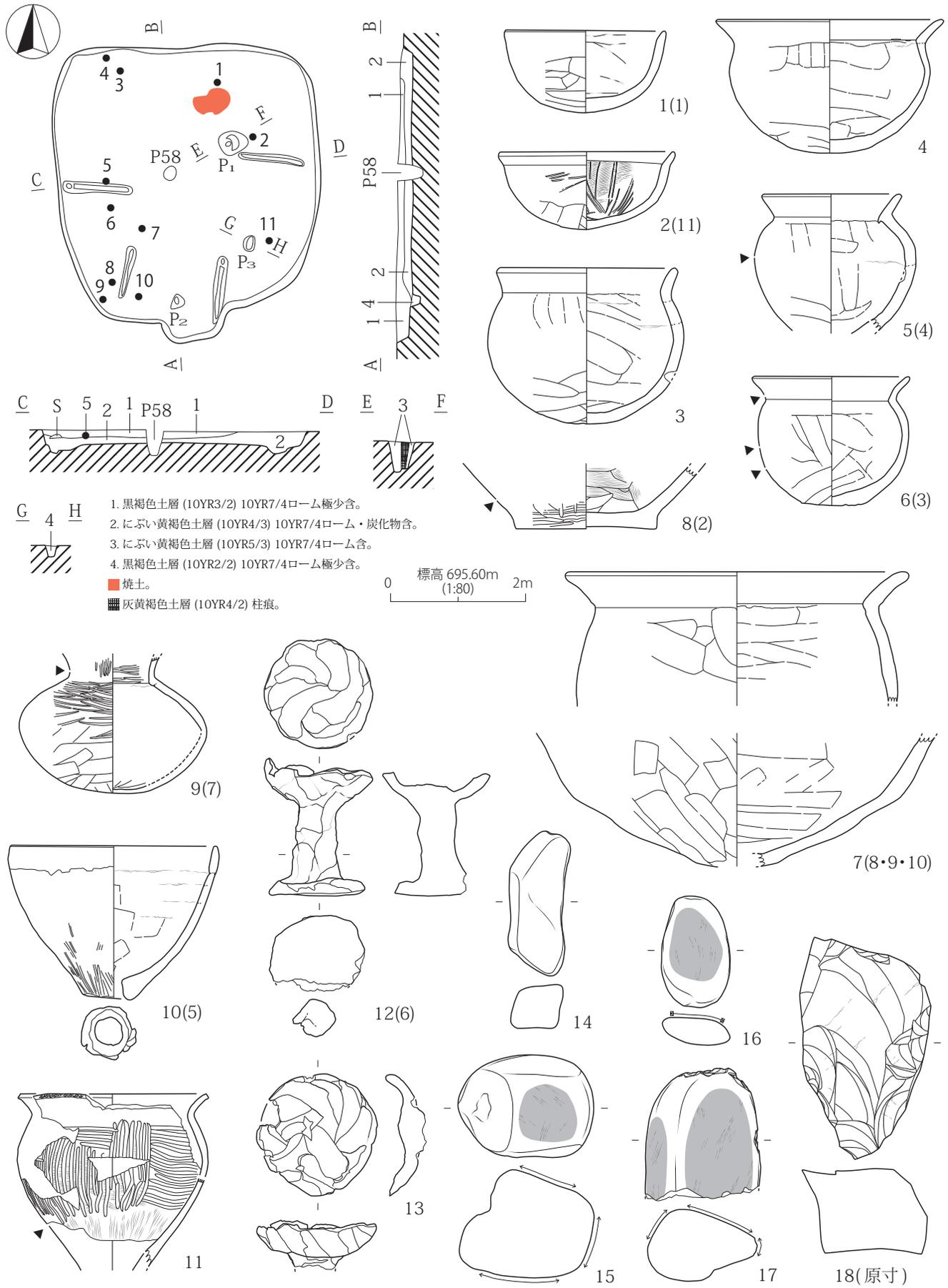
遺物は土師器、弥生土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土した。土師器には坏、高坏、鉢、甕の器種が認められる。坏は半球状のものと、半球状の底部から口縁部が短く直立するもの、短く外反するものが存在する。いずれも暗文状のヘラミガキ調整が施される。高坏は須恵器坏蓋模倣形態の坏部片である。鉢は半球状の底部から口縁部が短く外反する坏を大型にしたものである。甕の多くは体部に最大径を有する。調整は基本的にナデ、ケズリであるが、一部ハケメが認められる。弥生土器はH8に帰属するものであろうコの字重ね文の台付甕片が1点出土している。石製品は滑石製の白玉、石製模造品勾玉・剣形や石錘が出土している。石器は編物石、砥石、磨石、磨製石鏃製作時の片岩剥片が認められる。片岩剥片はH8に帰属するものである。鉄器は刀子が、鉄製品は器種不明品が各1点出土した。

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

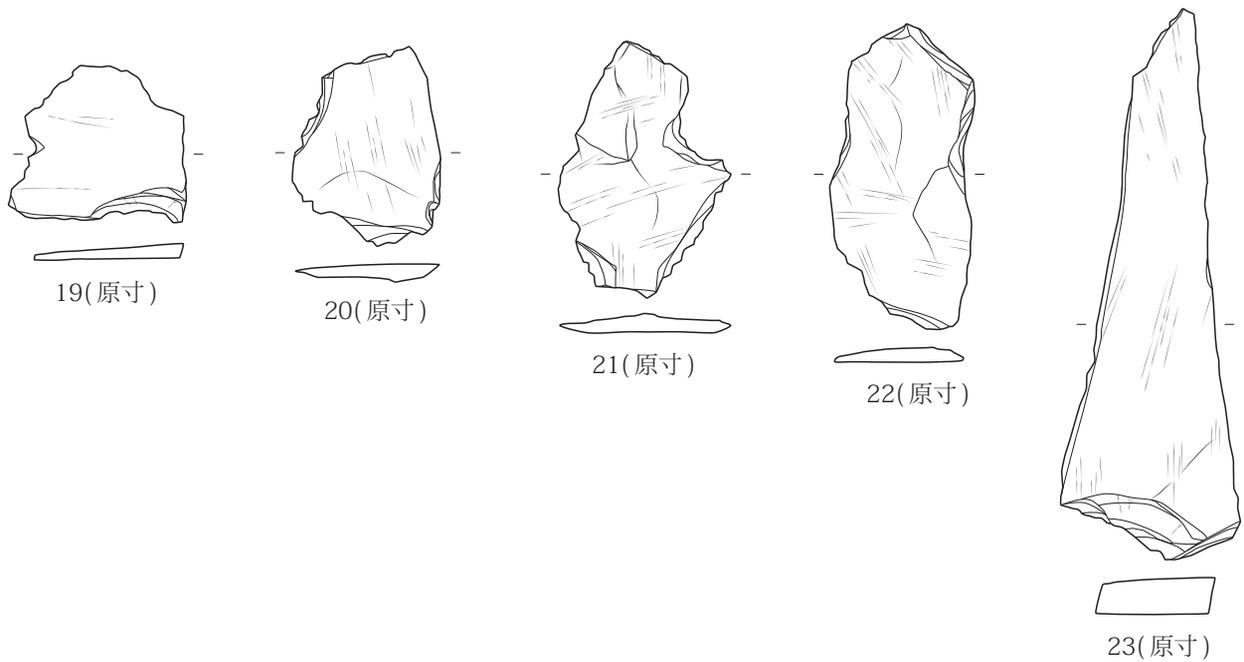
H16号竪穴建物（第29図）

調査区中央で検出された。H12・15、D7、P52・53に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-60°-Wに長軸方位をとり、長軸長4.38m、短軸長3.13m、壁残高0.16m、面積11.10㎡の規模である。均等に配置されたP1～P4の4基が支柱穴である。φ16～20cmの柱痕が確認された。P2・3の間には地焼炉が構築される。東壁下の掘方から検出されたP8・9は出入口施設と思われる。P6からは鹿角が検出された。

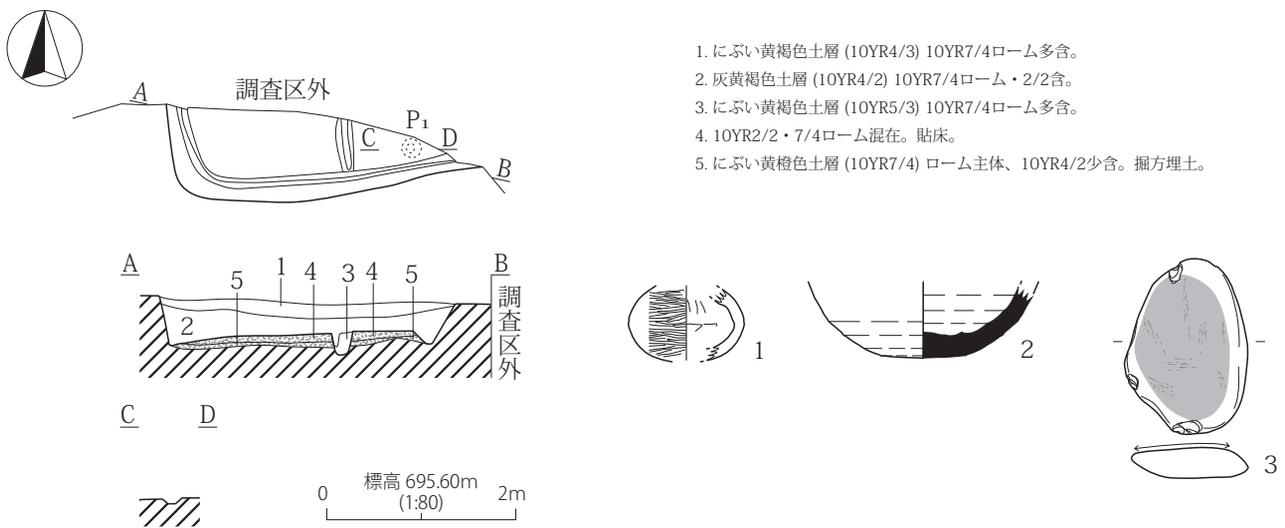
遺物は弥生土器、石器が出土した。弥生土器には鉢、高坏、甕、壺の器種が認められる。鉢は内外面赤彩が施される。口縁部には櫛描波状文が巡る。高坏は脚部片である。外面には赤彩が施される。短脚である。甕は受口



第23図 H 13号竪穴建物(1)



第24図 H13号竪穴建物(2)



第25図 H14号竪穴建物

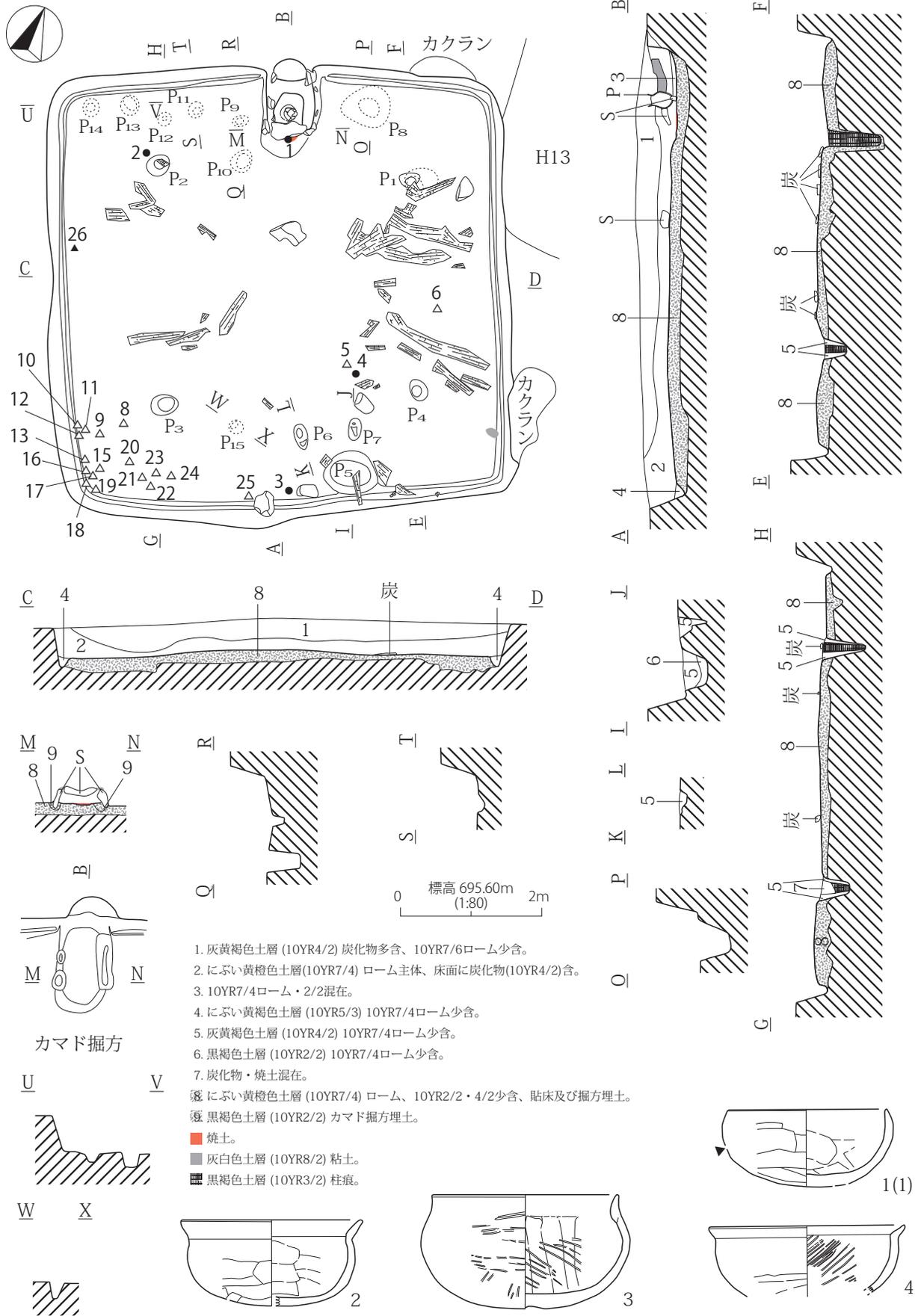
で、口縁部に1条の櫛描波状文が巡る。頸部には簾状文、体部上半には重複しない櫛描波状文が巡る。壺は口縁部に櫛描波状文、頸部にはヘラ描斜走文を横位羽状に巡らせた下部に鋸歯文が巡る。赤彩は施されないが、体部は稜を成して強く張る。石器は磨敲石と片岩製の磨製石鏃未製品と剥片が出土しており、本址で磨製石鏃が製作されていたものと思われる。

本址はその出土遺物の特徴から弥生時代後期前半吉田期の所産と考えられる。

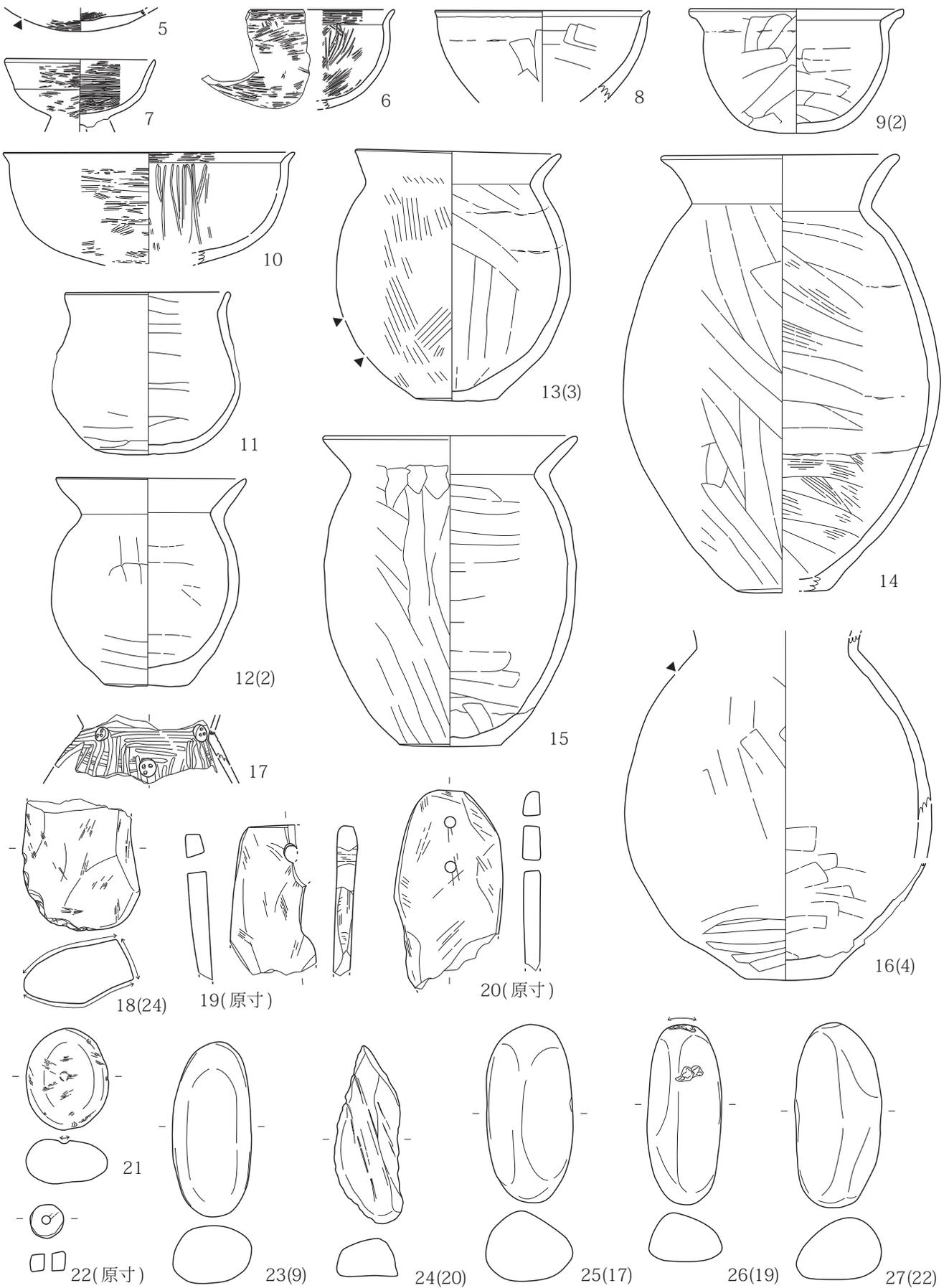
H17号竪穴建物 (第30図)

調査区中央北端で検出された。H8を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.61mの規模である。ピットは5基検出されたが主柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。本址は中世の竪穴建物の可能性が高く、所謂「貼床」は存在せず、掘方もない。

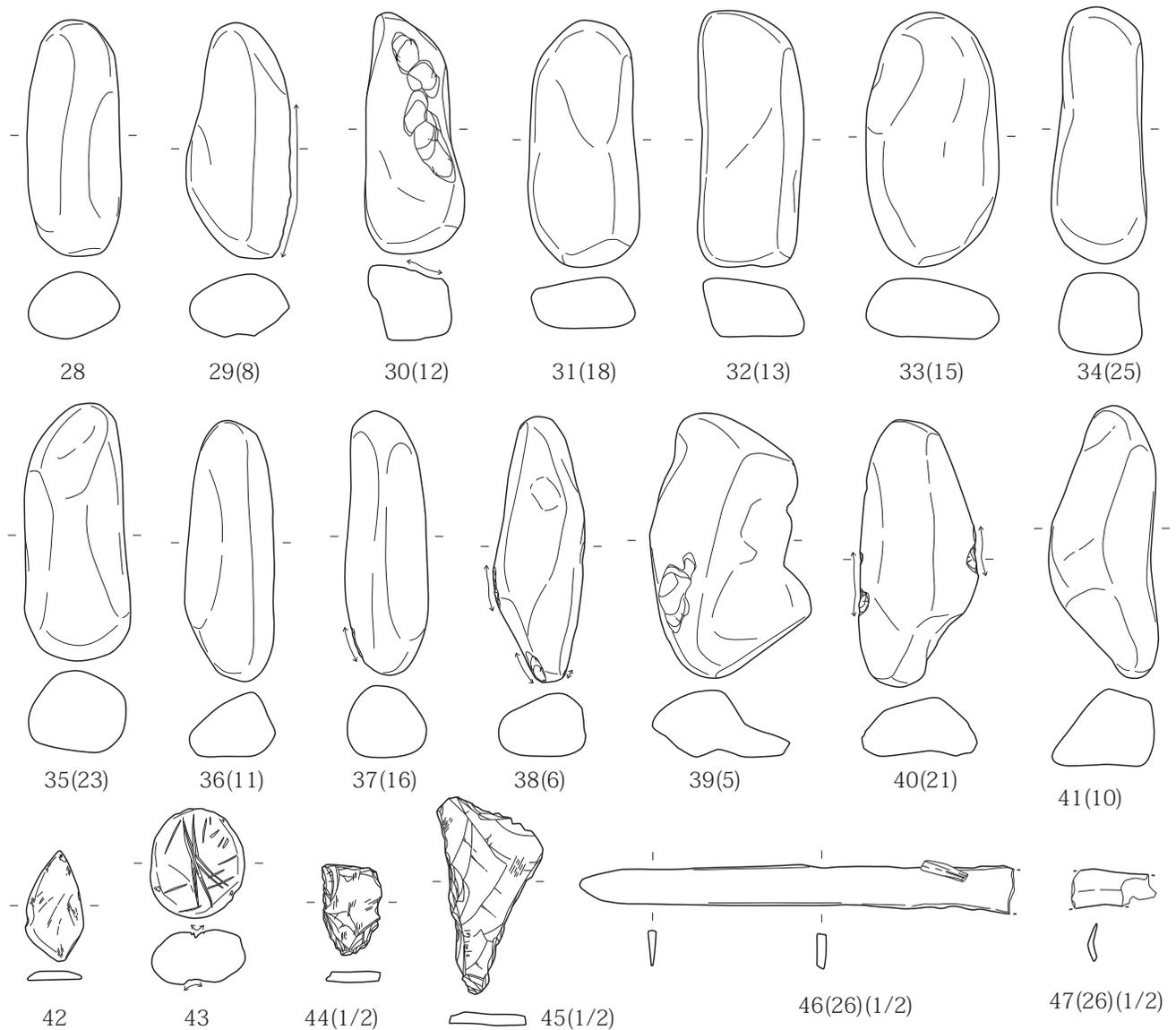
出土遺物は鉄製品が1点認められるだけであり、時期は不明である。



第26図 H 15号竪穴建物(1)



第27图 H 15号竖穴建物(2)

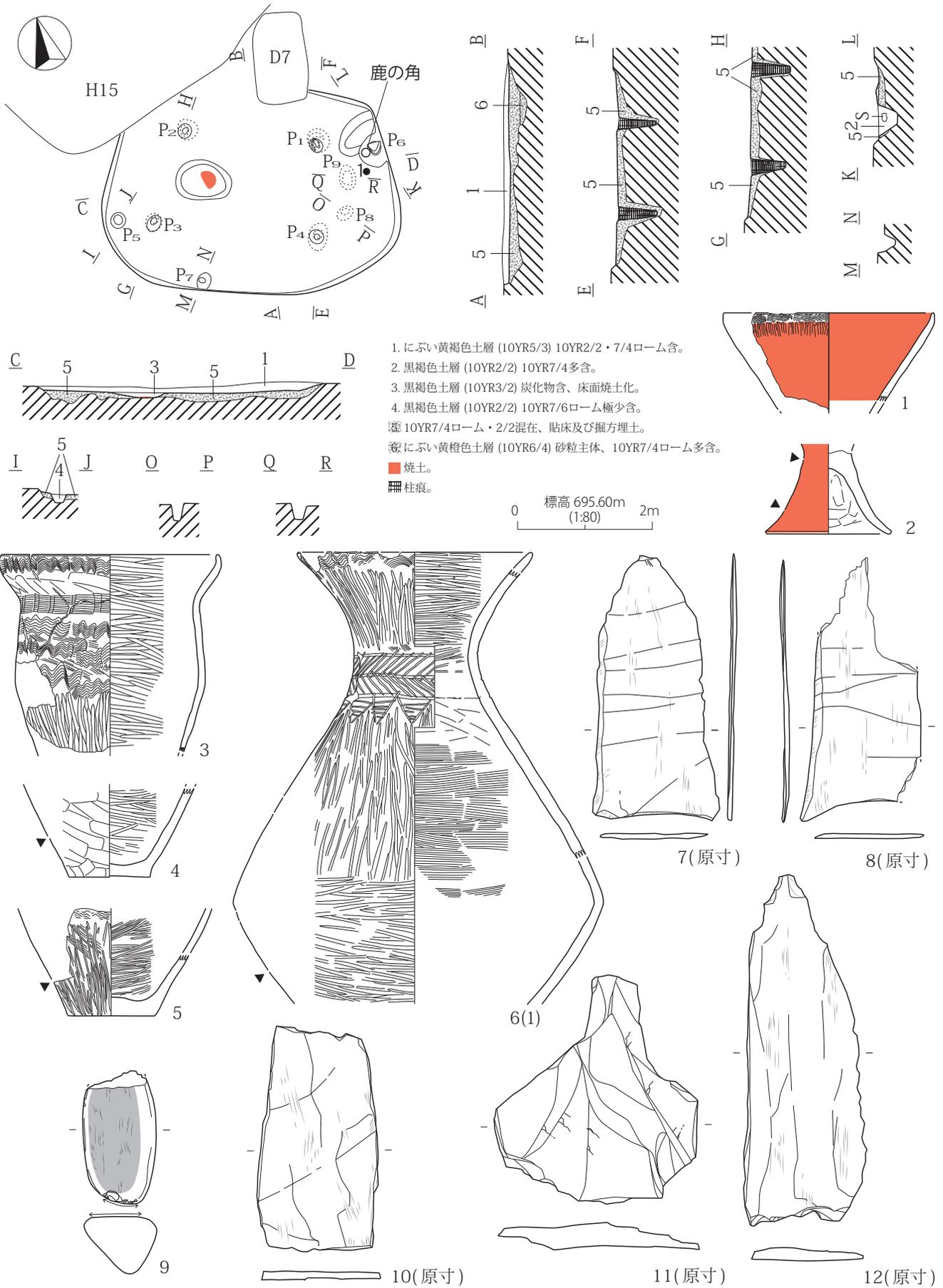


第28図 H15号竪穴建物(3)

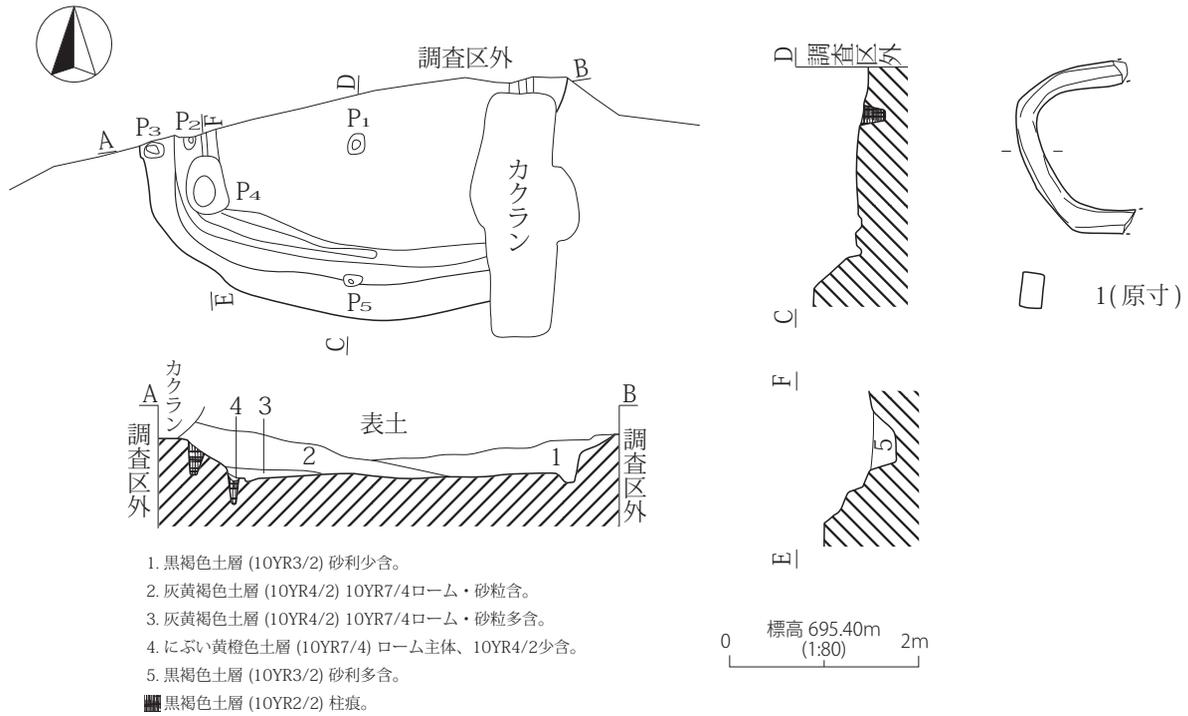
H18号竪穴建物(第29図)

調査区中央で検出された。H8・16を切る。隅丸方形の平面形態で、N-20°-Wに長軸方位をとり、長軸長6.14m、短軸長5.81m、壁残高0.45m、面積27.48㎡の規模である。北壁中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。P1・2は支柱穴であり、φ20cmの柱痕が確認された。東南隅の壁下に構築されたD1は貯蔵穴と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、石器、鉄製品が出土している。土師器には坏、高坏、鉢、甕、壺、甑の器種が認められる。坏は半球状のものや、半球状の底部から口縁部が短く外反するもの、平坦な底部から体部が開き、口縁部が短く直立するものが認められる。調整は暗文状のヘラミガキやナデである。高坏は坏部に稜を有し、脚が折れ曲がるもので、暗文状のヘラミガキが施される。鉢は半球状の底部から口縁部が短く外反する坏を大きくしたものであるが、ミガキ調整ではなくナデ、ケズリ、ハケメ調整が施される。甕は体部に最大径を有する。壺は体部が球胴でミガキ調整のものであるが、17は形態的には甕である。しかし、口縁部内外面に赤彩が施されるため壺とした。甑は底部が全開するもので、19は甕と同様な器形であるが、他の個体は口縁部に最大径を有する。石器は砥石、台石、打製石斧、磨製石鏃、磨製石斧、磨製石鏃、磨製石斧、磨製石鏃の器種が認められる。打製石斧、磨製石鏃は混入品である。鉄製品は器種不明の破片が1点出土した。



第29図 H16号竪穴建物



第30図 H17号竪穴建物

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と思われる。

H19号竪穴建物 (第34図)

調査区中央北端で検出された。H19を切る。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-10°-Wに長軸方位をとり、壁残高0.67mの規模である。北壁中央部分と思われる部分に、石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。P1・2は支柱穴である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。P2と西壁下の周溝間の掘方から間仕切が検出された。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土した。土師器には坏、甑の器種が認められる。坏は須恵器坏蓋模倣形態のものである。甑は底部を欠損する植木鉢形態のものである。須恵器は甕の口縁部片が1点出土している。弥生土器は櫛描斜走文が施文される甕の底部が1点出土した。石器は磨製石鏃及び磨製石鏃製作時の片岩の剥片が出土している。石器及び弥生土器は重複するH9に帰属するものである。

以上の出土遺物から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

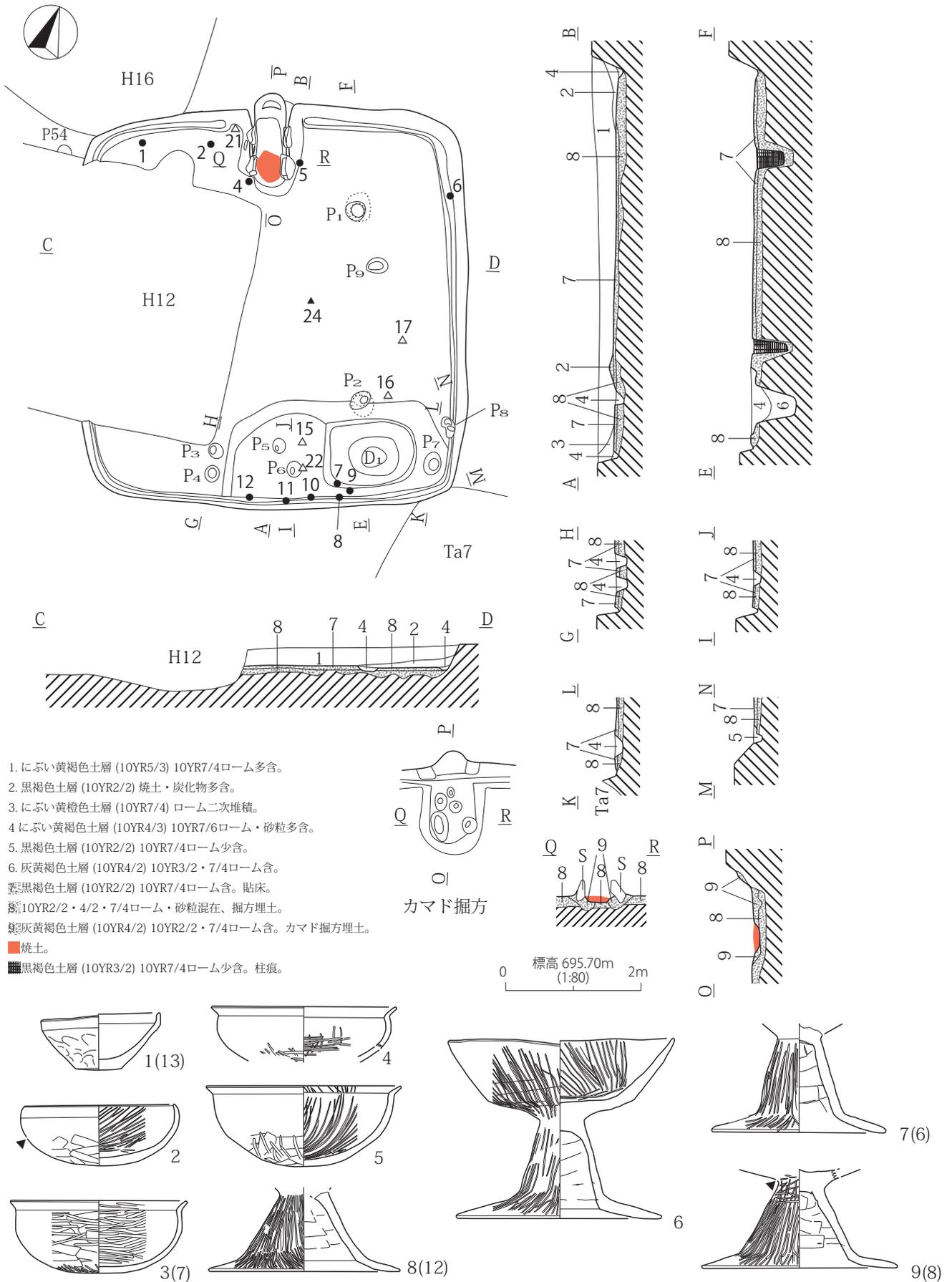
H20号竪穴建物 (第35図)

調査区中央で検出された。H11に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-9°-Wに長軸方位をとり、長軸長4.50m、短軸長4.24m、壁残高0.11m、面積16.75㎡の規模である。均等に配置されるP1~P3が支柱穴である。φ11cmの柱痕が確認されている。炉は竪穴中央に存在する。地焼炉である。南壁中央壁下に構築されたP4・5は出入口施設と思われる。周溝は有さない。

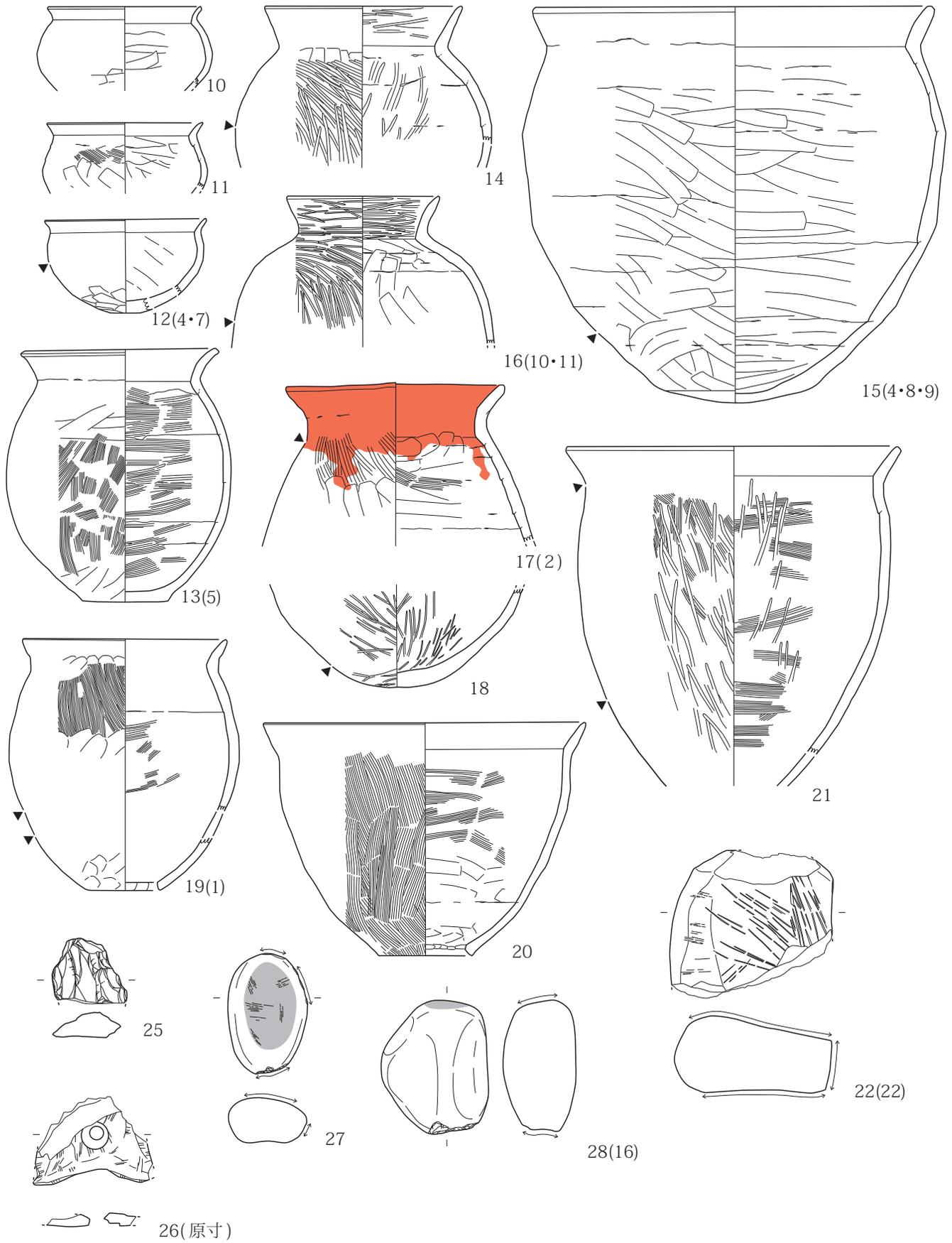
遺物は弥生土器が3点出土した。甕の底部片、櫛描波状文が施される台付甕の体部片、ミニチュア土器である。以上の出土遺物から本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

H21号竪穴建物 (第36図)

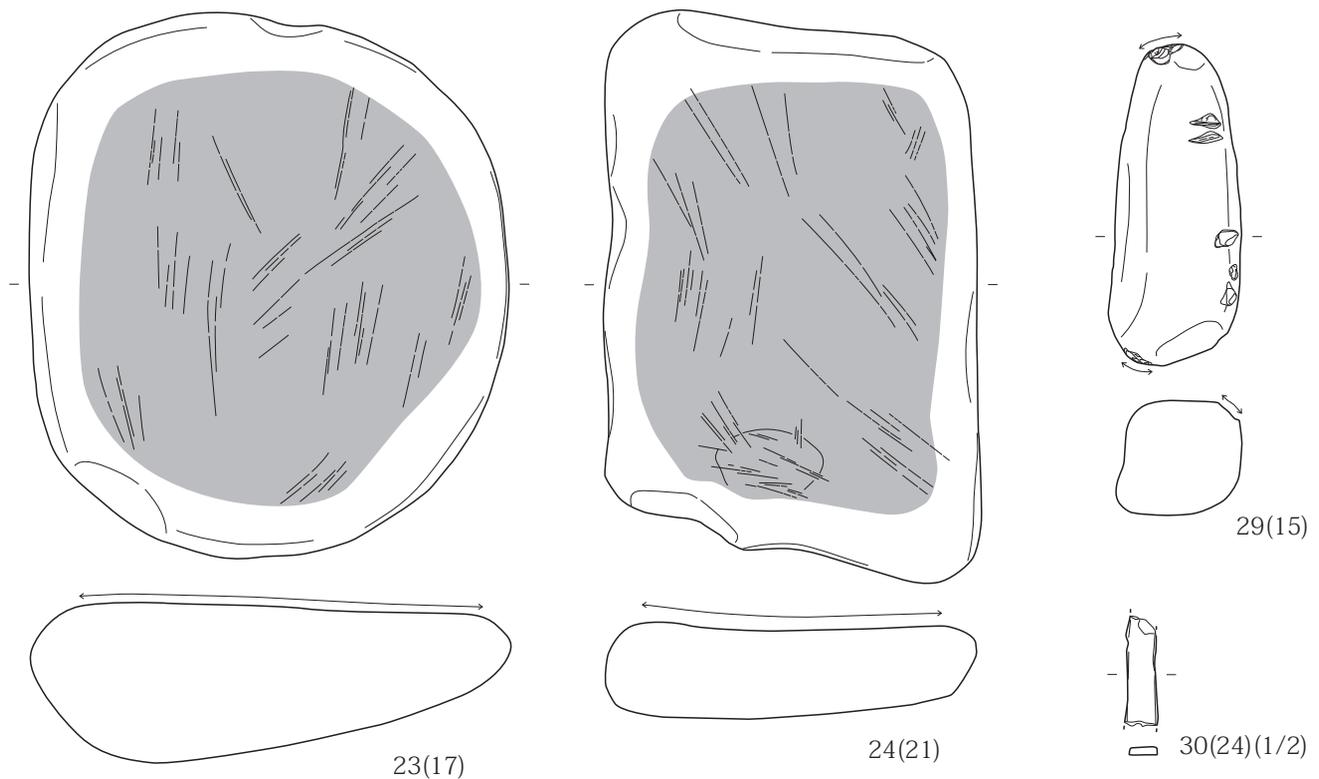
調査区中央で検出された。H11・22、D10~15に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-13°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.96m、短軸長3.59m、壁残高0.19m、面積15.93㎡の規模である。均等に配置される



第31図 H18号竪穴建物(1)



第32图 H 18号竖穴建物(2)



第33図 H 18号竪穴建物(3)

P1・2は支柱穴である。掘方から古いピットが確認されており、本址は建て替えが行われたことが明らかとなった。P5・7は出入口施設と思われるが、他のピットについては性格は不明である。重複する他遺構に破壊されたことにより、炉は存在しなかった。

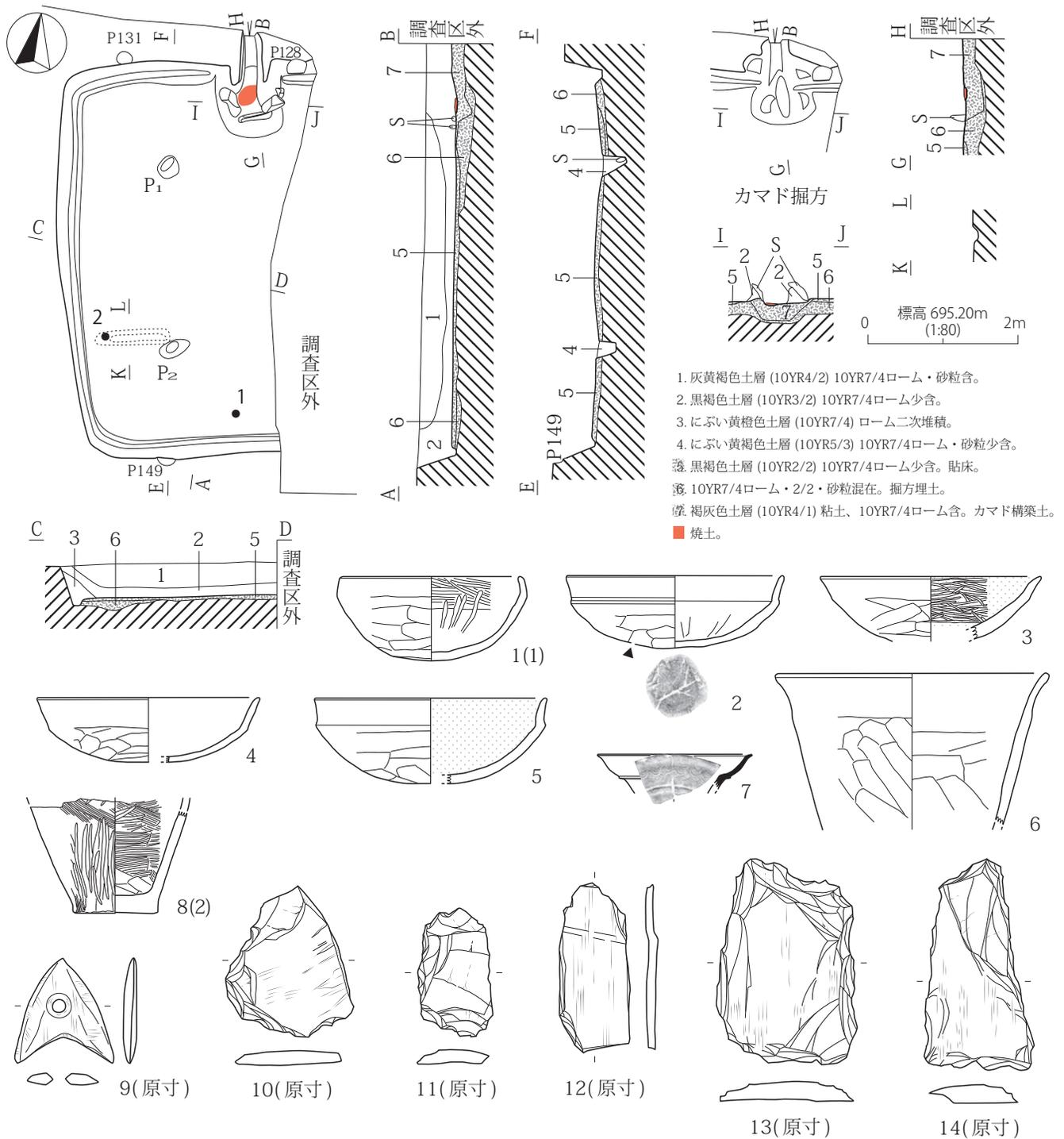
遺物は弥生土器、石器、鉄製品が出土している。弥生土器には台付甕、壺の器種が認められる。台付甕は台あるいは台の接合部分の破片が2点出土した。壺は3点全て口縁部片である。3は口唇部～口縁部に縄文が施文され、2本のヘラ描沈線による波状文が施される。4は受口で、口唇部に刻目が加飾される。5は内外面赤彩で、受口である。口縁部に櫛描波状文が巡り、円形の貼付文が付加されている。石器は砥石、凹石、剥片の器種が認められる。砥石は混入品である。鉄器は長茎鍬が、鉄製品は角釘及び不明製品が出土しているが、全て混入品である。

以上の出土遺物の特徴から、本址は弥生時代中期後半栗林期の所産と思われる。

H 22号竪穴建物(第37・38図)

調査区中央で検出された。Ta11、P61・62・160・161に切られ、H21、D30・31を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-21°-Wに長軸方位をとり、長軸長5.66m、短軸長5.07m、壁残高0.58m、面積23.11㎡の規模である。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。φ10～20cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。東南隅近くの南壁下には貯蔵穴が構築される。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、周溝から4基の支柱穴に向かい間仕切が延びている。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土している。土師器には坏、高坏、甕、壺の器種が認められる。坏は半球状の底部から口縁部が短く外反する形態で、暗文状のミガキ調整が施される。高坏は坏部に稜を持ち、脚が折れる形態で、暗文状のヘラミガキが調整が施される。甕は最大径を体部に有する胴張の形態が主体であるが、10は最大径を口縁部に持つ。壺は底部が1点のみ出土した。須恵器は甑の口縁部片と、櫛歯による刺突列が施される甕の体部片が出土した。縄文土器は後期の深鉢口縁部片が1点出土している。



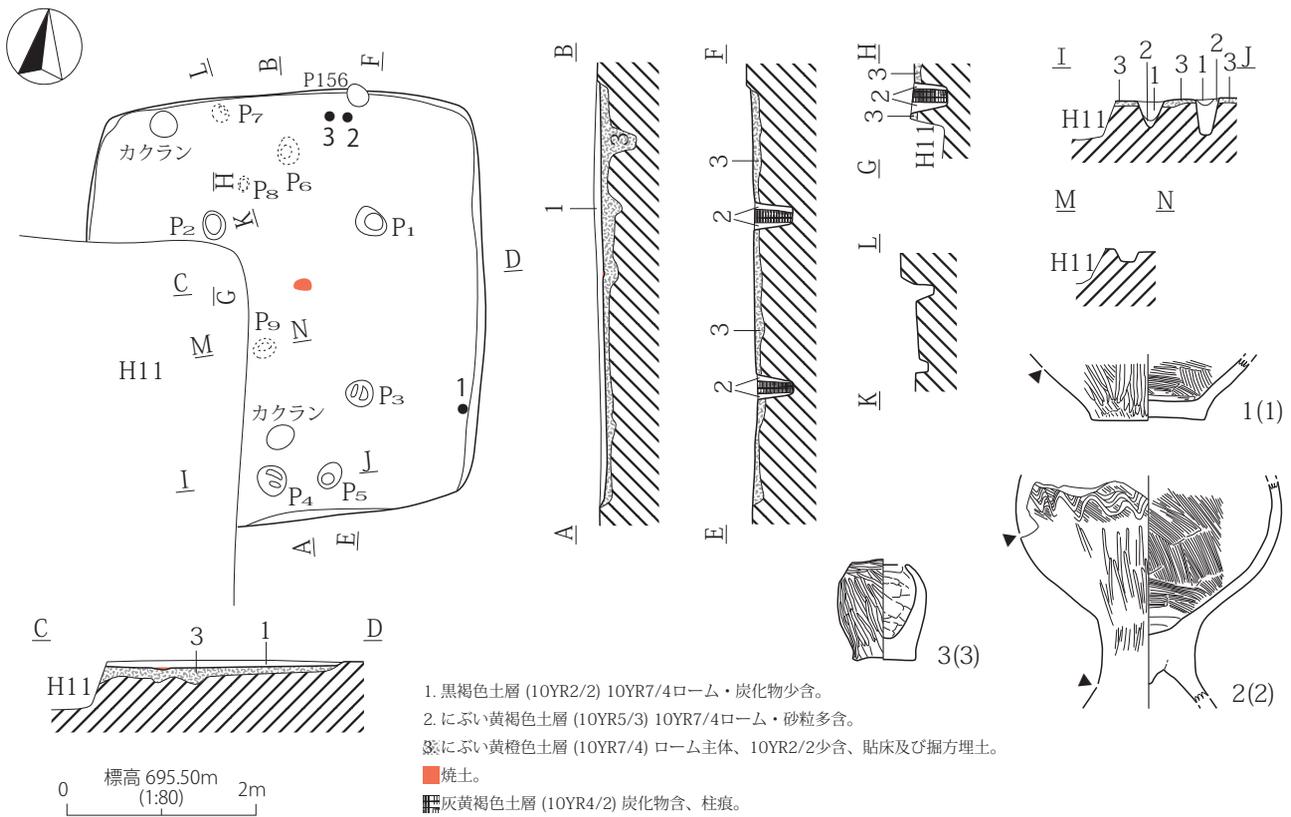
第34図 H19号竪穴建物

石器は砥石、打製石鏃、編物石、磨石、磨製石鏃製作時の片岩剥片、使用痕がある剥片が出土している。石製品は石製模造品の白玉・有孔円盤・剣形が出土している。鉄器は鎌が、鉄製品は器種不明品が出土した。

以上の出土遺物から本址は5世紀後葉の所産と考えられる。

H23号竪穴建物 (第39~42図)

調査区中央西南で検出された。F2に切られ、H2、P190を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-9°-Eに長軸方位をとり、長軸長6.86m、短軸長5.48m、壁残高0.31m、面積32.70㎡の規模である。均等に配置される



第35図 H20号竪穴建物

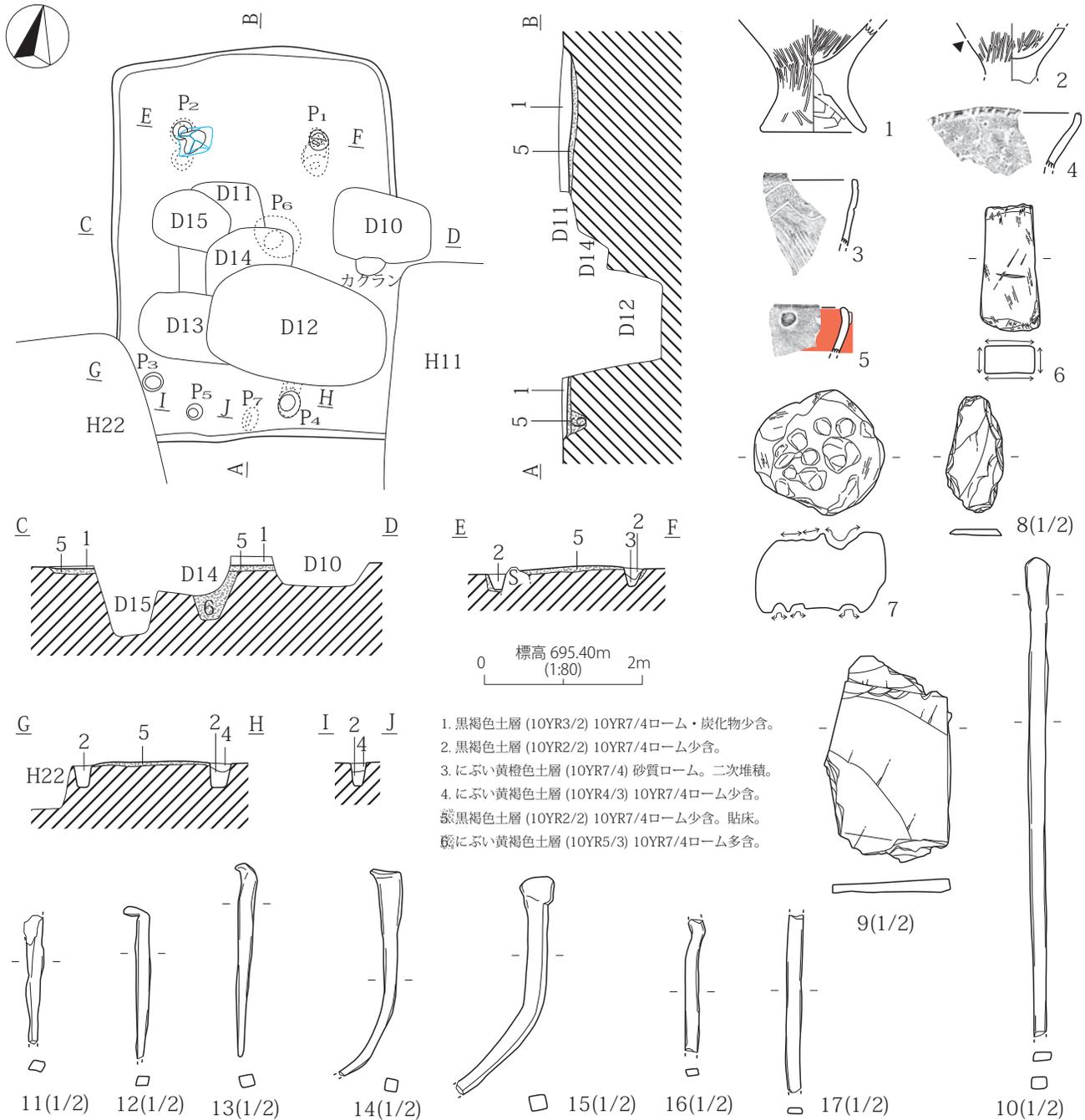
P1～P4の4基のピットが支柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。炉は縁石を有する地焼炉で、P1・2間に構築される。南壁下に構築されるP8・27の2基のピットは出入口施設と思われる。周溝は有さない。

遺物は土師器、弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。土師器は混入品で、半球状の底部から口縁部が短く外反する坏である。弥生土器には鉢、甕、壺の器種が認められる。鉢は内外面赤彩が施される。高坏の可能性もある。甕は体部片が2点、口縁部片が2点、体部片が1点出土している。口縁部片は受口で、5は口唇部～口縁部に縄文が施文され、口縁部にはへら描の波状文が巡る。6は口縁部に櫛描斜走文が施される。体部片7は櫛描簾状文が頸部を巡り、体部には櫛描波状文が施文される。壺8・9は口縁部内面及び外面体部は赤彩が施されるが、口縁部外面が無彩となる。頸部には櫛描横線文・波状文が巡る。10はへら描の横線文・鋸歯文内に櫛描斜走文を充填する。11はへら描平行沈線下に櫛描横線文を施文、12は櫛描横線文下のへら描鋸歯文内に櫛描斜走文を充填する。石器は砥石、台石、石鋏、磨石、磨敲石、磨製石鏃、磨製石鏃未製品、磨製石鏃製作時の片岩剥片などが出土している。砥石15は両面に鎬状の稜を有する特異な形態であるが、同様のものが一本柳遺跡Xでも出土しており、双方ともに磨製石鏃製作址という共通点が認められる。磨製石鏃の製作に特化した砥石かもしれない。鉄製品は器種不明のものが1点出土した、混入品と思われる。本址は磨製石鏃製作に関わる様々な剥片、未製品、製品が出土しており、磨製石鏃製作址と捉えられる。

以上の出土遺物の特徴から本址は、弥生時代中期後半栗林期最終末あるいは後期初頭の所産に位置図けられる。

H24号竪穴建物 (第43～44図)

調査区中央西寄りで見出された。P63・166・186に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-2°-Wに長軸方位をとり、長軸長5.00m、短軸長4.53m、壁残高0.40m、面積18.04㎡の規模である。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央やや東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。周溝から各支柱穴に向かい間仕切が掘



第36図 H 21号竪穴建物

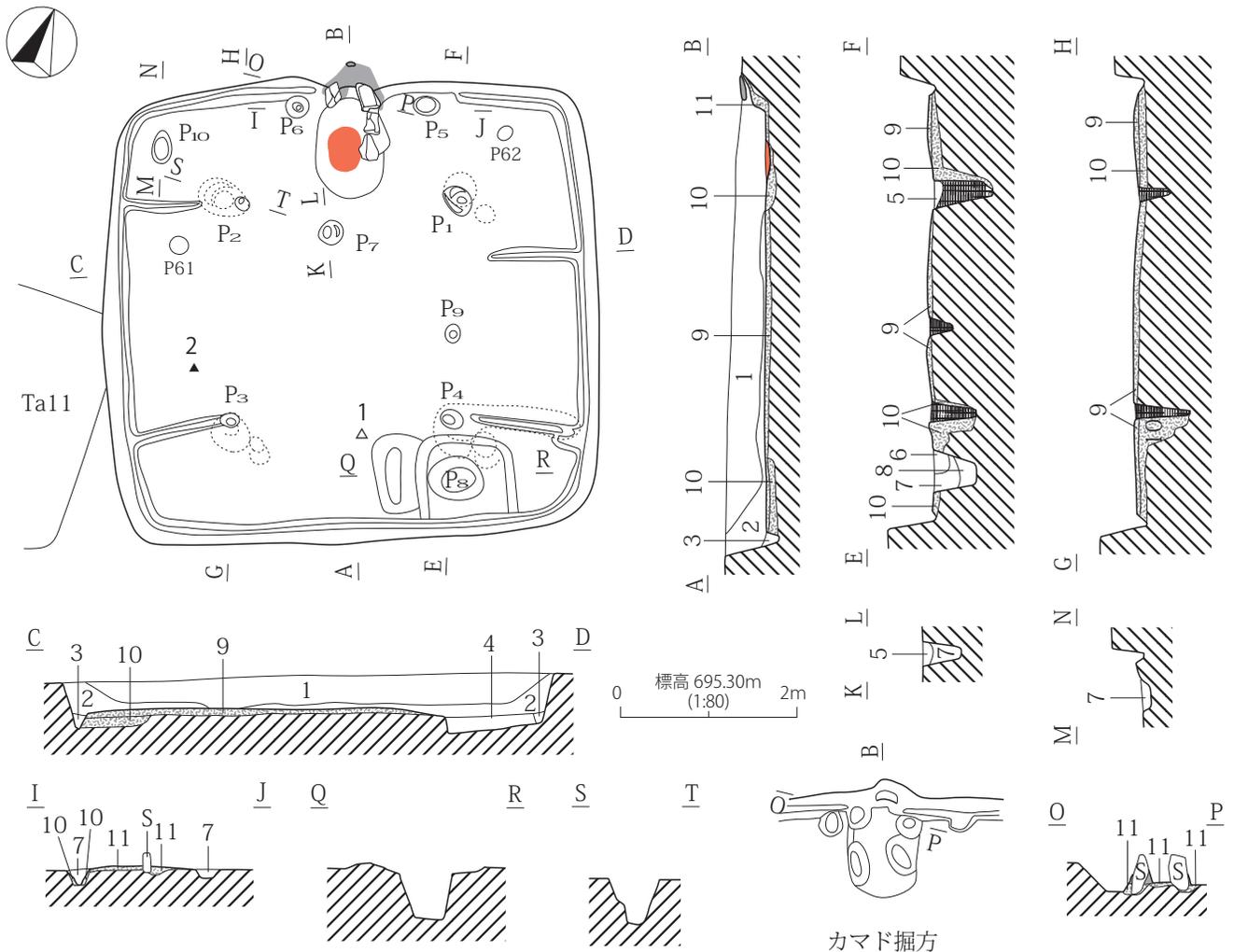
削されている。南壁下中央に構築されたP5は出入口施設と思われる。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏、高坏、鉢、甕、壺の器種が認められる。坏は半球状の底部から口縁部が短く外反する形態のもので、鉢3はその大型である。鉢4は甕としても良いのかもしれない。高坏は脚部の破片である。甕は体部に最大径を有する。壺は口縁部と底部の破片が各1点出土した。石器は9の石鏃未製品、33の磨製石鏃製作時の片岩剥片を除き編物石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉の所産と考えられる。

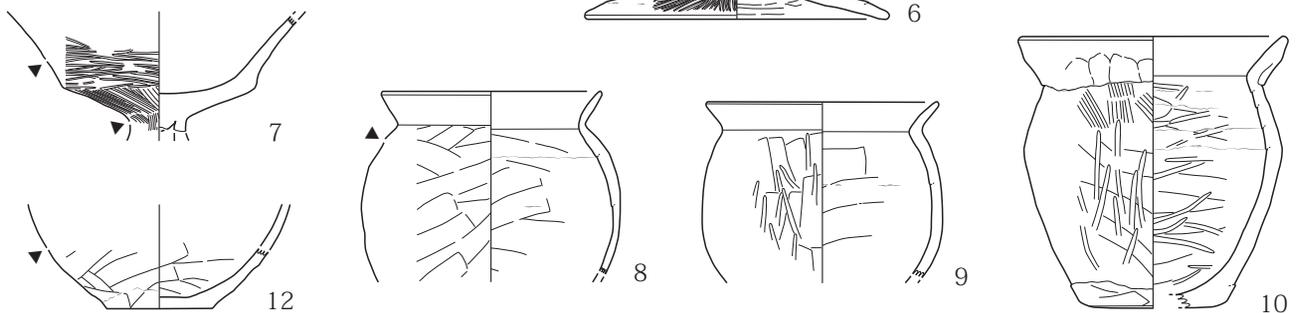
H25号竪穴建物 (第45図)

調査区北西端で検出された。H27、P174を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.35mの

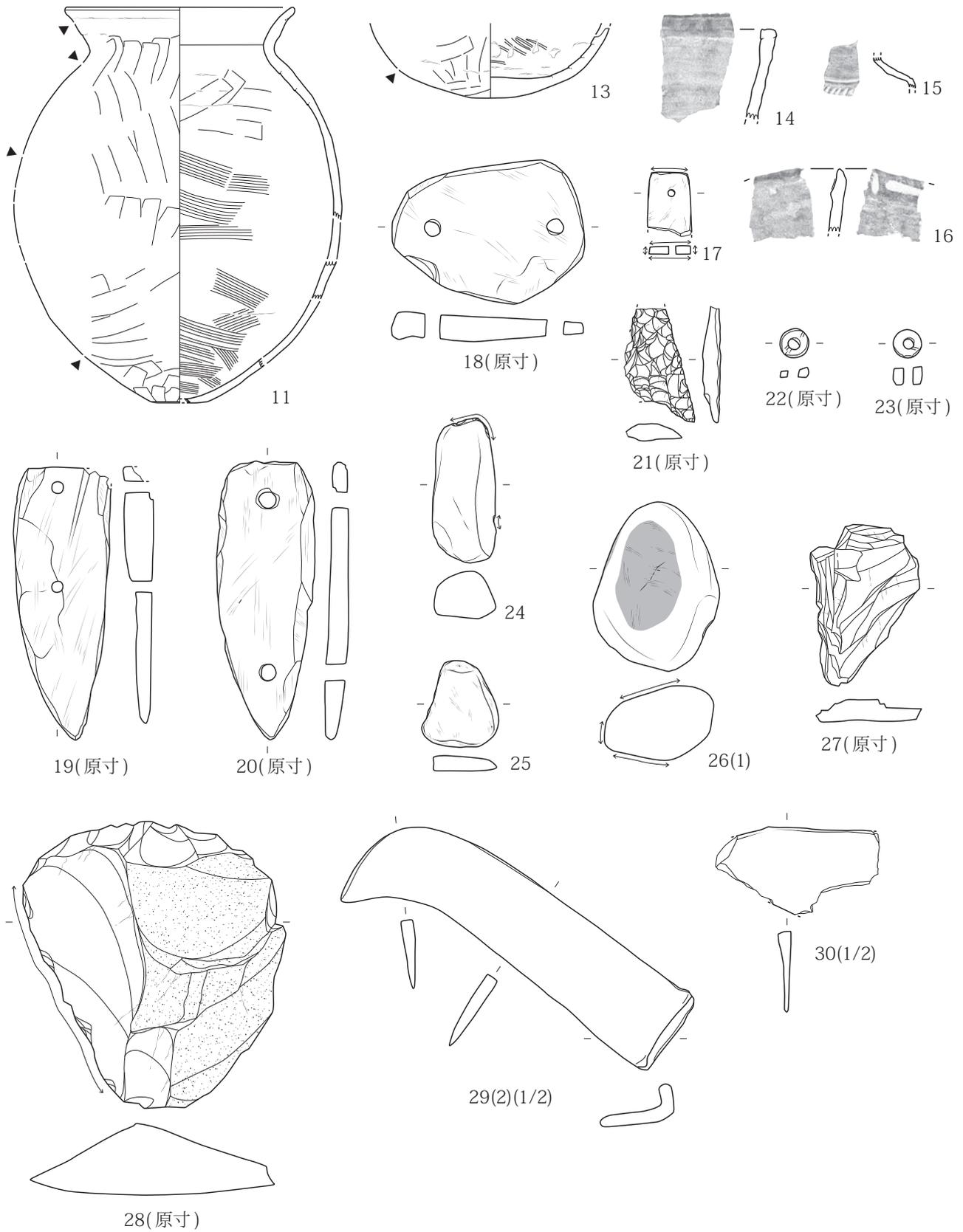


- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
- 2. 炭化物・灰・焼土の堆積、隅だけ10YR7/4ローム多含。
- 3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含、周溝。
- 4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含、間仕切溝。
- 5. 10YR7/4ローム・2/2混在。
- 6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
- 7. にぶい黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
- 8. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
- 9. 10YR2/2・7/4ローム混在。貼床。
- 10. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2少含、掘方埋土。
- 11. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/1粘土・7/4ローム少含。

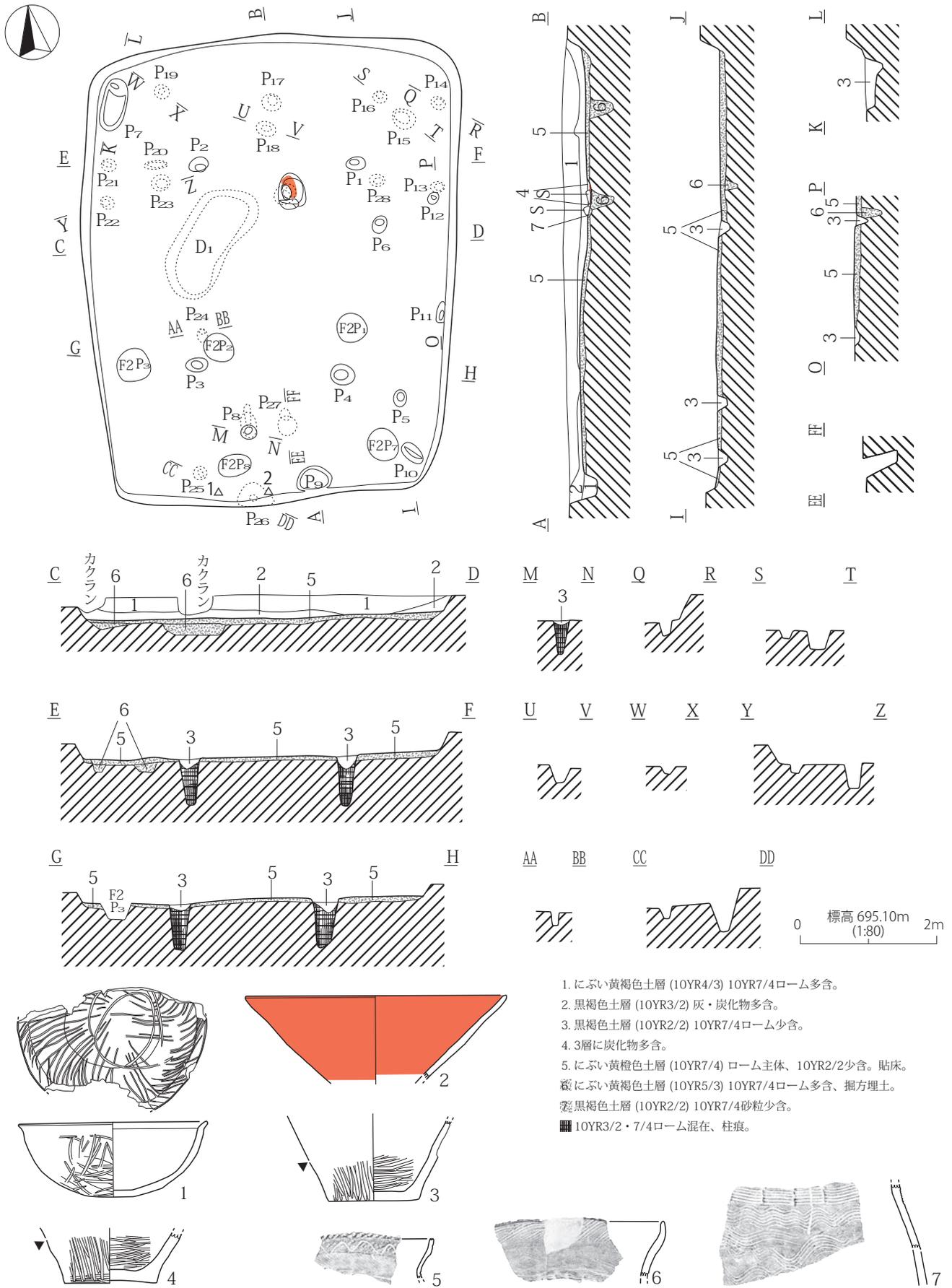
- 焼土。
- 灰白色土層 (10YR7/1) 粘土。
- 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム多含、柱痕。



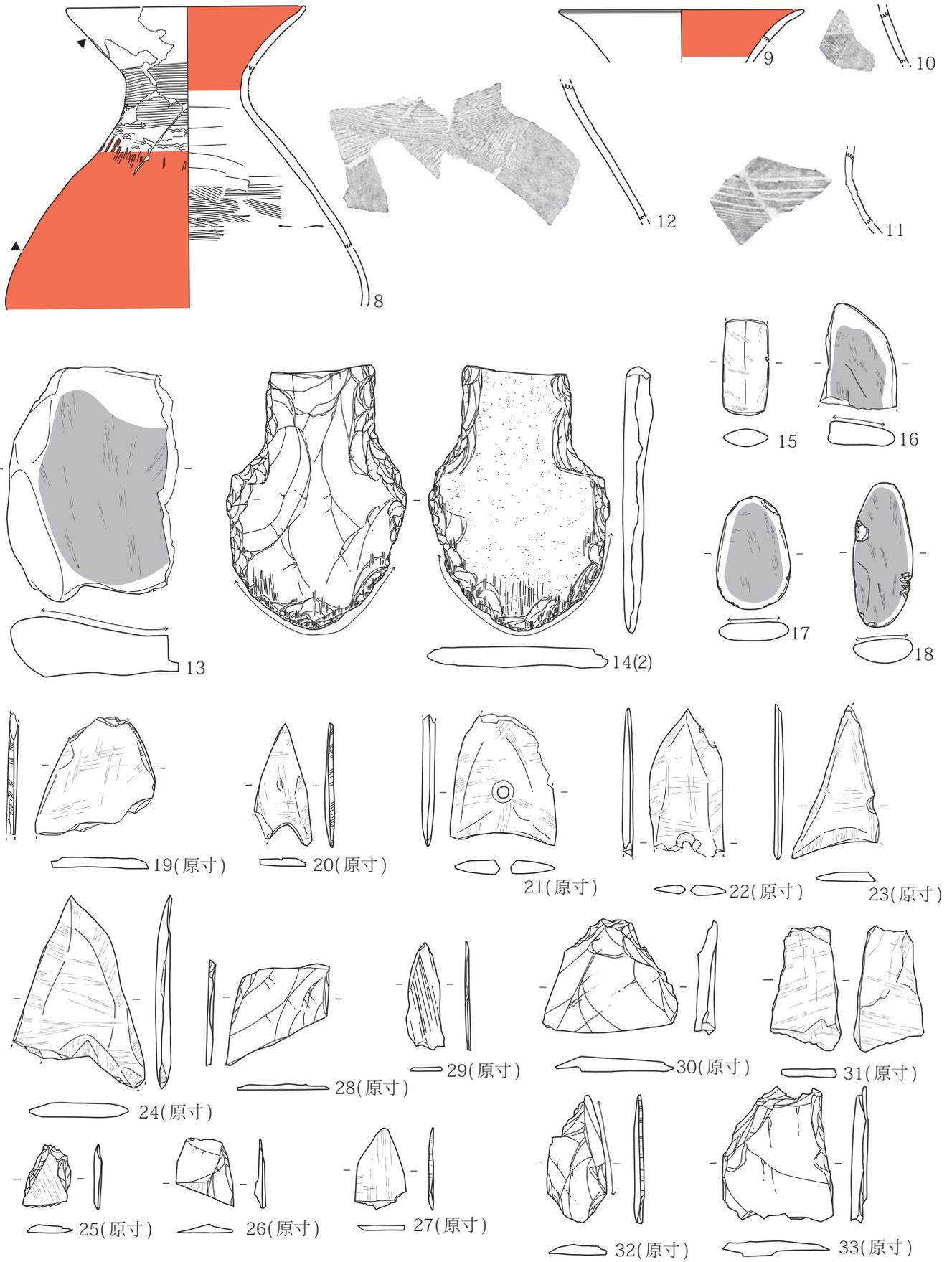
第37図 H 22号竪穴建物(1)



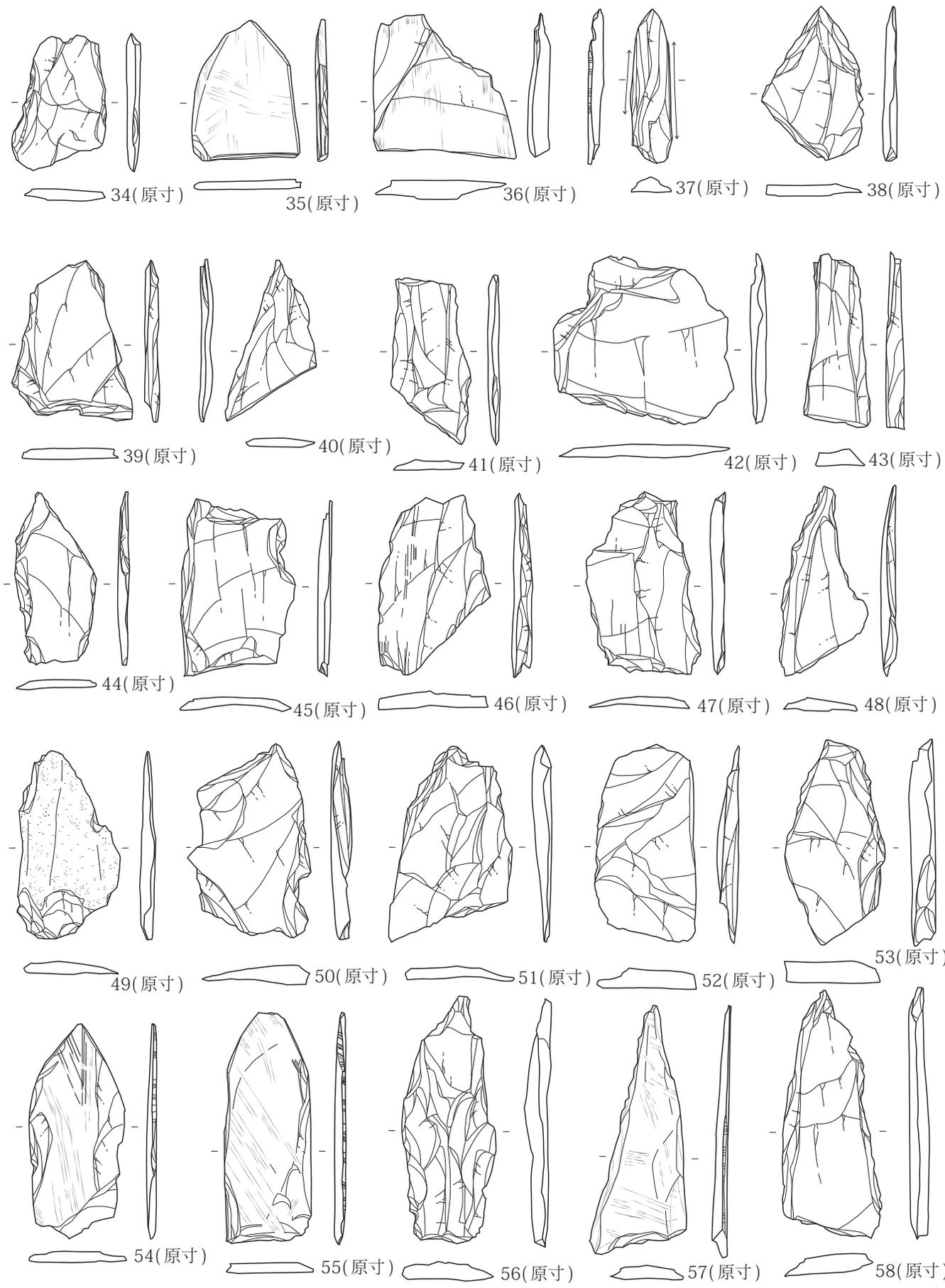
第38图 H 22号竖穴建物(2)



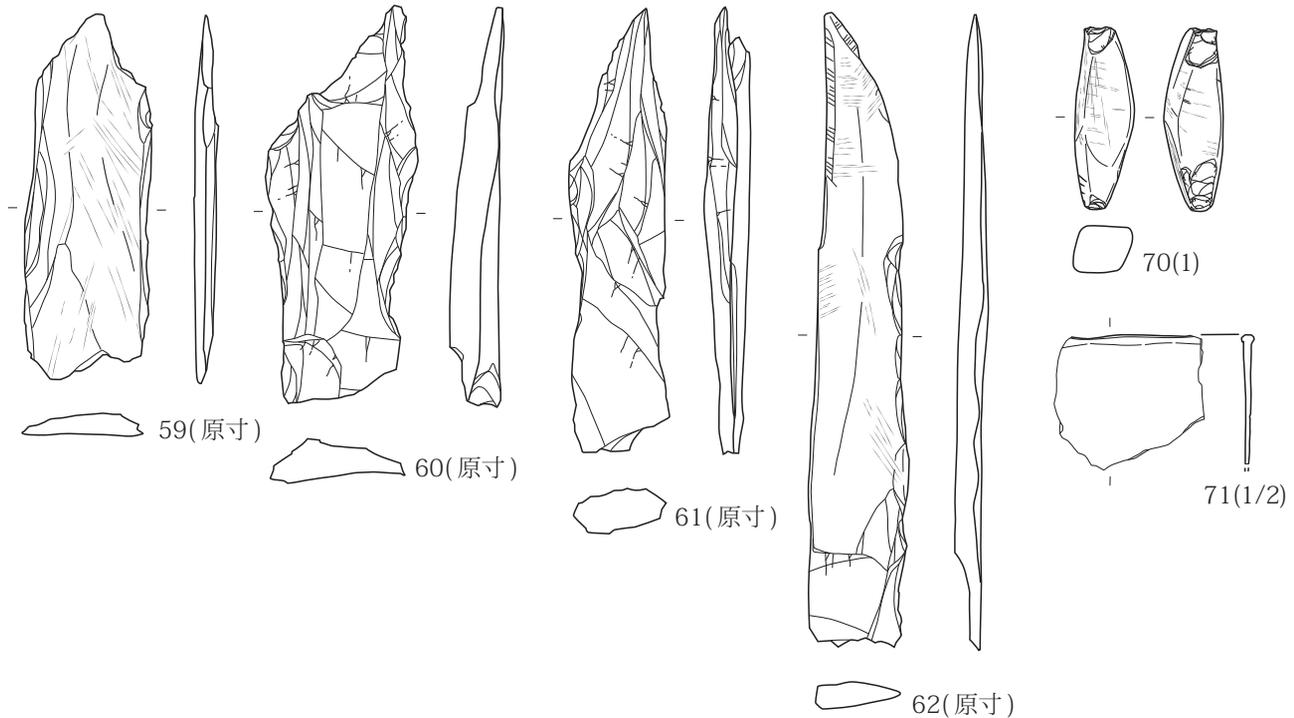
第39図 H23号竪穴建物(1)



第40图 H 23号竖穴建物(2)



第41图 H 23号竖穴建物(3)



第42図 H 23号竪穴建物(4)

規模である。調査範囲内にはカマド、炉、ピット、周溝等は存在しない。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、甕、壺の器種が認められる。

出土遺物は断片的であり、本址の時期は不明である。

H26号竪穴建物（第46図）

調査区北西端で検出された。P172に切られる。壁残高0.45mの規模である。調査範囲内にはカマド、炉、ピット、周溝等は存在しない。

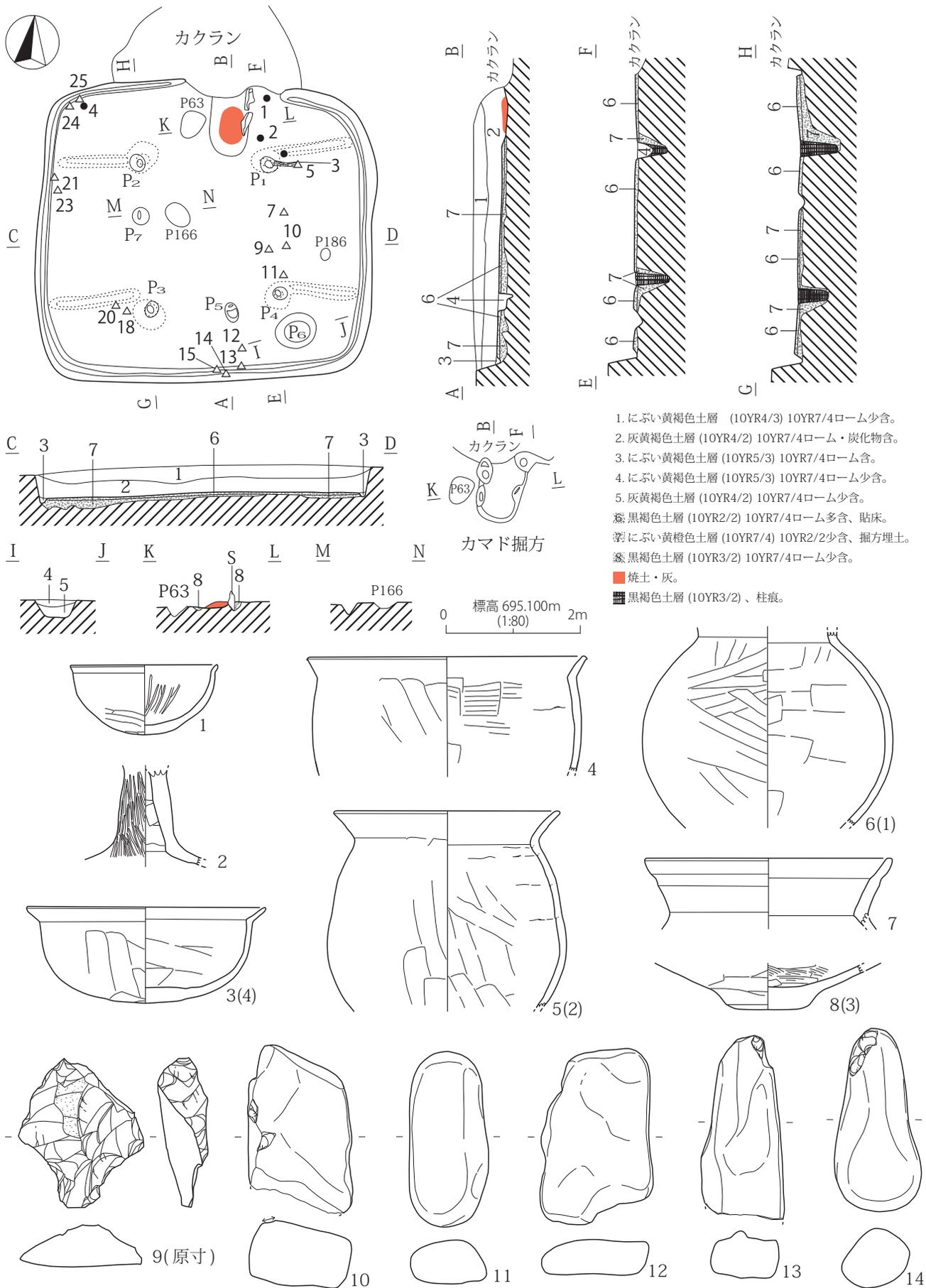
遺物は弥生土器が出土している。器種的には全て甕である。1は底部片、2は口唇部刻目、頸部下櫛描斜走文が施される。3は受口で口縁部、頸部下に櫛描波状文が施される。4も受口で口唇部・口縁部に縄文が施文される。頸部下には櫛描波状文が施される。5は体部片で、櫛描斜走文が縦羽状に施される。

以上の出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期後半粟林期の所産と思われる。

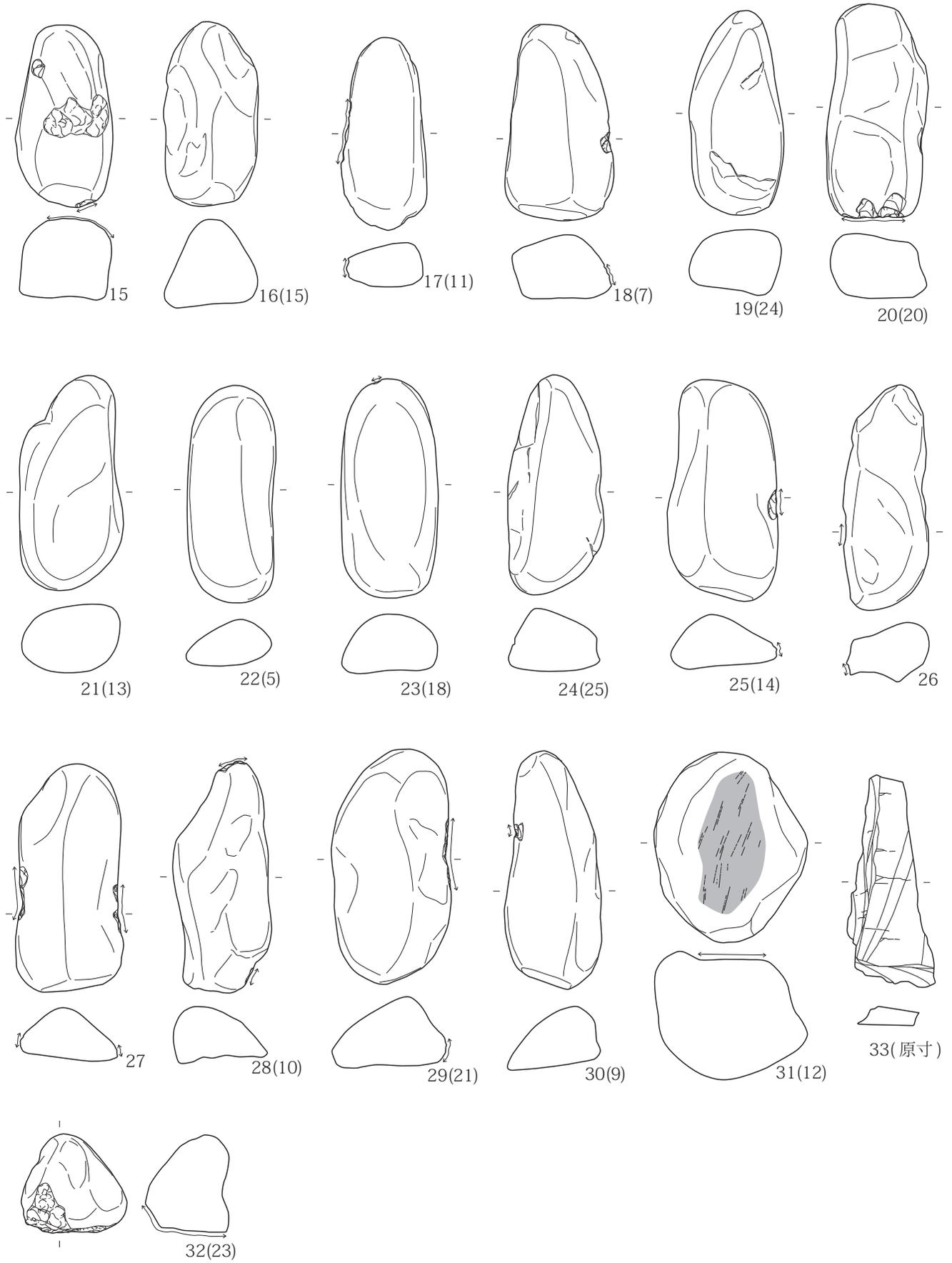
H27号竪穴建物（第47～48図）

調査区北西端で検出された。H25、Ta3、P174・175に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-1°-Wに長軸方位をとり、壁残高0.55mの規模である。P1・2の2基のピットが支柱穴である。φ16cmの柱痕が確認されている。カマドは北壁中央と思われる場所に構築されていたが掘方状態であった。南壁下と東壁下の一部分に周溝が巡る。壁下から支柱穴に向かって間仕切が構築されていた。掘方から一回り小型の竪穴遺構が検出されたため、本址は建替えが行われたことが明らかとなった。

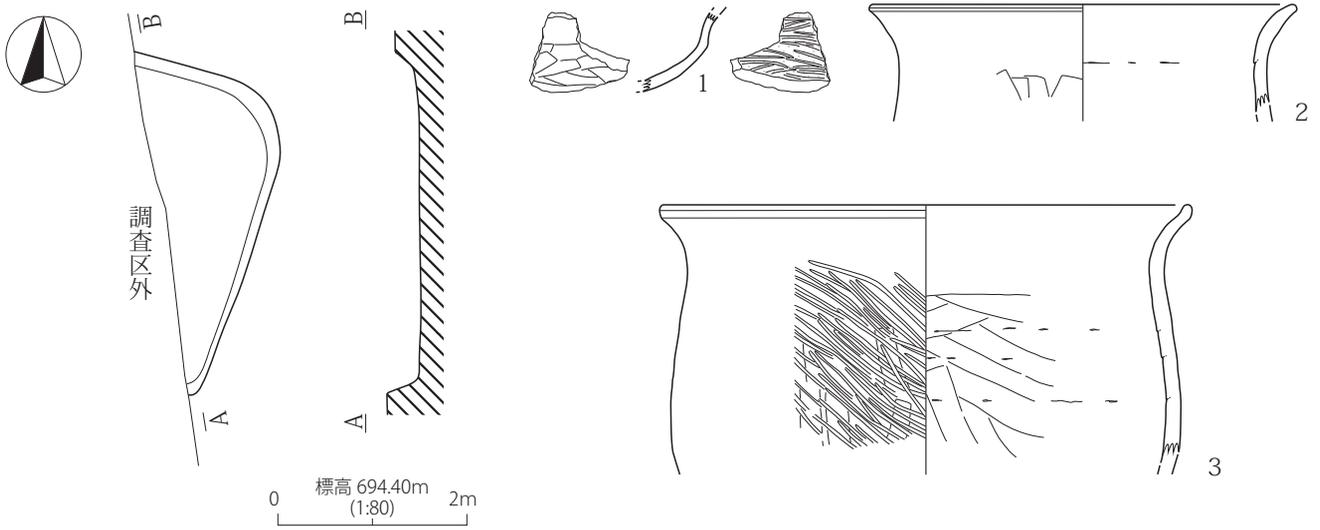
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。土師器には坏、甕の器種が認められる。坏は底部片であり器形は不明である。甕は口縁部に最大径を有するものがほとんどであるが、4は体部に有する。底部も6のように突出するものと、7のように平坦なものが存在する。須恵器は坏蓋片が1点出土した。弥生土器は混入品である。高坏、台付甕、甕の器種が出土している。高坏はガラス形で、坏部下部に小突起が4ヶ貼付される特異な形態である。石器は砥石、凹石、打製石斧、石鏃、編物石、磨製石鏃製作時の片岩剥片が認められる。弥生



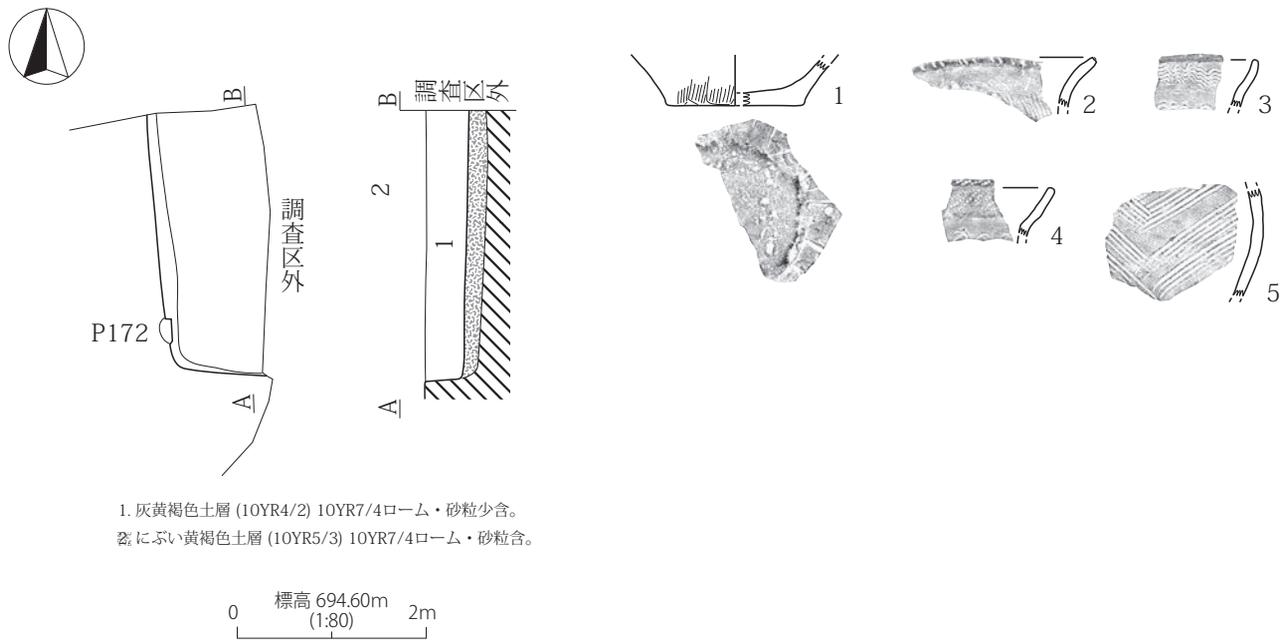
第43図 H 24号竪穴建物(1)



第44图 H 24号竖穴建物(2)



第45図 H25号竪穴建物



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。
 密にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第46図 H26号竪穴建物

時代のもと思われる石器や土器が出土していることから、本址は調査区外で弥生時代の遺構と重複しているものと思われる。

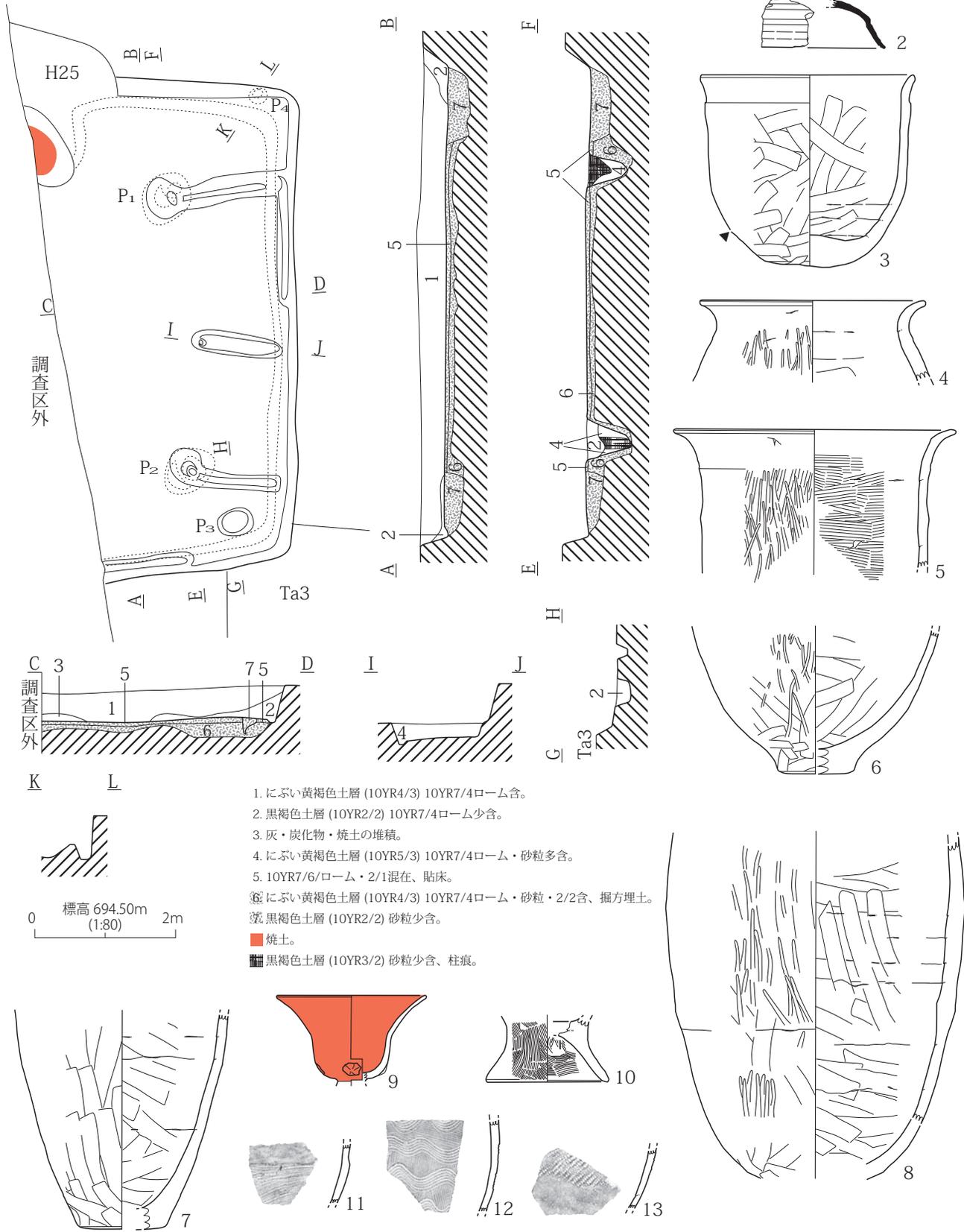
以上の出土遺物の特徴から本址は6世紀中葉の所産と思われる。

H28号竪穴建物（第49図）

調査区北西端で検出された。炉及びピット1基が残存していた。出土遺物は皆無である。炉は縁石を伴う地焼炉であり、形態的に当遺跡で検出された弥生時代中期後半粟林期のものと同様であることから、概期の所産と思われる。

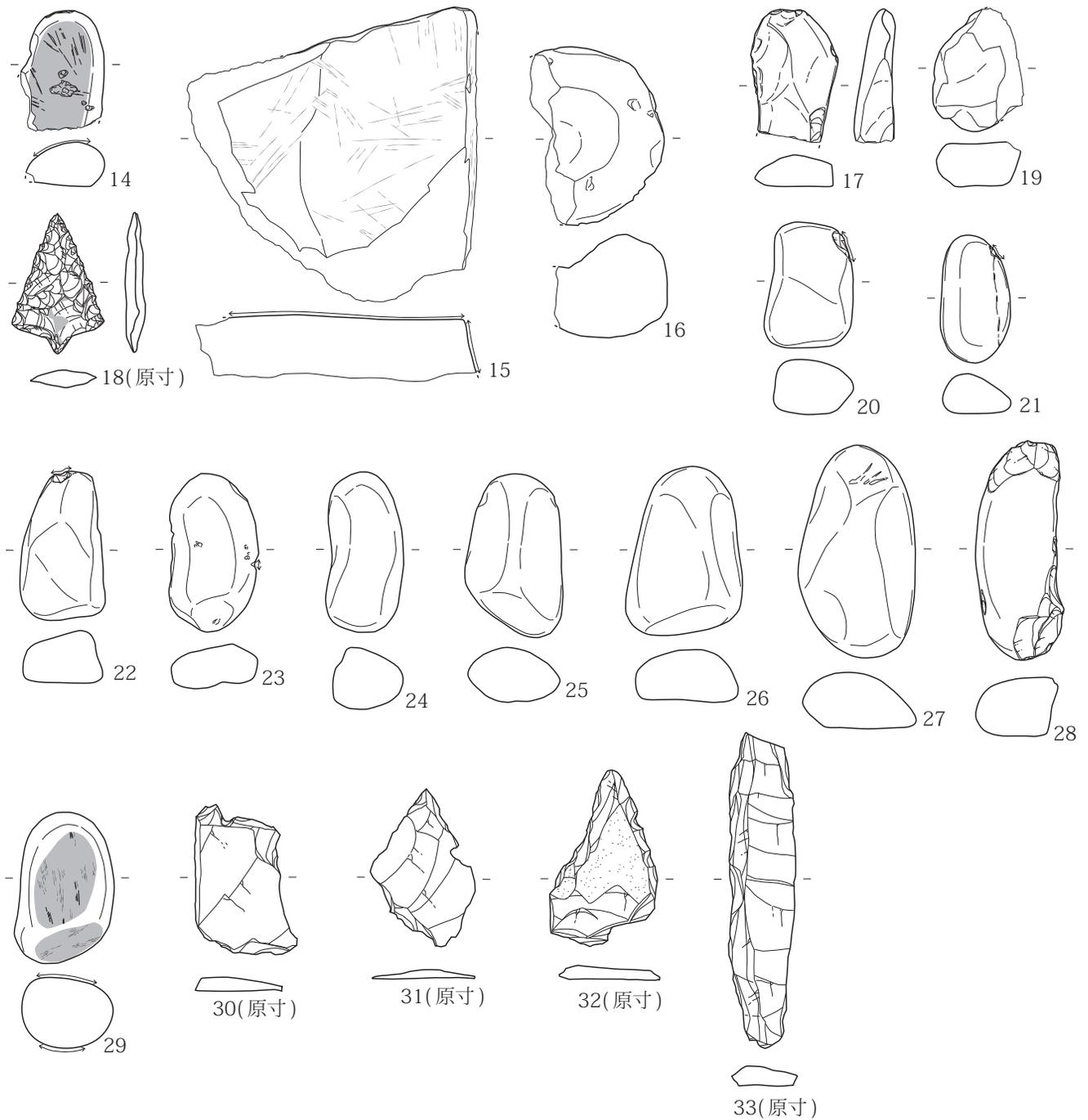
H29号竪穴建物（第50図）

調査区西端で検出された。D18・37・38・46、P181に切られ、H6を切る。西方向に調査区外に延びるため



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
3. 灰・炭化物・焼土の堆積。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。
5. 10YR7/6/ローム・2/1混在、貼床。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒・2/2含、掘方埋土。
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂粒少含。
8. 焼土。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂粒少含、柱痕。

第 47 図 H 27 号竪穴建物 (1)



第48図 H 27号竪穴建物(2)

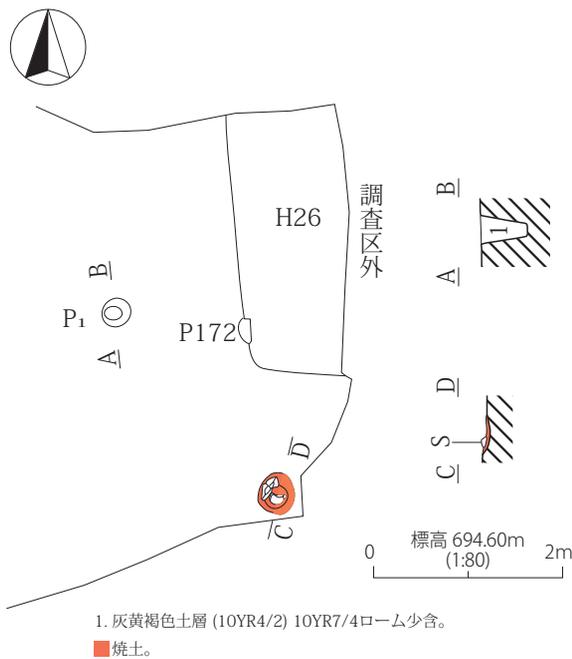
全容は不明である。壁残高0.50mの規模である。北壁の調査区外境に地山削出のカマド袖部分が一部露出している。対面する南壁部分がわずかに張り出しており、その壁下に1基のピットが構築されている。貯蔵穴と思われる。東壁下南半部分に周溝が存在した。

遺物は連弁文の青磁碗片1点と鉄製刀子が1点出土した。青磁は重複する他遺構からの混入品である。刀子は一部木質が残存していた。

以上の出土遺物からは本址の年代は推し量れない。よって不明である。

Ta 1号竪穴建物(第51図)

調査区東南で検出された。H5、D43を切り、D6に切られる。隅丸長方形の平面形態で、N-1°-Wに長軸



第 49 図 H 28 号竪穴建物

方位をとり、長軸長4.77m、短軸長3.24m、壁残高0.22m、面積12.88㎡の規模である。床面上から12基のピットが検出された。主柱は判然としませんが、P1・7でφ10cm前後の柱痕が確認された。東壁は2段の石積が成されていた。火処は認められない。

遺物は土師器、青磁、石器、鉄器が出土している。土師器高坏脚片は重複するH5に帰属するものである。青磁は連弁文の碗片が1点認められる。石器は台石、磨石、磨敲石、敲石が出土している。鉄器は柄が折れ曲がった刀子が1点出土している。

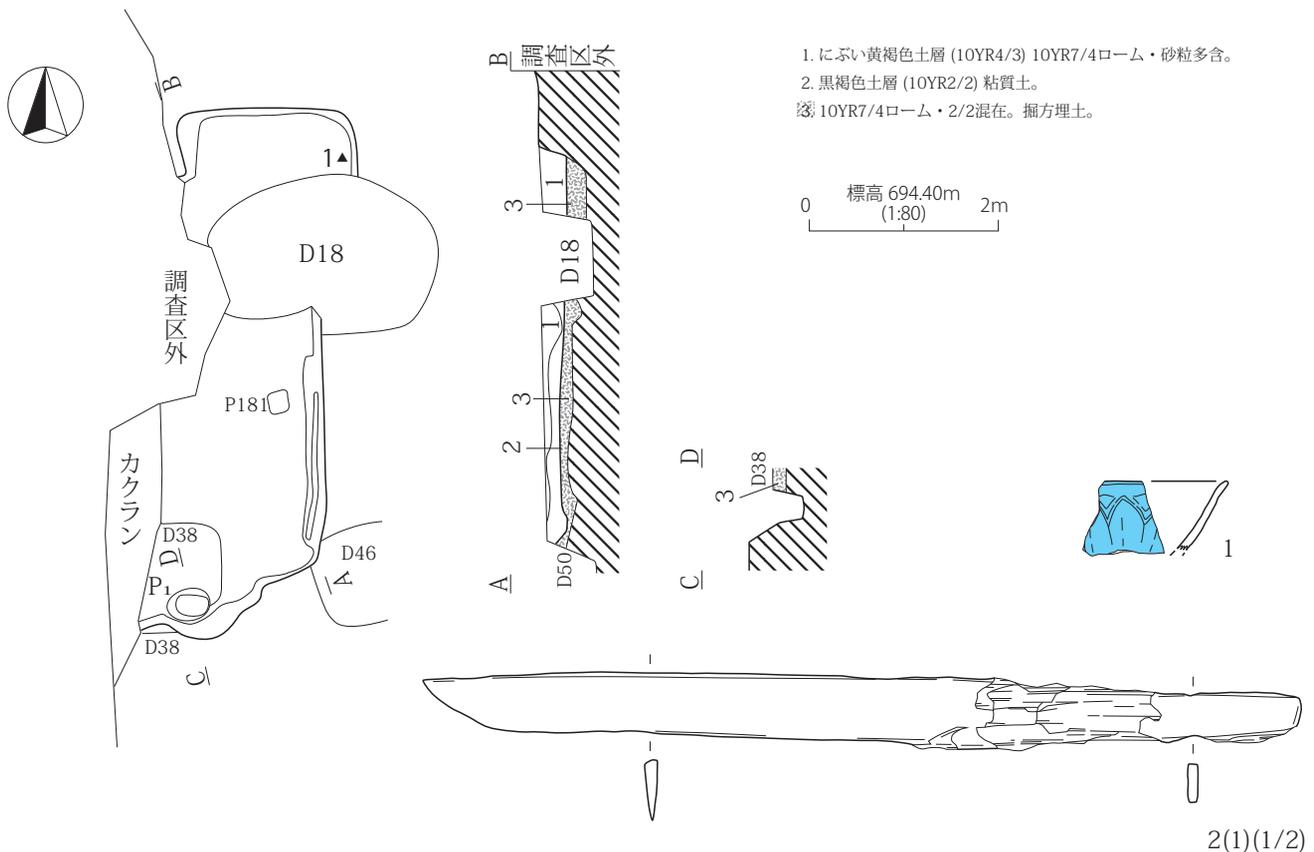
出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

Ta 2 号竪穴建物 (第52図)

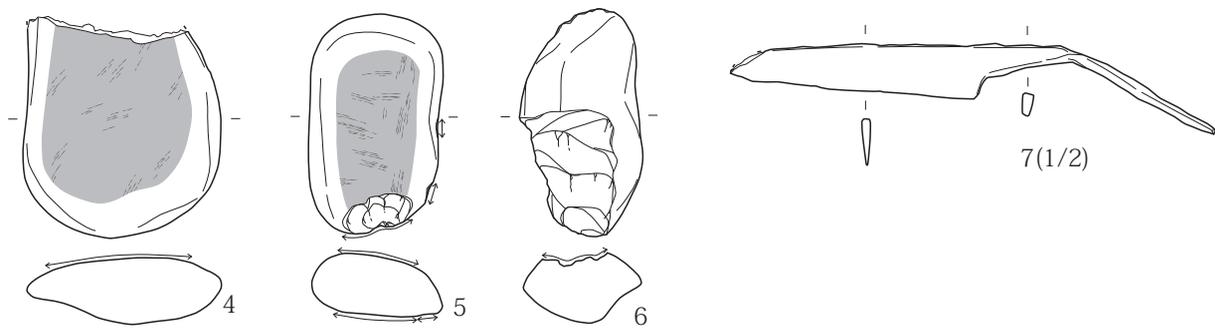
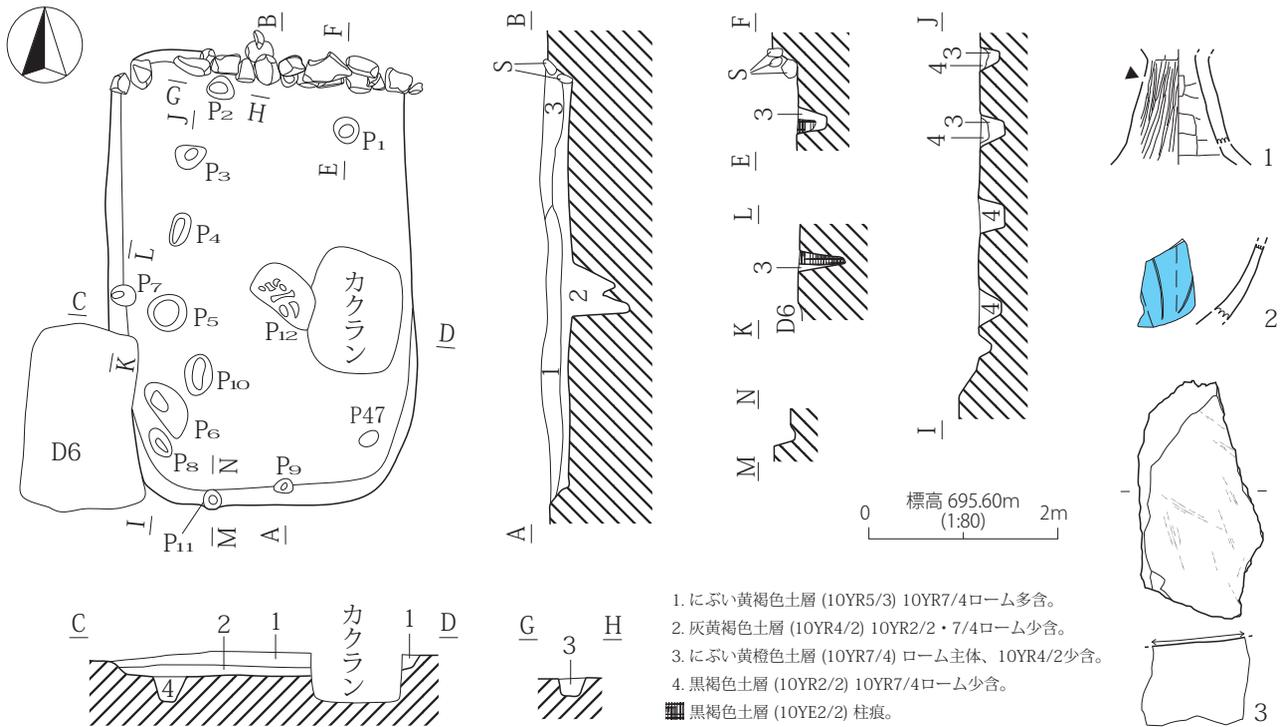
調査区東南で検出された。他遺構との重複関係は有さない。隅丸長方形の平面形態で、N-80°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.08m、短軸長2.46m、壁残高0.19m、面積7.58㎡の規模である。床面上から2基のピットが検出され

たが、主柱は存在しない。火処は認められない。

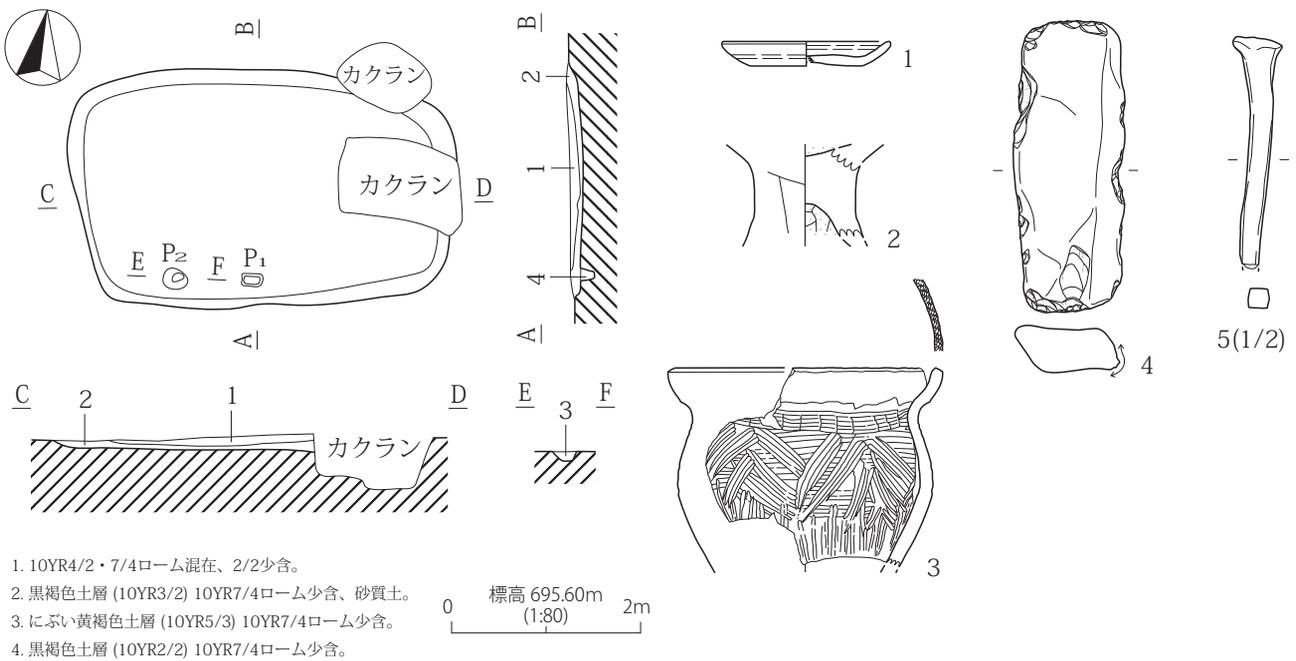
遺物は土師器、弥生土器、石器、鉄製品が出土した。土師器は所謂「かわらけ」と高坏脚部が認められる。高坏は混入品である。弥生土器は重三角文の台付甕片が1点出土しているが、混入品である。石器は敲石が1点、鉄製品は角釘が1点出土した。



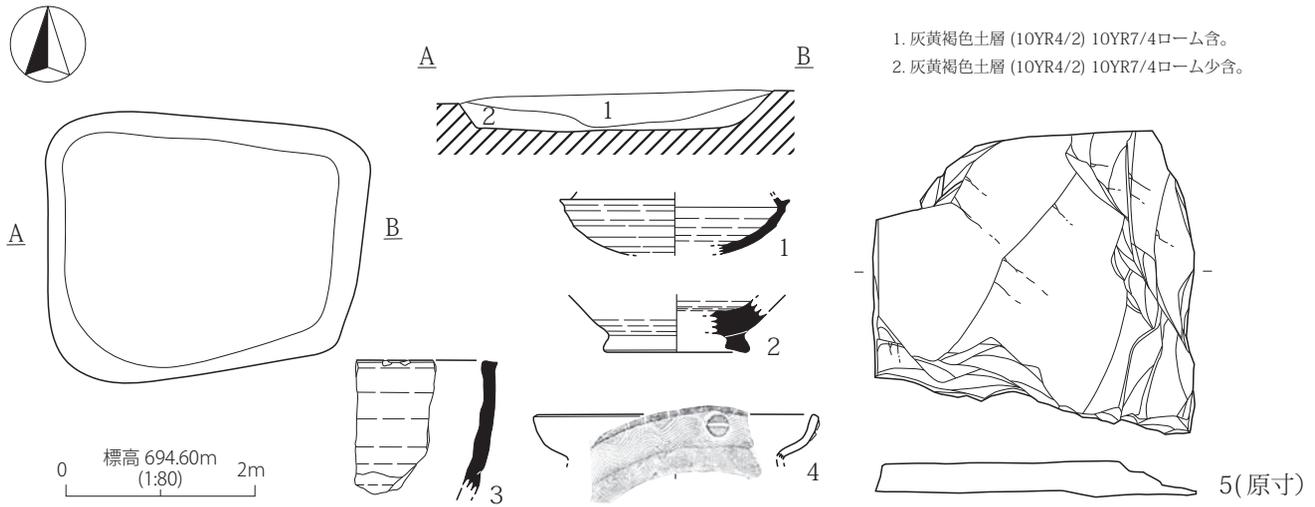
第 50 図 H 29 号竪穴建物



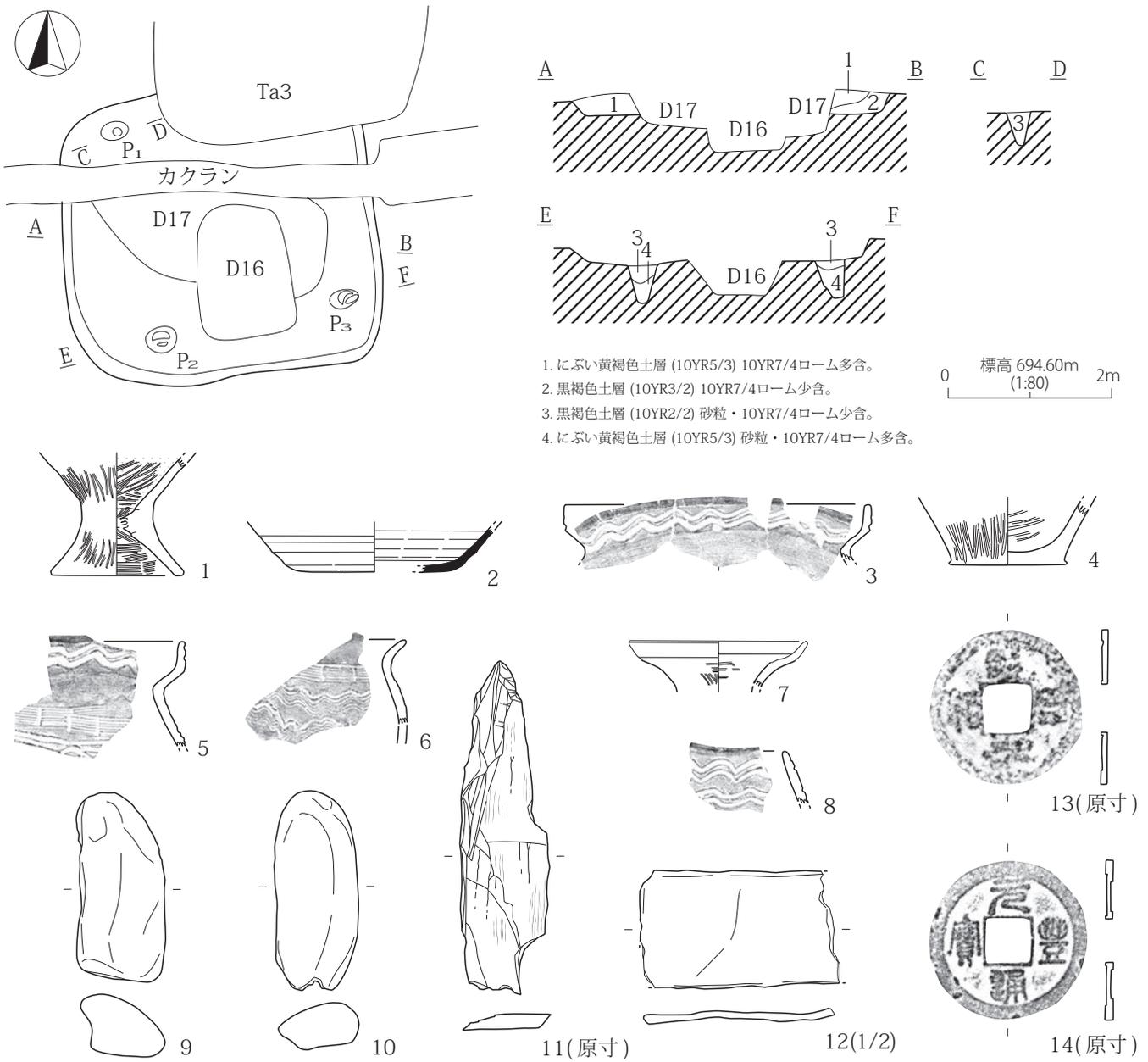
第51図 Ta 1号竪穴建物



第52図 Ta 2号竪穴建物



第 53 図 Ta 3号竪穴建物



第 54 図 Ta 4号竪穴建物

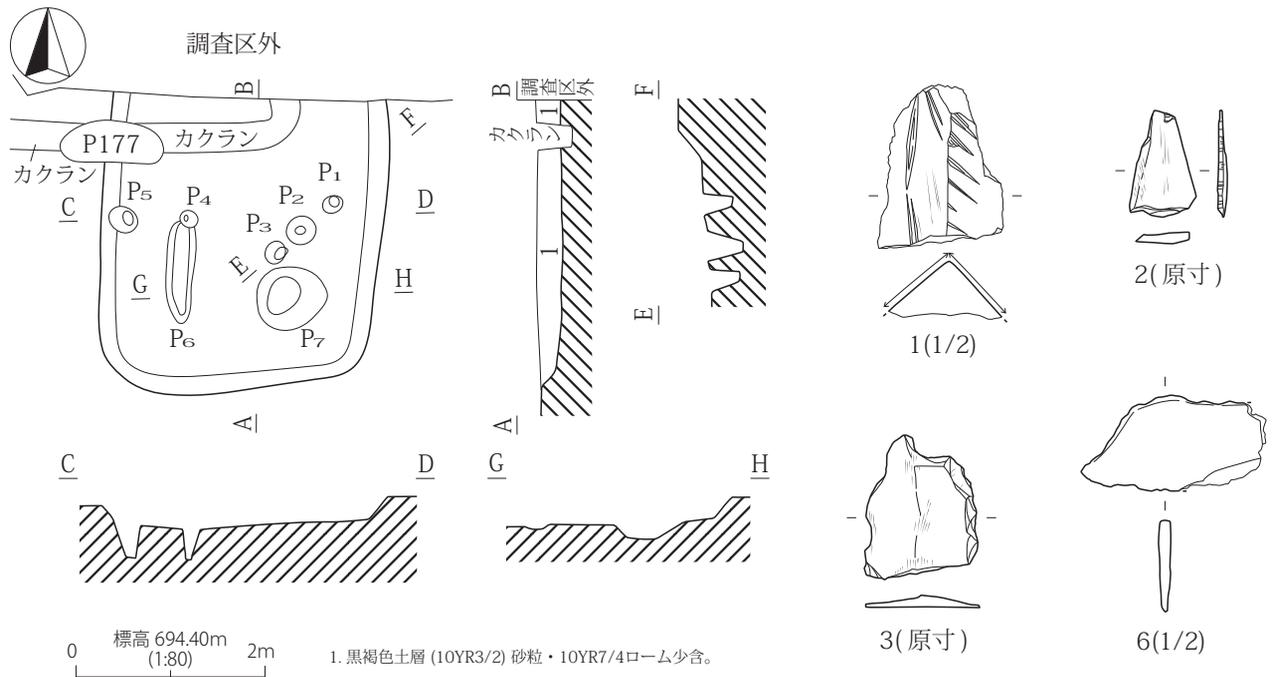
出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

Ta 3号竪穴建物（第53図）

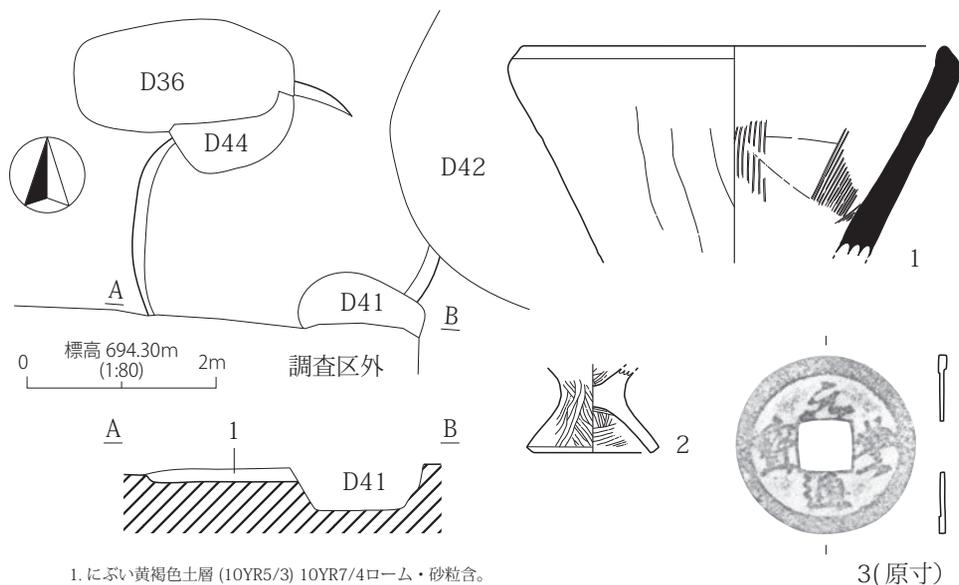
調査区北西で検出された。H27、Ta4、D19を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-87°-Wに長軸方位をとり、長軸長3.36m、短軸長2.74m、壁残高0.40m、面積6.17㎡の規模である。ピット、火処は認められない。

遺物は須恵器、弥生土器、石器が出土している。全て混入品である。

遺構形態から本址は中世の所産と思われるが、根拠はない。



第 55 図 Ta 5号竪穴建物



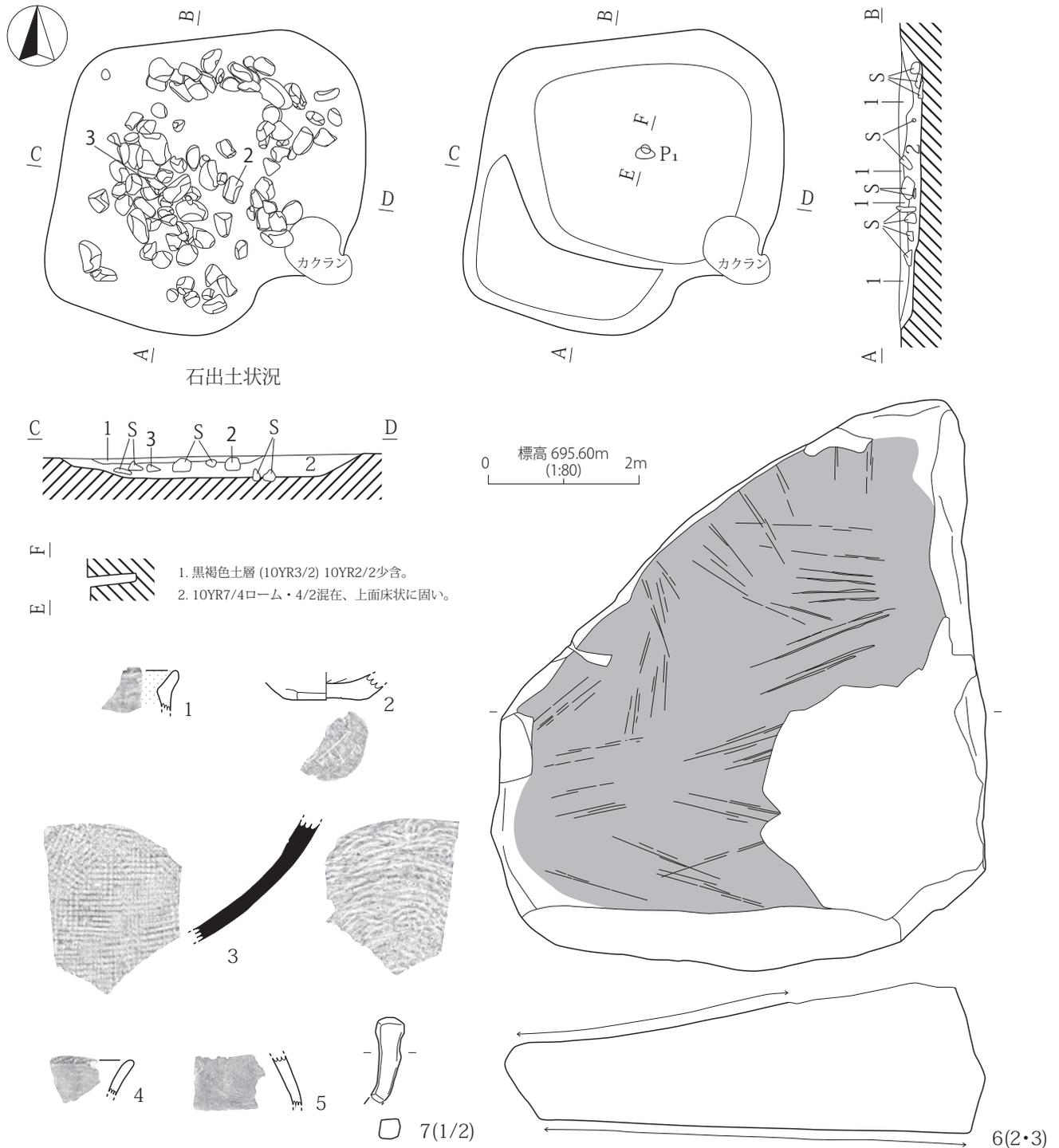
第 56 図 Ta 6号竪穴建物

Ta4号竪穴建物（第54図）

調査区北西で検出された。Ta3、D16・17に切られる。隅丸方形の平面形態で、N-84°-Eに長軸方位をとり、長軸長3.86m、短軸長3.55m、壁残高0.30m、面積10.81㎡の規模である。床面上で検出された3基のピットは支柱穴の可能性が高い。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄製品、銅製品が出土した。鉄製品、銅製品以外は混入品である。鉄製品は器種不明、銅製品は古銭が2枚である。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。



第57図 Ta 7号竪穴建物

Ta 5号竪穴建物 (第55図)

調査区西南で検出された。P177に切られ、Ta13、D27・42を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。短軸長3.00m、壁残高0.25mの規模である。

遺物は石器、鉄製品が出土している。石器は砥石、磨製石鏃製作時の片岩剥片である。剥片は混入品である。鉄製品は器種不明品である。

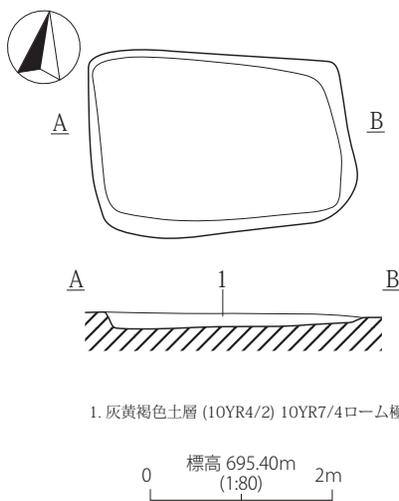
遺構形態から本址は中世の所産と思われるが、根拠はない。

Ta 6号竪穴建物 (第56図)

調査区西南で検出された。D36・41・42・44に切られる。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.15mの規模である。

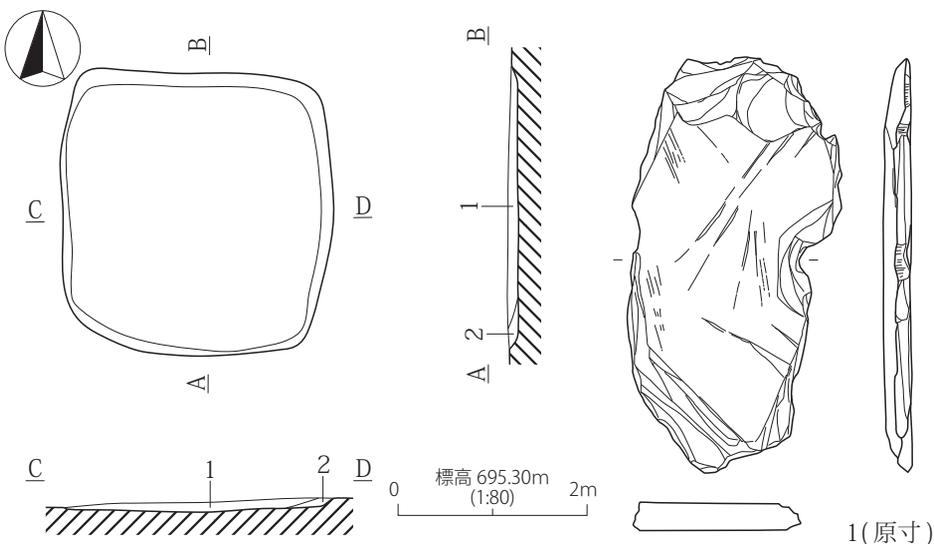
遺物は須恵器播鉢、弥生土器台付甕、銅製品古銭が出土した。弥生土器以外は本址に伴うものであろう。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

第 58 図 Ta 8号竪穴建物



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム多含。

第 59 図 Ta 9号竪穴建物

Ta 7号竪穴建物 (第57図)

調査区東南で検出された。H18を切る。N-28°-Eに長軸方位をとり、長軸長4.38m、短軸長4.11m、壁残高0.35m、面積9.62㎡の規模である。隅丸の長方形を交差させたような平面形態である。竪穴内部には多量の石が内包されていた。Ta1のような石積が崩れた、あるいは破壊された結果と思われる。遺構中心には小径のピットが1基穿たれていた。

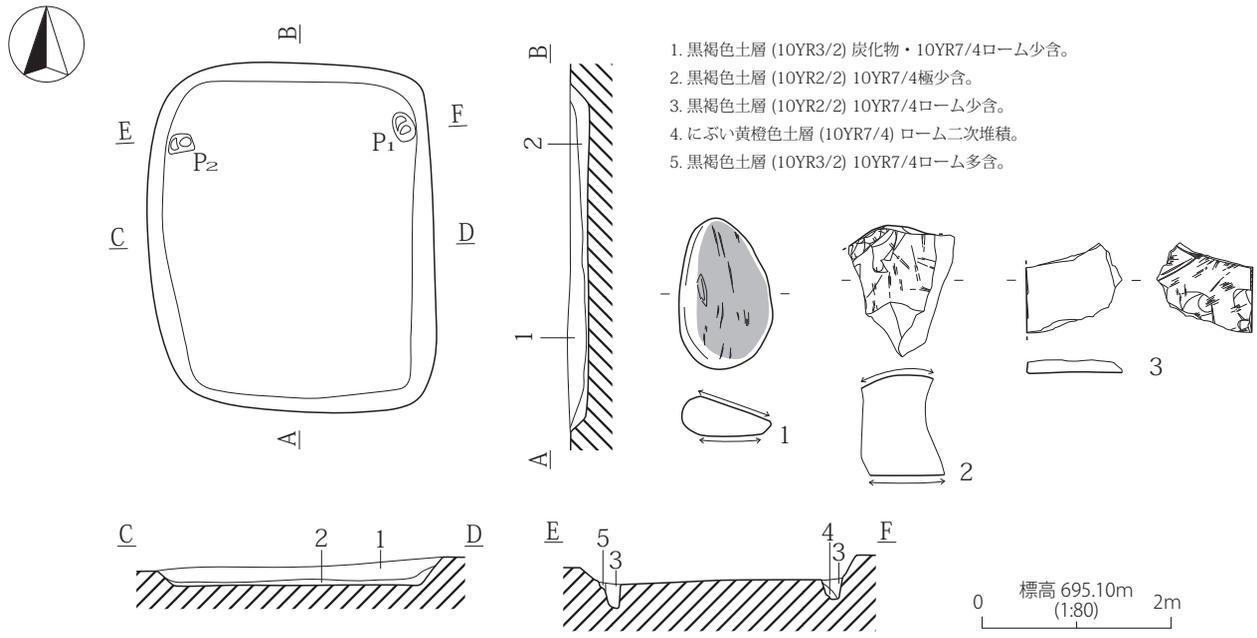
遺物は土師器坏・甕、須恵器甕、弥生土器壺、石器台石、鉄製品角釘が出土している。台石、角釘以外は混入品である。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

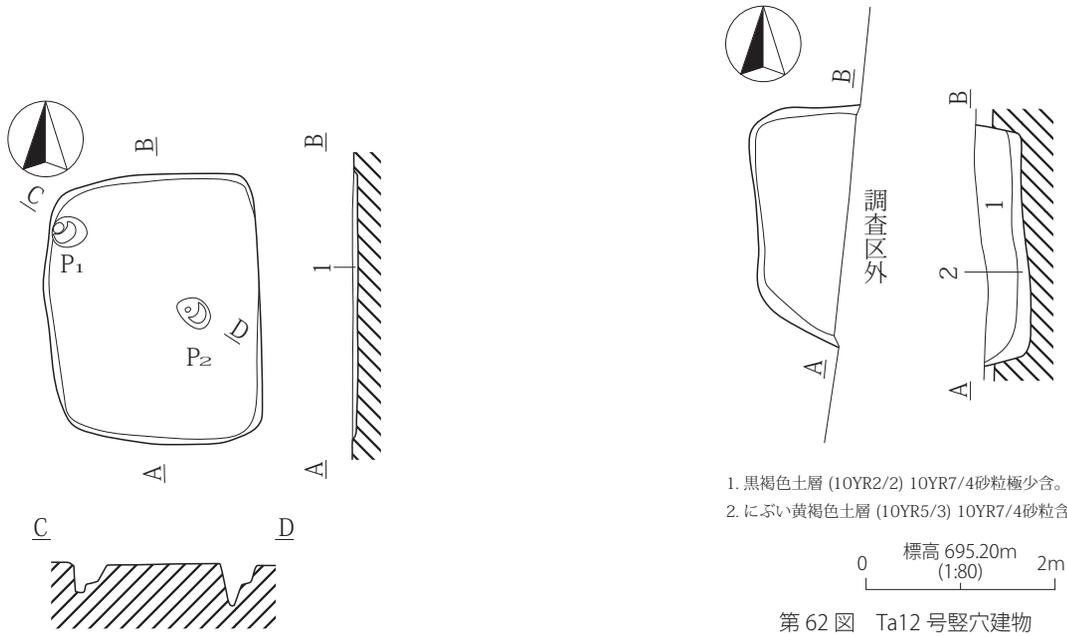
Ta 8号竪穴建物 (第58図)

調査区中央付近で検出された。H9を切る。N-78°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.86m、短軸長1.98m、壁残高0.24m、面積4.31㎡の規模である。隅丸長方形の平面形態である。

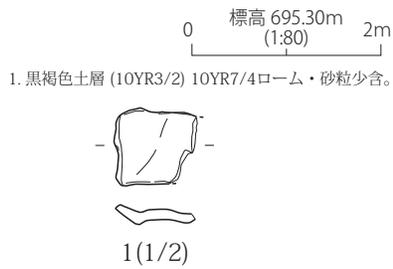
遺物は皆無であり、本址の所属時期は不明である。



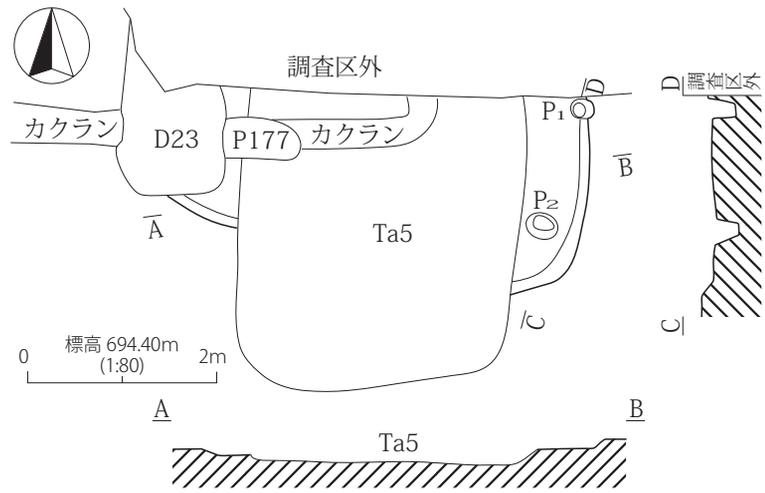
第60図 Ta10号竪穴建物



第62図 Ta12号竪穴建物



第61図 Ta11号竪穴建物



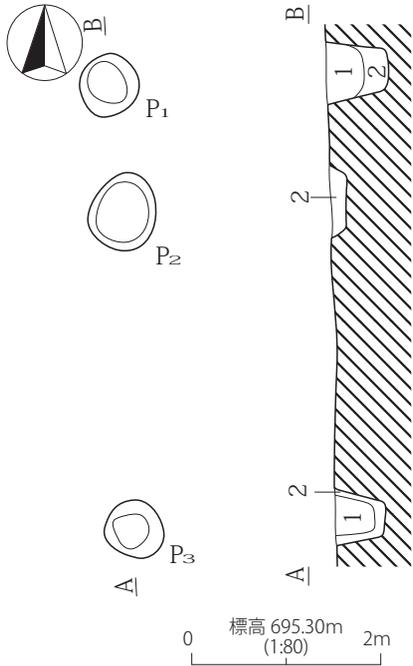
第63図 Ta13号竪穴建物

Ta9号竪穴建物（第59図）

調査区西南で検出された。他遺構との重複関係は有さない。隅丸方形の平面形態で、N-3°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.96m、短軸長2.91m、壁残高0.16m、面積6.87㎡の規模である。

遺物は磨製石鏃製作時の片岩剥片が1点出土したが、本址に伴うものではない。

本址の所属時期は不明である。



- 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4砂粒少含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4砂粒含。

第 64 図 F1 号掘立柱建物址

Ta10号竪穴建物（第60図）

調査区西南で検出された。F2を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-0°-Eに長軸方位をとり、長軸長3.67m、短軸長3.02m、壁残高0.30m、面積8.29㎡の規模である。北西隅と北東隅の近くの壁下に検出された2基のピットは主柱穴かもしれない。

遺物は砥石が2点と、硯が1点出土した。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。

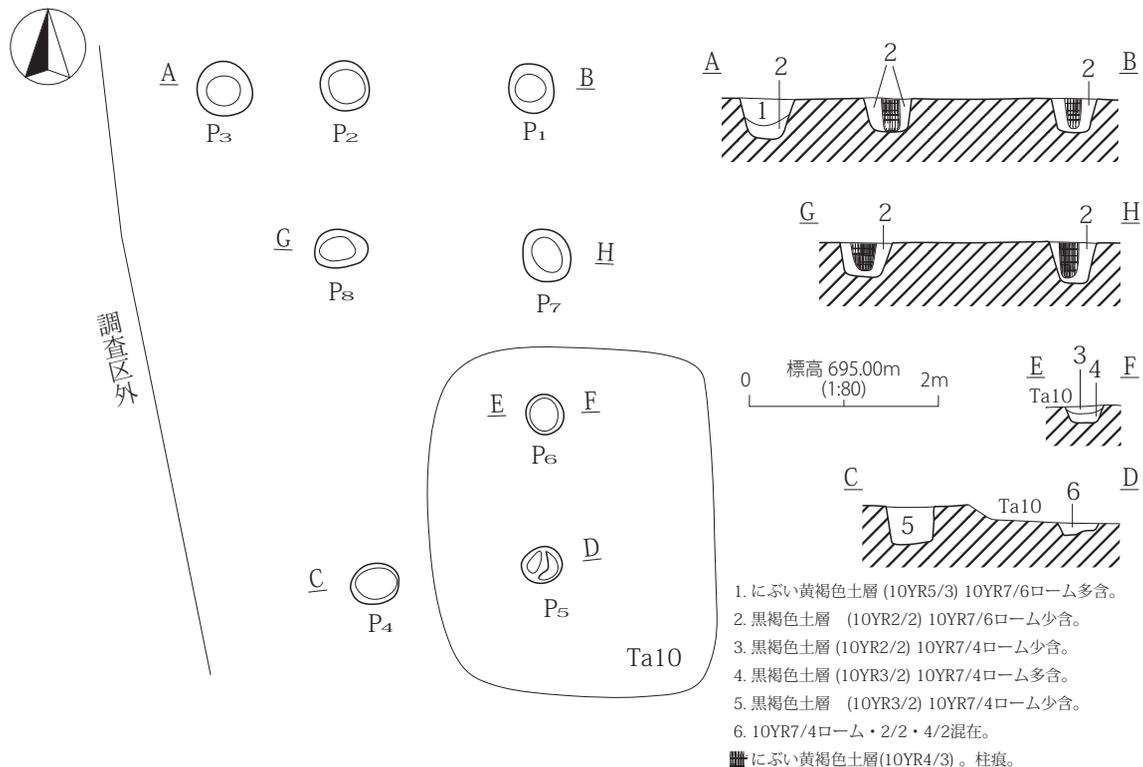
Ta11号竪穴建物（第61図）

調査区西南で検出された。

H22、P184・188を切る。隅丸長方形の平面形態で、N-3°-Wに長軸方位をとり、長軸長2.83m、短軸長2.25m、壁残高0.09m、面積5.46㎡の規模である。床面上で検出されたピットの性格は不明である。

遺物は不明鉄製品が1点出土した。

出土遺物から本址は中世の所産と思われる。



第 65 図 F2 号掘立柱建物址

Ta12号竪穴建物 (第62図)

調査区北東で検出された。

D1、P33を切る。東方向に調査区外に延びるため、全容は不明である。壁残高0.36mの規模である。

遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

Ta13号竪穴建物 (第63図)

調査区西南で検出された。Ta5、D23、P177に切られる。壁残高0.24mの規模である。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。2基検出されたピットの性格は不明である。

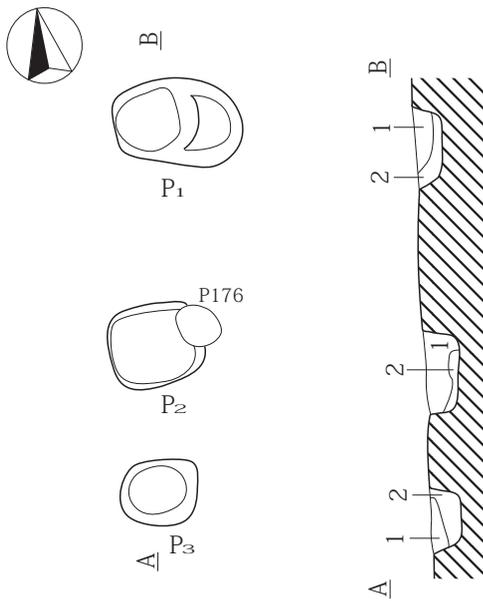
遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

第2節 掘立柱建物

F 1号掘立柱建物(第64図)

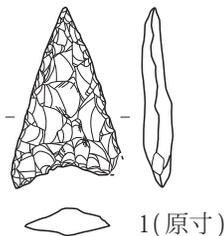
調査区北東端で検出された。検出範囲では他遺構との重複関係は認められない。N-3°-Wに長軸方位をとる。桁行長4.76m、桁行柱間寸法1.37~3.39mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。



1. 10YR4/2・7/4ローム・2/2混在。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。

0 標高 694.50m (1:80) 2m



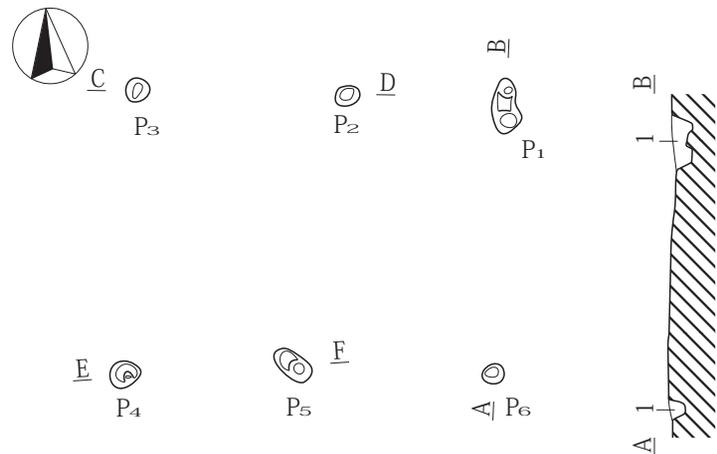
第66図 F3号掘立柱建物址

F 2号掘立柱建物(第65図)

調査区南西端で検出された。Ta10に切られ、H23を切る。

N-0°-Wに長軸方位をとる。桁行長5.03m、桁行柱間寸法1.55~3.54m、梁間柱間寸法1.31~2.23mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

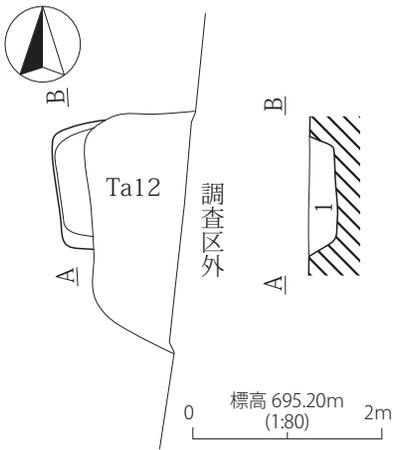


0 標高 695.60m (1:80) 2m



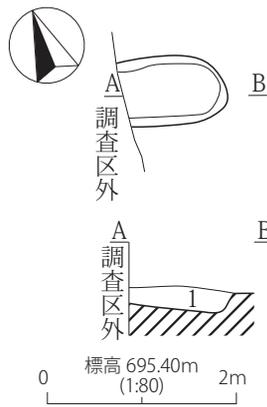
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム多含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム少含。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

第67図 F4号掘立柱建物址



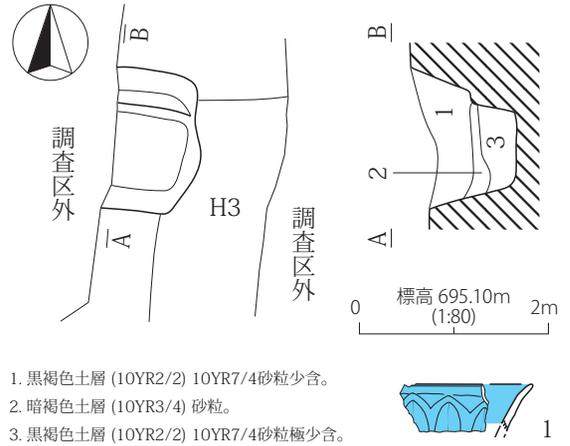
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/6砂粒含。

第68図 D1号土坑

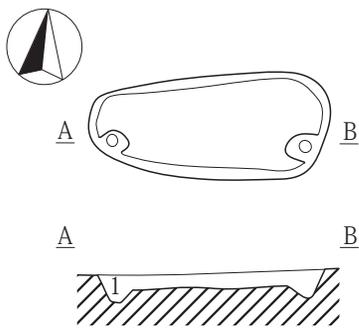


1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4砂粒含。

第69図 D2号土坑

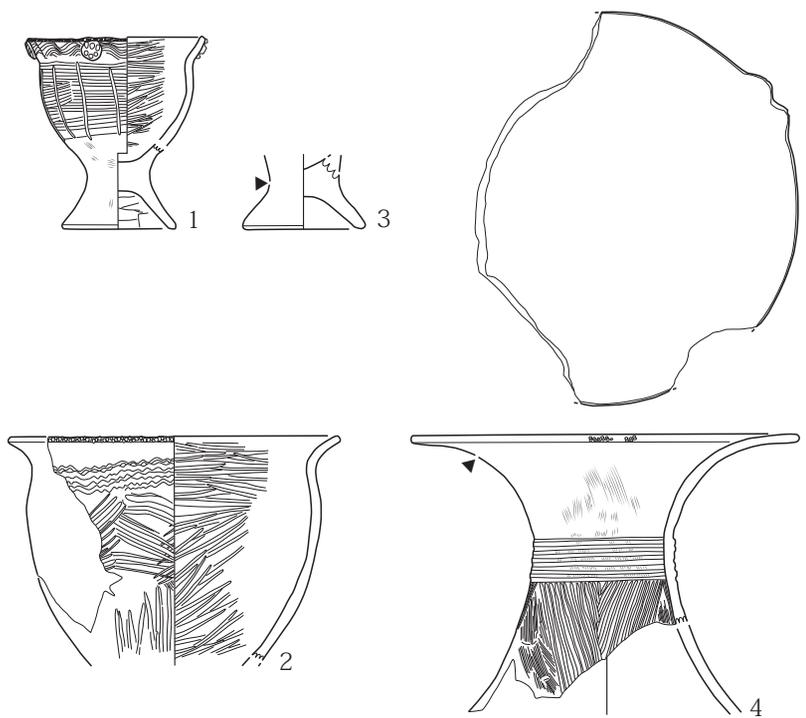


第70図 D3号土坑

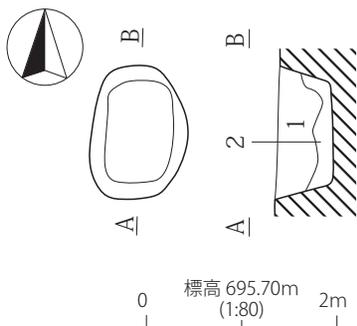


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。

標高 695.70m (1:80) 0 2m

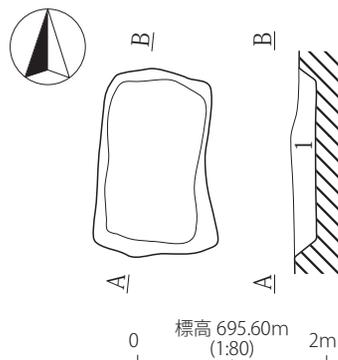


第71図 D4号土坑



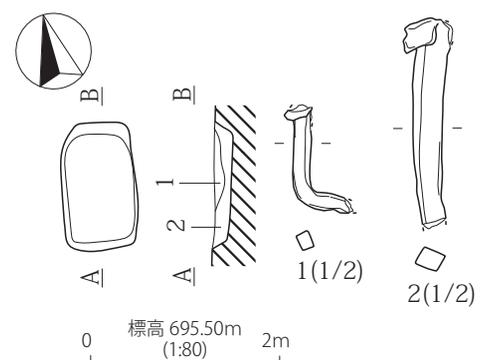
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2少含。

第72図 D5号土坑



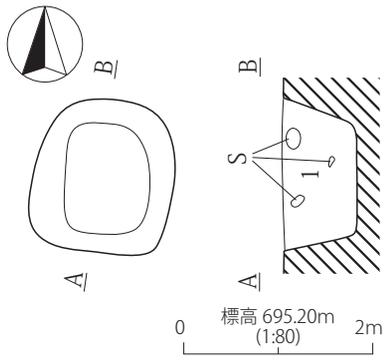
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

第73図 D6号土坑



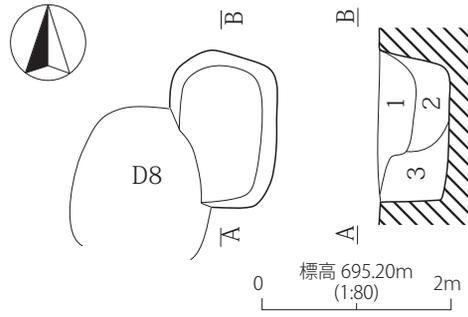
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。

第74図 D7号土坑



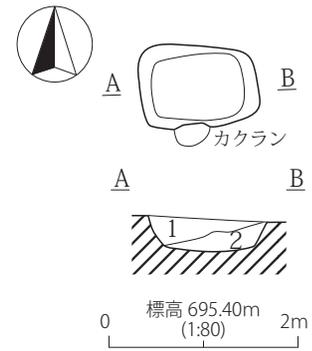
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。

第75図 D8号土坑



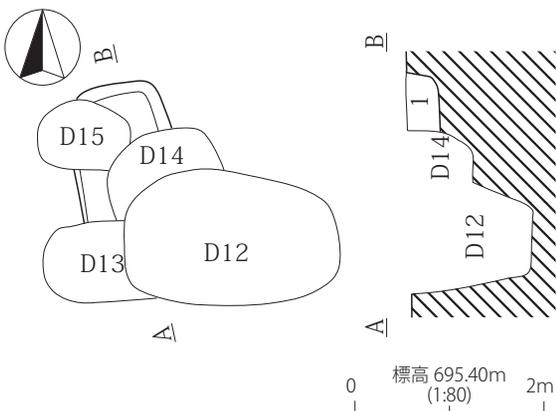
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム・砂利多含。

第76図 D9号土坑



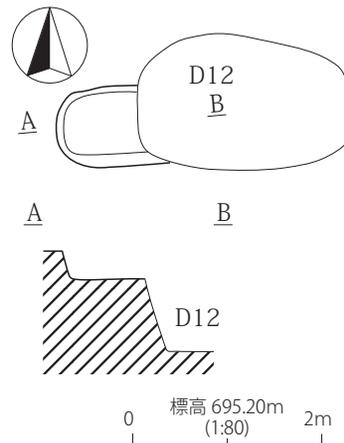
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。

第77図 D10号土坑

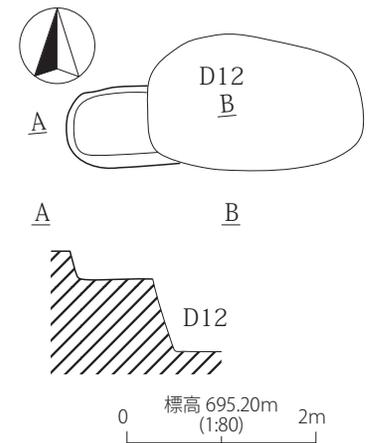


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。

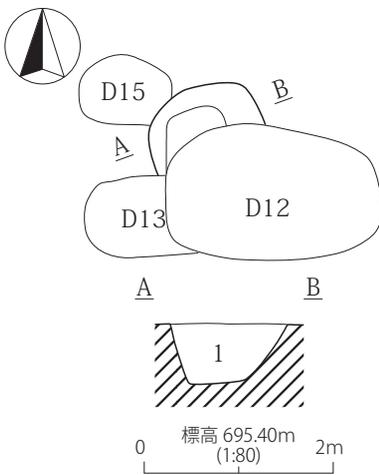
第78図 D11号土坑



第79図 D12号土坑

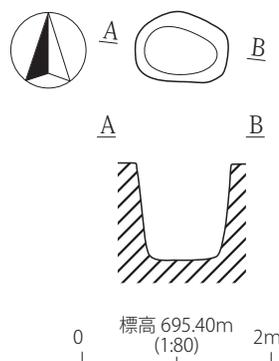


第80図 D13号土坑

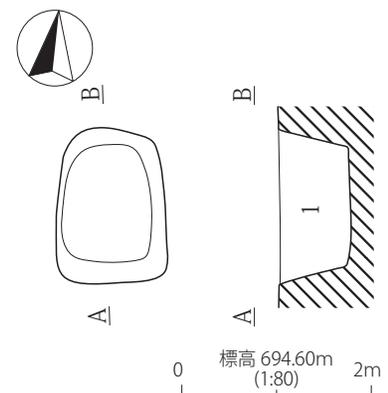


1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。

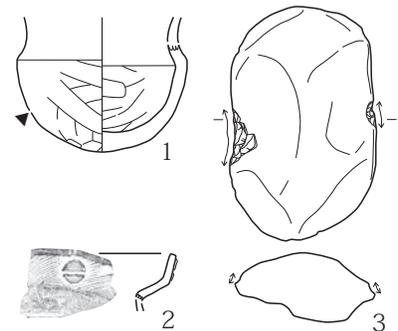
第81図 D14号土坑



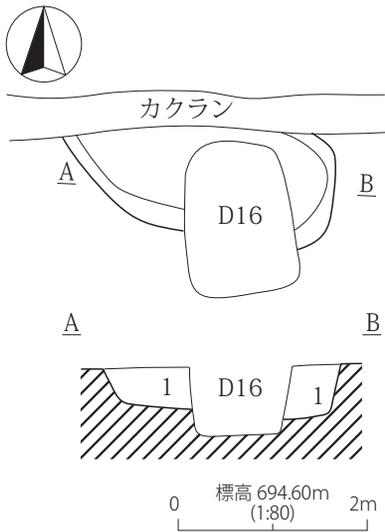
第82図 D15号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 上層に10YR7/4ローム含。

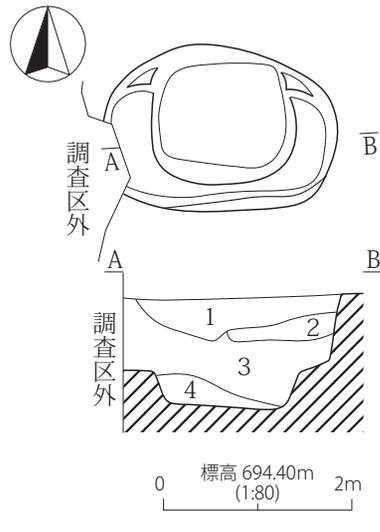


第83図 D16号土坑



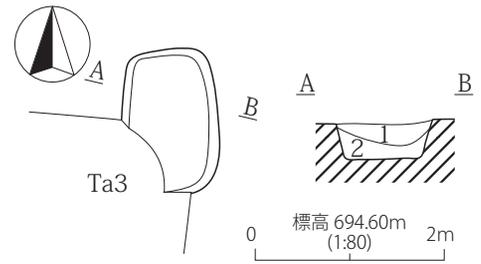
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。

第84図 D17号土坑



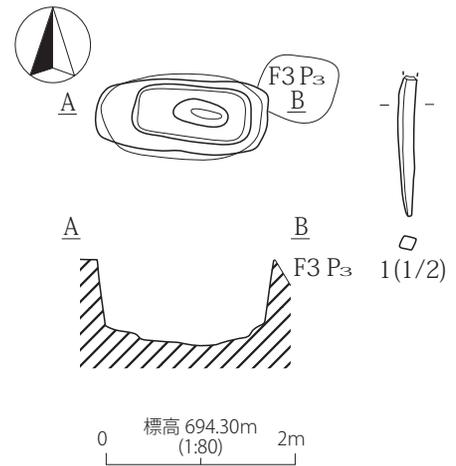
1. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
2. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。
4. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) 砂層。

第85図 D18号土坑

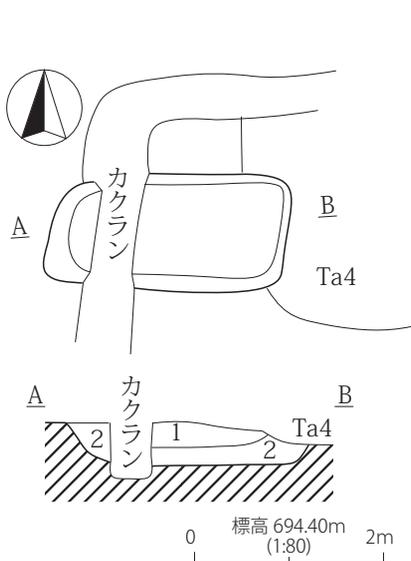


1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第86図 D19号土坑



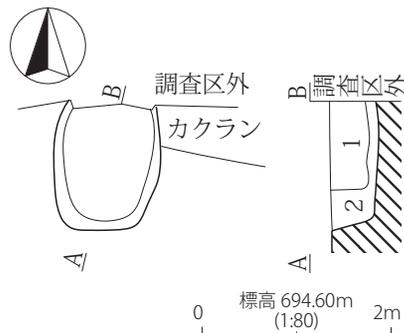
第89図 D22号土坑



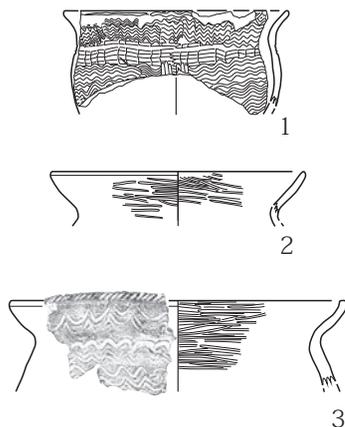
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒少含。
2. 10YR7/4ローム・4/2混在。



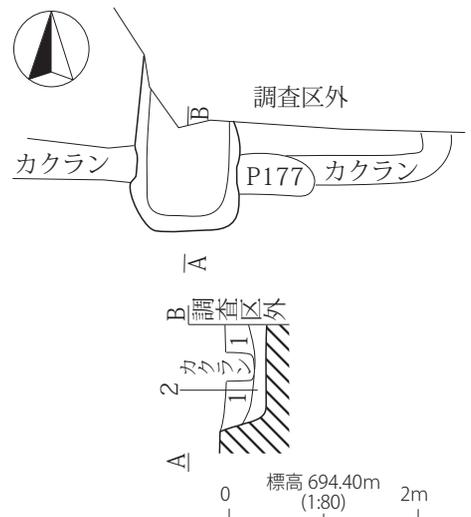
第87図 D20号土坑



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。
2. 10YR2/2・4/2・7/4ローム混在。人為埋土。



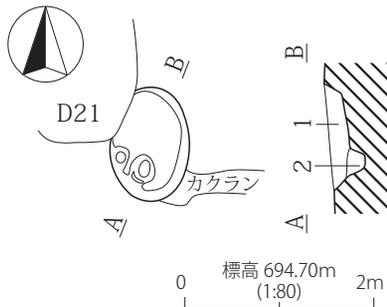
第88図 D21号土坑



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。

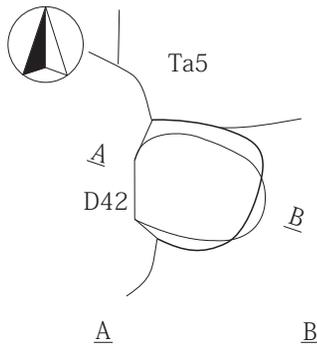


第90図 D23号土坑

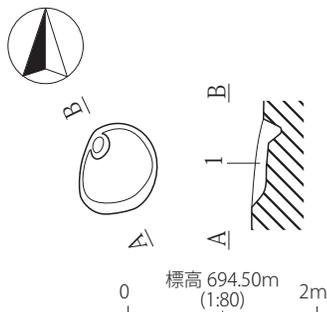


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

第91図 D24号土坑

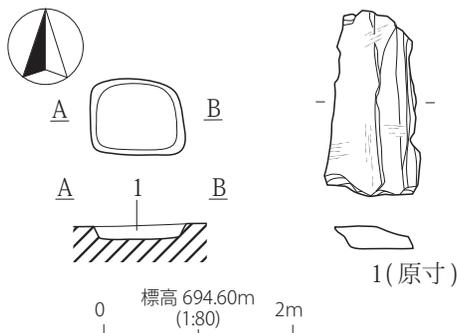


第94図 D27号土坑



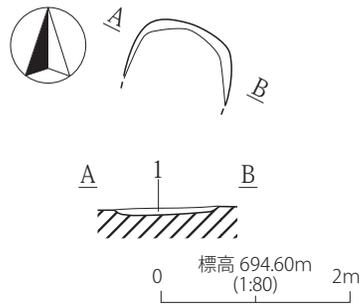
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第96図 D29号土坑



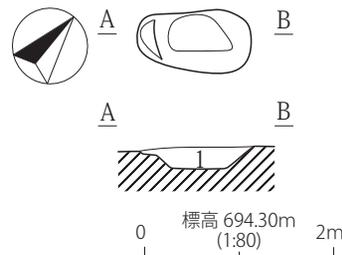
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。

第99図 D32号土坑



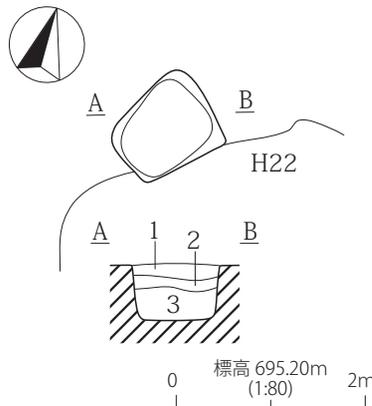
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒少含。

第92図 D25号土坑



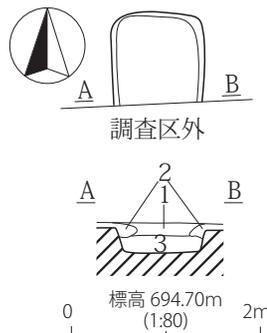
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム・砂粒極少含。

第95図 D28号土坑



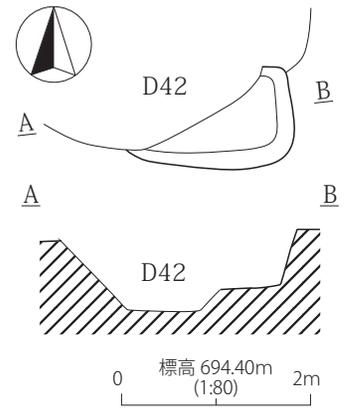
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂粒少含。

第97図 D30号土坑

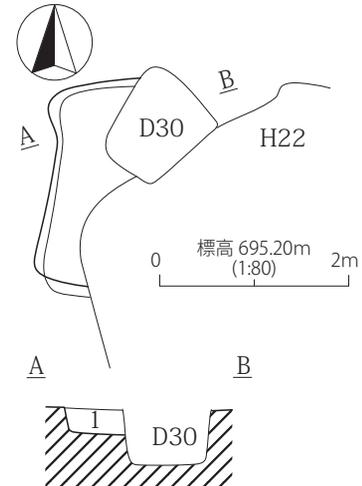
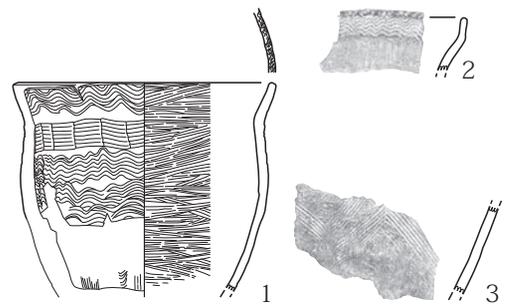


1. 灰黄褐色土層 (10YR6/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 浅黄褐色土層 (10YR8/4) ローム二次堆積。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。

第100図 D33号土坑

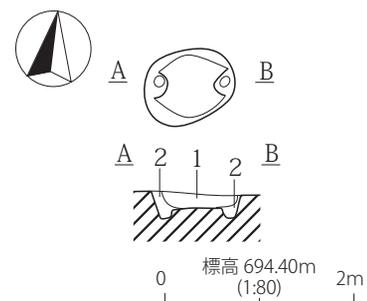


第93図 D26号土坑



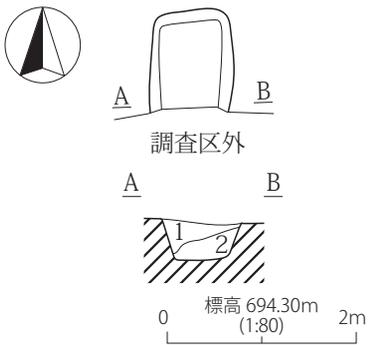
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第98図 D31号土坑



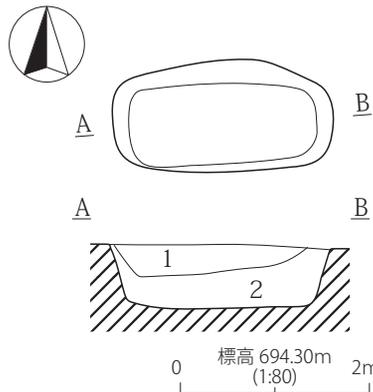
1. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・砂粒多含。

第101図 D34号土坑



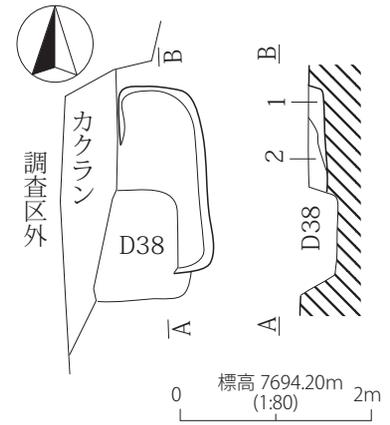
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂粒多含。

第102図 D35号土坑



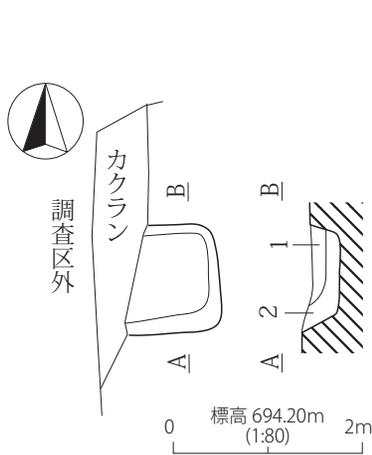
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。

第103図 D36号土坑



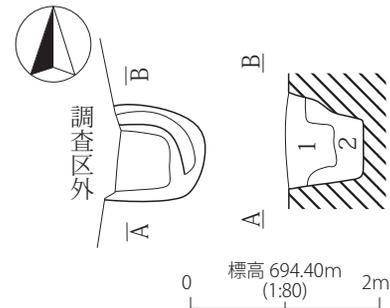
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。

第104図 D37号土坑



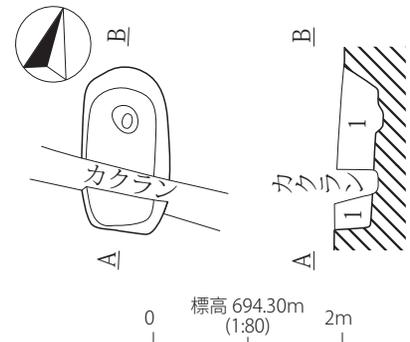
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

第106図 D39号土坑



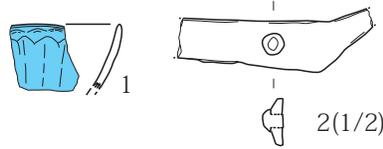
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

第108図 D41号土坑

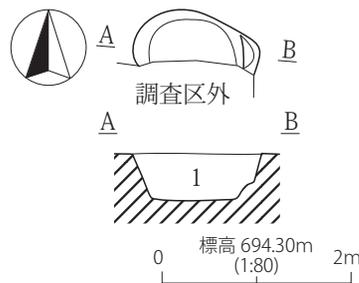


1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

第107図 D40号土坑

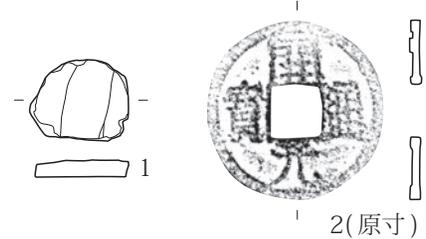


第105図 D38号土坑

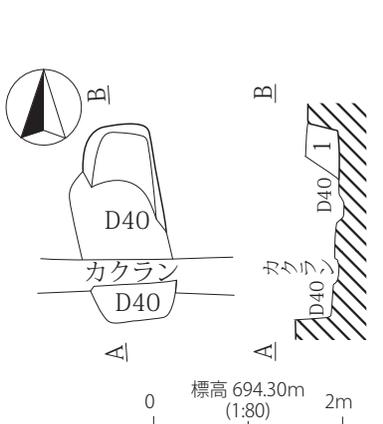


1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR2/2・7/4ローム含。

第110図 D43号土坑

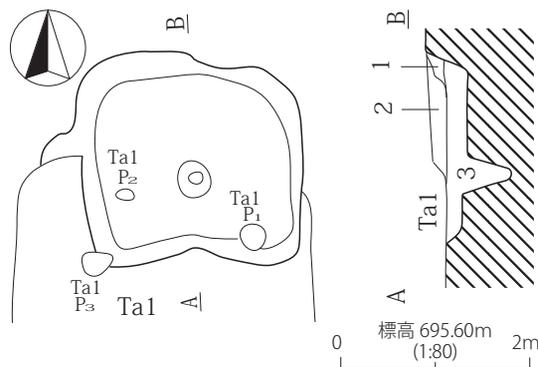


2(原寸)



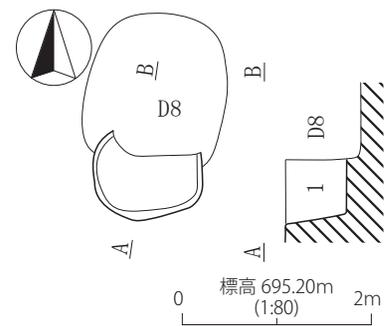
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

第112図 D45号土坑



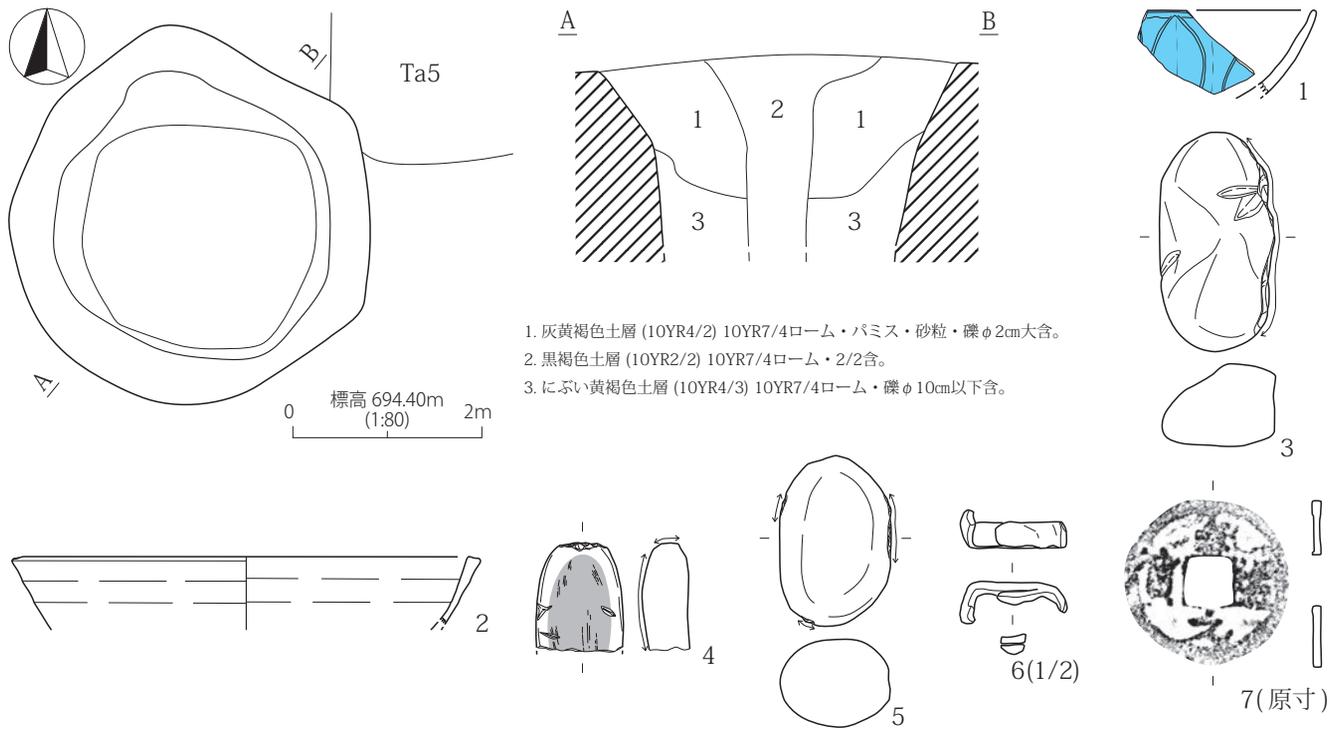
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。

第110図 D43号土坑



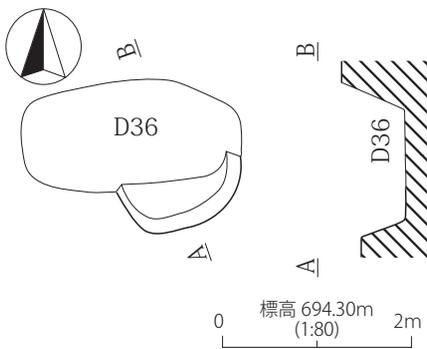
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。

第114図 D47号土坑

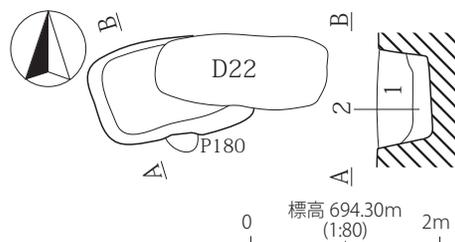


1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・パミス・砂粒・礫φ2cm大含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム・2/2含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・礫φ10cm以下含。

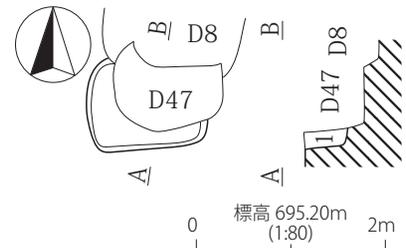
第109図 D42号土坑



第111図 D44号土坑

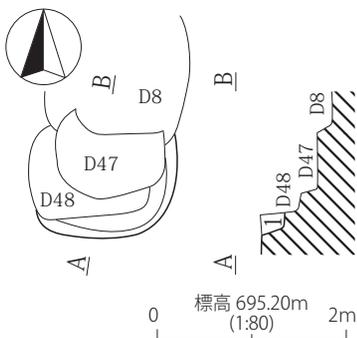


第113図 D46号土坑



第115図 D48号土坑

1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・砂粒含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2含。



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。

第116図 D49号土坑

F 3号掘立柱建物(第66図)

調査区西端で検出された。P176に切られる。N-9°-Wに長軸方位をとる。桁行長3.94m、桁行柱間寸法1.55~2.36mの規模である。

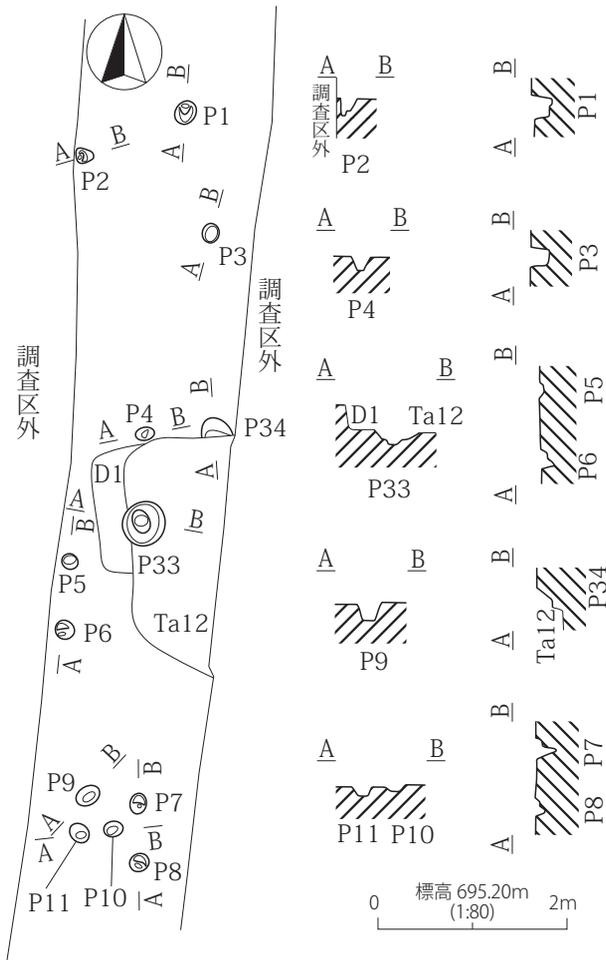
出土遺物は黒曜石製の打製石鏃が1点出土しているが、本址に帰属するものではないため、本址の時期は不明である。

F 4号掘立柱建物(第67図)

調査区中央南端で検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-83°-Wに長軸方位をとる。桁行長3.95m、梁間長3.02m、面積11.69㎡、桁行柱間寸法1.72~2.73m、梁間柱間寸法1.31~2.23mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

第3節 土坑 (第68~116図)



第117図 P1～11・33・34号ピット

49基検出されている。形態的には平面は隅丸長方形か楕円形、断面は逆梯形のものが大半である。規模的な平均値は、長軸長1.5m前後、短軸長1.14m、壁残高0.50m、面積3.39㎡であり、残存状態の良好なものが多く、比較的大きな規模である。

出土遺物から時期が判断できるものは少ないが、D4・20・21・28は弥生時代中期後半栗林期。D3・7・23・38・40・42は中世である。他遺構との重複関係も考慮するならば、弥生時代中期後半栗林期以外のものは中世の所産と思われる。

その性格についてはD52が井戸であるほかは不明である。角釘が出土したものは木材が伴っていた可能性が強く、木棺が埋納された墓壙という可能性も考慮される。同様に古銭が伴うものも土壙墓の可能性もあるが、全ての土坑内から骨片は全く検出されていないことからその可能性は極めて低い。竪穴建物Taや掘立柱建物F4、多くのピットの存在などから、中世集落の居住空間を構成する構造物の痕跡であろう。詳細については土坑計測表を参照されたい。

第4節 ピット (第117~128図)

192基検出されている。形態的には平面楕円形、断面逆梯形が主体である。規模的には長軸長0.33m、短軸長0.27m、壁残高0.22mである。

分布は調査区西側には竪穴建物(Ta)や土坑が密集する傾向があるが、ピットの分布は希薄であり、調査区中央から東にかけて濃密である。覆土色や他遺構との重複関係から類推するならばそのほとんどは中世の所産と思われる。性格的には柱穴と思われ、何らかの建物や、柵のようなものを構成していたものと思われる。

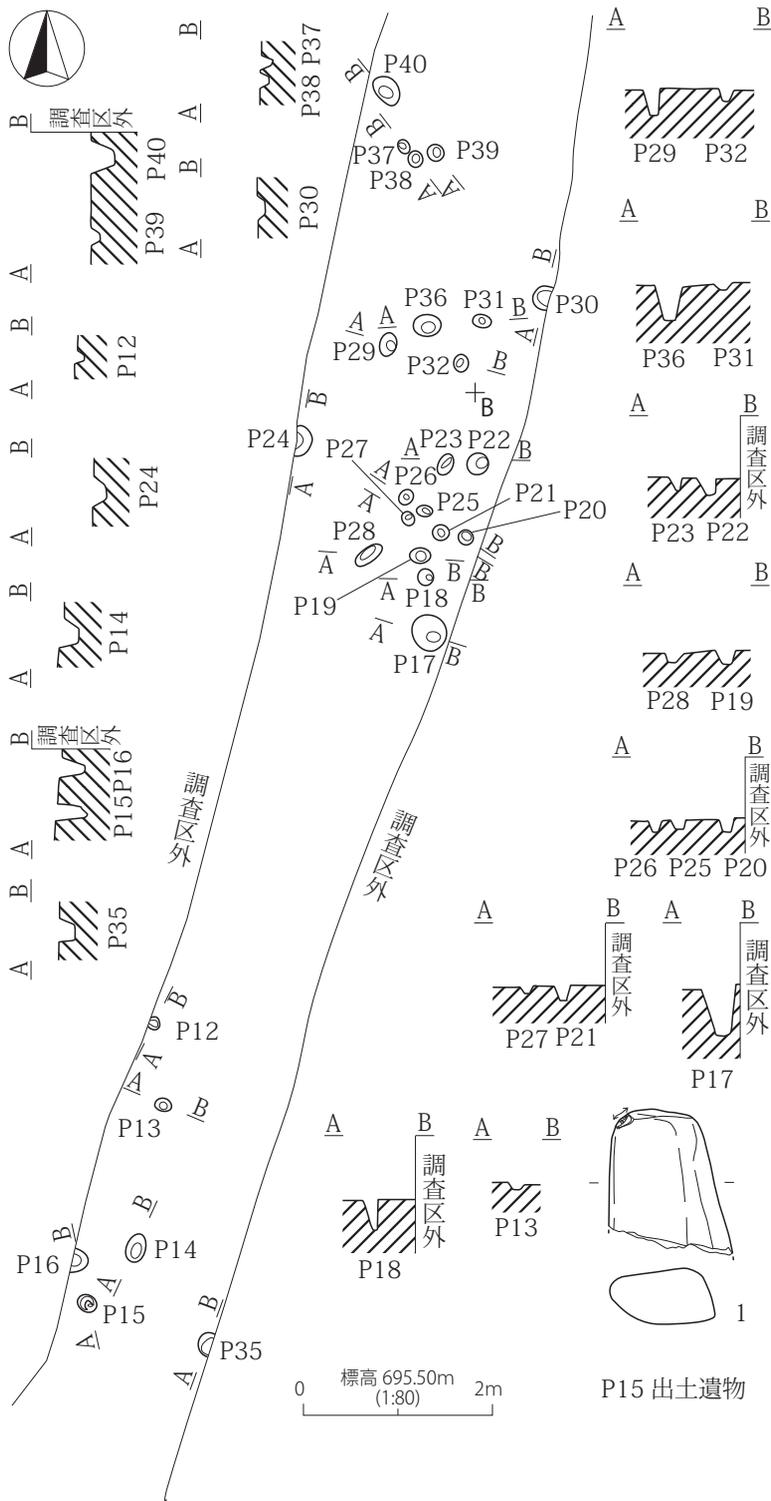
遺物はP15から敲石、P49から土師器坏、P117から銅銭(開元通宝)、P124から磨製石鏃製作時の片岩剥片、P153から磨石が出土している。P117以外は他遺構との重複関係を有するため、遺物は帰属しない可能性が高い。詳細についてはピット計測表を参照されたい。

第5節 遺構外出土遺物

土師器、石器、鉄製品が出土している。土師器はミガキ→黒色処理が施される碗と、単孔の甑底部が出土している。碗は平安時代10世紀、甑は古墳時代後期の所産と思われる。

石器は片岩の剥片が2点認められた。弥生時代中期後半栗林期の所産と思われる。

鉄製品は角釘、角軸、碗?、不明品が出土している。角軸は鉄鏃の茎部分の可能性が高い、角釘、碗?、不明品は中世に帰属する可能性が高い。



第118図 P12～32・35～40号ピット

第V章 まとめ

第1節 弥生時代

中期後半栗林期終末の資料がまとまって出土した。佐久地方における該期の代表的資料は枇杷坂遺跡群直路遺跡H1号住居址出土資料であるが、この資料以外には良好な資料がなく、今回検出された資料は貴重なものである。また、調査された弥生時代竪穴建物は磨製石鏃製作所という一面を有しており、佐久地方における磨製石鏃の消長を捉えるうえでも重要である。

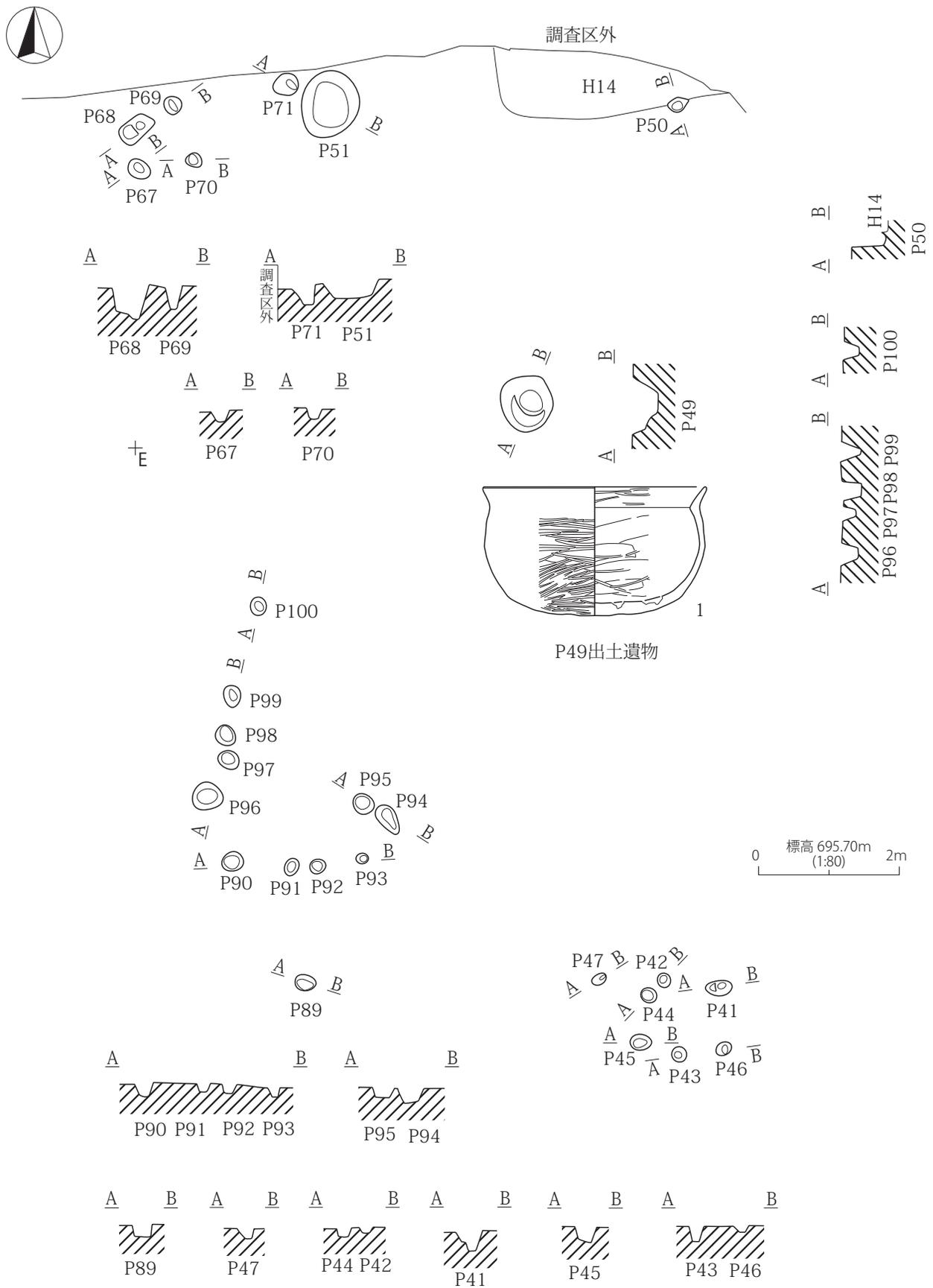
小山岳夫が弥生中期後葉栗林3式とする当該資料は、壺型土器の最大径が胴部下位から中位に上がる傾向を示すものや、頸部文様帯に櫛描簾状文・直線文と波状文を多段に施すもの、文様帯下に鋸歯文が付加されるもの、甕の口縁部が伸長し始めるもの、台付甕の口の字重ね文が重三角文に変容するものなどの出現を特徴とするが、当遺跡の場合、壺型土器の頸部文様体下への鋸歯文の付加は認められず、後続する後期の竪穴建物であるH16では認められる。また、当遺跡H23で出土している口縁部外面のみ赤彩を施さない壺は佐久盆地では出土例があまりないが、善光寺平や中野・飯山地域では認められる。口縁部内面にのみ赤彩を施す例もある。善光寺平での出土例は多く、このような手法は善光寺平からの影響と捉えられそうである。時期的には中期後半栗林期にその萌芽が認められ、後期吉田期に増加する。善光寺平での出土遺跡を挙げると松原遺跡、吉田高校グラウンド遺跡、二ツ宮遺跡、塩崎遺跡、薬師堂遺跡、屋地遺跡

などがある。また、中野・飯山地域では栗林遺跡、小泉遺跡などがある。群馬県高崎市八幡遺跡出土の壺もこの系列に位置すると思われる、樽式土器ではこのような赤彩壺が箱清水土器文化圏より遅くまで存続するようである。

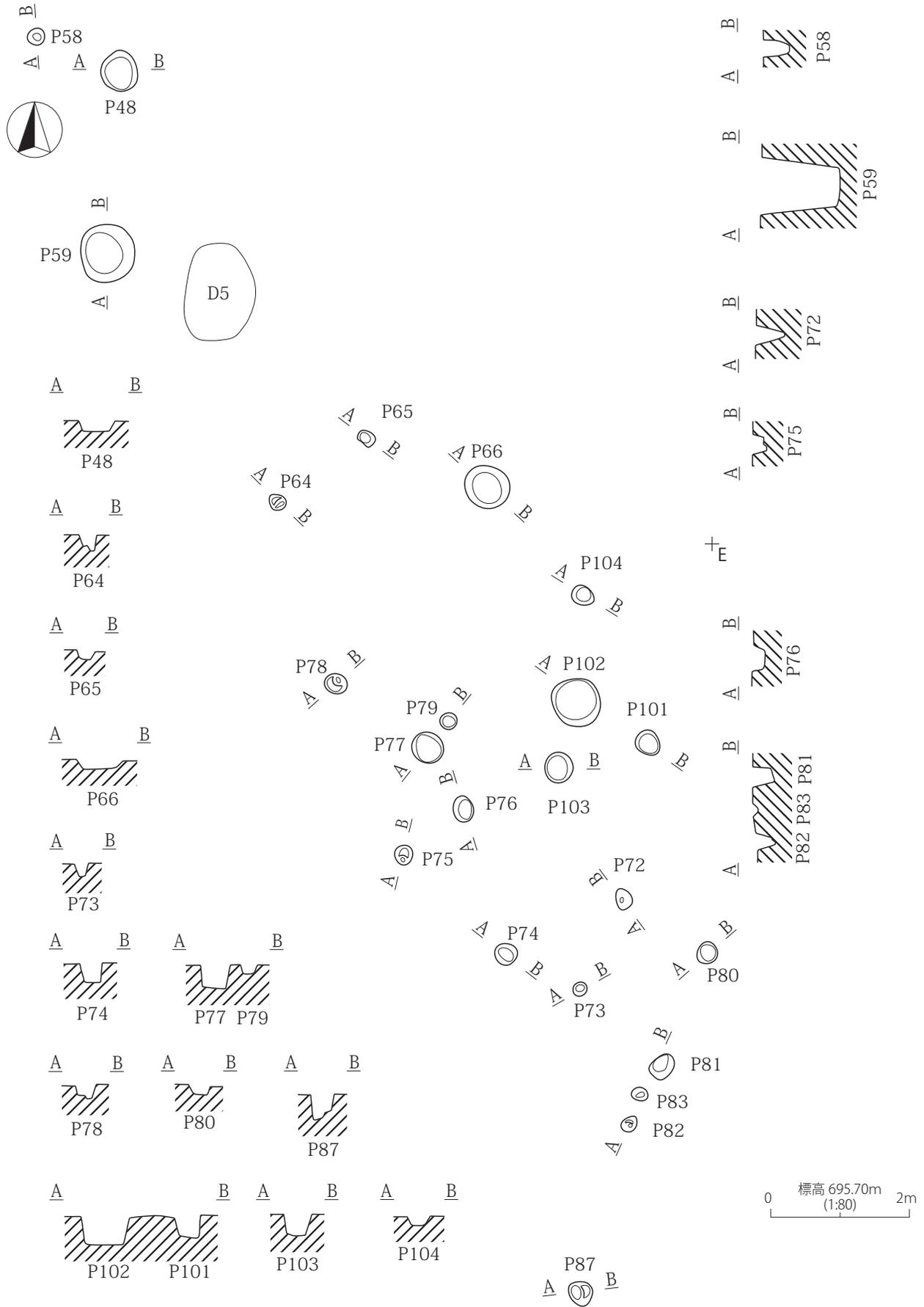
今回の調査では前述のような中期後半栗林期終末期の遺構に切られる栗林期の竪穴建物と、後期前葉吉田期の3期の竪穴建物が検出されたことになる。各時期毎の竪穴建物は以下のとおりである。

中期後半栗林期—H2、H28、D4

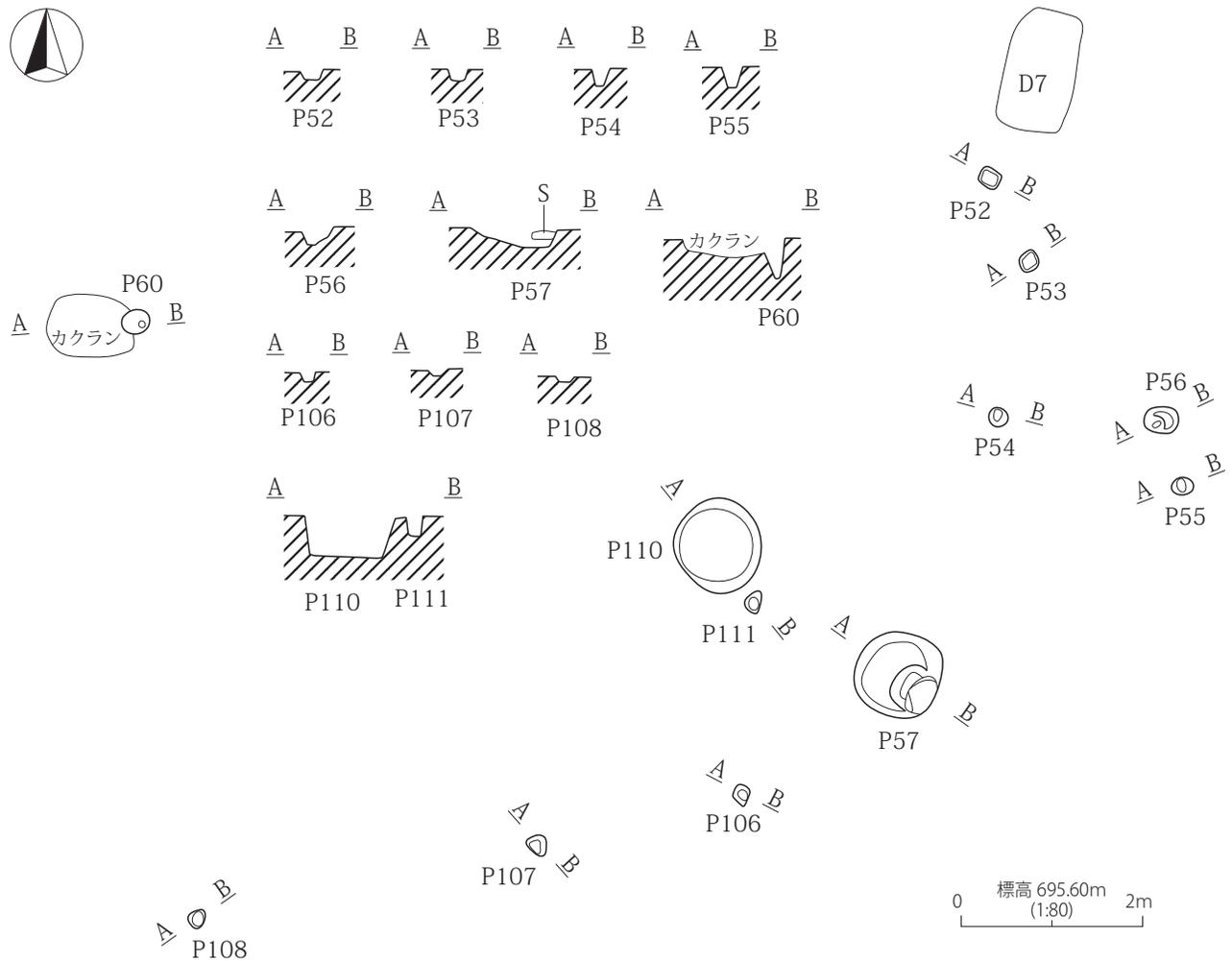
中期後半栗林期終末—H8、H9、H10、H23



第119図 P41～47・49～51・67～71・89～100号ピット



第 120 図 P48・58・59・64～66・72～83・87・101～104号ピット



第121図 P52～57・60・106～108・110・111号ピット

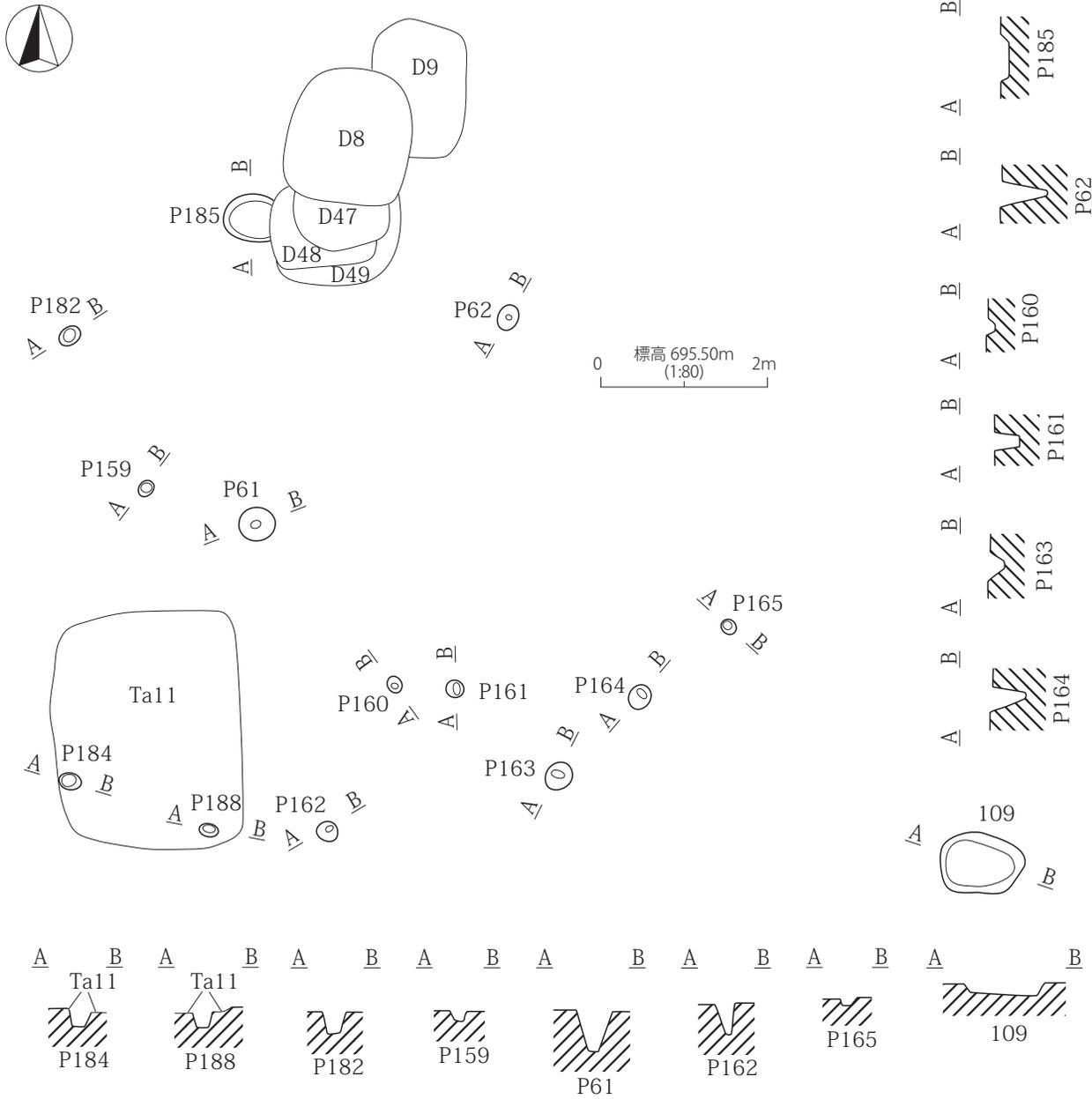
後期前葉吉田期—H16

磨製石鏃の製作は中期後半栗林期終末～後期前葉吉田期で行われており、その石材は片岩である。「西一本柳遺跡X」の報文中において馬場伸一郎氏は出土した弥生石器群の評価を行っている。（2005年佐久市埋蔵文化財調査報告書第127集第Ⅲ章）ここで馬場氏は、出土した磨製石鏃について製作工程の復元と共に、その製作址の時期について、後期段階と捉え、中期後半栗林期での製作を否定する材料が多いことを他の佐久市内の磨製石鏃出土遺跡を含め言及している。西一本柳遺跡Xにおいて磨製石鏃を出土し、後期住居址と位置づけられたH27・H34・H48・H77の内H27は小山岳夫編年の弥生時代後期Ⅰ期、H34・H48・H77は栗林3式と捉えることも可能であろう。また、中期の住居址であるH5・H17は製作址と捉えうる内容があるように思われる。

今回の調査結果も踏まえ、佐久市内において磨製石鏃製作は弥生時代中期栗林3期に始まり、後期Ⅰ期（吉田期前半）まで存続するものと捉えておきたい。ちなみに、現時点における最も新しい時期の磨製石鏃製作址は円正坊遺跡Ⅷで検出された弥生時代後期前半の資料群と考えられる。

第2節 古墳時代

古墳時代中期5世紀後葉から、後期6世紀中葉までの集落址が検出されている。土器様相から、3時期に区分したが、5世紀末から6世紀前半の半世紀に満たない短い期間内での変遷と思われる。竪穴建物の平面形態は基本的に方形に近い隅丸長方形で、北カマドである。支柱穴は4本で、壁下には周溝が巡り、カマドと対峙する南

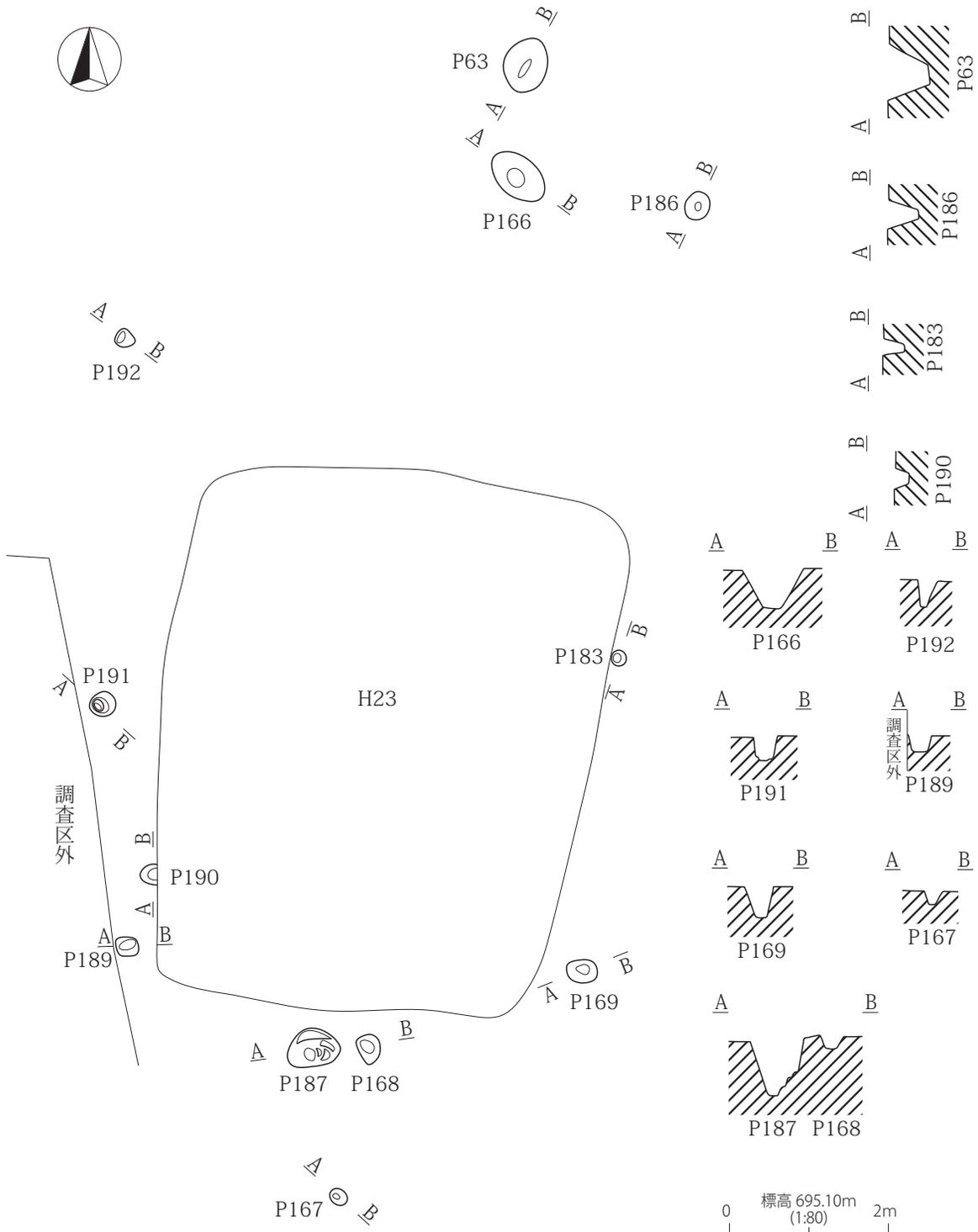


第 122 図 P61・62・109・159～165・182・184・188 号ピット

壁下には出入口施設があり、貯蔵穴を持つものは、カマド東脇か東南隅、あるいはカマドと対峙する南壁に張出部を設けて構築している。

金属器の出土例は少ないが、砥石などの存在から鉄器の普及は進行しているものと推測される。西一本柳遺跡 XX II 同様に、5 世紀後葉の遺構からは石製模造品が出土し、焼失している遺構が多い。

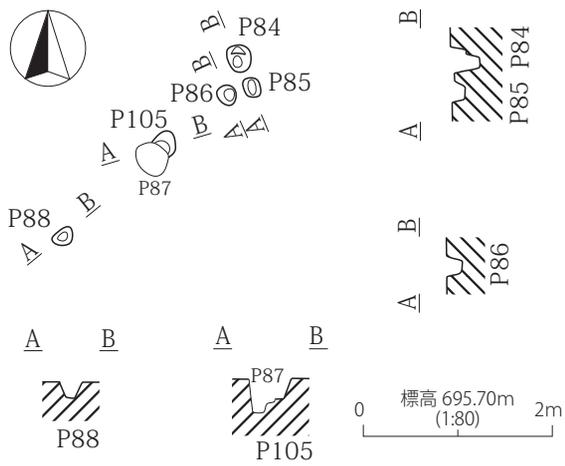
佐久盆地全体の傾向と思われるが、古墳時代に入り減少した集落が 5 世紀後葉頃急激に増加する。しかし、焼失遺構が多く、石製模造品などの祭祀遺物の出土例が多い傾向や、佐久市北部では該期に地震の痕跡が顕著な遺跡が多いことなどを考え合わせると、不安定な社会も想起される。今回の調査では後続する 6 世紀後葉以降の古墳時代後期と奈良平安時代の遺構は存在しないことから、集落は遺跡群内の他の場所に移動したと思われる。



第123図 P63・166～169・183・186・187・189・190～192号ピット

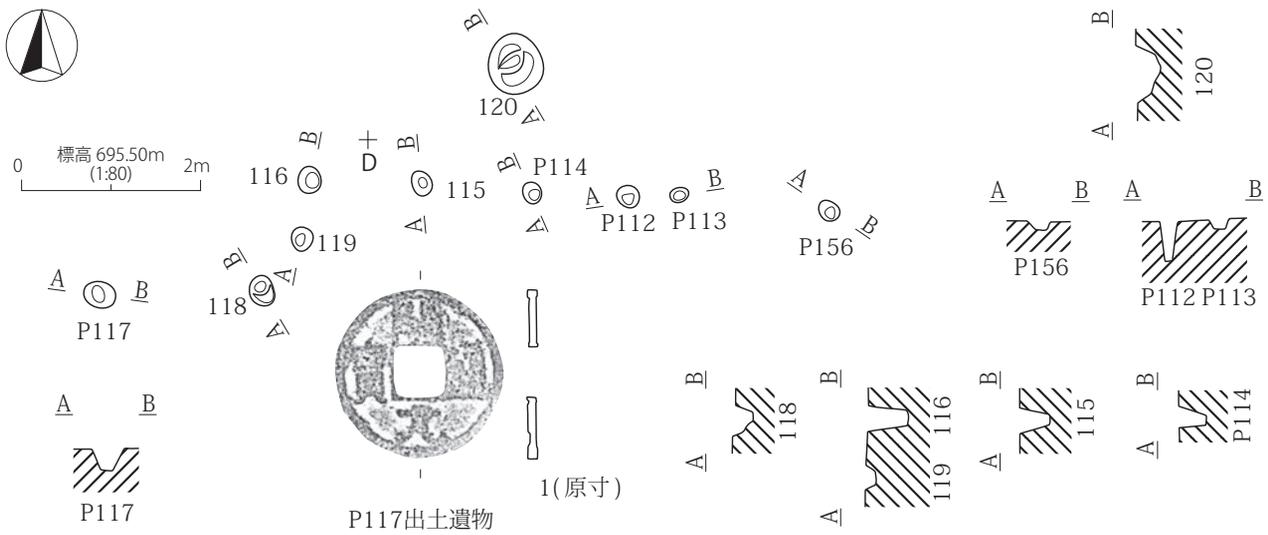
第3節 中世

調査区域は鎌倉時代、信濃守護小笠原長清の七男大井朝光が大井荘の地頭となり、国府と並び称されるほどの賑わいを呈したとされる大井荘の一部である。過去の調査でも周辺からは数多くの中世遺構、遺物が検出されている。今回の調査区域は湯川河岸段丘の縁にあたり、南側は畑地にする際に規模の大きな削平を受けていたにもかかわらず、中世の竪穴建物は残存していた。ピットのような小規模な遺構は多数消滅したと思われる。規

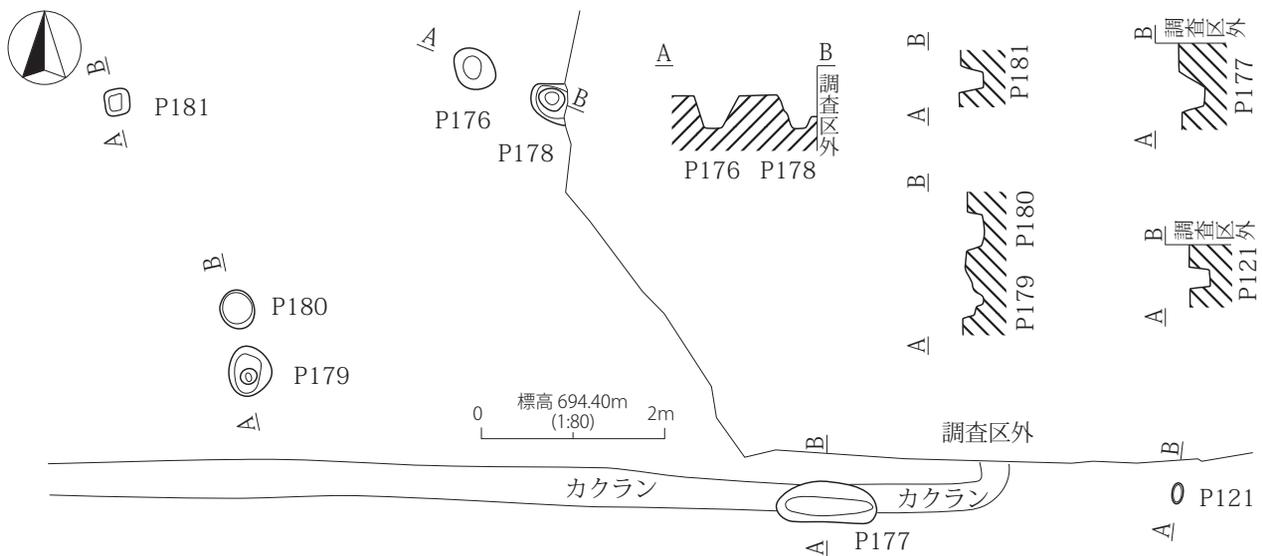


第124図 P84～86・88・105号ピット

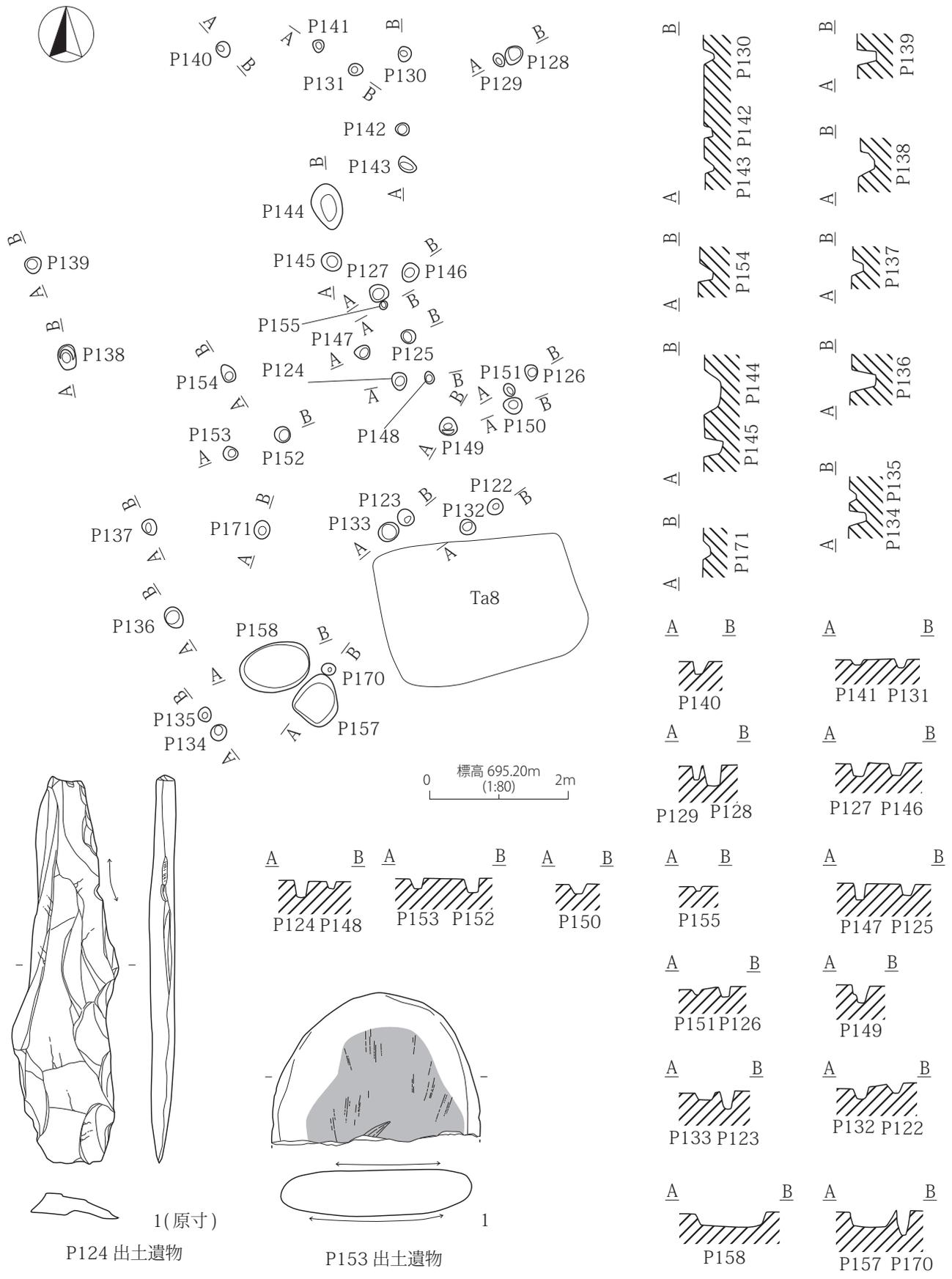
模的には小規模な竪穴建物であるが、複数の土坑やピットなどと組み合わせり複合遺構が形成されていたものと思われる。中世遺跡の常であるが遺物の出土量は多くはない。しかし、青磁片などの出土も見られることから、裕福な集落が成立していたように思われる。また、D42号土坑の様な大きな井戸が掘削されており、生活水を湯川からくみ上げるのではなく、段丘上で確保していたことも明らかとなった。时期的には15世紀を中心とした時期のものと思われる。大きく時を置かず村上正清により1484年町は焼き払われ消滅したと、文献には記されているが、焼失の痕跡は確認されていない。



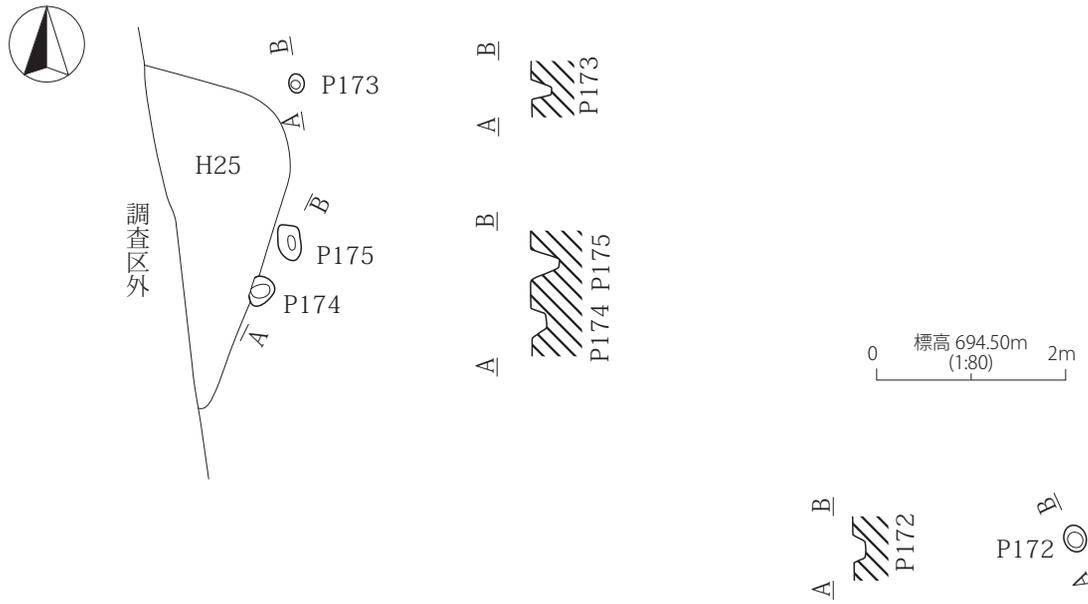
第125図 P112～120・156号ピット



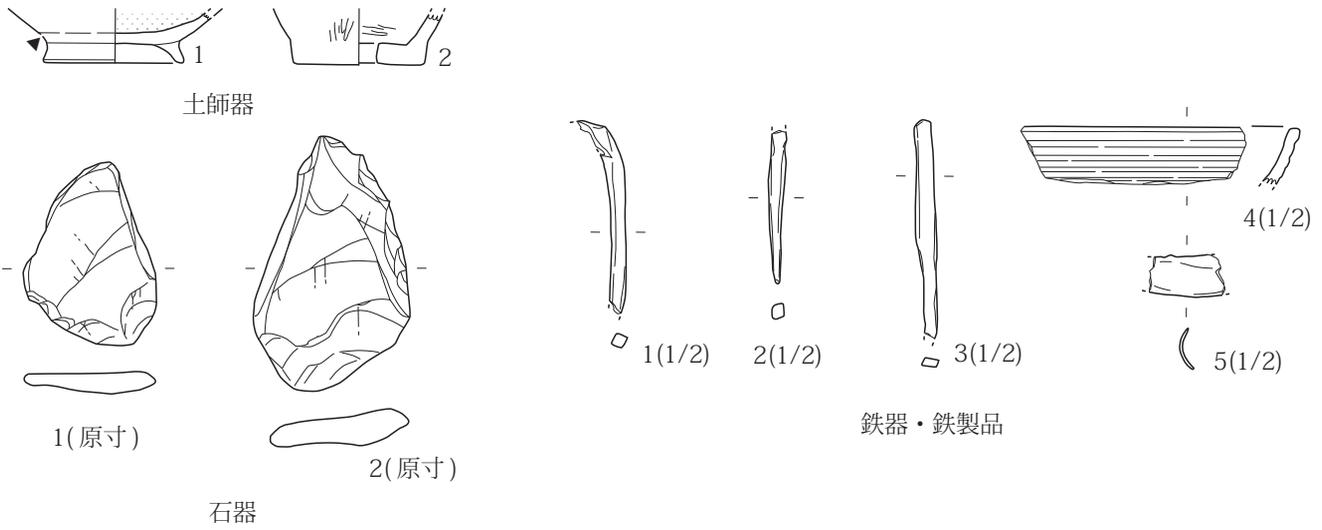
第126図 P121・176～181号ピット



第127図 P122～155・157・158・170・171号ピット



第128図 P172～175号ピット



第129図 遺構外出土遺物

引用・参考文献

富沢一明	1996年	長野県考古学会誌79	佐久平における古墳時代の土器編年試案
馬場伸一郎	2005年	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第127集	西一本柳遺跡X 第三章
小林真寿	2011年	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第185集	円正坊遺跡VIII
西山克己	2013年	シナノにおける古墳時代社会の発展から律令器への展望	
かみつけの里博物館	2015年	ゆくものくるもの	—北関東の後期弥生文化—
小山岳夫	2016年	専修考古学16号	前方後円墳未築造地域における弥生から古墳時代前期の集落
小林真寿	2019年	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書第260集	西一本柳遺跡XXII
小林真寿	2021年	佐久市文化財年報29	第2回特別展「腕輪の国」補足資料



第 130 図 西一本柳 X IV 全体図 (1 : 250)

竪穴建物 (H) 計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ピット	付属施設	備考	時期
H1	調査区外に延びる	—	—	—	0.17	—	1	—	—	5世紀後葉
H2	H23・P182・183に切られる	—	—	—	0.05	—	2	—	—	弥生時代中期後半栗林期
H3	調査区外に延びる	—	—	—	0.30	—	3	—	—	6世紀前半
H4	P12～16に切られ、調査区外に延びる	—	—	—	0.31	—	3	土坑	—	5世紀後葉
H5	Ta1、D43に切られる	N-7°-W	—	4.25	0.39	—	11	カマド、張出、周溝	—	5世紀後葉
H6	H29、D37、P38・40・45・46に切られ、調査区外に延びる	—	—	—	0.21	—	1	—	—	不明
H7	P49に切られる	N-128°-E	4.49	2.69	0.23	(10.38)	6	カマド	東南角付近に火床	5世紀後葉
H8	H13・15、D5、P48・58・59に切られる	(N-5°-W)	(7.56)	(5.39)	0.15	(36.61)	19	周溝	—	弥生時代中期後半栗林期
H9	H19、Ta8、P122～125・127・133・144～149・152～155・157・158・170・171に切られる	N-21°-W	7.56	4.89	0.20	(34.75)	10	炉、周溝	—	弥生時代中期後半栗林期
H10	D21・24・25・33に切られ、調査区外に延びる	—	—	—	0.12	—	16	炉	—	弥生時代中期後半栗林期
H11	P60に切られ、H20・21を切る	N-5°-W	7.87	7.74	0.53	50.64	10	カマド、周溝、貯蔵穴、出入口	—	6世紀中葉
H12	P54～57に切られ、H18を切る	N-1°-E	4.55	3.87	0.50	13.35	6	カマド、周溝、貯蔵穴	—	6世紀中葉
H13	P48・58に切られ、H8を切る	N-1°-E	4.32	3.94	0.25	13.50	3	カマド	カマド火床のみ	5世紀後葉
H14	調査区外に延びる、P50を切る	—	—	—	0.57	—	1	周溝、間仕切	—	6世紀中葉
H15	H13切られ、H8・16を切る	N-25°-W	6.58	6.33	0.65	34.25	15	カマド、周溝、出入口	—	5世紀後葉
H16	H15、D7、P52・53に切られ、H12を切る	N-60°-W	4.38	(3.13)	0.16	(11.10)	9	炉	—	弥生時代後期前半吉田期
H17	H8を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.61	—	5	周溝	—	中世
H18	H12・16、Ta7、P56・57に切られる	N-20°-W	6.14	(5.81)	0.45	(27.48)	8	カマド、周溝、貯蔵穴	—	5世紀後葉
H19	P124～129・131・142～151・155に切られ、H9を切る	N-10°-W	—	—	0.67	—	2	カマド、周溝	—	6世紀中葉
H20	H11、P156に切られる	N-9°-W	4.50	(4.24)	0.11	(16.75)	9	炉、出入口	—	弥生時代後期
H21	H11・22、D10～15に切られる	N-13°-E	4.96	(3.59)	0.19	(15.93)	7	—	—	弥生時代中期後半栗林期
H22	Ta11、P61・62・160・161に切られ、H21、D30・31を切る	N-21°-W	5.66	5.07	0.58	23.11	10	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	—	5世紀後葉
H23	F2に切られ、H2、P190を切る	N-9°-E	6.86	5.48	0.31	32.70	28	炉、出入口、土坑	—	弥生時代中期後半栗林期
H24	P63・166・186に切られる	N-2°-W	5.00	(4.53)	0.40	(18.04)	7	カマド、周溝、間仕切	—	5世紀後葉
H25	H27、P174を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.35	—	—	—	—	不明
H26	P172切られ、H28を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.45	—	—	—	—	弥生時代中期後半栗林期
H27	H25、Ta3、P174・175に切られ、調査区外に延びる	N-1°-W	—	—	0.55	—	3	カマド、周溝、間仕切	—	6世紀中葉
H28	H26、P172に切られ、調査区外に延びる	—	—	—	—	—	1	炉	—	弥生時代中期後半栗林期
H29	D18・37・38・46、P181に切られ、H6を切る	—	—	—	0.50	—	1	カマド	カマド軸のみ	不明

竪穴建物 (Ta) 計測表 (1)

遺構名	重複関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ピット	付属施設	備考	時期
Ta1	D6に切られ、H5、D43を切る	N-1°-W	(4.77)	(3.24)	0.22	(12.88)	12	東壁に石積	—	中世
Ta2	カクランに破壊される	N-80°-E	(4.08)	2.46	0.19	(7.58)	2	—	—	中世
Ta3	H27、Ta4、D19を切る	N-87°-W	3.36	2.74	0.40	6.17	—	—	—	中世
Ta4	Ta3、D16・17に切られる	N-84°-E	3.86	(3.55)	0.30	(10.81)	3	—	—	中世
Ta5	P177切られ、Ta13、D27・42を切り、調査区外に延びる	—	—	3.00	0.25	—	7	—	—	中世
Ta6	D36・41・42・44に切られ、調査区外に延びる	—	—	—	0.15	—	—	—	—	中世
Ta7	H18を切る	N-28°-E	4.38	(4.11)	0.35	(9.62)	—	—	—	中世
Ta8	H9を切る	N-78°-E	2.86	1.98	0.24	4.31	—	—	—	不明
Ta9	—	N-3°-E	2.96	2.91	0.16	6.87	—	—	—	不明

竪穴建物 (Ta) 計測表 (2)

遺構名	重複関係	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ピット	付属施設	備考	時期
Ta10	F2を切る	N-0°-E	3.67	3.02	0.30	8.29	2	-	-	中世
Ta11	H22、P184・188を切る	N-3°-W	2.83	2.25	0.09	5.46	2	-	-	中世
Ta12	D1、F33を切り、調査区外に延びる	-	-	-	0.36	-	-	-	-	不明
Ta13	Ta5、D23、P177に切られ、調査区外に延びる	-	-	-	0.24	-	2	-	-	不明

掘立柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長 (m)	梁間長 (m)	面積 (㎡)	柱径 (cm)	桁行柱間寸法 (m)	梁間柱間寸法 (m)	備考	時期
F1	-	N-3°-W	4.76	-	-	-	1.37 ~ 3.39	-	-	不明
F2	Ta10に切られ、H23を切る	N-0°-W	5.03	-	-	-	1.55 ~ 3.54	1.31 ~ 2.23	-	不明
F3	P176に切られる	N-9°-W	3.94	-	-	-	1.55 ~ 2.36	-	-	不明
F4	-	N-83°-W	3.95	3.02	11.69	-	1.72 ~ 2.23	-	-	不明

土坑計測表 (1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	備考	時期
D1	Ta12に切られ、H33を切る	-	-	-	-	0.31	-	-	不明
D2	調査区外に延びる	-	-	-	0.74	0.25	-	-	不明
D3	H3に切られ、調査区外に延びる	-	-	-	-	1.15	-	-	中世
D4	-	楕円	N-79°-E	2.6	0.11	0.29	5.68	-	弥生時代中期後半栗林期
D5	H8を切る	楕円	N-2°-W	1.40	1.04	0.60	2.95	-	不明
D6	Ta12に切られ、P33を切る	長方形	N-3°-E	1.97	1.33	0.26	4.35	-	不明
D7	H16を切る	長方形	N-12°-E	1.35	0.80	0.19	1.84	-	中世
D8	D9・47・48・49を切る	楕円	N-6°-E	1.61	1.49	0.79	5.02	-	不明
D9	D8に切られる	楕円	N-0°-W	1.66	1.14	0.75	1.13	-	不明
D10	H21を切る	楕円	N-86°-E	1.25	0.88	0.34	1.97	-	不明
D11	D12 ~ 15に切られ、H21を切る	-	-	-	-	0.35	-	-	不明
D12	H21、D11・13・14を切る	楕円	N-90°-E	2.31	1.48	1.31	7.30	-	不明
D13	D12に切られ、H21、D11・14を切る	-	-	-	-	0.32	-	-	不明
D14	D12・13・15に切られ、H21、D11を切る	-	-	-	-	0.63	-	-	不明
D15	H21、D11・14を切る	楕円	N-66°-E	0.98	0.74	1.02	2.18	-	不明
D16	Ta4、D17を切る	長方形	N-67°-E	1.64	1.16	0.75	4.71	-	不明
D17	D16に切られ、Ta4を切る	-	-	-	-	0.56	-	-	不明
D18	H29を切り、調査区外に延びる	楕円	N-87°-W	2.51	1.77	1.18	2.82	-	不明
D19	Ta3に切られる	楕円	N-4°-W	1.50	1.02	0.37	5.66	-	不明
D20	Ta4、D17を切る	楕円	N-88°-W	2.52	1.25	0.46	2.44	-	弥生時代中期後半栗林期
D21	H10、D24を切り、調査区外に延びる	-	-	-	-	0.52	-	-	弥生時代中期後半栗林期
D22	F3、P3に切られ、D46を切る	楕円	N-89°-W	1.83	0.76	0.87	6.77	-	不明
D23	P177に切られ、調査区外に延びる	-	-	-	-	0.42	-	-	中世
D24	D21に切られ、H10を切る	-	-	-	-	0.36	-	-	不明
D25	H10を切る	-	-	-	-	0.07	-	-	不明
D26	D42に切られる	-	-	-	-	0.81	-	-	不明

土坑計測表(2)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	備考	時期
D27	Ta5、D42に切られる	—	—	—	—	0.77	—	—	不明
D28	—	楕円	N-49°-E	1.21	0.66	0.22	3.13	—	弥生時代中期後半栗林期
D29	—	楕円	N-0°-E	0.95	0.81	0.22	4.37	—	不明
D30	H22に切られ、D31を切る	長方形	N-34°-E	0.83	0.65	0.60	1.32	—	不明
D31	H22、D30に切られる	—	—	—	—	0.25	—	—	不明
D32	—	長方形	N-89°-E	1.00	0.81	0.15	0.98	—	不明
D33	H10を切り、調査区外に延びる	—	(N-0°-W)	—	0.97	0.31	—	—	不明
D34	—	楕円	N-80°-E	1.17	0.79	0.29	0.37	—	不明
D35	調査区外に延びる	—	—	—	—	0.41	—	—	不明
D36	Ta6、D44を切る	長方形	N-86°-E	2.34	1.18	0.68	6.80	—	不明
D37	D38に切られ、H6・29を切る	—	—	—	—	0.17	—	—	不明
D38	H6・29、D37を切る	—	—	—	—	0.33	—	—	中世
D39	調査区外に延びる	—	—	—	—	0.83	—	—	不明
D40	H6、D45を切る	長方形	N-13°-W	1.73	0.94	0.46	0.98	—	中世
D41	Ta6を切り、調査区外に延びる	—	—	—	—	0.50	—	—	不明
D42	Ta5に切られ、Ta6、D26・27を切る	楕円	N-0°-W	3.98	3.83	(2.07)	—	井戸	中世
D43	Ta1に切られ、H5を切る	長方形	N-90°-W	2.78	2.23	0.76	1.81	—	不明
D44	D36に切られ、Ta6を切る	—	—	—	—	0.52	—	—	不明
D45	D40に切られ、H6を切る	—	—	—	—	0.34	—	—	不明
D46	D22、P180に切られ、H6・29を切る	—	—	—	1.00	0.58	—	—	不明
D47	D8に切られ、D48を切る	—	—	—	—	0.65	—	—	不明
D48	D8・47に切られD49、P185を切る	—	—	—	—	0.46	—	—	不明
D49	D8・47・48に切られる	—	—	—	—	0.25	—	—	不明

ピット計測表(1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P1	—	楕円形	0.25	0.22	0.21
P2	調査区外に延びる	楕円形	0.19	0.15	0.18
P3	—	楕円形	0.21	0.18	0.19
P4	—	楕円形	0.20	0.14	0.14
P5	—	円形	0.17	0.16	0.05
P6	—	円形	0.21	0.20	0.13
P7	—	楕円形	0.22	0.18	0.21
P8	—	円形	0.21	0.20	0.10
P9	—	楕円形	0.27	0.20	0.19
P10	—	楕円形	0.21	0.16	0.06
P11	—	楕円形	0.23	0.19	0.09
P12	H4を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.09
P13	H4を切る	楕円形	0.18	0.14	0.07
P14	H4を切る	楕円形	0.30	0.20	0.19
P15	H4を切る	楕円形	0.21	0.18	0.33
P16	H4を切り、調査区外に延びる	—	—	—	0.26

ピット計測表(2)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P17	—	円形	0.39	0.36	0.52
P18	—	円形	0.18	0.17	0.32
P19	—	楕円形	0.22	0.16	0.15
P20	—	円形	0.16	0.15	0.15
P21	—	楕円形	0.18	0.16	0.16
P22	—	円形	0.24	0.23	0.17
P23	—	楕円形	0.24	0.15	0.13
P24	調査区外に延びる	—	—	—	0.14
P25	—	楕円形	0.17	0.12	0.10
P26	—	楕円形	0.17	0.14	0.12
P27	—	楕円形	0.15	0.13	0.08
P28	—	楕円形	0.33	0.15	0.10
P29	—	楕円形	0.25	0.18	0.28
P30	調査区外に延びる	—	—	—	0.08
P31	—	楕円形	0.20	0.14	0.07
P32	—	楕円形	0.19	0.16	0.12

ピット計測表(3)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P33	Ta12、D1に切られる	円形	0.47	0.45	0.14
P34	Ta12に切られる	—	—	—	0.17
P35	調査区外に延びる	—	—	—	0.16
P36	—	楕円形	0.30	0.23	0.36
P37	—	楕円形	0.16	0.12	0.12
P38	—	円形	0.17	0.16	0.09
P39	—	円形	0.18	0.17	0.09
P40	—	楕円形	0.34	0.24	0.26
P41	—	楕円形	0.38	0.22	0.28
P42	—	円形	0.21	0.20	0.08
P43	—	円形	0.22	0.22	0.22
P44	—	楕円形	0.24	0.21	0.12
P45	—	楕円形	0.31	0.23	0.22
P46	—	楕円形	0.24	0.18	0.09
P47	Ta1を切る	楕円形	0.22	0.15	0.14
P48	H8・13を切る	楕円形	0.59	0.54	0.15
P49	H7を切る	円形	0.82	0.78	0.37
P50	H14に切られる	楕円形	0.31	0.21	0.46
P51	—	楕円形	0.97	0.81	0.24
P52	H16を切る	長方形	0.24	0.21	0.11
P53	H16を切る	長方形	0.22	0.21	0.13
P54	H12を切る	楕円形	0.22	0.20	0.19
P55	H12・18を切る	楕円形	0.24	0.19	0.23
P56	H12・18を切る	楕円形	0.38	0.32	0.17
P57	H12を切る	楕円形	1.02	0.97	0.20
P58	H8・13を切る	円形	0.25	0.25	0.38
P59	H8を切る	円形	0.83	0.78	1.14
P60	H11を切る	楕円形	0.31	0.27	0.44
P61	H22を切る	楕円形	0.44	0.41	0.48
P62	H22を切る	楕円形	0.32	0.25	0.54
P63	H24を切る	楕円形	0.70	0.55	0.51
P64	—	楕円形	0.26	0.23	0.23
P65	—	楕円形	0.26	0.21	0.12
P66	—	楕円形	0.67	0.61	0.14
P67	—	楕円形	0.34	0.26	0.15
P68	—	楕円形	0.54	0.30	0.47
P69	—	円形	0.26	0.25	0.32
P70	—	楕円形	0.23	0.20	0.15
P71	—	楕円形	0.37	0.32	0.27
P72	—	楕円形	0.31	0.23	0.42
P73	—	円形	0.21	0.20	0.19
P74	—	円形	0.32	0.31	0.28
P75	—	円形	0.28	0.26	0.21

ピット計測表(4)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P76	—	楕円形	0.38	0.30	0.17
P77	—	円形	0.47	0.44	0.34
P78	—	楕円形	0.33	0.29	0.20
P79	—	円形	0.25	0.25	0.13
P80	—	楕円形	0.32	0.29	0.13
P81	—	楕円形	0.38	0.33	0.31
P82	—	楕円形	0.26	0.20	0.27
P83	—	楕円形	0.24	0.18	0.08
P84	—	楕円形	0.30	0.26	0.29
P85	—	楕円形	0.23	0.19	0.13
P86	—	楕円形	0.22	0.20	0.16
P87	P105を切る	楕円形	0.37	0.34	0.37
P88	—	楕円形	0.23	0.17	0.17
P89	—	楕円形	0.30	0.22	0.17
P90	—	楕円形	0.31	0.28	0.19
P91	—	楕円形	0.26	0.19	0.12
P92	—	楕円形	0.23	0.20	0.13
P93	—	楕円形	0.18	0.15	0.13
P94	—	楕円形	0.47	0.25	0.20
P95	—	楕円形	0.32	0.28	0.14
P96	—	楕円形	0.44	0.39	0.24
P97	—	楕円形	0.31	0.26	0.18
P98	—	楕円形	0.31	0.27	0.27
P99	—	楕円形	0.31	0.24	0.28
P100	—	楕円形	0.26	0.23	0.23
P101	—	楕円形	0.38	0.33	0.32
P102	—	円形	0.74	0.69	0.40
P103	—	円形	0.44	0.41	0.31
P104	—	楕円形	0.34	0.27	0.12
P105	P87に切られる	—	—	—	0.23
P106	—	楕円形	0.24	0.19	0.11
P107	—	楕円形	0.25	0.20	0.07
P108	—	楕円形	0.22	0.18	0.06
P109	—	楕円形	1.02	0.71	0.15
P110	—	円形	1.05	0.97	0.43
P111	—	楕円形	0.25	0.17	0.22
P112	—	楕円形	0.27	0.24	0.44
P113	—	楕円形	0.22	0.16	0.10
P114	—	楕円形	0.25	0.21	0.31
P115	—	楕円形	0.29	0.22	0.35
P116	—	楕円形	0.30	0.26	0.46
P117	—	楕円形	0.37	0.29	0.26
P118	—	楕円形	0.34	0.27	0.24

ピット計測表 (5)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P119	—	楕円形	0.27	0.24	0.11
P120	—	楕円形	0.68	0.62	0.29
P121	—	楕円形	0.23	0.12	0.28
P122	H9 を切る	楕円形	0.24	0.22	0.13
P123	H9 を切る	楕円形	0.25	0.23	0.25
P124	H9・19 を切る	楕円形	0.26	0.22	0.28
P125	H9・19 を切る	楕円形	0.18	0.14	0.10
P126	H19 を切る	楕円形	0.23	0.18	0.14
P127	H9・19 を切る	楕円形	0.29	0.26	0.19
P128	H19 を切る	楕円形	0.29	0.24	0.29
P129	H19 を切る	楕円形	0.21	0.15	0.20
P130	—	楕円形	0.22	0.19	0.15
P131	H19 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.13
P132	H9 を切る	楕円形	0.24	0.22	0.17
P133	H9 を切る	楕円形	0.31	0.26	0.12
P134	—	楕円形	0.25	0.22	0.26
P135	—	楕円形	0.21	0.19	0.09
P136	—	楕円形	0.32	0.25	0.36
P137	—	楕円形	0.24	0.21	0.16
P138	—	楕円形	0.37	0.26	0.22
P139	—	楕円形	0.25	0.23	0.28
P140	—	楕円形	0.23	0.20	0.20
P141	—	楕円形	0.18	0.67	0.08
P142	H19 を切る	楕円形	0.20	0.18	0.15
P143	H19 を切る	楕円形	0.28	0.19	0.15
P144	H9・19 を切る	楕円形	0.67	0.44	0.26
P145	H9・19 を切る	楕円形	0.30	0.26	0.27
P146	H9・19 を切る	楕円形	0.28	0.24	0.19
P147	H9・19 を切る	楕円形	0.23	0.20	0.26
P148	H9・19 を切る	楕円形	0.18	0.14	0.11
P149	H9・19 を切る	楕円形	0.27	0.25	0.26
P150	H19 を切る	楕円形	0.27	0.23	0.14
P151	H19 を切る	楕円形	0.19	0.15	0.07
P152	H9 を切る	円形	0.23	0.23	0.22
P153	H9 を切る	楕円形	0.22	0.20	0.17
P154	H9 を切る	楕円形	0.28	0.19	0.22
P155	H9・19 を切る	楕円形	0.22	0.20	0.18
P156	H20 を切る	楕円形	0.26	0.21	0.10
P157	H9 を切る	楕円形	0.76	0.66	0.26
P158	H9 を切る	楕円形	1.03	0.70	0.21
P159	—	楕円形	0.21	0.17	0.12
P160	H22 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.09
P161	H22 を切る	円形	0.21	0.21	0.30

ピット計測表 (6)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P162	—	円形	0.26	0.24	0.37
P163	—	楕円形	0.35	0.31	0.19
P164	—	楕円形	0.30	0.26	0.41
P165	—	楕円形	0.19	0.17	0.09
P166	H24 を切る	楕円形	0.79	0.50	0.49
P167	—	楕円形	0.24	0.20	0.16
P168	—	楕円形	0.38	0.28	0.16
P169	—	楕円形	0.40	0.30	0.39
P170	H9 を切る	楕円形	0.21	0.17	0.18
P171	H9 を切る	楕円形	0.27	0.23	0.12
P172	H26・28 を切る	楕円形	0.28	0.23	0.14
P173	—	楕円形	0.20	0.16	0.20
P174	H25 に切られ、H27 を切る	楕円形	0.32	(0.22)	0.16
P175	H27 を切る	楕円形	0.40	0.25	0.32
P176	F3・P2 を切る	楕円形	0.51	0.42	0.41
P177	Ta5・13、D23 を切る	楕円形	1.10	0.44	0.38
P178	調査区外に延びる	—	—	—	0.46
P179	—	楕円形	0.55	0.47	0.24
P180	D49 を切る	楕円形	0.43	0.37	0.23
P181	H29 を切る	長方形	0.29	0.27	0.33
P182	H2 を切る	楕円形	0.28	0.21	0.27
P183	H2 を切る	円形	0.20	0.19	0.27
P184	Ta11 に切られる	楕円形	0.27	0.20	0.19
P185	D48 に切られる	—	—	—	0.10
P186	H24 を切る	楕円形	0.36	0.31	0.39
P187	—	楕円形	0.68	0.48	0.70
P188	Ta11 に切られる	楕円形	0.23	0.16	0.19
P189	—	楕円形	0.32	0.27	0.22
P190	H23 に切られる	—	—	—	0.18
P191	—	楕円形	0.34	0.30	0.30
P192	—	楕円形	0.25	0.22	0.34

H1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
1	土師器	坏	(13.4)	—	<6.2>	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	ナデ→ケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	坏	—	—	<3.7>	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	覆土
3	土師器	高坏	—	—	<3.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ハケメ→ミガキ	回転実測	覆土
4	土師器	甌	20.6	(6.0)	24.2	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土

H3号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
1	土師器	坏	(9.8)	(9.2)	<4.1>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ→ケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	壺	23.4	—	<23.4>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
3	弥生土器	壺	—	(5.0)	<5.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ハケメ→ミガキ	回転実測	覆土
4	弥生土器	壺	—	(8.6)	<1.8>	—	ナデ	ナデ	ナデ	剥落	回転実測	覆土
5	石器	編物石	11.2	7.5	3.6	343.0	縁辺に使用痕	—	—	—	完全実測	覆土
6	石器	編物石	11.7	6.5	3.0	277.0	挟りあり	—	—	—	完全実測	覆土
7	石器	編物石	12.6	7.2	2.5	316.5	—	—	—	—	完全実測	覆土
8	石器	磨石	8.8	5.3	2.6	232.5	全体に磨り	—	—	—	完全実測	覆土
9	石器	磨石	9.8	9.8	6.7	733.0	全体に磨り	—	—	—	完全実測	覆土
10	石器	磨石	<10.8>	<5.4>	<3.0>	<273.5>	下部欠損、全体に磨り	—	—	—	完全実測	覆土
11	石器	磨石	<12.4>	<9.9>	<4.5>	<625.0>	両側～裏面欠損	—	—	—	完全実測	覆土
12	石器	使用痕のある剥片	3.0	1.8	0.8	3.10	石材黒曜石、側辺に使用痕	—	—	—	完全実測	覆土

H4号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
1	土師器	甕	(24.3)	9.1	28.1	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	No1
2	須恵器	ハソウ	—	16.0	<11.5>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	ケン

H5号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
1	土師器	坏	10.0	10.3	6.5	—	ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ	完全実測	No3
2	土師器	坏	(12.0)	(12.6)	<4.9>	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	ケン
3	土師器	鉢	16.7	9.6	9.4	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1
4	土師器	甕	(14.6)	—	<8.6>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
5	土師器	甕	—	5.9	<4.6>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
6	陶器	こね鉢	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	破片ナデ	回転実測	覆土
7	陶器	碗	—	(6.6)	<1.5>	—	ナデ	ナデ	ナデ	破片ナデ	回転実測	覆土
8	石器	磨石	12.1	6.5	4.4	538.0	被熱有、全体に黒化、裏面欠損、全体に磨り	—	—	ナデ	完全実測	覆土
9	鉄製品	不明	12.4	0.5	0.6	<11.0>	一部欠損	—	—	ナデ	完全実測	覆土

H7号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.5	10.1	5.4	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	P49
2	土師器	坏	(13.0)	(13.2)	<4.0>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	カマド
3	土師器	坏	(13.2)	(9.6)	<5.4>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	カマド
4	土師器	坏	(13.2)	(10.0)	<5.0>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	覆土
5	土師器	高坏	(13.6)	—	<5.4>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土
6	石器	台石	<24.6>	<16.2>	<3.8>	<1985.0>	片側欠損、磨面2、裏面稜上に刻み状の条痕		完全実測	No1

H8号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	(9.8)	—	(8.8)	—	ナデ	口唇部刻目、櫛描籬状文(4本1連止)、櫛描波状文、ミガキ	回転実測	No6、I区、ケン
2	弥生土器	甕	(18.8)	7.5	(23.7)	—	ハケメ→ミガキ	口唇部細文(R(L2))、櫛描斜走文、櫛描籬状文(6本1連止)、ミガキ	完全実測	No3、4、II区、ケン
3	弥生土器	甕	(22.0)	—	<10.9>	—	ミガキ	口唇部細文(R(L2))、口縁部2本のヘラ描波状文、頸部下ヘラ描沈線文	回転実測	ケン、H13 IV区
4	弥生土器	甕	—	(9.8)	(11.4)	—	ハケメ	ミガキ、底部周縁ハケメ	回転実測	No2、3、H8P9
5	弥生土器	台付甕	(12.0)	—	<9.1>	—	ミガキ	口唇部細文(R(L2))、櫛描籬状文(7本1連止)、ヘラ描重三角文、凹形貼付文、ハケメ、ミガキ	回転実測	No6、I区、ケン
6	弥生土器	壺	(10.8)	(5.0)	10.0	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ所	回転実測	No6、I区
7	弥生土器	壺	(14.0)	—	<22.7>	—	ミガキ	口唇部細文(R(L2))、沈線文、縄文、ミガキ	完全実測	No2
8	弥生土器	壺	(15.0)	9.0	31.30	—	ハケメ→ミガキ	口唇部刻目、縄文(R(L2))、沈線文、ミガキ	完全実測	No7、ケン
9	弥生土器	壺	(16.4)	—	(36.6)	—	ハケメ	櫛描籬状文(7本1連止)、櫛描波状文、櫛描横線文、ミガキ、赤彩	回転実測	No1
10	弥生土器	壺	21.4	—	<29.2>	—	ハケメ→ミガキ	口唇部細文、波状沈線文、横走沈線文、縄文(R(L2))、ミガキ	回転実測	No5、H13 I区、H17
11	石器	砥石	9.9	3.60	1.80	130.00	砥面数4		完全実測	III区
12	石器	磨製石斧	16.0	7.4	4.3	840.00	正裏に敲打痕、正面条痕、二次利用?		完全実測	No9
13	石器	磨製石鏃	<1.40>	<1.70>	<0.15>	<0.50>	先端欠損、孔φ0.30		完全実測	III区
14	石器	磨製石鏃	<2.75>	<2.40>	<0.20>	<1.53>	先端及び基部欠損、孔φ0.35		完全実測	覆土
15	石器	磨製石鏃	<3.50>	<1.50>	<0.25>	<1.95>	基部欠損、孔φ(0.40)		完全実測	ケン
16	石器	磨・敲石	9.0	5.9	2.3	140.00	磨面2、両端部及び縁辺敲打痕		完全実測	II区
17	石器	磨・敲石	10.3	6.0	4.20	420.00	全体擦痕(端部顕著)、側~裏面敲打痕		完全実測	No8
18	石器	剥片	1.9	2.1	0.25	1.33		—	完全実測	III区
19	石器	剥片	2.2	1.4	0.2	0.73		—	完全実測	III区
20	石器	剥片	2.5	1.6	0.15	0.71		—	完全実測	I区
21	石器	剥片	4.8	3.3	0.4	9.91		—	完全実測	III区
22	石器	剥片	6.0	3.6	0.6	15.73	正裏に擦切痕有		完全実測	I区
23	鉄製品	不明	<5.8>	<0.5>	<0.5>	<4.60>	頭部欠損		完全実測	III区

H9号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	高坏	—	—	12.6	<5.2>	ナデ	ミガキ→赤彩	回転実測	ケン
2	弥生土器	甕	(13.8)	—	<10.5>	—	ミガキ	口唇部細文(LR)、口縁部櫛描波状文、頸部櫛描籬状文(4本)、体部櫛描波状文(縦方向)、ミガキ	回転実測	II区ホリ
3	弥生土器	甕	(17.4)	—	<12.8>	—	ハケメ、ミガキ	口唇部縄文無飾(R)、頸部櫛描籬状文(13本1連止)、体部櫛描斜走文	回転実測	II区、ケン
4	弥生土器	甕	(24.0)	7.3	31.4	—	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ミガキ、口唇部縄文(LR)、頸部櫛描籬状文(5本1連止)、体部櫛描波状文	回転実測	No1、3、III区、ケン
5	弥生土器	甕	—	8.7	<39.4>	—	ハケメ→ミガキ	頸部櫛描籬状文(1連止)、体部ハケメ→ミガキ、櫛描波状文	回転実測	No2、I、IV区
6	弥生土器	壺	(10.4)	—	<19.2>	—	ナデ、ミガキ	ハケメ→ミガキ、口唇と頸部縄文(LR)、ヘラ描沈線	回転実測	No2、I区ホリ、IV区

H9 号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
7	弥生土器	壺	12.1	—	<23.2>	—	ハケメ、ナデ	口唇部縄文(R)、口縁と頸部へラ描沈線、体部ミガキ	回転実測	No3、ホリ、ケン	
8	弥生土器	壺	(12.4)	—	<28.9>	—	ハケメ、ミガキ	ハケメ→ミガキ、口唇部刻み	回転実測	No1、Ta8ケン	
9	弥生土器	壺	—	—	<8.4>	—	ハケナデ	縄文(LR)、へラ描沈線	完全実測	ケン	
10	弥生土器	壺	—	5.0	<10.6>	—	ハケメ	ミガキ	回転実測	No2	
11	弥生土器	壺	—	—	<11.1>	—	ハケメ	ハケメ→ミガキ、へラ描による模様あり	回転実測	No2	
12	弥生土器	壺	—	—	<22.5>	—	ハケメ	ハケメ	回転実測	No2、I、IV区	
13	弥生土器	壺	—	—	—	—	ミガキ	ハケメ、口唇と口縁部縄文(LR)、へラ描沈線	破片実測、拓本	No1	
14	石製品	模造品の未成品	5.70	3.70	0.45	11.61	厚み及び糸織痕残	—	完全実測	II区ホリ	
15	石器	打製石鏃	1.85	1.30	0.30	0.72	黒曜石	—	完全実測	II区	
16	石器	打製石鏃	2.10	<1.00>	0.25	<0.51>	脚先端欠損、黒曜石	—	完全実測	III区	
17	石器	打製石鏃未成品	2.50	1.60	0.35	1.53	正裏中央に擦痕有	—	完全実測	II区	
18	石器	打製石鏃未成品	2.65	2.20	0.60	2.23	—	—	完全実測	II区	
19	石器	磨製石鏃未成品	5.60	2.60	0.30	6.41	—	—	完全実測	II区	
20	石器	石包丁未成品?	<6.80>	<4.90>	<1.00>	<38.49>	右側欠損、面取り状の磨面有	—	完全実測	II区	
21	石器	磨石	3.50	2.70	2.10	28.49	全体に磨り	—	完全実測	II区	
22	石器	磨石	<7.20>	<3.90>	<0.90>	<27.88>	周囲～裏面欠損、正面磨り	—	完全実測	II区	
23	石器	使用痕の有剥片	4.20	5.50	1.30	37.74	下部使用痕	—	完全実測	II区	
24	石器	二次加工の有剥片	9.10	6.10	1.00	96.73	縁辺に二次加工痕	—	完全実測	III区	
25	鉄製品	角釘	2.60	0.50	0.40	1.14	—	—	完全実測	II区	
26	鉄製品	不明	<3.30>	<1.00>	<0.50>	<4.73>	下部欠損	—	完全実測	ケン	

H10 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	弥生土器	高坏	(16.2)	—	<5.6>	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	回転実測	N区	
2	弥生土器	台付甕	10.4	6.5	13.5	—	ミガキ	柳描波状文、柳描波状文、ミガキ	完全実測	N区、ケン	
3	弥生土器	甕	—	(6.8)	<20.5>	—	ミガキ	柳描斜走文、ミガキ	回転実測	ケン	
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	縄文→柳描波状文、口唇部縄文(RL)	回転実測、拓本	N区	
5	弥生土器	壺	9.8	(6.6)	(22.9)	—	ミガキ	縄文(LR)、へラ描沈線	回転実測	N区	
6	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ	へラ描波状文、口唇部縄文(LR)	破片実測、拓本	ケン	
7	陶器	鉢	—	—	—	—	ナデ	ナデ	破片実測、拓本	覆土	
8	石器	砥石	<5.1>	<2.0>	<1.0>	<11.60>	上部欠損、砥面数3	—	完全実測	覆土	
9	石器	磨製石鏃	<2.3>	<2.45>	<0.25>	<1.46>	上部欠損、孔φ0.2-0.3	—	完全実測	P7	
10	石器	剥片	1.4	0.95	0.15	0.17	正面に摩擦有	—	完全実測	覆土	
11	石器	剥片	1.9	2.4	0.5	2.37	縁辺に磨面	—	完全実測	覆土	
12	石器	剥片	2.1	1.4	0.25	1.11	—	—	完全実測	覆土	
13	石器	剥片	2.4	1.45	0.15	0.50	側面に磨面	—	完全実測	ケン	
14	石器	剥片	3.7	2.6	0.25	2.30	—	—	完全実測	P7	
15	石器	剥片	3.8	2.5	0.4	4.92	—	—	完全実測	ケン	
16	石器	剥片	3.9	2.7	0.25	2.70	摩擦有	—	完全実測	覆土	
17	石器	剥片	4.6	2.1	0.45	6.20	打撃痕、摩擦部分有	—	完全実測	覆土	
18	石器	剥片	4.6	4.1	0.4	8.10	—	—	完全実測	P7	
19	石器	剥片	5.0	2.3	0.25	2.80	—	—	完全実測	P7	

H10 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
20	石器	剥片	5.0	2.6	0.7	14.67	打撃痕、摩滅部分有		完全実測	覆土
21	石器	剥片	5.7	4.8	0.5	14.00	—		完全実測	P7
22	石器	剥片	6.0	4.4	0.4	10.39	—		完全実測	覆土
23	石器	剥片	9.0	4.5	0.7	33.90	—		完全実測	P7

H11 号竪穴建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(10.2)	(10.1)	(4.1)	—	ミガキ→暗文	ナデ→ケズリ	回転実測	I区
2	土師器	北武蔵型坏	13.0	12.4	4.2	—	ナデ	ナデ→ケズリ	完全実測	カマド
3	土師器	坏	(13.4)	(12.4)	<3.7>	—	ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	Ⅲ・Ⅳ区
4	土師器	有段口縁坏	(13.0)	(12.0)	<3.5>	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
5	土師器	有段口縁坏	(14.0)	(12.3)	<3.6>	—	ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	No8、Ⅲ区
6	土師器	坏	(14.7)	6.0	5.2	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ→黒色処理	回転実測	No2・5
7	土師器	坏	(14.8)	(13.6)	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	I区
8	土師器	坏	(15.1)	11.5	7.4	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	Ⅳ区
9	土師器	坏	(15.4)	7.8	<4.1>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ→ケズリ	回転実測	Ⅱ区ホリ、Ⅳ区
10	土師器	坏	15.6	10.3	4.6	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ナデ	回転実測	I・Ⅳ区
11	土師器	坏	15.7	10.1	<4.5>	—	ナデ	ナデ	完全実測	No9、Ⅳ区
12	土師器	坏	15.8	12.9	4.7	—	ナデ	ケズリ→ナデ	完全実測	Ⅱ区、カマド
13	土師器	坏	—	(11.4)	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	Ⅳ区
14	土師器	鉢	(16.6)	—	<8.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド
15	土師器	鉢	(18.4)	—	<7.0>	—	ナデ、黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	No3、Ⅱ区、ケン
16	土師器	鉢	20.9	7.1	13.5	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	No2、Ⅳ区
17	土師器	鉢	21.2	9.4	(11.5)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	No6・14、カマド
18	土師器	鉢	(22.4)	(9.4)	<12.9>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区、I区ホリ、Ⅱ区、P4
19	土師器	甕	(15.0)	—	<10.7>	—	ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	No11、I、Ⅱ区
20	土師器	甕	(16.0)	—	<18.6>	—	ハケメ、ナデ	ハケメ	回転実測	No2、I区
21	土師器	甕	16.0	—	<21.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、4、ケン、カマド
22	土師器	甕	(16.0)	—	<24.2>	—	ナデ、ミガキ	ケズリ	回転実測	No8、Ⅳ区
23	土師器	甕	(19.6)	—	<10.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド
24	土師器	甕	(20.0)	—	<7.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区
25	土師器	甕	(20.0)	—	<17.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド、I区
26	土師器	甕	(21.0)	—	<11.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド
27	土師器	甕	(21.6)	—	<8.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No7、Ⅲ区
28	土師器	甕	(21.6)	—	<30.8>	—	ナデ	ハケメ、ケズリ	回転実測	I・Ⅱ区、カマド
29	土師器	甕	(23.0)	—	<8.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅳ区
30	土師器	甕	—	6.7	<9.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No9
31	土師器	甕	—	8.2	<5.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No10
32	土師器	壺	16.0	—	19.7	—	ナデ	ハケメ、ケズリ→ミガキ	回転実測	No1、Ⅳ区
33	弥生土器	壺	—	(9.6)	<16.8>	—	ハケメ	ハケメ	回転実測	I区ケン、H20Ⅳ区
34	弥生土器	壺	—	—	<10.7>	—	ハケメ	ハケメ、縄文(1R)、ヘラ描況線、ヘラ描波状文	回転実測	I区
35	土製品	丸玉	1.0	1.0	0.9	—	—	—	完全実測	Ⅱ区

H11 号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等						
36	土製品	丸玉	1.15	1.1	0.9	—	—	—	—	完全実測	I区	
37	土製品	人型土器	2.5	1.7	1.4	—	—	—	—	完全実測	II区	
38	石器	砥石	5.8	3.3	<2.1>	<23.6>	砥面数4、裏面剥落	—	—	完全実測	IV区	
39	石器	砥石	8.0	3.4	2.7	<122.9>	孔φ0.5、砥面数4、正裏に条痕	—	—	完全実測	No22	
40	石器	台石	<20.2>	<16.1>	<5.1>	<2700.00>	3辺欠損、使用面3、3面とも磨り顕著	—	—	完全実測	No16	
41	石器	台石	29.1	25.3	8.0	<8300.00>	使用面2	—	—	完全実測	No15	
42	石器	石鏃	1.8	<1.6>	0.2	<0.37>	黒曜石、脚先端欠損	—	—	完全実測	IV区	
43	石器	編物石	9.3	5.7	4.0	<175.70>	—	—	—	完全実測	No18	
44	石器	編物石	9.4	5.9	3.4	<238.00>	—	—	—	完全実測	No25	
45	石器	編物石	9.5	5.6	4.7	<291.00>	端部に使用痕	—	—	完全実測	No28	
46	石器	編物石	9.6	4.8	3.2	<231.50>	—	—	—	完全実測	IV区	
47	石器	編物石	9.7	5.1	2.8	<163.6>	抉り、使用痕有	—	—	完全実測	No27	
48	石器	編物石	9.8	5.6	3.7	<203.50>	抉り、使用痕有	—	—	完全実測	No24	
49	石器	編物石	10.0	4.4	4.0	<236.00>	縁辺に使用痕	—	—	完全実測	No20	
50	石器	編物石	10.2	5.7	4.3	<282.00>	端部に使用痕	—	—	完全実測	No19	
51	石器	編物石	10.3	5.3	4.0	<325.50>	—	—	—	完全実測	No21	
52	石器	編物石	10.8	5.1	4.0	<240.50>	—	—	—	完全実測	No29	
53	石器	編物石	10.9	5.6	3.5	<276.00>	—	—	—	完全実測	II区	
54	石器	編物石	10.9	6.5	4.0	<342.00>	—	—	—	完全実測	No23	
55	石器	編物石	11.2	5.2	3.3	<243.00>	—	—	—	完全実測	No31	
56	石器	編物石	11.6	5.4	4.3	<332.00>	端部に使用痕	—	—	完全実測	No26	
57	石器	編物石	11.9	6.0	3.2	<238.50>	使用痕有	—	—	完全実測	No30	
58	石器	磨石	3.0	2.8	2.4	<25.70>	全体に磨り	—	—	完全実測	II区	
59	石器	磨石	4.3	3.7	2.8	<47.40>	全体に磨り	—	—	完全実測	III区	
60	石器	磨石	<5.6>	<5.7>	<1.5>	<59.30>	被熱有、一部黒化、磨面1、裏面～下部欠損	—	—	完全実測	IV区	
61	石器	磨石	6.6	5.1	3.8	<42.10>	全体に磨り	—	—	完全実測	II区	
62	石器	磨石	<7.6>	<7.0>	<2.0>	<156.00>	被熱有、全体に黒化、磨面1、左側～下部欠損	—	—	完全実測	II区	
63	石器	磨石	<9.0>	<7.8>	<2.3>	<209.50>	磨面3、右側～下部欠損	—	—	完全実測	II区	
64	石器	磨石	14.1	8.2	5.5	<951.00>	磨面1	—	—	完全実測	No31	
65	石器	敲石	20.3	8.5	7.5	<1600.00>	両端部と縁辺に敲打痕	—	—	完全実測	No17	
66	石器	剥片	—	—	—	<0.14>	1片	—	—	未図化	I区	
67	石器	剥片	—	—	—	<0.39>	1片	—	—	未図化	ケン	
68	石器	剥片	—	—	—	<0.61>	3片	—	—	未図化	I区	
69	石器	剥片	—	—	—	<1.34>	3片	—	—	未図化	I区	
70	石器	剥片	—	—	—	<3.63>	2片	—	—	未図化	IV区	
71	石器	剥片	—	—	—	<7.84>	11片	—	—	未図化	ケン	
72	石器	剥片	5.2	3.5	0.5	<22.32>	他に4片、側面に打撃痕	—	—	完全実測	I区	
73	鉄製品	角軸	<3.2>	<0.3>	<0.2>	<0.61>	両端欠損	—	—	完全実測	No32	
74	鉄製品	角釘	<3.2>	<0.4>	<0.3>	<1.08>	先端欠損	—	—	完全実測	II区	
75	鉄製品	角軸	<4.5>	<0.8>	<0.3>	<2.41>	上部欠損	—	—	完全実測	I区	
76	鉄製品	角釘	<5.3>	<0.6>	<0.6>	<3.23>	頭部、先端欠損	—	—	完全実測	II区	
77	鉄滓	—	<7.4>	<0.5>	<0.4>	<3.31>	—	—	—	未図化	ケン	
			—	—	—	<10.47>	—	—	—	—	—	

H12号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.5)	6.0	6.1	-	暗文状へラミガキ	ケズリ→ナデ、ミガキ	回転実測	II区
2	土師器	坏	14.7	13.4	5.5	-	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド
3	土師器	坏	(16.0)	8.5	(4.7)	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	H18 II区
4	土師器	甗	14.4	6.2	20.5	-	ハケメ→ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	II区、カマド、ケン
5	土師器	甗	(19.3)	4.4	34.2	-	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、カマド
6	土師器	壺	6.9	7.3	6.6	-	ナデ、ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1、H11 III区
7	石器	磨石	<6.2>	<3.8>	<1.7>	<46.00>	下部欠損、磨面1		完全実測	III区
8	石器	磨石	10.2	6.2	2.9	243.00	一部黒化、磨面1		完全実測	IV区
9	石器	磨・敲石	10.2	8.1	2.7	297.00	磨り面1、縁辺に敲打痕		完全実測	IV区
10	石器	磨石	<10.3>	<5.3>	<0.9>	<82.00>	上部~裏面欠損、全体に磨り		完全実測	II区
11	石器	磨石	10.8	8.7	8.1	1102.00	全体に磨り		完全実測	III区
12	石器	磨・敲石	11.5	11.8	4.2	797.00	磨面1、縁辺に敲打痕		完全実測	III区
13	石器	剥片	4.1	2.9	0.3	6.00	擦痕有		完全実測	ケン
14	石器	石核	7.9	7.2	2.6	202.00	石核Aに剥片BとCが接合		完全実測	II区
15	石器	石核	8.1	6.3	1.5	80.81	礫面の残る石核(同一個体有接合しない)		完全実測	II区
16	鉄製品	角釘	<10.3>	<1.4>	<0.6>	<20.00>	片端欠損		完全実測	ケン

H13号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.0	11.4	6.1	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No1、I区
2	土師器	坏	13.2	10.1	5.8	-	暗文状へラミガキ	ケズリ→ナデ→ミガキ	回転実測	No11
3	土師器	鉢	13.5	11.8	11.5	-	ナデ	ケズリ	完全実測	II、III、IV区
4	土師器	鉢	(17.0)	(12.2)	(9.9)	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
5	土師器	甗	10.4	-	<10.2>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No4
6	土師器	甗	(11.7)	4.6	9.6	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No3、II、III区、H8ケン
7	土師器	甗	(25.6)	-	<9.6>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No9
8	土師器	甗	-	(6.2)	<9.5>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No8、10
9	土師器	壺	-	10.4	<4.5>	-	ハケメ	ケズリ	回転実測	No2
10	土師器	甗	-	-	<10.3>	-	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No7
11	土師器	甗	15.4	3.5	11.4	-	ナデ	ミガキ	完全実測	No5
12	弥生土器	台付甗	(14.2)	-	<13.0>	-	ミガキ	口唇部縄文、ミガキ、体部「口」字重文	完全実測	II区
13	土製品	カマドの支脚	8.1	7.1	10.1	-	-	-	完全実測	No6
14	土製品	カマドの支脚	8.9	-	<3.7>	-	-	-	完全実測	覆土
15	石器	編物石	10.7	4.7	3.7	258.83		-	完全実測	I区
16	石器	磨石	7.7	10.1	8.0	794.36	磨面3		完全実測	IV区
17	石器	磨石	8.3	5.2	2.2	125.24	磨面1		完全実測	IV区
18	石器	磨・敲石	<10.9>	<8.6>	<5.5>	<516.37>	磨面2、下部欠損、辺縁に敲打痕		完全実測	II区
19	石器	二次加工のある剥片	4.1	2.5	1.5	18.91		-	完全実測	I区
20	石器	剥片	2.1	2.4	0.2	1.27	擦痕有		完全実測	I区
21	石器	剥片	2.6	2.0	0.2	1.53	擦痕有		完全実測	IV区
22	石器	剥片	3.4	2.3	0.2	1.9	擦痕有		完全実測	覆土
23	石器	剥片	4.0	1.9	0.2	2.26	擦痕有		完全実測	IV区
24	石器	剥片	7.3	2.4	0.6	10.3	擦痕有		完全実測	IV区

H15号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等				
37	石器	編物石	15.6	5.0	—	4.2	423.00	—	—	完全実測 No16	
38	石器	編物石	15.7	5.5	—	3.8	424.00	使用痕有		完全実測 No6	
39	石器	編物石	15.7	9.6	—	4.2	607.00	正面剥離は使用痕?		完全実測 No5	
40	石器	編物石	15.8	7.1	—	3.4	459.00	両側抉り		完全実測 No21	
41	石器	編物石	16.1	6.5	—	4.7	615.00	—		完全実測 No10	
42	石器	磨石	6.6	3.4	—	0.6	18.50	正面全体磨り		完全実測 ケン	
43	石製品	石錘	6.5	5.7	—	3.2	58.3	正裏に条痕		完全実測 I区ホリ	
44	石器	剥片	2.7	1.8	—	0.3	2.42	擦痕有		完全実測 IV区	
45	石器	剥片	5.8	3.2	—	0.4	8.32	擦痕有		完全実測 IV区	
46	鉄器	刀子	<12.9>	<1.4>	—	<0.4>	<23.54>	茎部欠損、木質残		完全実測 No26	
47	鉄製品	不明	<2.5>	<1.2>	—	<0.2>	<1.34>	両端欠損		完全実測 No26	

H16号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等				
1	弥生土器	鉢	(15.8)	—	—	<7.2>	—	ミガキ→赤彩		回転実測	IV区
2	弥生土器	高坏	—	(9.2)	—	<6.7>	—	ナデ □唇部横描波状文、ミガキ→赤彩		回転実測	III区
3	弥生土器	甕	(16.4)	—	—	<14.7>	—	ミガキ □唇部ナデ→横描波状文、頸部横描波状文、体部ハケメ→横描波状文→ミガキ		回転実測	I~III区、ケン
4	弥生土器	甕	—	—	—	<6.6>	—	ケズリ		回転実測	II区、ケン
5	弥生土器	甕	—	—	—	<8.0>	—	ミガキ 横描波状文、ハケメ→ミガキ		回転実測	I・II・IV区、ケン
6	弥生土器	甕	(17.6)	—	—	<33.5>	—	□縁部ミガキ、体部ハケメ、ナデ □縁部横描波状文→ミガキ、頸部へラ描鋸歯文→へラ描鋸歯文→へラ描鋸歯文→へラ描鋸歯文、体部ミガキ		回転実測	No1
7	石器	磨製石鏃未成品	4.90	2.40	0.10	1.92	擦痕有			完全実測	III区
8	石器	磨製石鏃未成品	<4.90>	<2.30>	<0.10>	<1.53>	片側及び先端欠損、擦痕有			完全実測	III区
9	石器	磨製石鏃未成品	<9.90>	<5.50>	<4.30>	<278.00>	端部～裏面敲打痕、磨面1			完全実測	II区
10	石器	剥片	4.20	2.30	0.15	2.88	擦痕有			完全実測	I区
11	石器	剥片	4.30	3.80	0.45	7.83	—			完全実測	II区
12	石器	剥片	6.5	2.3	0.25	5.22	擦痕有			完全実測	II区

H17号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等				
1	鉄製品	環	<2.3>	<1.6>	<0.5>	<2.1>	約1/2欠損			完全実測	覆土

H18号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等				
1	土師器	坏	9.0	3.4	4.3	—	ナデ、摩耗	ナデ		完全実測	No13
2	土師器	坏	11.4	10.5	4.5	—	ミガキ	ケズリ、ナデ		回転実測	II区、H12 II区
3	土師器	坏	(13.2)	(11.4)	(5.4)	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ		回転実測	No7
4	土師器	坏	(13.8)	—	<4.1>	—	ミガキ	ミガキ		回転実測	D1
5	土師器	坏	(14.6)	(11.4)	(6.0)	—	暗文状へラミガキ	ナデ		回転実測	IV区
6	土師器	高坏	17.0	15.1	13.2	—	坏部暗文状へラミガキ	ナデ→暗文状へラミガキ		完全実測	カマド
7	土師器	高坏	—	12.8	<8.0>	—	ケズリ→ナデ	ミガキ		完全実測	No6
8	土師器	高坏	—	14.1	<5.9>	—	ケズリ→ナデ	ミガキ		完全実測	No12、II区、H12 II区

H18 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
9	土師器	高坏	—	14.4	<7.3>	—	坏部ミガキ、脚部ケズリ→ナデ	ミガキ	完全実測	No8		
10	土師器	鉢	(11.6)	—	<6.1>	—	ナデ	摩擦	回転実測	Ⅲ区		
11	土師器	鉢	(11.8)	—	<5.0>	—	ナデ	ハケメ→ケズリ	回転実測	D1		
12	土師器	鉢	(12.4)	(8.4)	(7.0)	—	ナデ	ナデ	回転実測	No4・7、Ⅱ区		
13	土師器	甕	15.0	6.5	19.0	—	ハケメ	ナデ→ハケメ	回転実測	No5、Ⅰ区、カマド		
14	土師器	甕	15.0	—	<12.0>	—	ミガキ	ナデ→ミガキ	完全実測	Ⅳ区、カマド		
15	土師器	甕	(30.1)	10.3	29.6	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No4・8・9、カマド、Ⅱ・Ⅳ区		
16	土師器	壺	11.6	—	<11.0>	—	口縁部ミガキ	ミガキ	回転実測	No10・11、D1		
17	土師器	壺	16.3	—	<11.9>	—	ハケメ→ナデ、口縁赤彩	ハケメ→ナデ、口縁赤彩	回転実測	No2、Ⅰ区		
18	土師器	甕	—	5.8	<7.3>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	カマド		
19	土師器	甕	(15.2)	(5.2)	(18.8)	—	ハケメ→ナデ	口縁部ナデ、胴部ハケメ→ナデ	回転実測	No1		
20	土師器	甕	(24.2)	(7.0)	(17.4)	—	上部ハケメ、下部ナデ	ハケメ	回転実測	カマド		
21	土師器	甕	(25.2)	—	<25.4>	—	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区、Ⅳ区ホリ		
22	石器	砥石	<11.1>	<12.3>	<5.7>	<968.2>	上下欠損、正面に条痕、砥面数3		完全実測	No22		
23	石器	台石	29.0	25.7	8.7	8200.00	使用面1		完全実測	No17		
24	石器	台石	30.2	20.3	5.6	5900.0	使用面1		完全実測	No21		
25	石器	打製石斧	<4.9>	<5.6>	<2.0>	<55.06>	両端と側面に敲打痕、磨面1		完全実測	Ⅰ区		
26	石器	磨製石鏃	<1.65>	<2.30>	<0.25>	<1.04>	孔φ0.25～0.50、基部残存、未成品?		完全実測	Ⅲ区		
27	石器	磨・敲石	9.0	5.9	3.6	250.80	両端と側面に敲打痕、磨面1		完全実測	Ⅰ区		
28	石器	磨・敲石	10.0	8.0	5.7	610.80	端部に敲打痕、磨面1		完全実測	No16		
29	石器	敲石	16.9	7.1	6.2	1300.00	両端部と側面に敲打痕		完全実測	No15		
30	鉄製品	不明	2.9	0.9	0.25	2.10	両端欠損		完全実測	No24		

H19 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	12.3	17.7	5.6	—	ハケメ→ミガキ	ケズリ	回転実測		No1、Ⅳ区	
2	土師器	坏	(14.6)	(14.0)	4.9	—	ナデ	ケズリ、木葉痕	回転実測	拓本	Ⅱ・Ⅳ区	
3	土師器	坏	(14.8)	(13.2)	<4.2>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測		Ⅲ区、ケン	
4	土師器	坏	(15.0)	(13.4)	<4.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		Ⅲ区	
5	土師器	坏	(15.6)	(15.4)	<5.7>	—	黒色処理	ケズリ	回転実測		Ⅳ区	
6	土師器	甕	(18.4)	—	<10.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		Ⅲ区	
7	須恵器	甕	(10.4)	—	<2.3>	—	ナデ	口縁部縞描波状文	回転実測	拓本	Ⅰ区、ケン	
8	弥生土器	甕	—	5.7	<7.7>	—	ハケメ→ミガキ、赤彩付着	縞描斜走文、ミガキ、赤彩付着	回転実測		No2、Ⅲ区	
9	石器	石鏃	1.80	1.60	0.20	0.57	孔φ0.20～0.40、再成品か?		完全実測		ケン	
10	石器	石鏃未成品	2.55	2.10	0.25	1.79	側面に磨面、正裏に擦痕有り		完全実測		覆土	
11	石器	剥片	2.15	1.30	0.20	0.92	—		完全実測		Ⅲ区	
12	石器	剥片	2.90	1.20	0.15	1.14	擦痕有り		完全実測		Ⅰ区	
13	石器	剥片	3.14	2.40	0.30	3.62	擦痕有り		完全実測		Ⅱ区	
14	石器	剥片	3.55	1.85	0.35	2.97	擦痕有り		完全実測		覆土	

H20 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	-	6.0	<3.2>	-	ハケメ	ハケメ→ミガキ	回転実測	No1
2	弥生土器	台付甕	-	-	<11.7>	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ケズリ→ミガキ	回転実測	No2
3	弥生土器	ミニチュア土器	3.2	3.4	5.4	-	ナデ	ミガキ	完全実測	No3

H21 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	台付甕	-	(6.6)	<6.9>	-	脚部ナデ、体部ミガキ	ミガキ	回転実測	II区
2	弥生土器	台付甕	-	-	<3.5>	-	ミガキ、赤色顔料付着	ミガキ	完全実測	I区ホリ
3	弥生土器	壺	-	-	-	-	ミガキ	口唇部~口縁縄文(LR)、ヘラ描波状沈線、ハケメ	破片実測、拓本	I区
4	弥生土器	壺	-	-	-	-	ミガキ	口唇部刻目	破片実測、拓本	IV区
5	弥生土器	壺	-	-	-	-	ミガキ→赤彩	櫛描波状文、円形貼付文、ミガキ→赤彩	破片実測、拓本	IV区
6	石器	砥石	8.1	3.8	1.9	92.43	正面及び左側に条痕、砥面数4	-	完全実測	IV区
7	石器	凹石	8.0	8.4	5.2	114.09	正裏に複数の凹、凹φ 0.7 ~ 1.5、凹深 0.2 ~ 1.0	-	完全実測	IV区
8	石器	剥片	3.7	1.8	0.2	1.97	-	-	完全実測	IV区
9	石器	剥片	6.5	4.0	0.4	13.85	直線的分割?	-	完全実測	III区
10	鉄器	長頸鎌	<15.2>	0.7	0.5	<15.71>	先端欠損	-	完全実測	IV区
11	鉄製品	角釘	<4.1>	<0.5>	<0.5>	<1.99>	両端欠損	-	完全実測	IV区
12	鉄製品	角釘	<4.8>	0.3	0.4	<2.56>	先端欠損	-	完全実測	IV区
13	鉄製品	角釘	6.2	0.7	0.5	3.05	先端欠損	-	完全実測	III区
14	鉄製品	角釘	<6.5>	0.9	0.5	<6.22>	先端欠損	-	完全実測	IV区
15	鉄製品	角釘	<7.0>	1.2	0.7	<10.59>	先端欠損	-	完全実測	III区
16	鉄製品	不明	<4.2>	<0.4>	<0.3>	<2.34>	両端欠損	-	完全実測	IV区
17	鉄製品	不明	<5.6>	<0.5>	<0.2>	<3.02>	両端欠損	-	完全実測	IV区

H22 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.2)	(11.8)	<4.5>	-	暗文状ヘラミガキ	ケズリ	回転実測	II区
2	土師器	坏	(15.6)	-	(7.5)	-	口縁部ミガキ、体部暗文状ヘラミガキ	ミガキ	回転実測	III区
3	土師器	坏	-	-	<3.1>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	I区
4	土師器	高坏	(16.0)	-	<6.9>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	IV区
5	土師器	高坏	-	(14.4)	<1.6>	-	ナデ	ミガキ	回転実測	III区
6	土師器	高坏	-	(16.0)	<1.9>	-	ナデ	ミガキ	回転実測	カマド
7	土師器	高坏	-	-	<6.9>	-	摩耗	上部ミガキ、下部ハケメ	回転実測	III区
8	土師器	甕	(11.9)	-	<10.1>	-	ナデ	ナデ	回転実測	I区、カマド
9	土師器	甕	(12.4)	-	<9.3>	-	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	IV区、ケン
10	土師器	甕	(14.4)	(6.8)	<14.4>	-	ナデ→ミガキ	ハケメ、ケズリ、ミガキ	回転実測	I区、カマド
11	土師器	甕	(16.6)	(4.2)	<28.3>	-	ハケメ	ケズリ	回転実測	I・III区、カマド、カマドホリ
12	土師器	甕	-	5.6	<5.5>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	III区
13	土師器	壺	-	-	<4.9>	-	ミガキ	ナデ	回転実測	カマド
14	須恵器	甗	-	-	-	-	ナデ	破片実測、拓本	ケン	
15	須恵器	甗	-	-	-	-	ナデ	櫛状工具による刺突	破片実測、拓本	ケン

H22号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
16	縄文土器	鉢	—	—	—	—	—	波状口縁、沈線文、後期	破片実測、拓本	I区ホリ	
17	石器	砥石	<4.6>	<3.2>	<0.6>	<15.0>	φ 0.5、下部欠損、砥面数5		完全実測	Ⅲ区	
18	石製品	有孔円盤	2.60	3.45	0.55	7.15	2孔共φ 0.3		完全実測	Ⅲ区	
19	石製品	剣形	<4.9>	<1.8>	<0.55>	<6.83>	2孔共φ 0.2、一部欠損		完全実測	Ⅲ区	
20	石製品	剣形	5.00	1.80	0.35	5.09	2孔共φ 0.2		完全実測	Ⅳ区	
21	石器	石鏃	<2.10>	<1.30>	<0.35>	<0.81>	先端、片脚欠損		完全実測	Ⅳ区	
22	石製品	白玉	0.50	0.50	0.20	0.07	φ 0.2		完全実測	Ⅱ区	
23	石製品	白玉	0.50	0.50	0.30	0.16	φ 0.2		完全実測	Ⅱ区	
24	石器	編物石	10.40	4.60	3.40	248.05	辺縁に使用痕		完全実測	Ⅱ区	
25	石器	磨石	6.20	5.60	1.10	53.79	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区	
26	石器	磨石	12.10	9.10	5.70	708.47	磨面3		完全実測	No1	
27	石器	剥片	2.90	2.00	0.40	2.49		—	完全実測	Ⅲ区	
28	石器	使用痕のある剥片	5.10	4.70	1.30	32.02	側縁に使用痕		完全実測	Ⅳ区	
29	鉄器	鎌	13.00	3.30	0.50	69.91		—	完全実測	No2	
30	鉄製品	不明	<5.9>	<3.1>	<0.6>	<23.95>	両端欠損		完全実測	Ⅳ区	

H23号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	14.0	13.8	5.5	—	暗文状へらミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区	
2	弥生土器	鉢	(19.4)	—	<6.2>	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	回転実測	P9	
3	弥生土器	甕	—	6.6	<6.3>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅲ区	
4	弥生土器	甕	—	6.8	<4.1>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅳ区	
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	口唇部と口縁部縄文、口縁部にへら描波状文	破片実測、拓本	Ⅱ区	
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	I、Ⅱ区	
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描籬状文(6本1連止)、櫛描波状文	破片実測、拓本	Ⅱ区ホリ	
8	弥生土器	壺	(17.8)	—	<22.3>	—	口縁部ミガキ→赤彩、体部ハケメ→ナデ	櫛描横線文(5本)、櫛描波状文、赤彩	完全実測	Ⅲ、Ⅳ区	
9	弥生土器	壺	(18.2)	—	<3.9>	—	赤彩	ナデ	回転実測	Ⅲ区	
10	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ	へら描横線文、鋸歯文内に斜位の櫛描充填	破片実測、拓本	Ⅲ区	
11	弥生土器	壺	—	—	—	—	剥離	へら描平行沈線(4本)下に櫛描横線文	破片実測、拓本	Ⅱ区	
12	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ	櫛描横線文、へら描鋸歯文内に斜位の櫛描	破片実測、拓本	Ⅲ、Ⅳ区	
13	石器	台石	<17.4>	<12.7>	<5.2>	<1382.0>	右側欠損、使用面1		完全実測	Ⅱ区	
14	石器	石鏃	19.60	13.40	1.90	579.0	正面に自然面、刃部に摩擦痕		完全実測	No2	
15	石製品	砥石(石剣?)	<7.2>	<3.5>	<1.3>	<37.0>	上部欠損、鏃あり		完全実測	Ⅳ区	
16	石器	磨石	<7.9>	<5.7>	<1.8>	<111.0>	下部欠損、擦面1		完全実測	Ⅱ区	
17	石器	磨石	8.4	5.5	1.4	88.0	擦面1、縁辺に敲打痕		完全実測	Ⅳ区	
18	石器	磨石	10.70	4.50	1.90	99.00	擦面1、縁辺に敲打痕		完全実測	Ⅱ区	
19	石器	磨製石鏃(未成品)	2.20	2.20	0.20	126.00	高側、正裏に擦痕		完全実測	Ⅲ区	
20	石器	磨製石鏃(未成品)	<2.25>	<1.10>	<0.15>	<0.47>	片脚欠損		完全実測	Ⅳ区	
21	石器	磨製石鏃	<2.40>	2.20	0.25	<1.67>	φ 0.2 ~ 0.4、先端欠損		完全実測	Ⅲ区	
22	石器	磨製石鏃	<2.45>	<1.40>	<0.20>	<1.05>	φ 0.1 ~ 0.35、基部欠損		完全実測	Ⅲ区	
23	石器	磨製石鏃(未成品)	2.85	1.70	0.20	0.94	穿孔あり、φ 0.35		完全実測	Ⅱ区	
24	石器	磨製石鏃(未成品)	3.50	2.40	0.30	2.53		—	完全実測	Ⅰ区	

H23号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		内面	外形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等					
25	石器	剥片	1.20	0.90	0.15	0.18			完全実測	Ⅱ区	
26	石器	剥片	1.20	1.05	0.20	0.71	他に1片、正面に擦痕		未図化	ケン	
27	石器	剥片	1.50	0.95	0.15	0.20	正面と両側に擦痕		完全実測	Ⅳ区	
28	石器	剥片	1.95	1.90	0.10	0.64	左側に擦痕		完全実測	Ⅲ区	
29	石器	剥片	2.00	0.75	0.10	0.16	他に3片		未図化	Ⅲ区	
30	石器	剥片	2.10	3.00	0.35	2.05			完全実測	Ⅲ区	
31	石器	剥片	2.30	1.30	0.15	0.80	正裏に擦痕		完全実測	Ⅳ区	
32	石器	剥片	2.40	1.10	0.20	0.59	他に1片、正面に擦痕		未図化	Ⅳ区ホリ	
33	石器	剥片	2.50	2.05	0.25	1.65			完全実測	Ⅳ区	
34	石器	剥片	2.60	1.80	0.30	1.31			完全実測	Ⅱ区	
35	石器	剥片	2.65	2.05	0.20	1.96	右側と下側に磨り切り痕		完全実測	Ⅳ区	
36	石器	剥片	2.70	2.70	0.35	2.56	正面に磨減		完全実測	Ⅲ区	
37	石器	剥片	2.85	0.80	0.25	0.69	両側に擦痕		完全実測	P9	
38	石器	剥片	2.85	1.90	0.25	1.47			完全実測	Ⅱ区	
39	石器	剥片	3.00	2.30	0.25	2.10			完全実測	Ⅳ区	
40	石器	剥片	3.05	1.70	0.20	1.02			完全実測	Ⅰ区	
41	石器	剥片	3.15	1.50	0.20	1.40			完全実測	Ⅳ区	
42	石器	剥片	3.15	3.40	0.25	4.00			完全実測	Ⅳ区	
43	石器	剥片	3.20	1.30	0.35	2.11			完全実測	Ⅰ区	
44	石器	剥片	3.20	1.55	0.20	1.09			完全実測	Ⅳ区	
45	石器	剥片	3.30	2.15	0.25	2.11			完全実測	Ⅰ区	
46	石器	剥片	3.35	2.10	0.35	3.34	正面に磨減		完全実測	Ⅲ区	
47	石器	剥片	3.40	2.20	0.25	1.90			完全実測	Ⅳ区	
48	石器	剥片	3.50	1.90	0.25	1.56			完全実測	Ⅳ区	
49	石器	剥片	3.55	1.95	0.25	1.73	自然面残る		完全実測	Ⅱ区	
50	石器	剥片	3.65	2.30	0.35	3.00			完全実測	Ⅳ区	
51	石器	剥片	3.65	2.35	0.35	2.71			完全実測	Ⅳ区	
52	石器	剥片	3.70	1.90	0.40	2.82			完全実測	Ⅲ区	
53	石器	剥片	3.85	1.90	0.50	4.78			完全実測	Ⅳ区	
54	石器	剥片	4.00	1.80	0.20	2.45			完全実測	Ⅳ区	
55	石器	剥片	4.30	1.65	0.25	2.87			完全実測	Ⅳ区	
56	石器	剥片	4.60	1.80	0.45	4.44			完全実測	Ⅳ区	
57	石器	剥片	4.70	1.85	0.25	2.22	正裏と側面に擦痕		完全実測	Ⅳ区	
58	石器	剥片	4.70	1.90	0.35	3.95			完全実測	Ⅳ区	
59	石器	剥片	4.85	1.70	0.30	3.10	正面に擦痕		完全実測	Ⅳ区	
60	石器	剥片	5.30	2.10	0.60	6.33			完全実測	Ⅳ区	
61	石器	剥片	5.90	1.40	0.50	4.08	側縁に使用痕		完全実測	Ⅲ区	
62	石器	剥片	8.40	1.40	0.35	5.33	正裏に擦痕		完全実測	Ⅲ区	
63	石器	剥片	—	—	—	<24.49>	30片		未図化	Ⅳ区	
64	石器	剥片	—	—	—	0.81	1片		未図化	Ⅲ区	
65	石器	剥片	—	—	—	0.17			未図化	Ⅱ区ホリ	
66	石器	剥片	—	—	—	<19.86>	8片		未図化	Ⅲ区	
67	石器	剥片	—	—	—	<12.03>	19片		未図化	Ⅳ区	

H23号竪穴建物出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
68	石器	剥片	—	—	—	<4.67>	6片				未図化	II区
69	石器	剥片	—	—	—	<1.66>	2片				未図化	I区
70	石器	不明	9.70	3.2	2.60	116.0	両端部に剥離痕、全体に条痕、擦痕あり				完全実測	No1
71	鉄製品	鉄鍋	<3.4>	<4.0>	<0.3>	<12.90>	口縁一部残存				完全実測	ケン

H24号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
1	土師器	坏	11.2	—	5.2	—	ミガキ			ナデ→ケズリ	回転実測	II区
2	土師器	高坏	—	—	<7.3>	—	ナデ			ミガキ	回転実測	II区
3	土師器	鉢	(18.0)	—	<7.2>	—	ナデ			ケズリ	回転実測	No4、II区
4	土師器	鉢	(21.0)	—	<8.9>	—	ナデ			ケズリ	回転実測	III、IV区
5	土師器	甕	(17.0)	—	<14.8>	—	ナデ			ケズリ	回転実測	No2
6	土師器	甕	—	—	<15.0>	—	ナデ			ナデ?	回転実測	No1
7	土師器	壺	(18.6)	—	<5.1>	—	ナデ			ナデ	回転実測	I区、ケン、P6
8	土師器	壺	—	6.4	<3.5>	—	ナデ			ケズリ	回転実測	No3
9	石器	石鏃(未成品)	2.8	2.3	0.75	4.44				—	完全実測	ケン
10	石器	編物石	<12.6>	<7.9>	<4.6>	<745.47>	下部欠損、使用痕あり				完全実測	II区ホリ
11	石器	編物石	13.1	6.0	3.7	424.57	他に1片				未図化	IV区
12	石器	編物石	13.1	8.5	2.7	493.83				—	完全実測	P6
13	石器	編物石	<13.7>	<6.3>	<4.2>	<470.17>	下部欠損、使用痕あり				完全実測	II区ホリ
14	石器	編物石	13.7	6.5	4.6	545.23	使用痕あり				完全実測	ケン
15	石器	編物石	13.7	7.3	6.6	927.68	使用痕あり				完全実測	II区ホリ
16	石器	編物石	13.8	7.2	7.2	766.08				—	完全実測	No15
17	石器	編物石	14.5	6.5	3.3	397.92	挟りあり				完全実測	No11
18	石器	編物石	14.8	8.2	4.9	677.72	挟りあり				完全実測	No7
19	石器	編物石	15.4	7.2	5.3	803.84				—	完全実測	No24
20	石器	編物石	16.1	7.7	4.8	783.59	端部に使用痕あり				完全実測	No20
21	石器	編物石	16.2	7.8	5.3	964.03				—	完全実測	No13
22	石器	編物石	16.3	6.7	3.6	627.38				—	完全実測	No5
23	石器	編物石	16.5	7.3	4.4	842.90	使用痕あり				完全実測	No18
24	石器	編物石	16.6	7.3	4.8	773.92				—	完全実測	No25
25	石器	編物石	16.6	8.4	4.0	849.83	挟りあり				完全実測	No14
26	石器	編物石	16.9	6.5	4.8	687.72	挟りあり				完全実測	II区ホリ
27	石器	編物石	17.1	8.2	4.0	837.80	高側に挟りあり				完全実測	II区ホリ
28	石器	編物石	17.4	7.5	4.2	637.36	使用痕あり				完全実測	No10
29	石器	編物石	17.6	9.0	5.3	950.20	挟りあり				完全実測	No21
30	石器	編物石	17.9	7.3	4.4	745.56	使用痕あり				完全実測	No9
31	石器	磨石	14.3	11.6	10.5	1510.00	磨面1				完全実測	No12
32	石器	敲石	7.4	8.0	6.4	417.00	端部に敲打痕				完全実測	No23
33	石器	剥片	4.0	1.65	0.35	2.69				—	完全実測	I区

H25号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	—	—	—	—	—	ケズリ	破片実測	—	覆土	
2	土師器	甕	(22.8)	—	—	<5.7>	ナデ	ケズリ	回転実測	—	覆土	
3	土師器	壺	(28.4)	—	—	<13.6>	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	—	覆土	

H26号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	—	—	(7.4)	<2.4>	ナデ	ハケメ	回転実測、拓本	—	覆土	
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	口唇部刻目、頸部下櫛描斜走文	破片実測、拓本	—	覆土	
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	口縁部、頸部下櫛描波状文	破片実測、拓本	—	覆土	
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	口唇部、口縁部縄文、頸部下櫛描波状文	破片実測、拓本	—	覆土	
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	—	覆土	

H27号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	—	10.8	—	(2.0)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	—	IV区	
2	須恵器	蓋	—	—	—	(3.4)	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	破片実測	—	I、II区	
3	土師器	甕	(15.4)	—	—	(13.6)	ナデ	ケズリ	回転実測	—	IV区	
4	土師器	甕	(16.2)	—	—	(6.3)	ナデ	ミガキ	回転実測	—	II区	
5	土師器	甕	(20.2)	—	—	(11.5)	ハケメ	ハケメ→ミガキ	回転実測	—	Ⅲ、IV区、IV区ホリ	
6	土師器	甕	—	(5.4)	—	(10.7)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	—	IV区	
7	土師器	甕	—	(6.2)	—	(16.0)	ナデ	ケズリ	回転実測	—	I区ホリ	
8	土師器	甕	—	—	—	(25.3)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	—	II区、カマド	
9	弥生土器	高環	(10.8)	—	—	(6.7)	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、突起×4	回転実測	—	Ⅲ区	
10	弥生土器	台付甕	—	(8.6)	—	(5.0)	ミガキ、ハケメ	ハケメ	回転実測	—	II区	
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描斜走文	破片実測、拓本	—	IV区	
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	ハケメ→櫛描波状文	破片実測、拓本	—	I区	
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	縄文LR	破片実測、拓本	—	ケン	
14	石器	砥石	<7.9>	<5.5>	—	<3.1>	<148.6>	下部欠損、敲打痕あり、砥面数1	完全実測	—	P3	
15	石器	砥石	<19.1>	<18.9>	—	<4.3>	<2160.0>	破熱あり?、一部黒化、側面～裏面欠損、砥面数2	完全実測	—	II区	
16	石器	凹石	<11.5>	<8.7>	—	<6.7>	<176.9>	約1/2欠損	完全実測	—	I区	
17	石器	打製石斧?	<8.6>	<5.7>	—	<2.6>	<143.3>	下部欠損	完全実測	—	P1	
18	石器	石鏃	2.3	1.5	—	0.3	0.8	黒曜石、正裏に着柄痕あり	完全実測	—	I区	
19	石器	編物石	<8.0>	<6.0>	—	<3.4>	<183.5>	一部欠損	完全実測	—	覆土	
20	石器	編物石	8.1	5.8	—	3.6	272.0	使用痕あり	完全実測	—	IV区ホリ	
21	石器	編物石	8.3	4.6	—	2.8	128.3	使用痕あり	完全実測	—	P2	
22	石器	編物石	9.6	5.6	—	3.9	282.5	使用痕あり	完全実測	—	P3	
23	石器	編物石	10.2	5.8	—	3.0	142.1	使用痕あり	完全実測	—	IV区	
24	石器	編物石	10.4	5.1	—	4.0	289.5	—	完全実測	—	I区	
25	石器	編物石	10.6	6.4	—	3.8	345.5	—	完全実測	—	P3	
26	石器	編物石	11.0	7.6	—	3.5	384.0	—	完全実測	—	I区	
27	石器	編物石	13.7	7.6	—	3.8	578.0	—	完全実測	—	Ⅲ区	

H27号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
28	石器	編物石	14.2	5.7	3.8	427.0	両端部に使用痕		完全実測	P3	
29	石器	磨石	9.8	6.4	4.6	414.0	磨面3		完全実測	P3	
30	石器	剥片	2.4	1.7	0.3	1.28	-		完全実測	Ⅲ区	
31	石器	剥片	2.6	1.7	0.15	0.61	-		完全実測	I区	
32	石器	剥片	2.9	1.8	0.25	1.3	節理面残る		完全実測	I区	
33	石器	剥片	5.1	1.1	0.35	3.09	-		完全実測	間仕切1	

H29号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	青磁	碗	-	-	-	-	ロクロナデ		破片実測	N区	
2	鉄器	刀子	23.4	1.9	0.4	48.12	木質残る		完全実測	No1	

Ta1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	高坏	-	-	<5.8>	-	ナデ		回転実測	Nホリ	
2	青磁	碗	-	-	-	-	ロクロナデ		破片実測	Nホリ	
3	石器	台石	<12.5>	<6.7>	<6.3>	<535.0>	全周欠損、使用面1		完全実測	Ⅲ区	
4	石器	磨石	<11.7>	<10.6>	<3.4>	<571.0>	上部欠損、磨面1		回転実測	Ⅱ区	
5	石器	磨・敲石	11.6	7.3	3.4	452.0	端部と側面に敲打痕、磨面2		完全実測	Ⅱ区	
6	石器	敲石	12.0	6.5	3.7	284.0	上下端部に敲打痕		完全実測	Ⅱ区	
7	鉄器	刀子	12.90	1.40	0.35	<15.19>	刃部欠損、折れ曲がる		完全実測	西側	

Ta2号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	土師皿	(9.0)	(6.0)	(1.3)	-	ナデ		回転実測	I・IV区	
2	土師器	高坏	-	-	<4.7>	-	黒色処理		回転実測	覆土	
3	弥生土器	甕	(14.6)	-	<10.5>	-	ミガキ		回転実測	覆土	
4	石器	敲石	15.5	6.0	2.8	369.0	辺縁に敲打痕		完全実測	Ⅲ区	
5	鉄製品	角釘	<6.1>	1.3	0.8	<8.26>	先端欠損		回転実測	IV区	

Ta3号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	須恵器	坏	-	(12.2)	<2.9>	-	ロクロナデ		回転実測	N区、Ta4S区	
2	須恵器	壺	-	(7.6)	<2.8>	-	ロクロナデ		回転実測	覆土	
3	須恵器	甕	-	-	-	-	ロクロナデ		破片実測	S区	
4	弥生土器	甕	(15.2)	-	<2.4>	-	ミガキ		回転実測、拓本	覆土	
5	石器	剥片	4.0	4.3	0.5	11.86	-		完全実測	覆土	

Ta4号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	高坏?	—	(8.0)	<7.3>	—	ミガキ→黒色処理、脚部ハケメ	ミガキ	—	回転実測	ケン	
2	須恵器	坏	—	(11.0)	<2.8>	—	ロクロナデ	—	—	回転実測	S区	
3	弥生土器	甃	(19.0)	—	<3.4>	—	ミガキ	ヘラ描波状文	—	回転実測、拓本	S区	
4	弥生土器	甃	—	(7.0)	<3.9>	—	ミガキ	ミガキ	—	回転実測	S区	
5	弥生土器	甃	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文、ヘラ描波状文、ヘラ描沈線	—	破片実測、拓本	ケン	
6	弥生土器	甃	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文、櫛描波状文	—	破片実測、拓本	ケン	
7	弥生土器	壺	(11.0)	—	<2.8>	—	ミガキ、剥離	ミガキ、剥離	—	回転実測	S区	
8	弥生土器	壺	—	—	—	—	ミガキ	ヘラ描波状文	—	破片実測、拓本	S区	
9	石器	編物石	11.5	5.5	4.1	320.5	—	—	—	完全実測	S区	
10	石器	編物石	12.2	5.2	2.7	263.0	—	—	—	完全実測	S区	
11	石器	剥片	5.1	1.4	0.3	2.0	摩滅有	—	—	完全実測	S区	
12	鉄製品	不明	<6.2>	<3.7>	<0.3>	<15.61>	片側欠損	—	—	完全実測	ケン	
13	銅製品	古銭	2.0	2.4	0.1	2.8	—	—	—	完全実測	覆土	
14	銅製品	古銭	2.4	2.5	0.2	3.5	「元豊通宝」	—	—	完全実測	ケン	

Ta5号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	石器	砥石	<4.3>	<3.3>	<1.5>	<18.0>	全周欠損、砥面数2、2面に条痕	—	—	完全実測	II区	
2	石器	剥片	1.40	0.90	0.15	0.21	側面に擦痕	—	—	完全実測	I区	
3	石器	剥片	1.90	1.50	0.15	0.61	擦痕あり	—	—	完全実測	I区	
4	石器	剥片	—	—	—	—	—	—	—	2片、未図化	III区	
5	石器	剥片	—	—	—	—	—	—	—	1片、未図化	I区	
6	鉄製品	不明	<4.9>	<2.50>	<0.35>	<9.90>	右側欠損か?	—	—	完全実測	I区	

Ta6号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	須恵器	播鉢	(22.2)	—	<11.1>	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	覆土	
2	弥生土器	台付甃	—	(6.2)	<4.4>	—	ミガキ	ミガキ	—	回転実測	覆土	
3	銅製品	古銭	2.5	2.5	0.1	3.09	—	—	—	完全実測	覆土	

Ta7号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	—	破片実測、拓本	II区	
2	土師器	甃	—	(5.4)	<1.7>	—	ナデ	ケズリ、底部木葉痕	—	回転実測、拓本	覆土	
3	須恵器	甃	—	—	—	—	青海波文?	叩目	—	破片実測、拓本	覆土	
4	弥生土器	壺	—	—	—	—	ミガキ	ミガキ、口唇部縄文(L(R2))	—	破片実測、拓本	II区	
5	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ→ナデ	ハケメ→ミガキ	—	破片実測、拓本	II区	
6	石器	台石	38.0	33.0	<12.0>	<17800.0>	正面一部欠損、使用面2	—	—	完全実測	No 2・3	
7	鉄製品	角釘	<2.8>	<1.0>	<0.7>	<6.09>	先端欠損	—	—	完全実測	覆土	

Ta9 号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	石器	剥片	5.5	2.9	0.4	9.1	正裏に擦痕、擦切り痕あり	完全実測	IV区

Ta10 号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	石器	砥石	7.9	5.0	2.1	95.1	砥面数2	完全実測	III区
2	石器	砥石	<7.0>	<5.6>	<5.3>	<246.5>	両端欠損、砥面数2	完全実測	IV区
3	石器	硯?	<4.7>	<5.1>	<0.7>	<20.73>	1辺と裏面を残し欠損、条痕及び擦痕有	完全実測	IV区

Ta11 号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	鉄製品	不明	<2.2>	<2.1>	<0.3>	<2.10>	片側欠損	完全実測	覆土

F3 号掘立柱建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	石器	石鏃	<2.40>	<1.95>	0.4	<0.93>	右側欠損、黒曜石	完全実測	P1

土坑出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	青磁	蓮弁文碗	—	—	—	—	—	破片実測	D3
1	弥生土器	甕	(9.7)	6.1	10.2	—	ハケメ、口唇部縄文LR、口縁部櫛描波状文、凹形貼付文、体部櫛描横線文、櫛描垂下文	回転実測	D4
2	弥生土器	甕	(17.8)	—	<11.9>	—	口唇部縄文LR、頸部櫛描波状文、体部櫛描斜走文、ミガキ	回転実測	D4
3	弥生土器	甕	—	6.6	<3.8>	—	ナデ	完全実測	D4
4	弥生土器	壺	(20.8)	—	<14.5>	—	ハケメ	回転実測	D4
1	鉄製品	角釘	<2.9>	<0.8>	<0.4>	<1.96>	頭部先端欠損	完全実測	D7
2	鉄製品	角釘	<5.6>	<1.3>	<1.2>	<12.13>	頭部先端欠損	完全実測	D7
1	土師器	環	—	(9.0)	<5.8>	—	ナデ	回転実測	D16
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描波状文、凹形貼付文	破片実測、拓本	D16
3	石器	編物石	12.3	7.8	3.7	245.2	両側に挟り	完全実測	D16
1	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描波状文(7本)	破片実測、拓本	D20
1	弥生土器	甕	(12.0)	—	<5.5>	—	頸部櫛描波状文、口縁部櫛描波状文、体部櫛描波状文、垂下文	回転実測	D21
2	弥生土器	甕	(13.6)	—	<2.6>	—	ミガキ	回転実測	D21
3	弥生土器	甕	(18.0)	—	<4.4>	—	櫛描波状文、口唇部縄文(LR)	回転実測、拓本	D21
1	鉄製品	角釘	<3.7>	<0.4>	<0.4>	<1.54>	頭部欠損	完全実測	D22
1	銅製品	古銭	<1.30>	<2.00>	<0.15>	<1.34>	約1/3残存	完全実測	D23
2	銅製品	銅環	0.9	0.9	0.2	0.3	—	完全実測	D23
1	弥生土器	甕	(14.0)	—	<11.0>	—	口唇部縄文(R(L2))、頸部櫛描波状文(7本1連止)、口縁・体部櫛描波状文	回転実測	D28
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部縄文(R(L2))、口縁部櫛描波状文	破片実測、拓本	D28
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描縦羽状文	破片実測、拓本	D28
1	石器	剥片	2.5	1.3	0.3	1.4	擦痕あり	完全実測	D32

土坑出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備	考		
1	青磁	碗	—	—	—	—	ナデ	蓮弁文		破片実測	D38	
2	鉄製品	不明	<5.2>	<1.4>	<0.6>	<6.38>	両端欠損、鋸有			完全実測	D38	
1	土製品	土器片(皿)	4.3	5.3	0.9	—			—	完全実測	D40	
2	銅製品	古銭	2.4	2.4	0.2	3.13	「開元通宝」			完全実測	D40	
1	青磁	碗	—	—	—	—	ロクロナデ	蓮弁文		破片実測	D42	
2	陶器	鉢	(25.0)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	D42	
3	石器	編物石	11.50	6.20	4.50	280.50	右側に扶り			完全実測	D42	
4	石器	磨・敲石	<5.8>	<4.7>	<2.4>	<80.60>	下部欠損、端部に敲打痕、正裏に条痕、磨面1			完全実測	D42	
5	石器	敲石	9.00	5.90	4.70	300.50	周縁に敲打痕			完全実測	D42	
6	鉄製品	不明	2.9	1.2	0.50	2.85	一部重なる			完全実測	D42	
7	銅製品	古銭	2.2	2.2	0.15	2.65	—		—	完全実測	D42	

ピット出土遺物観察表

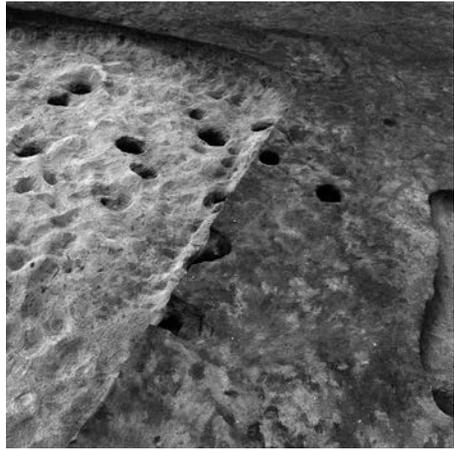
No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備	考		
1	石器	敲石	<7.7>	<6.6>	<3.0>	<211.90>	下部欠損、端部に敲き			完全実測	P15	
1	土師器	鉢	(16.0)	(15.4)	(9.2)	—	ナデ→ミガキ		ケズリ→ミガキ	回転実測	P49	
1	銅製品	古銭	2.40	2.40	0.15	3.2	「開元通宝」			完全実測	P117	
1	石器	剥片	7.0	2.0	0.4	6.2	右側に磨面た、他1点図化なし			完全実測	P124	
1	石器	磨石	<11.1>	<15.2>	<3.3>	<797.89>	下部欠損、磨面2			完全実測	P153	

遺構外遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備	考		
1	土師器	碗	—	7.5	<2.7>	—	ミガキ→黒色処理		ナデ、回転糸切→付高台	完全実測	ケン	
2	土師器	甌	—	(7.0)	<2.7>	—	ミガキ		ミガキ	回転実測	ケン	
1	石器	原材	2.45	1.80	0.25	1.37			—	完全実測	ケン	
2	石器	原材	3.40	2.10	0.40	3.41			—	完全実測	ケン	
1	鉄製品	角釘	<5.1>	<0.5>	<0.5>	<3.09>	頭部先端欠損			完全実測	ケン	
2	鉄製品	角軸	<4.0>	<0.4>	<0.3>	<1.31>	上部欠損			完全実測	表採	
3	鉄製品	角軸	<5.8>	<0.6>	<0.4>	<3.57>	下部欠損			完全実測	表採	
4	鉄製品	碗?	<6.00>	<1.60>	<0.35>	<18.18>	沈線4本、推定径(11.2)			完全実測	表採	
5	鉄製品	不明	<2.0>	<1.1>	<0.1>	<0.5>	両端欠損、湾曲している			完全実測	表採	



H 1号竖穴建物



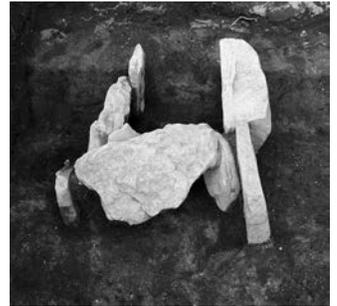
H 2号竖穴建物



H 3号竖穴建物



H 4号竖穴建物



H 5号竖穴建物カマド



H 5号竖穴建物



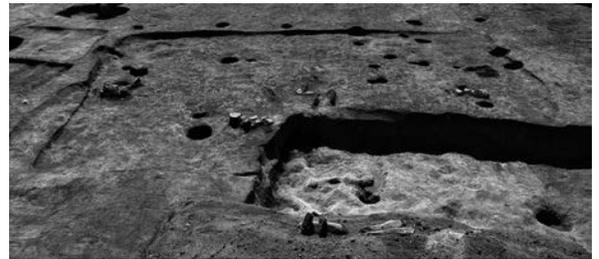
H 6号竖穴建物



H 7号竖穴建物



H 8号竖穴建物



↑ H 9号竖穴建物



← H 9号竖穴建物炉



H10 号竪穴建物



H10 号竪穴建物炉



H11 号竪穴建物カマド



H11 号竪穴建物



H12 号竪穴建物



H13 号竪穴建物



H12 号竪穴建物カマド



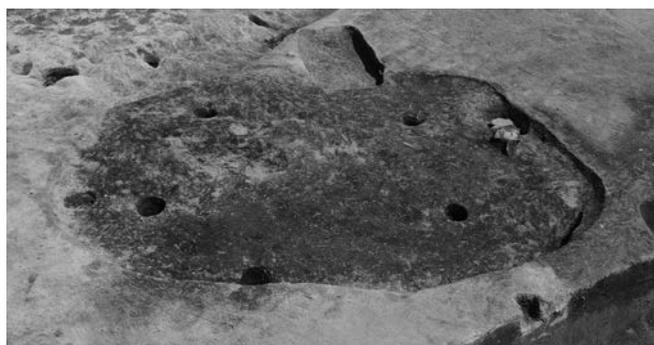
H14 号竪穴建物



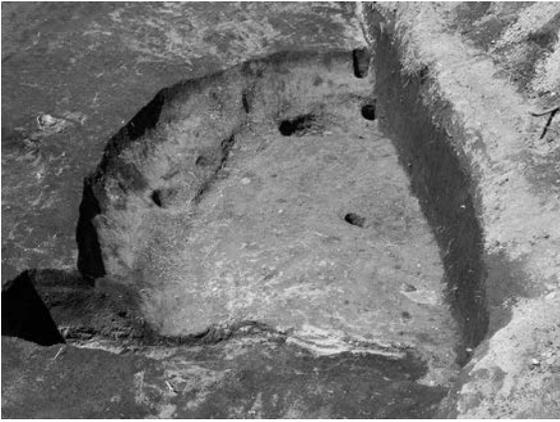
H15 号竪穴建物



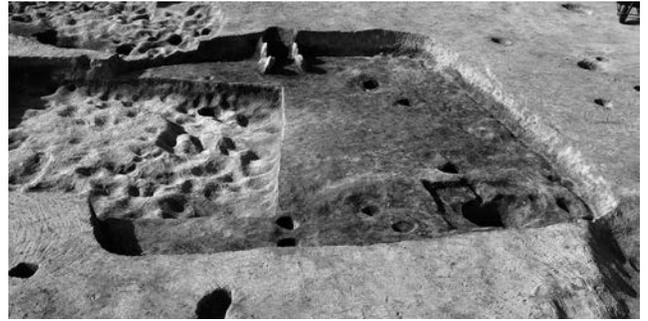
H15 号竪穴建物カマド



H16 号竪穴建物



H17 号竖穴建物



H18 号竖穴建物



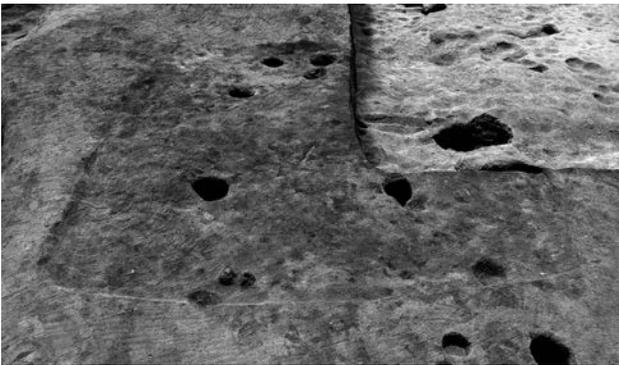
H18 号竖穴建物カマド



H19 号竖穴建物



H19 号竖穴建物カマド



H20 号竖穴建物



H22 号竖穴建物



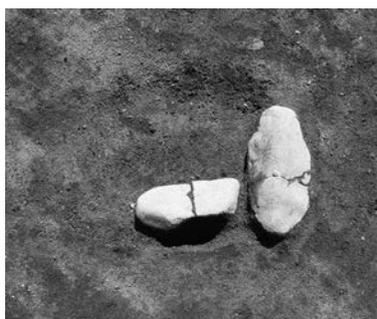
H22 号竖穴建物カマド



H21 号竖穴建物



H23 号竖穴建物



H23 号竖穴建物炉



H24 号竖穴建物



H24 号竖穴建物カマド



H25 号竖穴建物



H26 号竖穴建物



H27 号竖穴建物



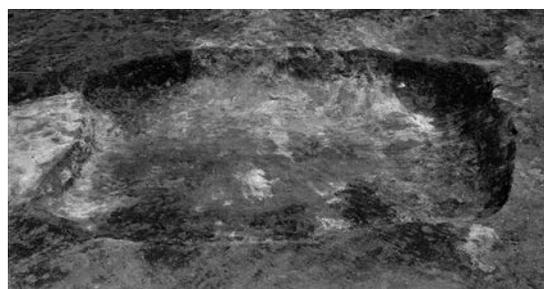
H28 号竖穴建物炉



H29 号竖穴建物



Ta1 号竖穴建物、D6・D42 号土坑



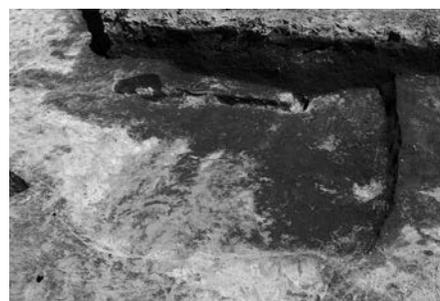
Ta3 号竖穴建物



Ta2 号竖穴建物



Ta4 号竖穴建物、D16・17 号土坑



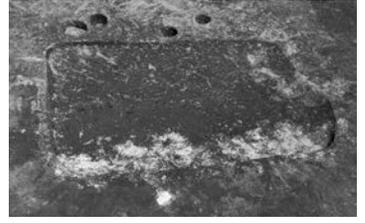
Ta5 号竖穴建物



Ta6 号竖穴建物、D41 号土坑



Ta7 号竖穴建物



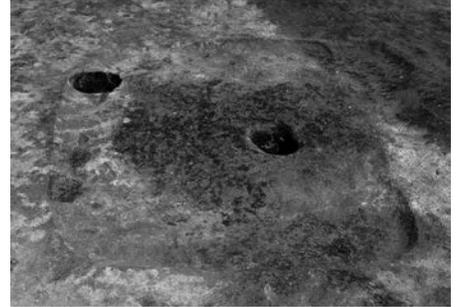
Ta8 号竖穴建物



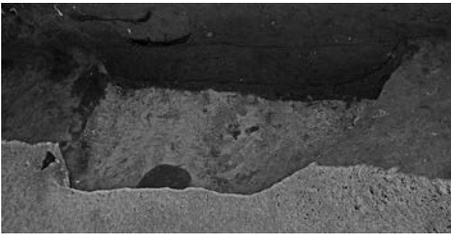
Ta9 号竖穴建物



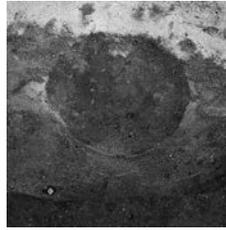
Ta10 号竖穴建物



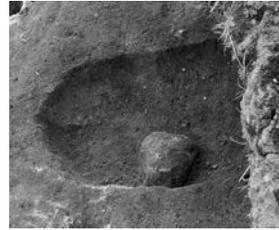
Ta11 号竖穴建物



Ta12 号竖穴建物



D 1 号土坑



D 2 号土坑



D 3 号土坑



Ta13 号竖穴建物



D 4 号土坑



D 5 号土坑



D 6 号土坑



D 7 号土坑



D18 号土坑



D 9 ~ D15 号土坑



D 8 号土坑



D19 号土坑



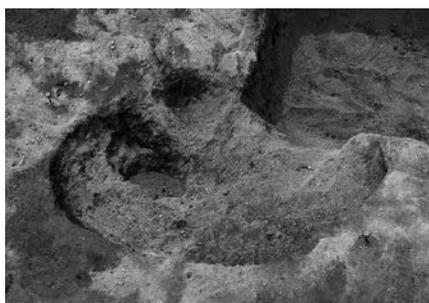
D21 号土坑



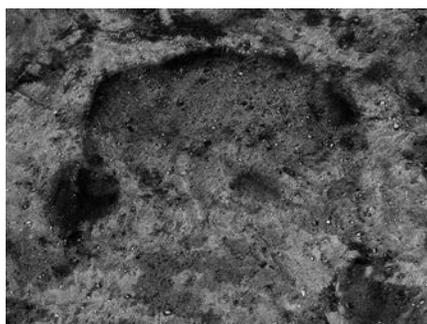
D22 号土坑



D23 号土坑



D24 号土坑



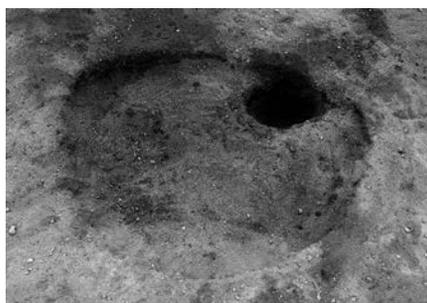
D25 号土坑



D26·27·42 号土坑



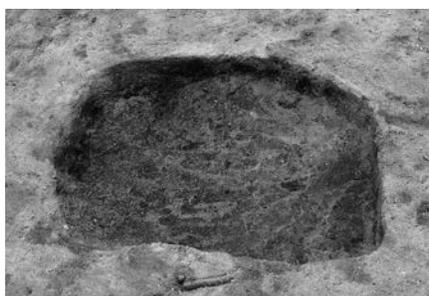
D28 号土坑



D29 号土坑



D30·31 号土坑



D32 号土坑



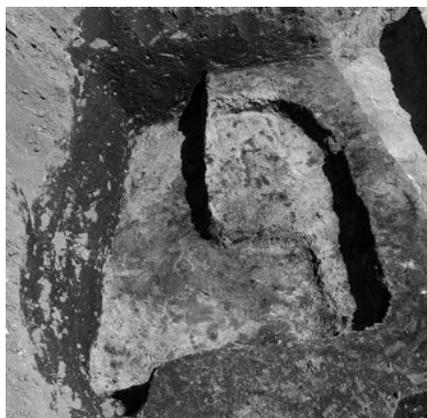
D34 号土坑



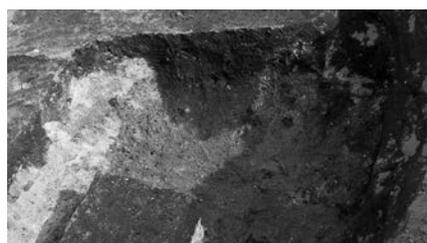
D35 号土坑



D36 号土坑



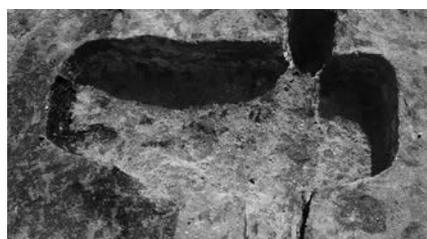
D37 号土坑



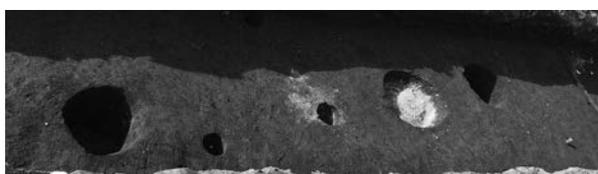
D38 号土坑



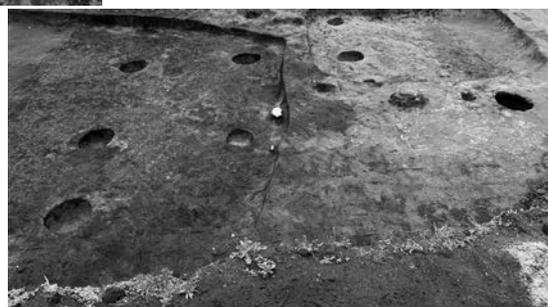
D39 号土坑



D40 号土坑



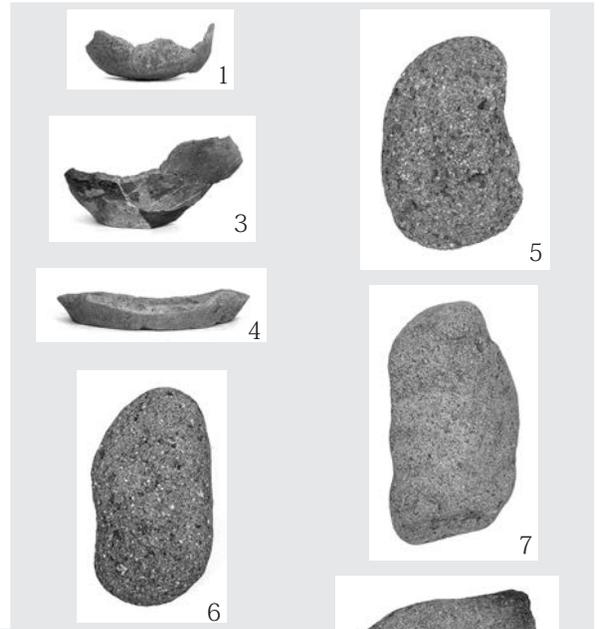
F 1 号掘立柱建物



F 2 号掘立柱建物



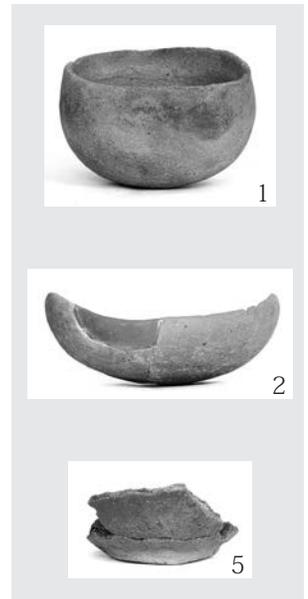
H 1号竖穴建物出土遺物



H 3号竖穴建物出土遺物



H 4号竖穴建物出土遺物



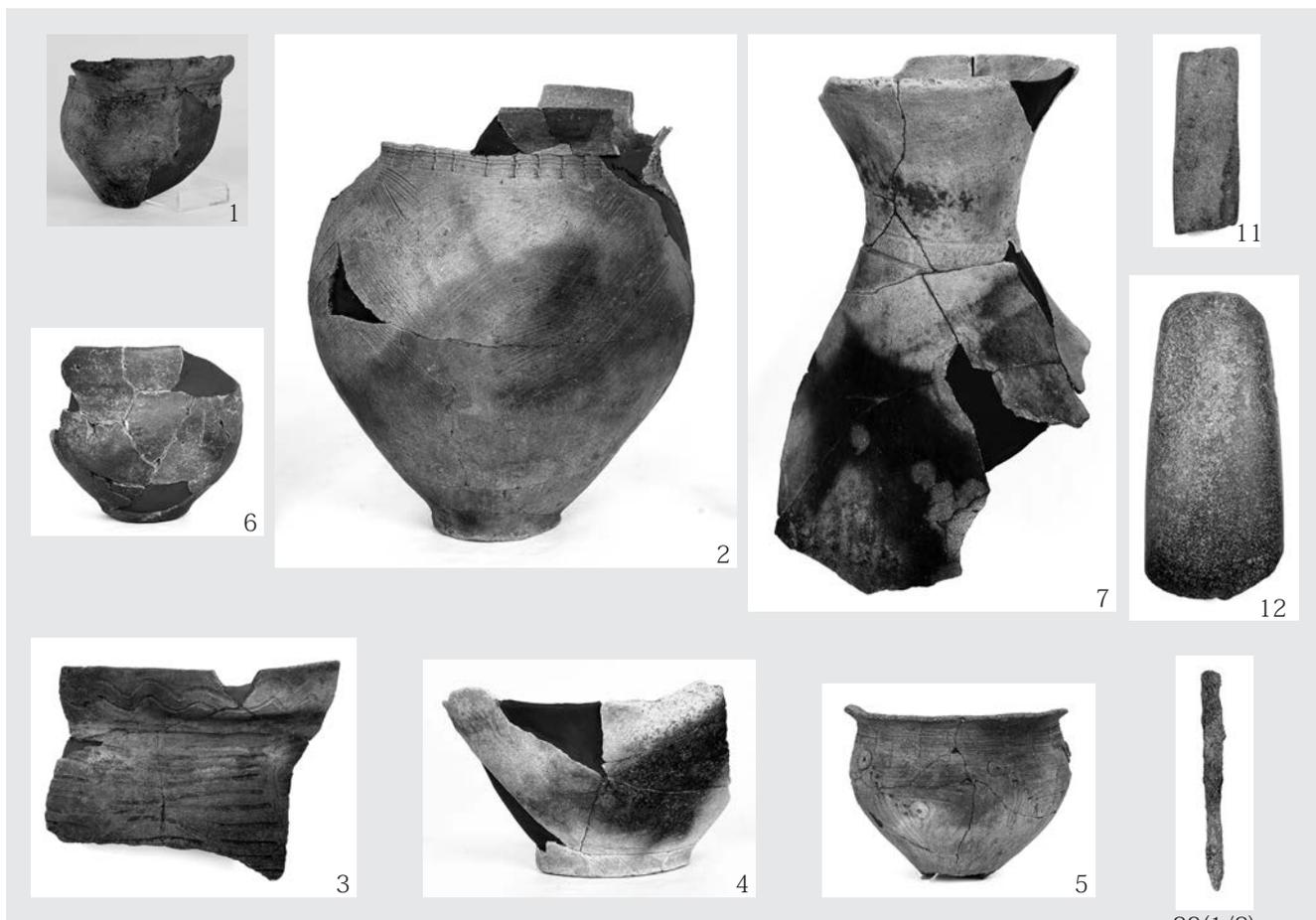
H 5号竖穴建物出土遺物 (1)



H 5 号竖穴建物出土遺物 (2)



H 7 号竖穴建物出土遺物



H 8 号竖穴建物出土遺物 (1)

23(1/2)



8



10



9



17



18(原寸)



21(原寸)



19(原寸)



20(原寸)



16



13(原寸)



14(原寸)



15(原寸)

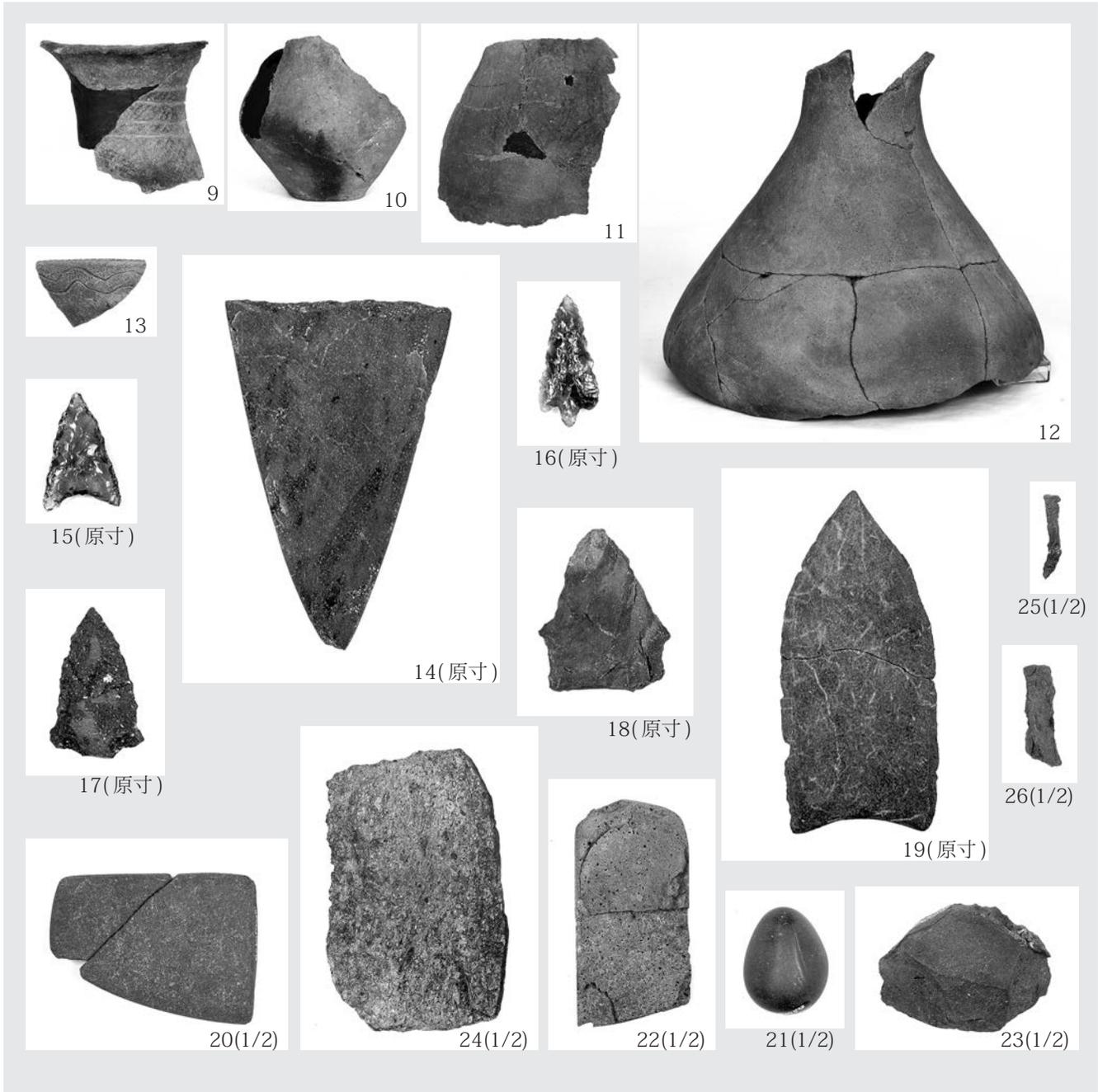


22(原寸)

H 8 号竖穴建物出土遺物 (2)



H 9 号竖穴建物出土遺物 (1)



H 9 号竖穴建物出土遺物 (2)



H 10 号竖穴建物出土遺物 (1)



6



12(原寸)



13(原寸)



14(原寸)



15(原寸)



17(原寸)



16(原寸)



21(原寸)



20(原寸)



18(原寸)



19(原寸)

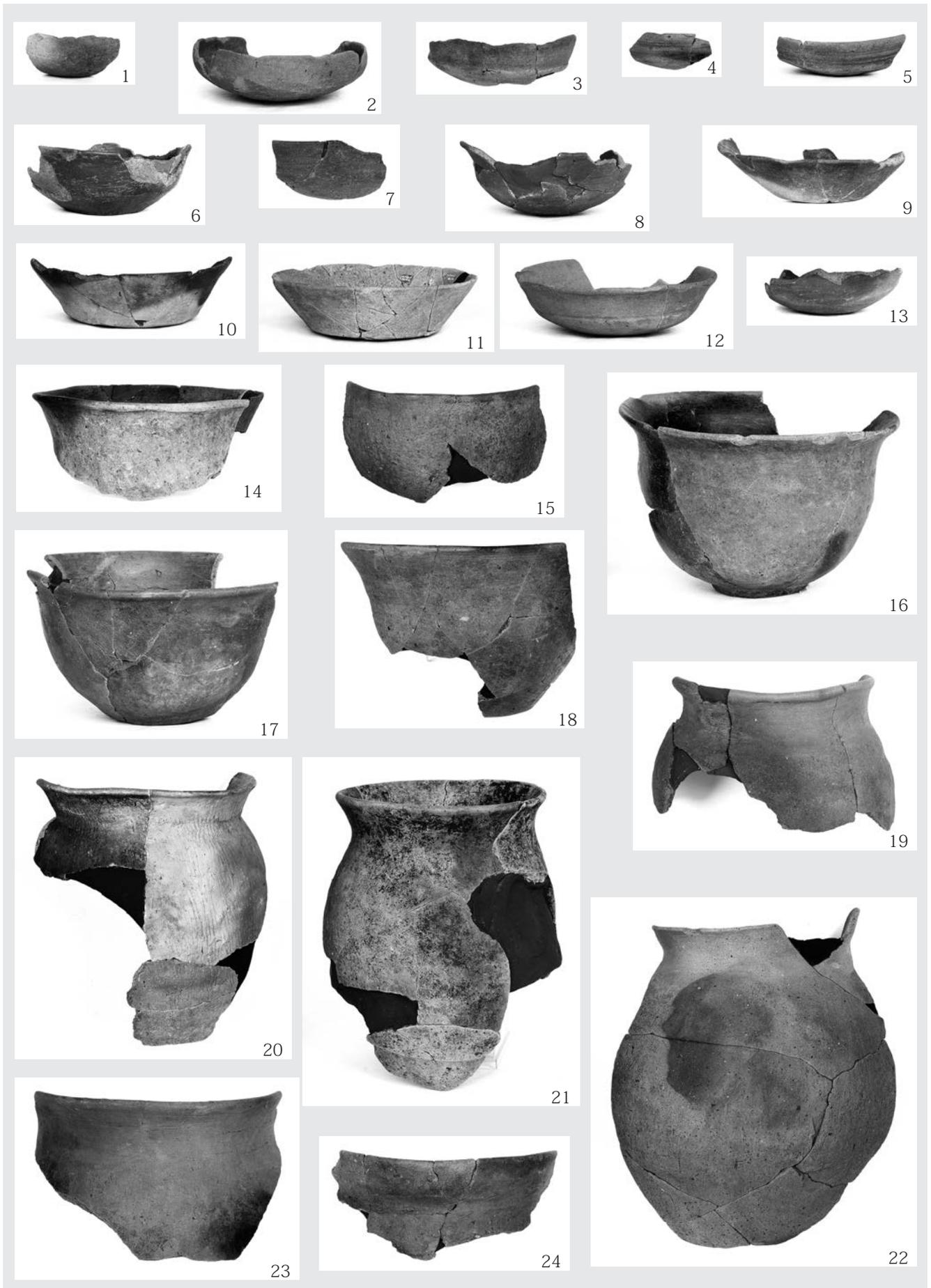


22(原寸)

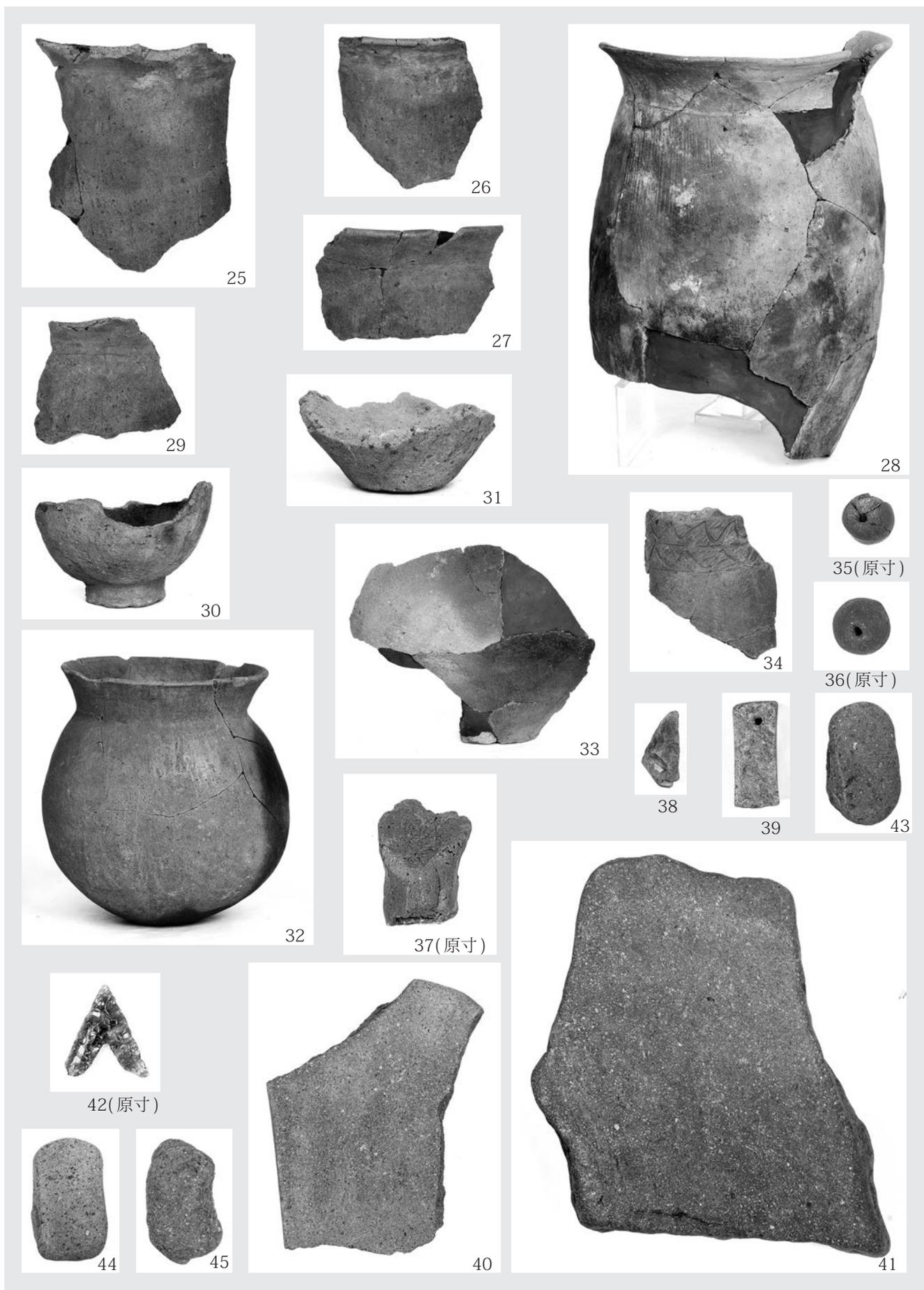


23(原寸)

H 10 号竖穴建物出土遺物 (2)



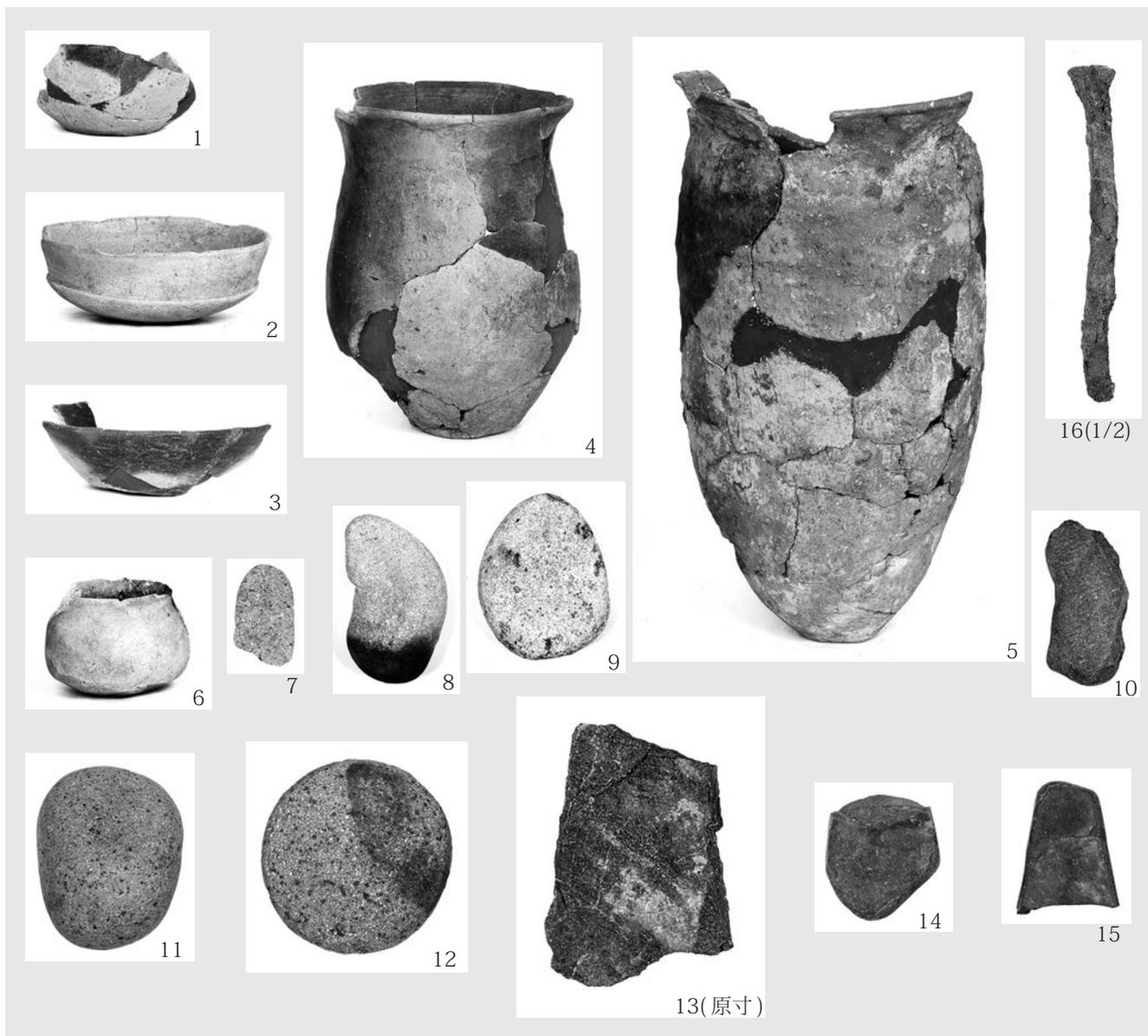
H 11 号竖穴建物出土遺物 (1)



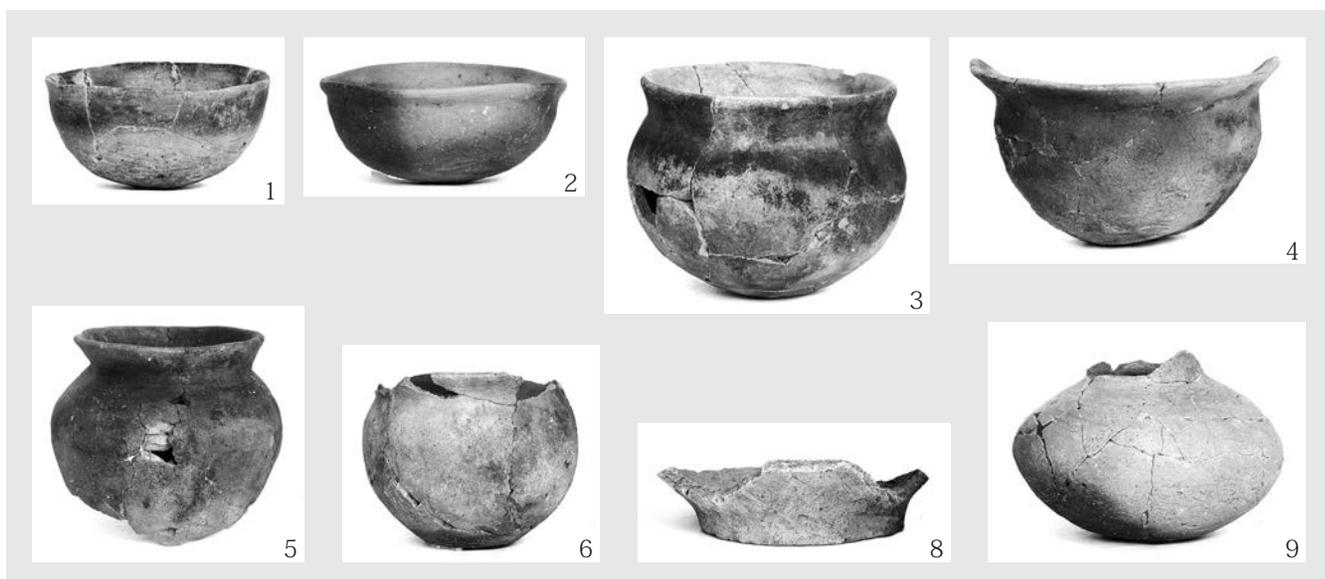
H 11 号竖穴建物出土遺物 (2)



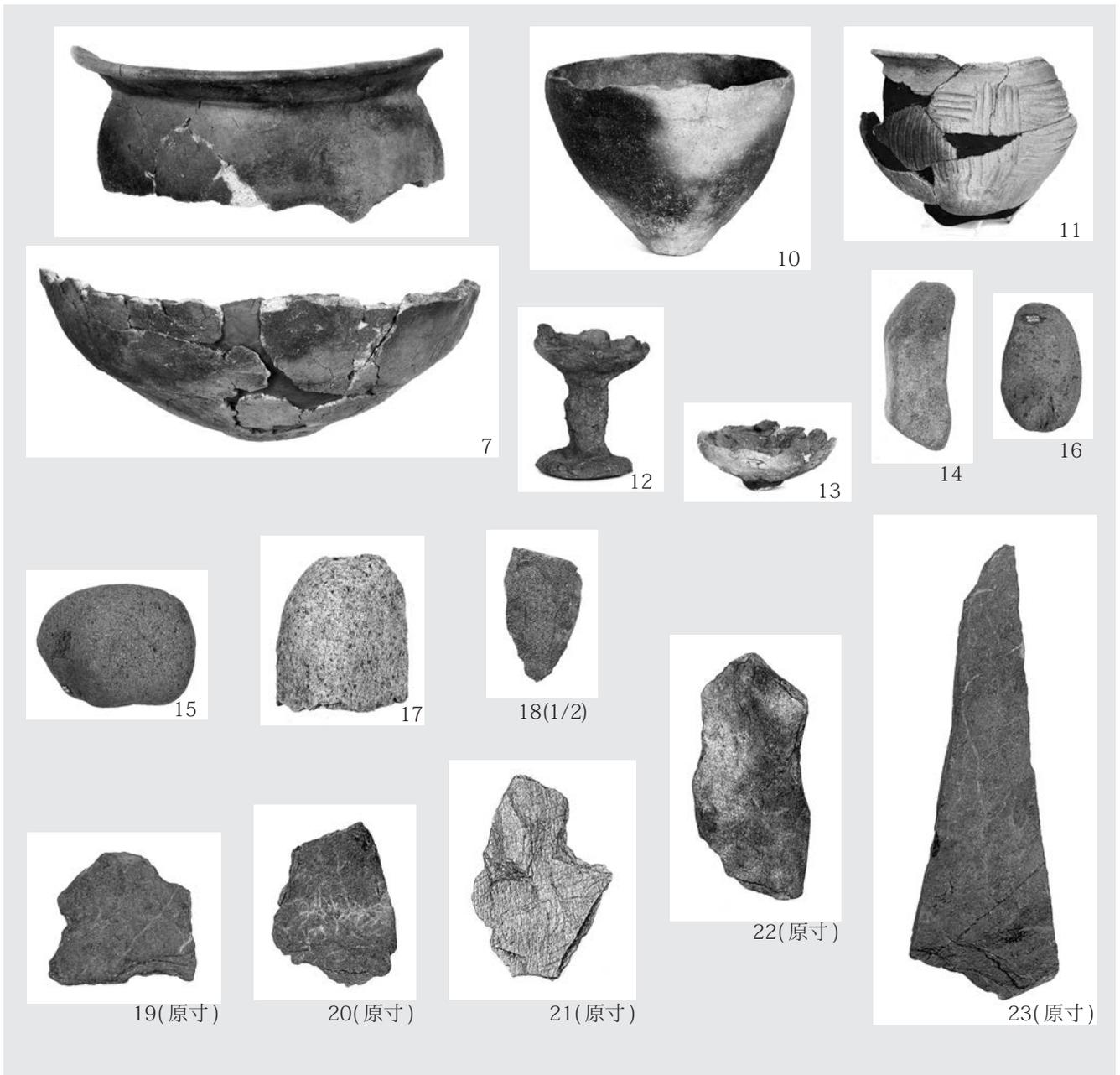
H 11 号竖穴建物出土遺物 (3)



H 12 号竖穴建物出土遺物



H 13 号竖穴建物出土遺物 (1)

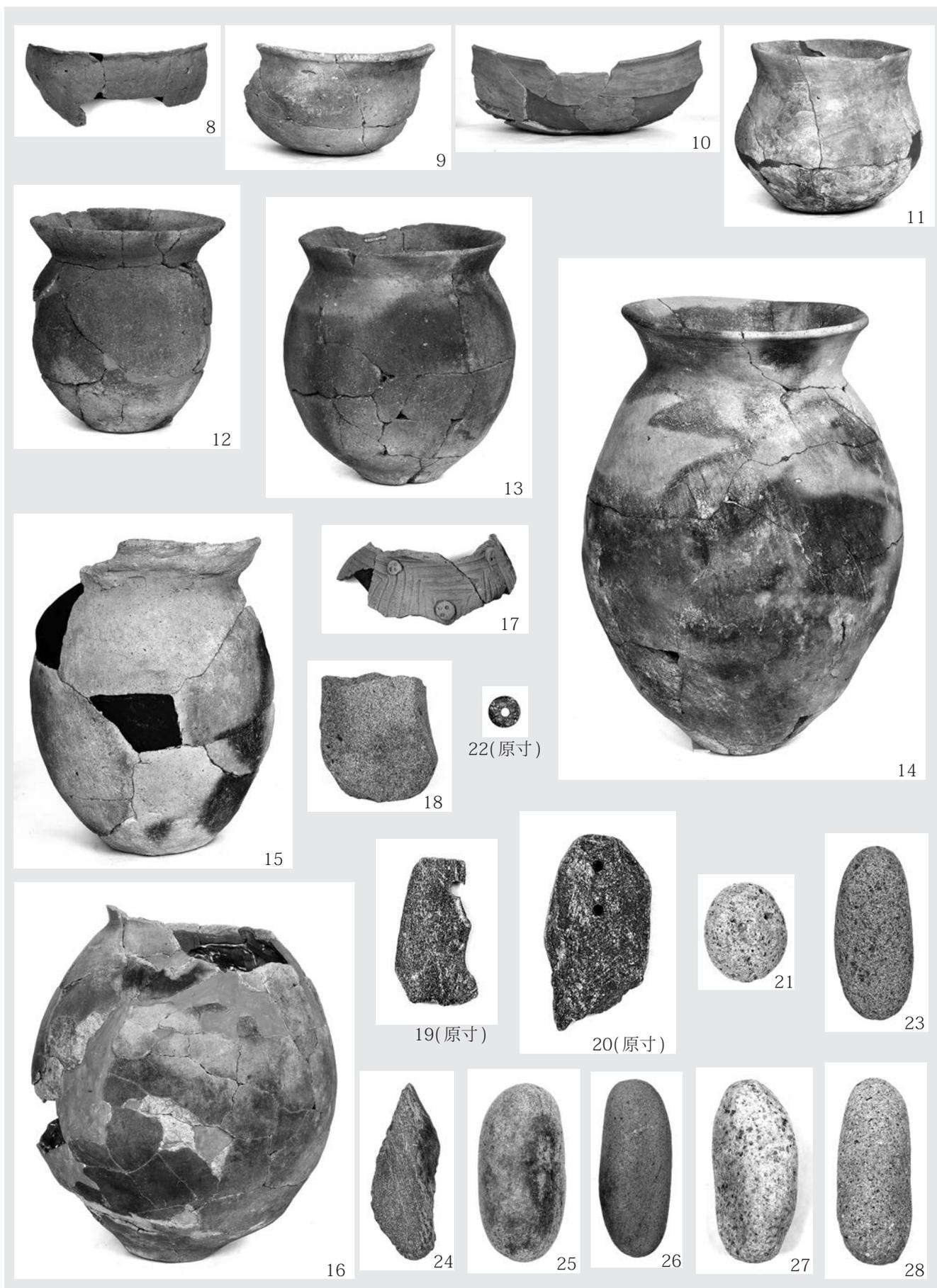


H 13 号竖穴建物出土遺物 (2)

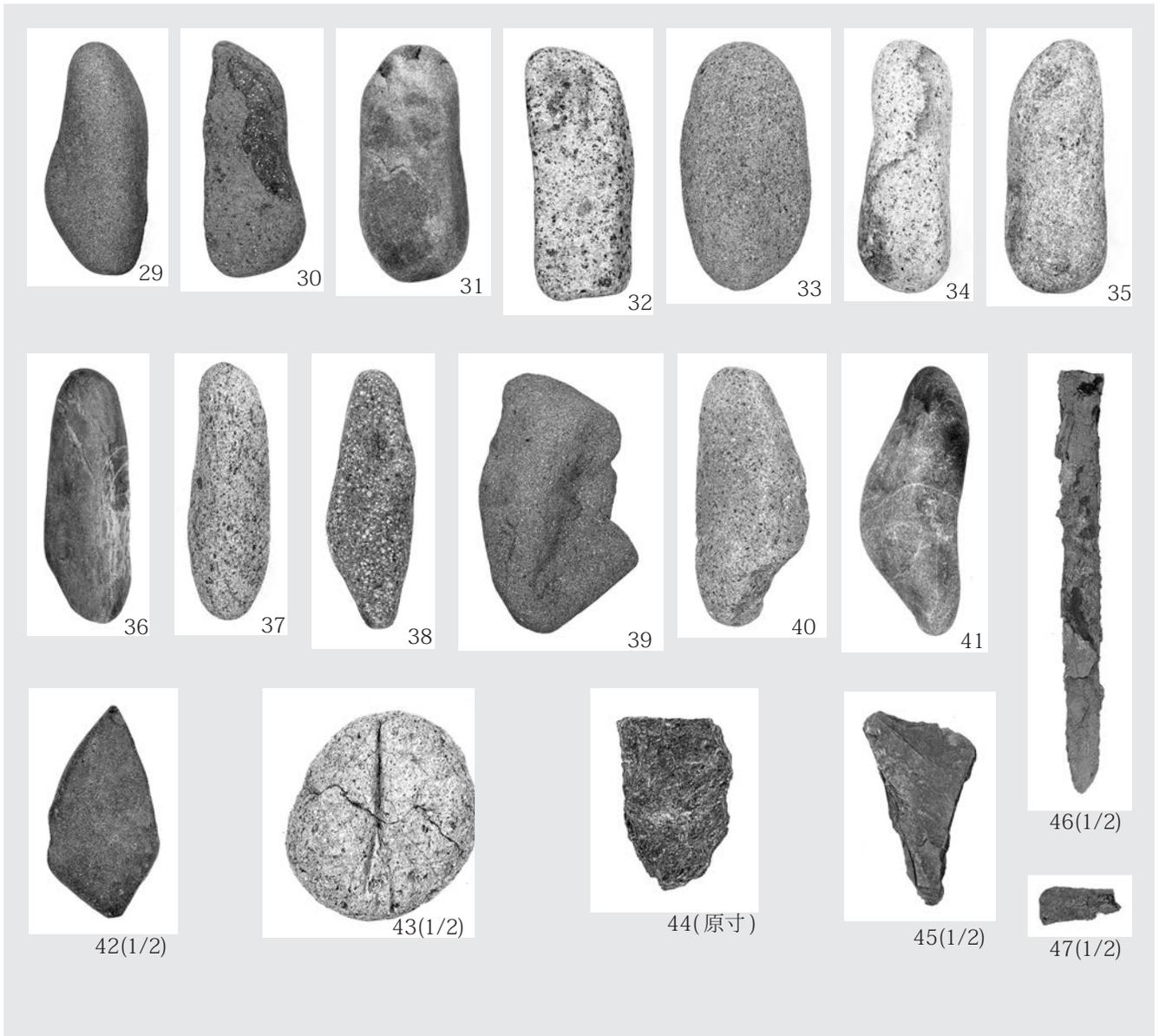


H 14 号竖穴建物出土遺物

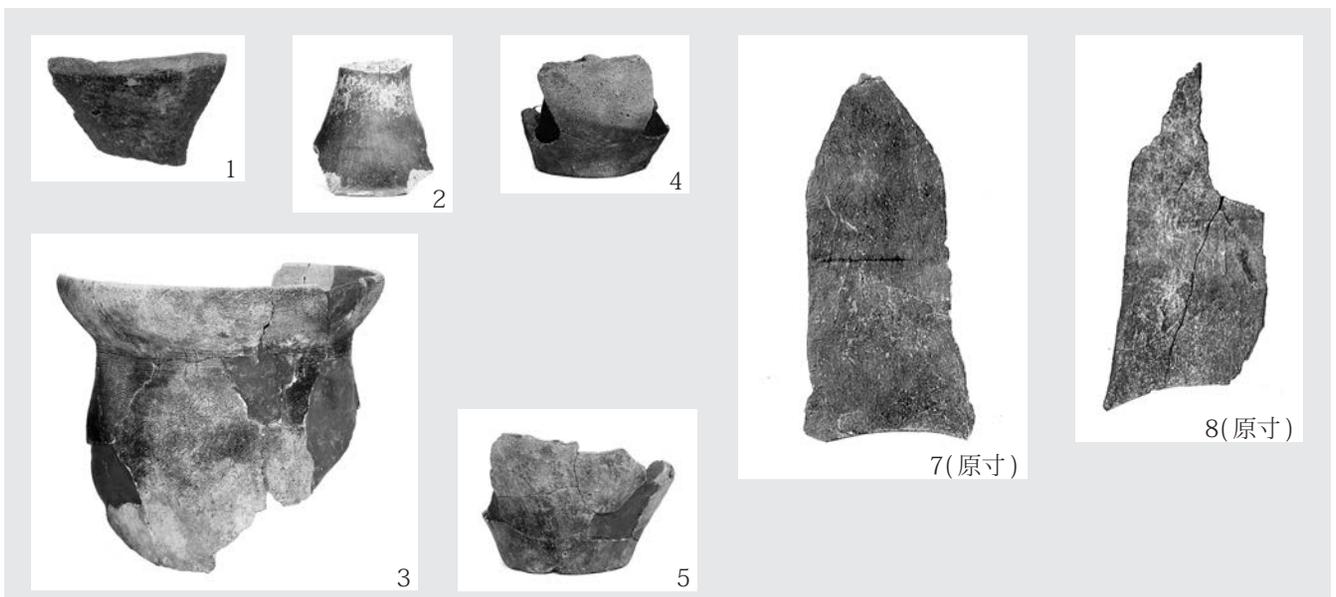
H 15 号竖穴建物出土遺物 (1)



H 15 号竖穴建物出土遺物 (2)



H 15 号竖穴建物出土遺物 (3)



H 16 号竖穴建物出土遺物 (1)



H 16 号竖穴建物出土遺物 (2)

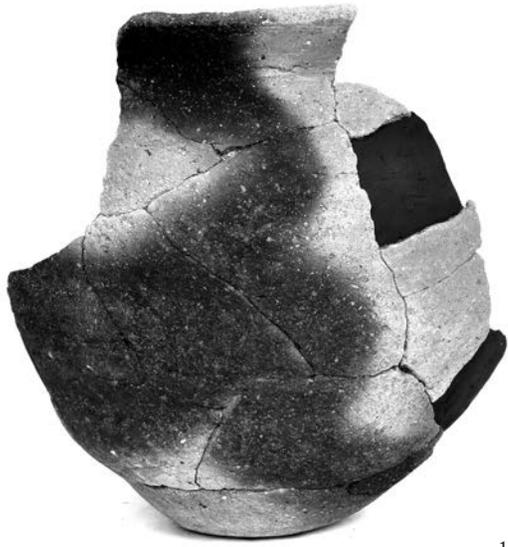


H 17 号竖穴建物出土遺物

H 18 号竖穴建物出土遺物 (1)



14



15



18



16



26(原寸)



17



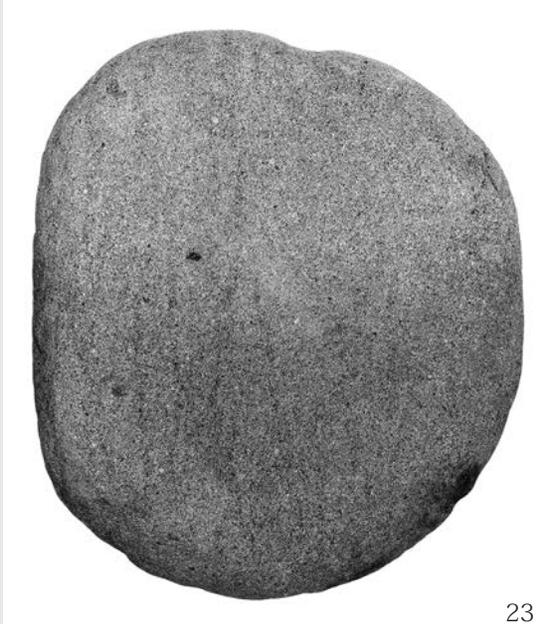
19



20

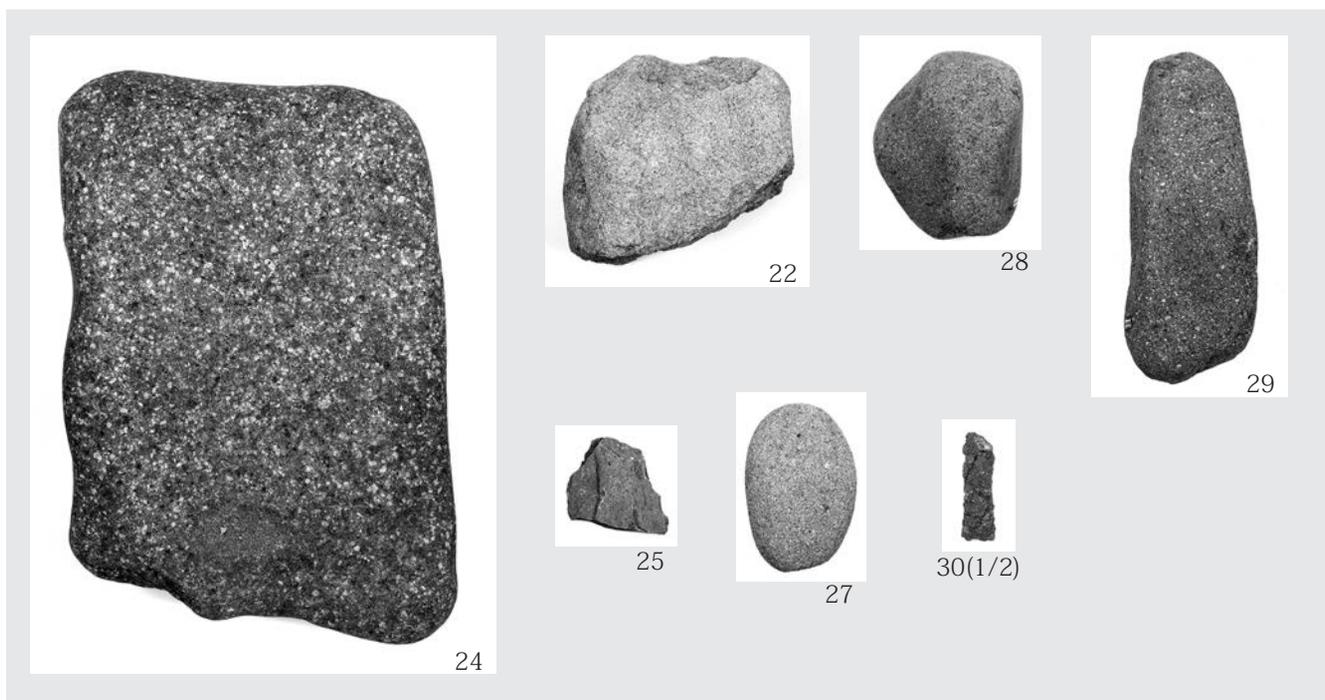


21

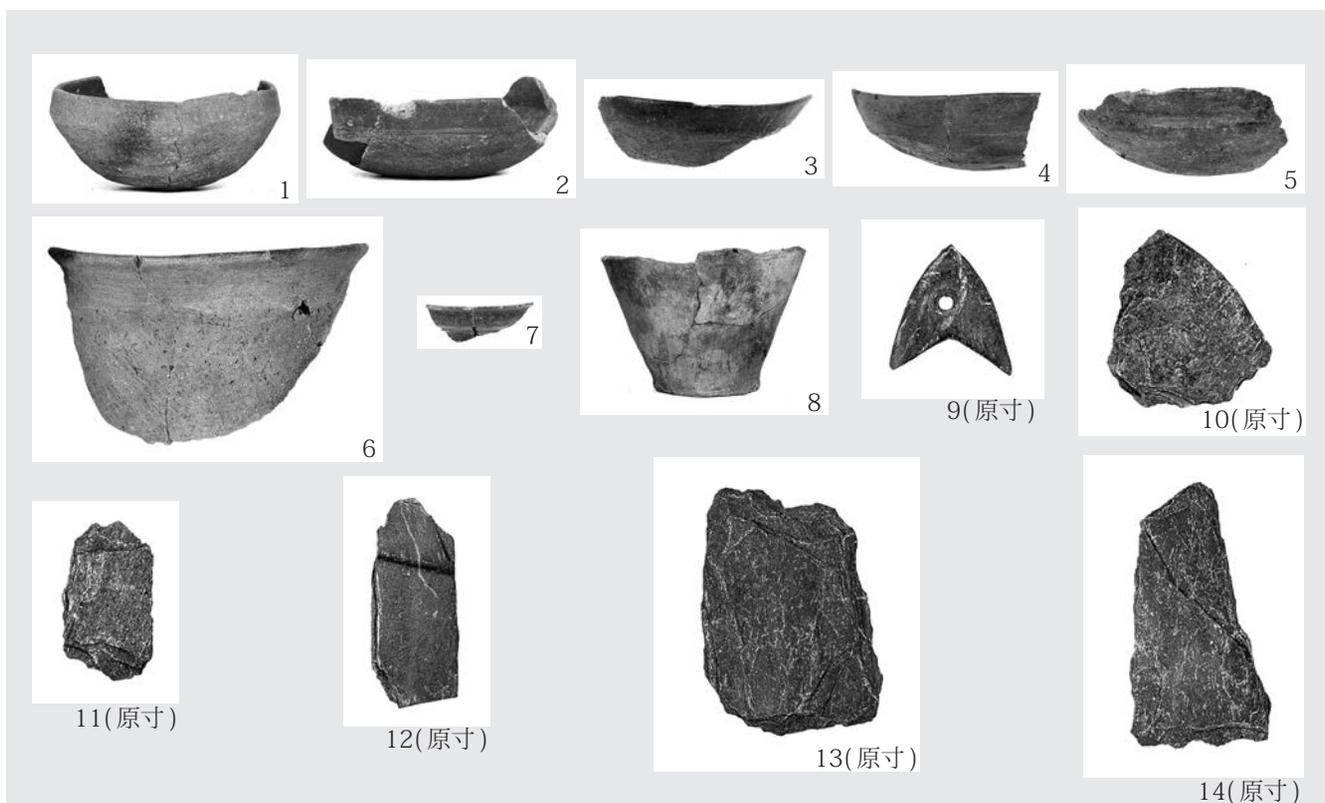


23

H 18号豎穴建物出土遺物(2)



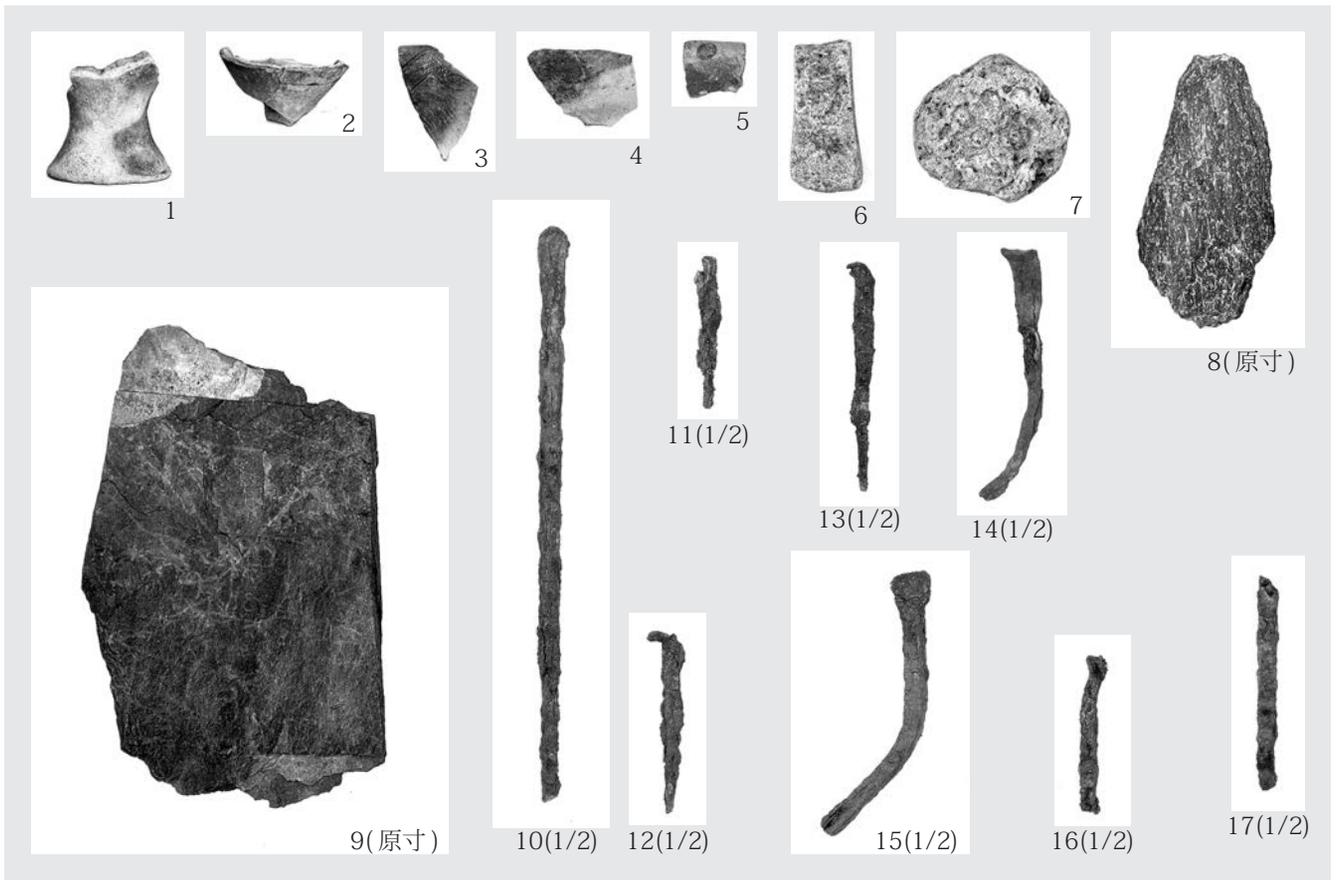
H 18 号竖穴建物出土遺物 (3)



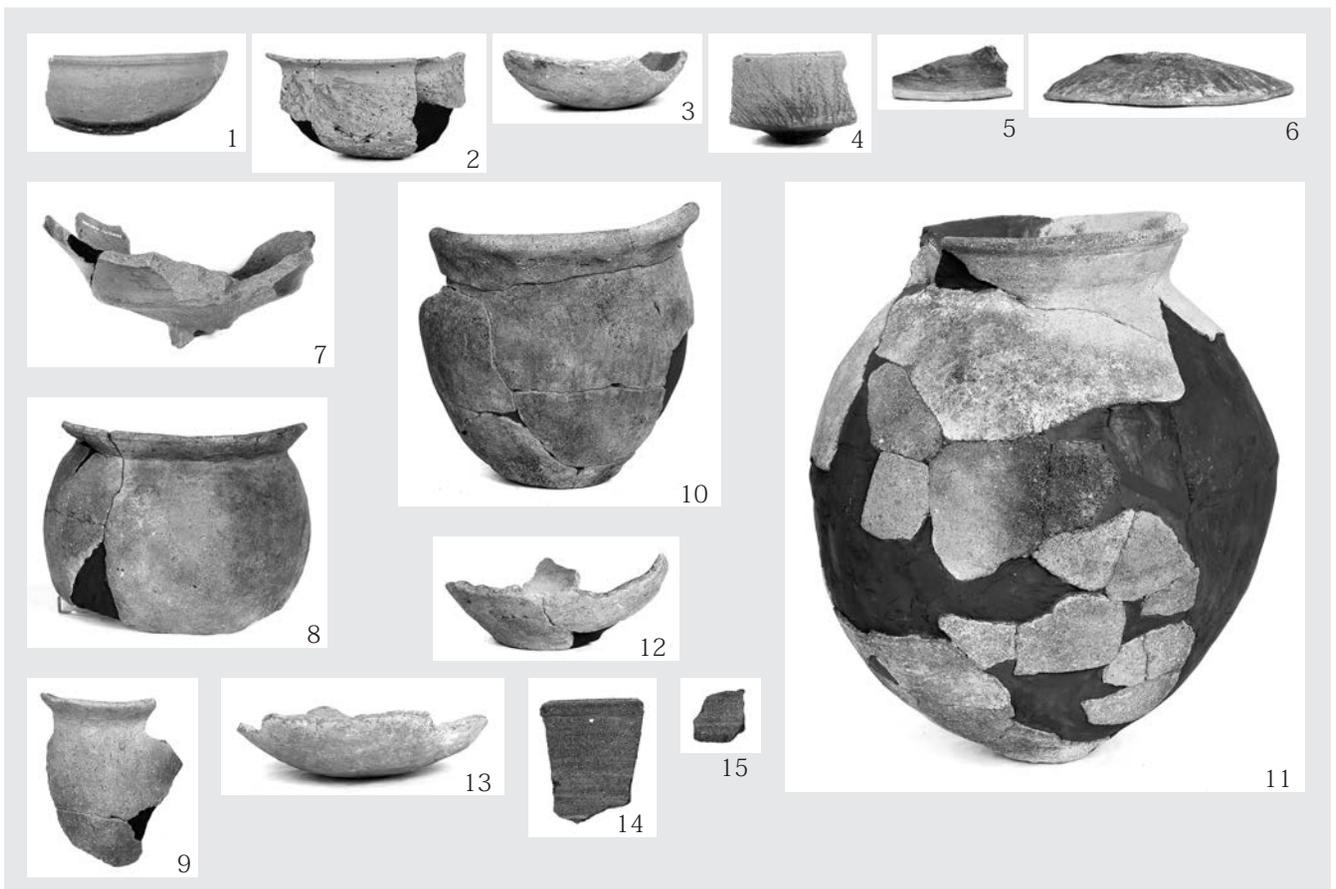
H 19 号竖穴建物出土遺物



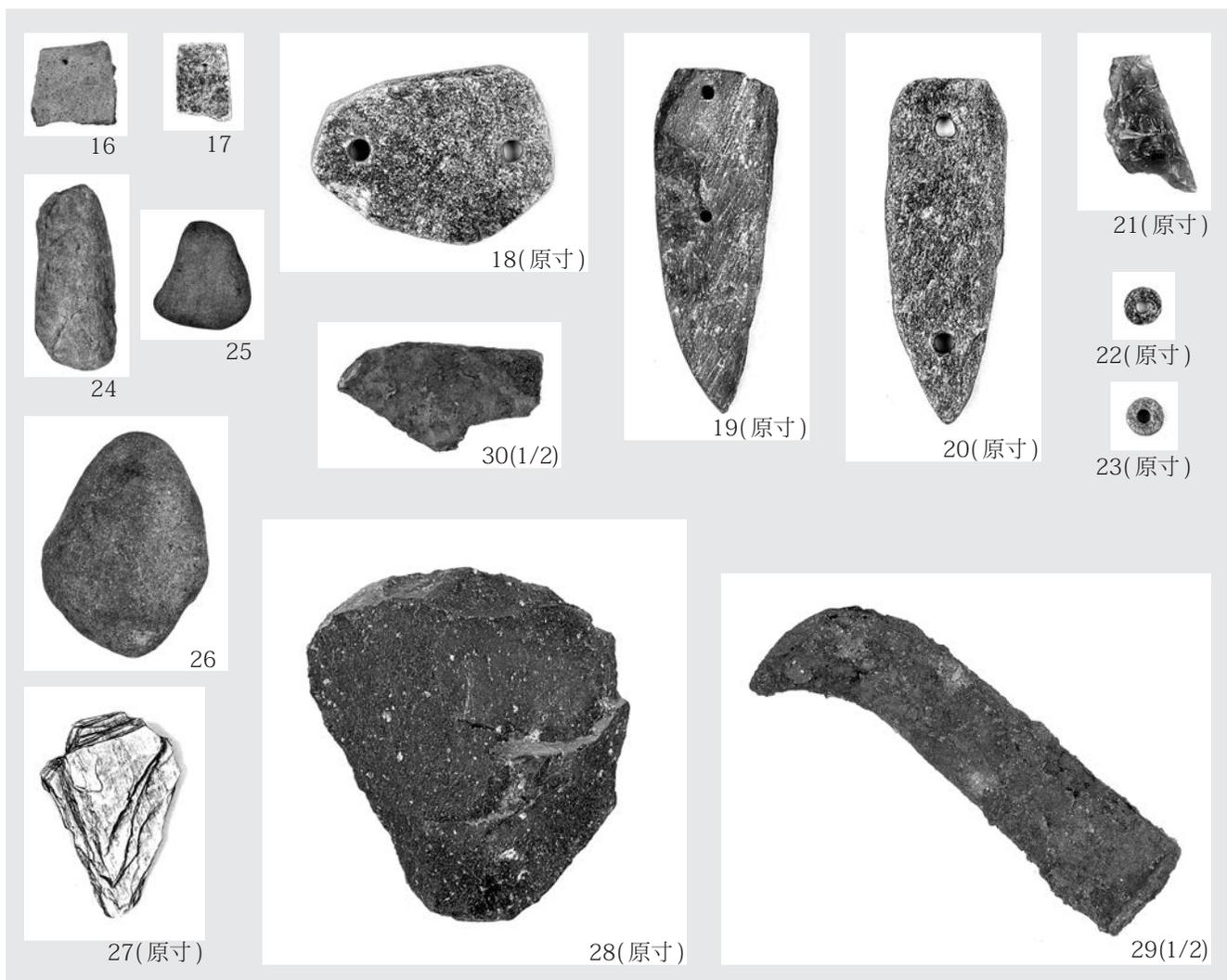
H 20 号竖穴建物出土遺物



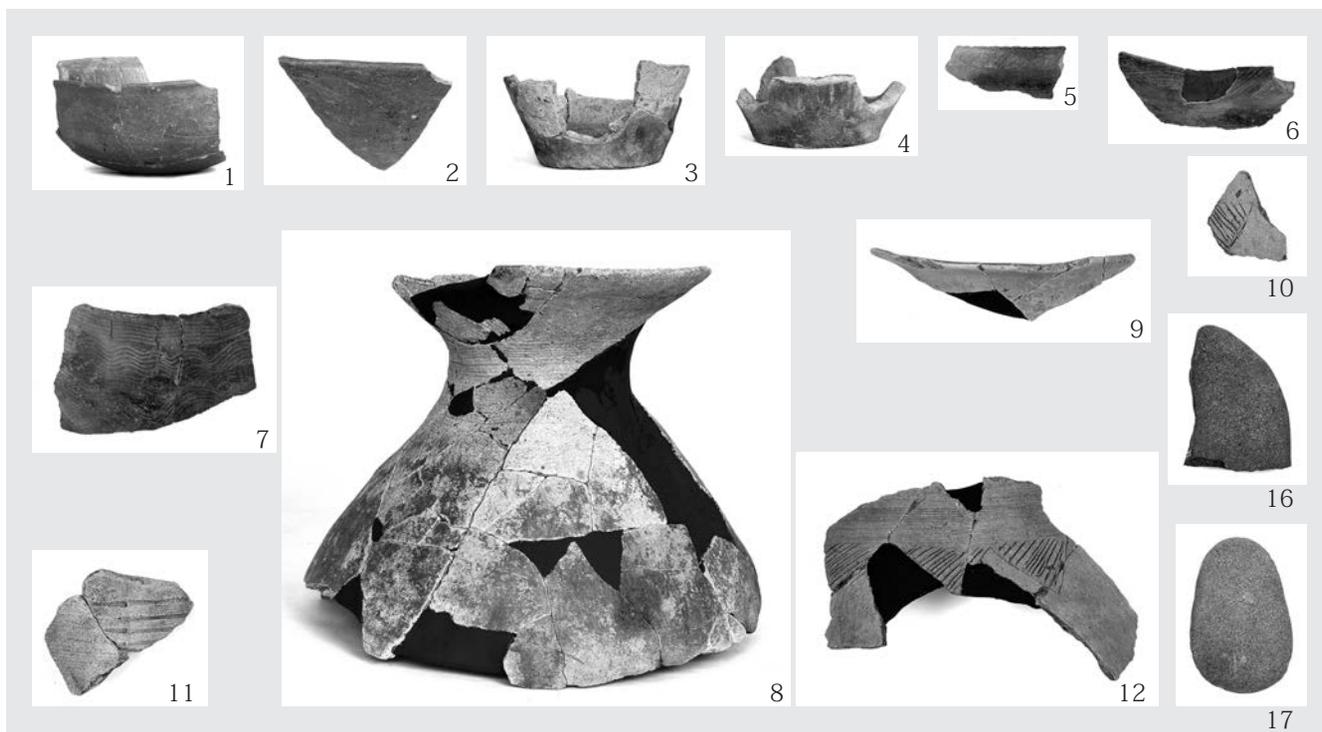
H 21 号竖穴建物出土遺物



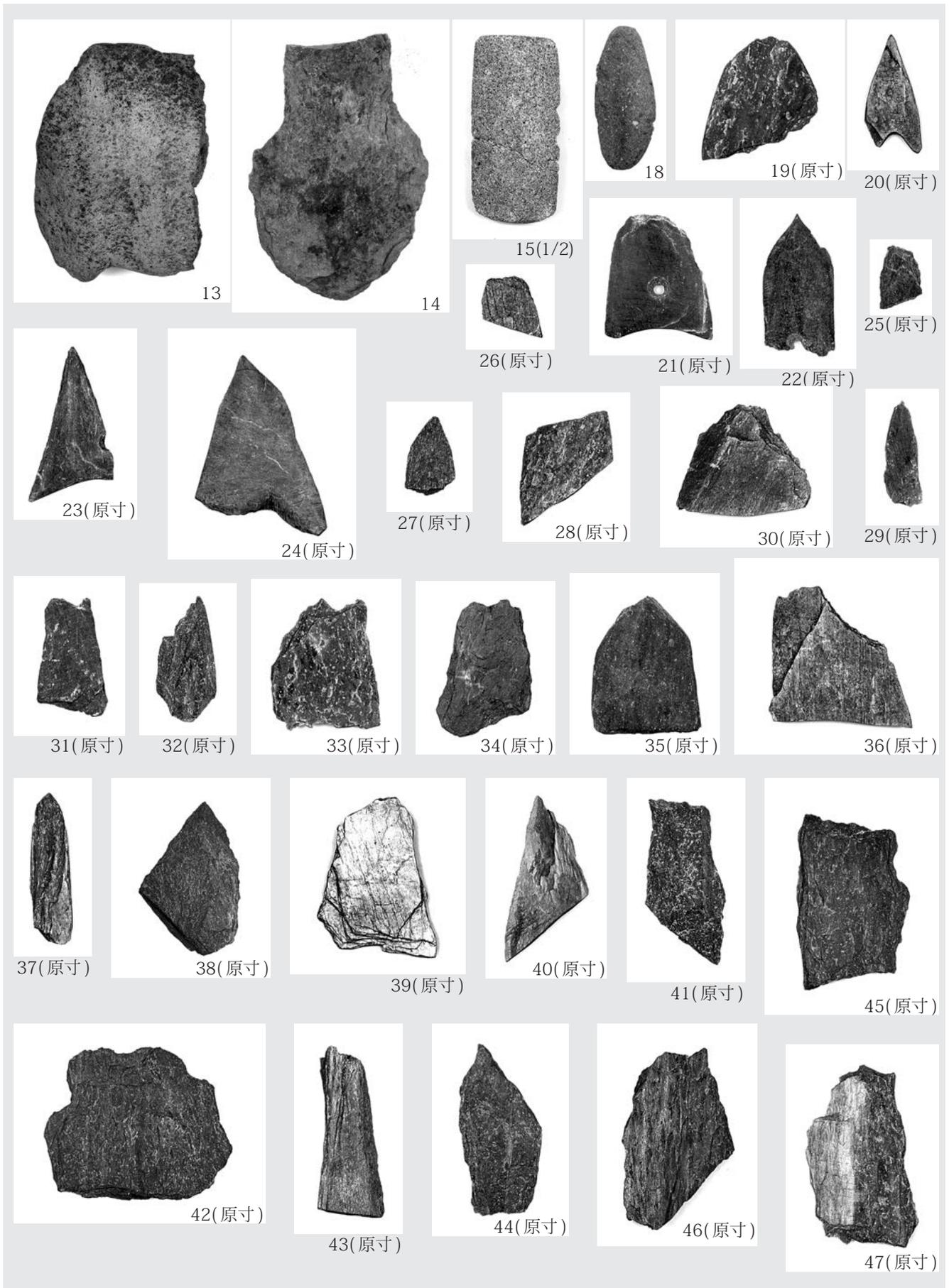
H 22 号竖穴建物出土遺物 (1)



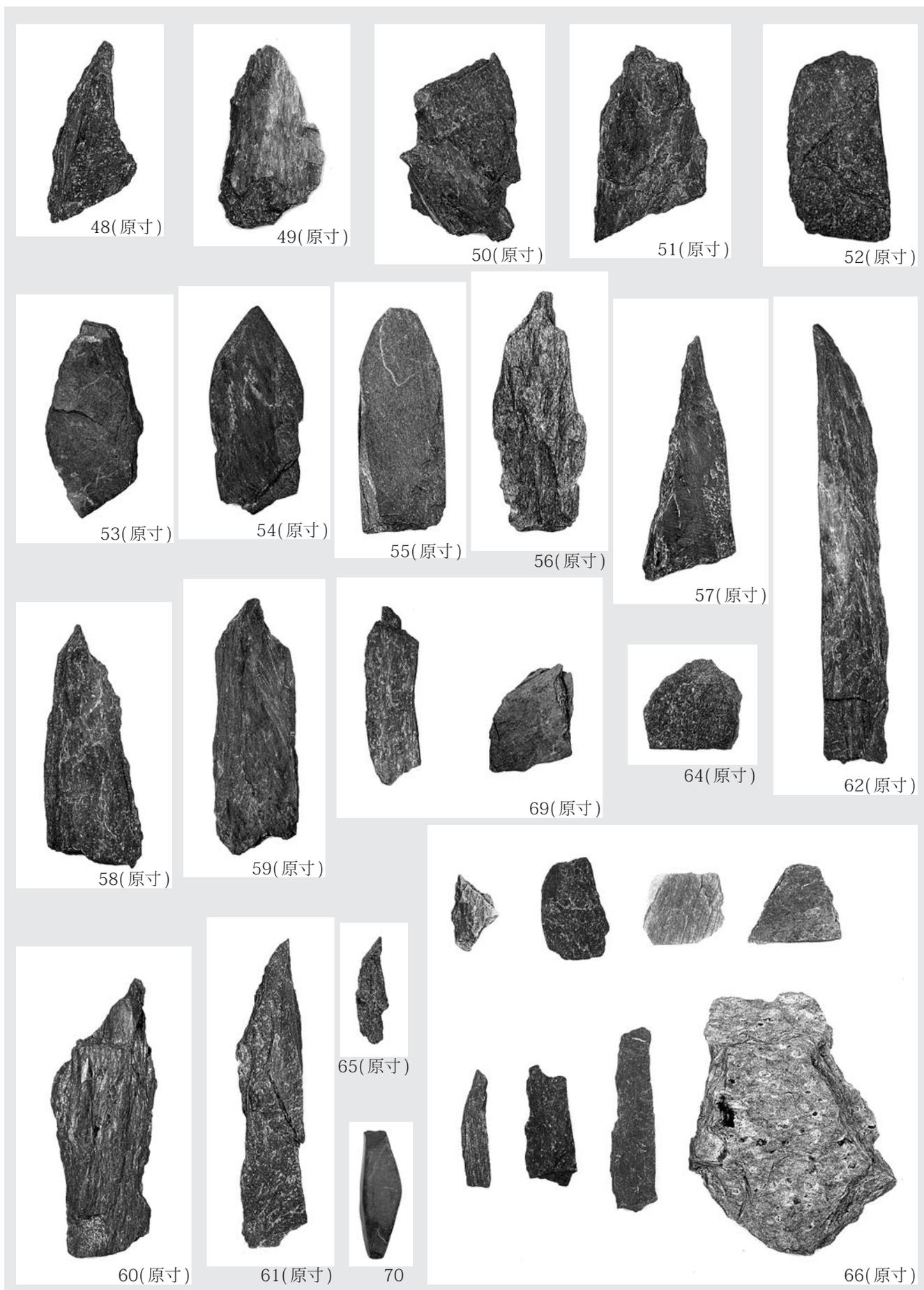
H 22 号竖穴建物出土遺物 (2)



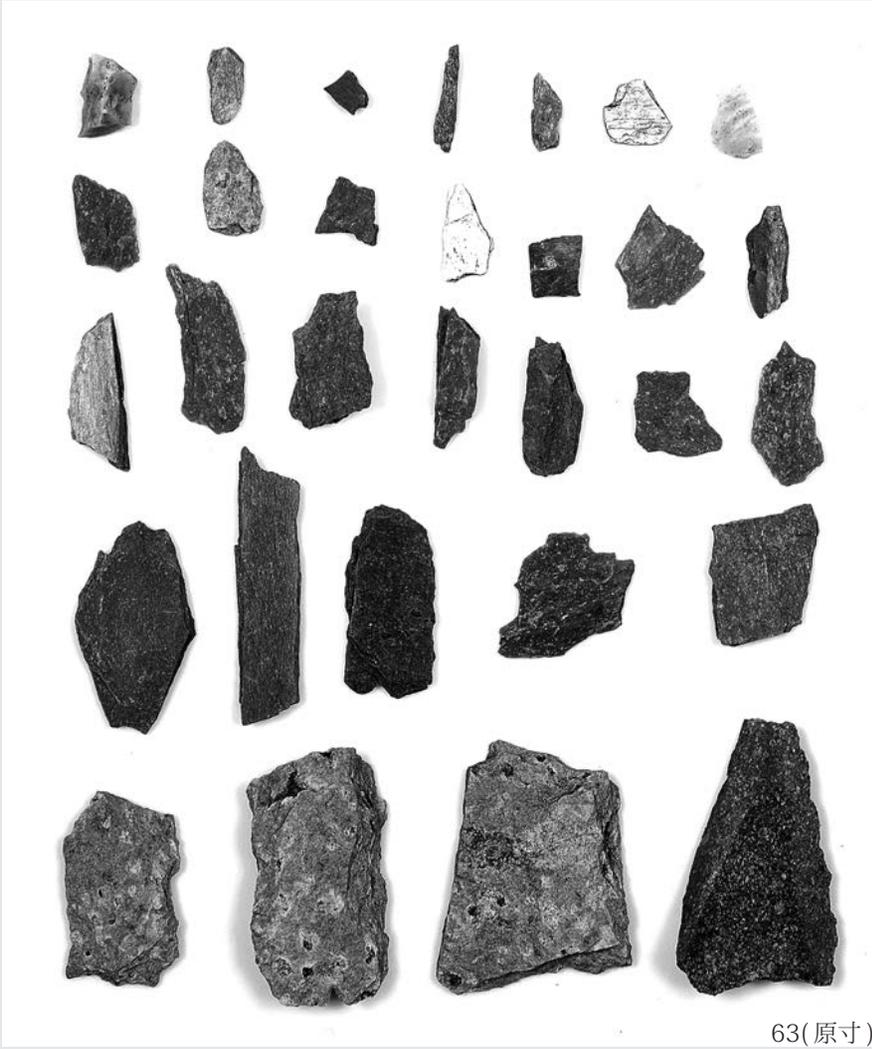
H 23 号竖穴建物出土遺物 (1)



H 23 号竖穴建物出土遺物 (2)



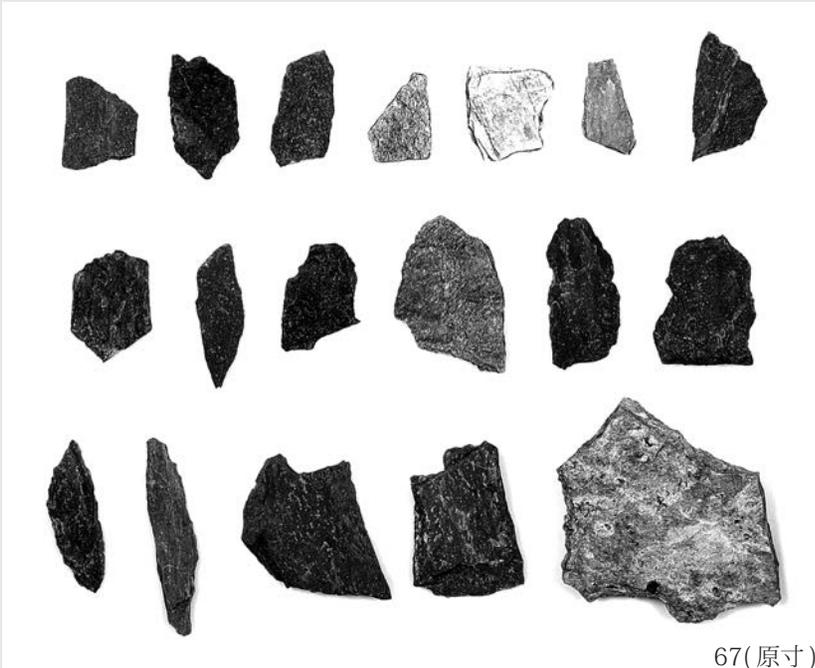
H 23 号竖穴建物出土遺物 (3)



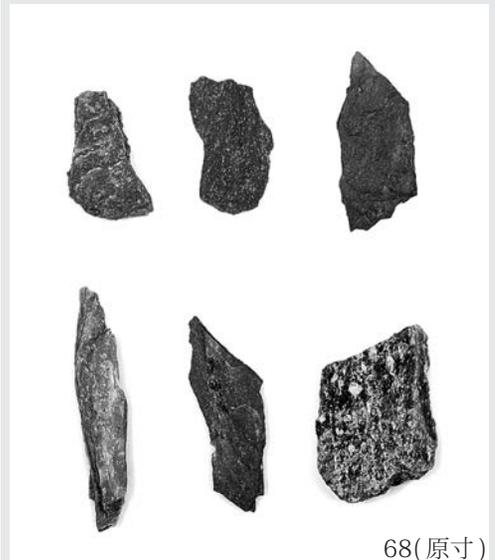
63(原寸)



71(1/2)



67(原寸)

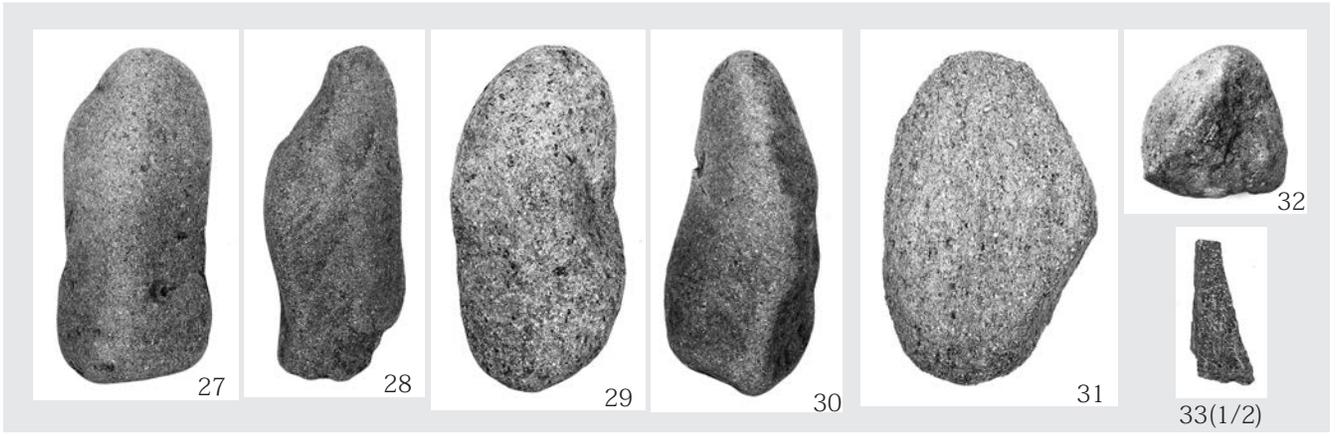


68(原寸)

H 23 号竖穴建物出土遺物 (4)



H 24 号竖穴建物出土遺物 (1)



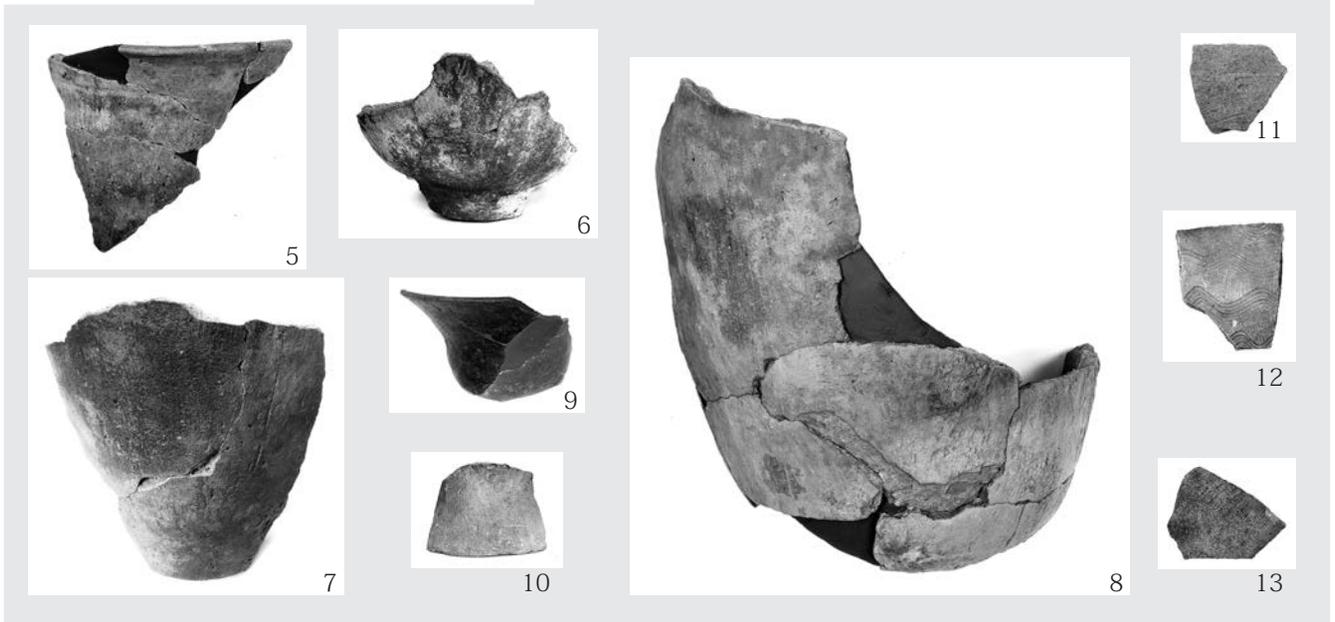
H 24 号竖穴建物出土遺物 (2)



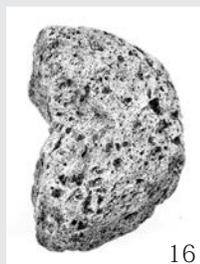
H 26 号竖穴建物出土遺物



H 25 号竖穴建物出土遺物



H 27 号竖穴建物出土遺物 (1)



H 27 号竖穴建物出土遺物 (2)



1(1/2)



2(1/2)

H 29 号竖穴建物出土遺物



1



3



4



5



6



1



2



4



2(1/2)



7(1/2)



5

Ta 1 号竖穴建物出土遺物



1



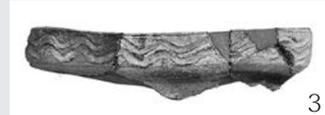
3



4



5(1/2)



3



8



2



6



7

Ta 2 号竖穴建物出土遺物



1



3



4



5



9



10



11(1/2)

Ta 3 号竖穴建物出土遺物



1



2(原寸)



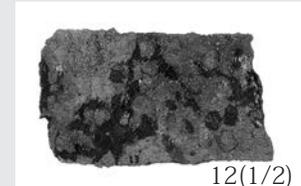
3(原寸)



4(原寸)



5(原寸)



12(1/2)



13(1/2)



14(1/2)

Ta 4 号竖穴建物出土遺物



6(1/2)

Ta 5 号竖穴建物出土遺物



Ta 6号竖穴建物出土遺物



Ta 9号竖穴建物出土遺物



Ta10号竖穴建物出土遺物



Ta11号竖穴建物出土遺物



D7-2(1/2)



D3-1



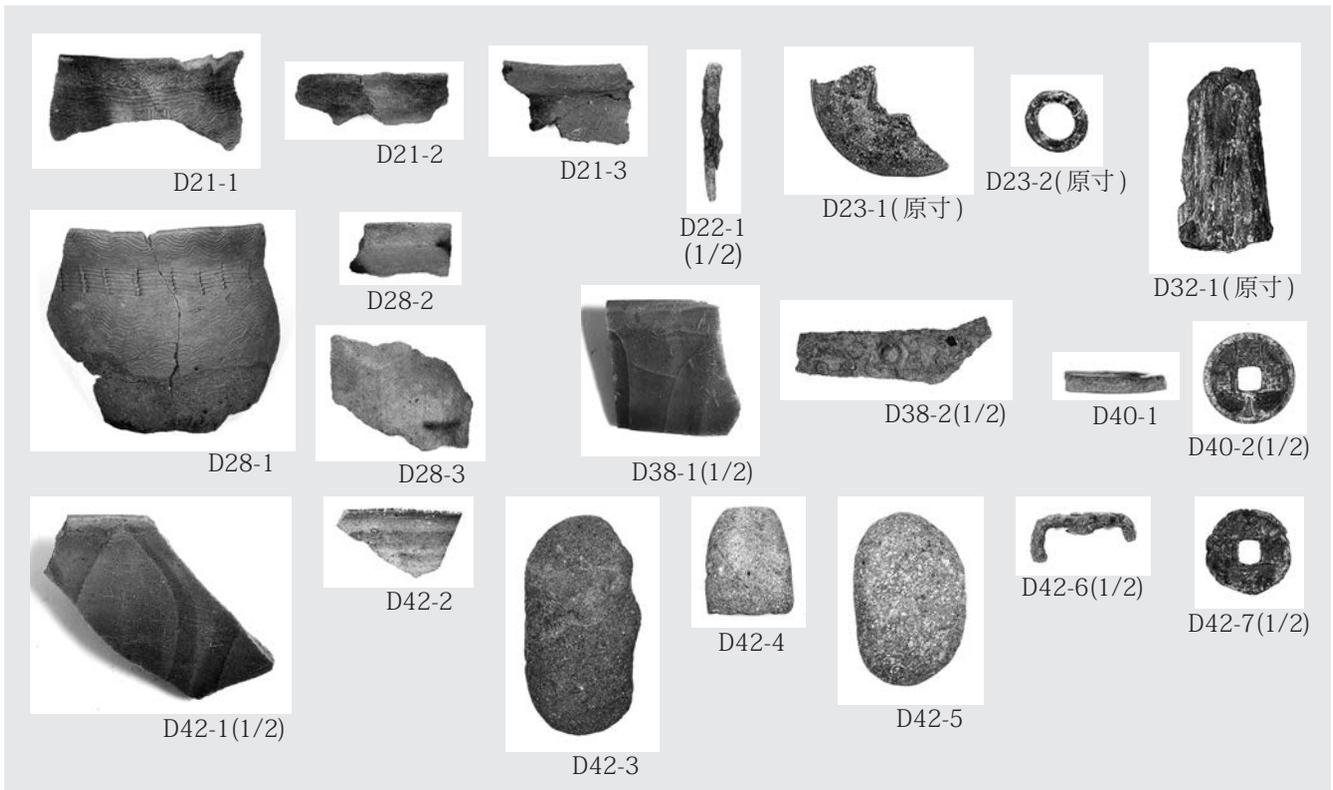
D20-1



Ta 7号竖穴建物出土遺物



土坑出土遺物 (1)

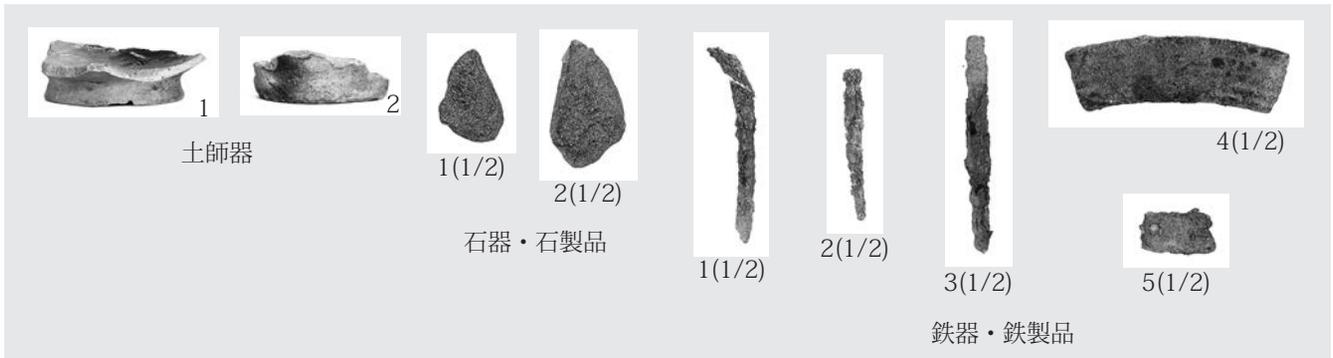


土坑出土遺物 (1)



掘立柱建物出土遺物

ピット出土遺物



土師器

石器・石製品

鉄器・鉄製品

遺構外出土遺物

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしいっぽんやなぎいせき 24							
書名	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡 XXIV							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 289 集							
編著者名	小林真寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 TEL 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 4 年 (2022) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	36° 15'53" 97248	138° 28' 15.50355"	令和元年 12月2日～ 令和4年 3月18日	1,687.47㎡	宅地造成
にしいっぽんやなぎいせき 24	さくしいむらだあざなかいっぽんやなぎ 2274-1 ほか	20217	52-13					
西一本柳遺跡 XXIV	佐久市岩村田字中一本柳 2 2 7 4 - 1 他							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
西一本柳遺跡 XXIV	集落址	弥生・古墳・中世		竪穴建物址 -42 棟 古代以前 -29 棟 中世 -13 棟 掘立柱建物址 -4 棟 土坑 -49 基 ピット -192 基		弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石器・石製品 金属器		弥生時代中期終末～後期初頭の磨製石鏃製作址の検出。
要約	湯川段丘上に営まれた集落遺跡である。弥生時代中期末～後期初頭、古墳時代中期後葉～後期前葉、中世の大規模集落が展開する。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 289 集

岩村田遺跡群 西一本柳遺跡 XXIV

2022 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

TEL 0267-63-5321

印刷所

キクハラインク株式会社